

スズキ フロンテ

取扱説明書



〈車は安全、あなたは安心〉

法定6ヵ月、12ヵ月点検を必ず受けましょう
自賠責保険の更新もお忘れなく

鈴木自動車工業株式会社



まえがき

スズキフロンテLC20型をお買上いただきましてありがとうございます。

本書はスズキフロンテの正しい取扱い方法と簡単な点検、保守、手入等について説明してあります。よくお読みいただきたい。うえいつまでもすぐれた機能を発揮できるよう本書を生かしてご利用ください。

ご一読後も日常の点検整備等の参考として保管してください。

なお、ご使用中にお気付になられました点がありましたら、お買上販売店またはスズキ代理店にご遠慮なくお問あわせください。

品質の改良等による変更があった場合、本書の文面・写真と実車とに一部異なる点が生じることがありますのでご了承ください。

鈴木自動車工業株式会社

目

はじめに

取扱い上の主な注意事項	2
新車のときのお取扱いについて	4
燃料とオイルについて	5
車台番号について	7
キーについて	7

各部の名称

車体各部の名称	8
運転室各部の名称	9

各部の操作

計器の見方	10
スイッチ関係の操作	13
操縦関係の操作	19
ボデー関係の操作	22

走行準備と走行

給油, 給水のしかた	35
エンジンの始動, 走行	40
非常信号用具の使い方	41

次

安全快適にご愛用いただくために

仕業点検	42
仕業点検要領	45
簡単な点検と整備	53
ランプ, バルブ類の交換	59
日常の手入れ	64
正しい運転	68
故障と応急手当	74
オーバーヒートした時の処置	79
オプション部品	80
主要諸元	82
外観四面図	85
電気配線図	87

はじめに

取扱い上の主な注意事項

- ベテランも……………
- せっかちな人も……………

これだけは、ぜひお読みください。あなたの車を安全快適に、末永くご愛用いただくために、どうしてもお守りいただかなければならない事柄です。

◆ 遵 守 事 項

1. 新車のならし運転（3000kmまで）は特に大切に取扱い、控目な運転を行なってください。（4頁参照）
2. 仕業点検は毎日かならず実施してください。（42頁参照）
3. 整備手帳に決められている点検はかならず受けて下さい。
この点検を受けてない車は、保証期間内の故障でも保証の対象外となります。（点検を受ける際はかならず**整備手帳**を持参し掲示してください。）
4. 6か月、12か月毎の法定点検をフロントウインドの左上に貼ってあるステッカの表示期日までに受けてください。
5. オイル、液などはかならず純正品をご使用ください。（5,33頁参照）

エンジンオイル・スズキCCISオイル、又はスズキCCISスーパーオイル

ギヤーオイル……………スズキギヤーオイル（4輪用）

ブレーキオイル……………スズキブレーキフルード

不凍液……………スズキクーラント

（指定オイル、不凍液をご使用にならなかった場合の故障は保証の対象外となります。）

6. 冬期にはいる前にラジエター内には各地の気温に応じた適当な濃度の不凍液「スズキクーラント」を入れて下さい。（不凍液を入れないと冷却水が凍りエンジンが破損します）（36頁参照）
7. 長距離走行や高速道路を走る予定がある場合には、
 - タイヤの空気圧を規定の値にしてください（46頁参照）
 - 点火時期が正しく調整されているか点検してください。（56頁参照）
 - 点火プラグは標準より一段熱価の高いものと交換してください。（55頁参照）
8. 長い登り坂や下り坂、連続的な高速走行ではチョークノブを少し引いて走ってください。
9. エアークリーナケースの吸入口に付いている「夏 冬」切替レバーを外気温20℃を目安に切替えてください。（21頁参照）

夏	外気温20℃以上
冬	外気温20℃以下

10. 温水マニホールドのcock切替

リヤリッドパネルを開けるとエンジン右側に温水マニホールド切替用のcockが有りますので「夏↔冬」で切替えてください。(21頁参照)

夏	外気温20℃以上
冬	外気温20℃以下

11. エンジンがオーバーヒートした(サーモメータがH側を指している)場合はエンジンをすぐ停止せずに速度を落すか、車を停めてアイドリング回転して、サーモメータの指針が適温範囲を示してからエンジンを停めてください。(79頁参照)

◆ 保守事項

保守項目	時期	頁
CCISオイルの補給	オイルレベルパイロットランプが点灯したら直ちに補給	49頁
ミッションオイルの補給・交換	3か月毎に点検補給・6か月毎に交換	38頁
ブレーキオイルの補給・交換	オイルレベル位置より液面が下ったら補給、2年毎に清掃交換。ディスクブレーキ車は1年毎に清掃交換	39頁
冷却水の補給、交換	水面が注入口より20mm以下に下ったら補給。 「スズキクーラントを入れ2年経過したら交換」	35頁
バッテリー液の補給	最低液面線より液面が下ったら補給	57頁
エアークリーナの清掃・交換	1,000kmごとに清掃。10,000kmごとに交換	55頁
スパークプラグの清掃・交換	3,000km時清掃。6,000kmごとに交換	55頁
フューエルフィルターの交換	35,000～40,000kmごとに交換	57頁
プロポーションングバルブ交換	2年毎に交換(ディスクブレーキ車)	39頁



新車のときのお取扱いについて

何事もはじめが大切です。

新車のときのお取扱いによりあなたの愛車の寿命は大きく左右されます。いつまでも安全、快適にご愛用いただくために3か月（3,000km走行）までは特につぎに示す注意事項を守って慎重な取扱いと、点検整備をお願いします。



“新車は大切に”

◆ ならし運転の実施

まず各部をなじませることが大切です。なじみのつかないままに急激な、過酷な使い方をすると異常摩耗などが生じ、車の寿命を著しく短くします。

下記のことには注意して、クセのない快調な車に育てあげてください。

- 1 エンジンを空ぶかしさせないでください。
2. 急発進、急制動、急激なエンジnbrakeなどの無理な運転をしないでください。
3. 長時間の高速連続走行はさけてください。

燃料とオイルについて

あなたの愛車の寿命と安全性は使用するオイルの質により大きく左右されます。

スズキはあなたの愛車に最もマッチしたオイル類を純正オイルに指定して、全国のスズキ販売店に用意してあります。

いつまでも安全・快適にご愛用いただくために、かならず純正オイルをお使いください。

◆ 燃料 (ガソリン)

スズキフロンテLC20型は、スズキが開発した画期的な直接給油方式「スズキCCIS方式」を採用している2サイクルエンジンです。ガソリンとオイルは別のタンクに補給してください。

ガソリンはレギュラー(無鉛)ガソリンを補給してください。ハイオクタン(有鉛)ガソリンを使用する必要はありません。

◆ エンジンオイル

スズキフロンテLC20型にはスズキCCIS方式に最もマッチし、高速耐久性にも優れた「スズキCCISオイル」「スズキCCISスーパーオイル」を純正オイルとして指定しております。

エンジンオイルの補給の際には、のマークのスズキ販売店で「スズキCCISオイル」又は「スズキCCISスーパーオイル」を必ず補給してください。

(37頁参照)

※指定オイルをご使用にならない場合のエンジン関係の故障は保証いたしかねます。



スズキCCISオイル



スズキCCISスーパーオイル

◆ミッションオイル（ギヤーオイル）

ミッションオイルはお買求め後、1か月目の定期点検の際と、その後は6か月ごとの定期点検の際に交換するのが適当です。

ミッションオイル交換の際は「スズキギヤーオイル4輪用」をかならずご使用ください。

◆ブレーキフルード（ブレーキオイル）

ブレーキは安全上もっとも重要な個所です。粗悪品や他種オイルを混ぜて使用しますとたいへん危険です。かならず「スズキブレーキフルード」をご使用ください。

※ブレーキフルードは2年毎（ディスクブレーキ車は1年毎）に清掃交換してください。

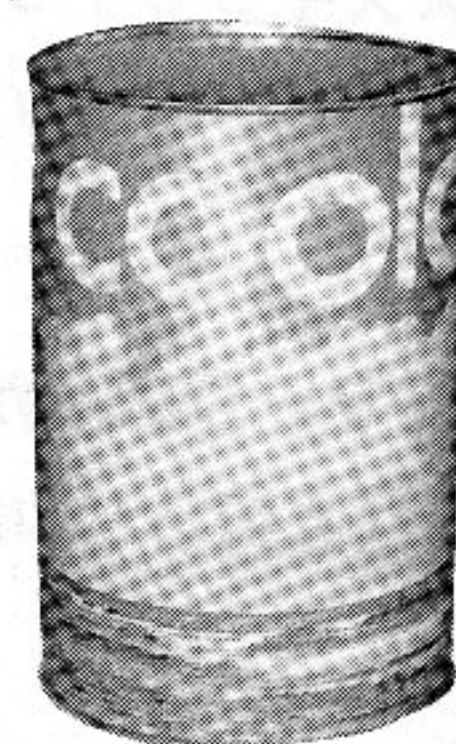
※「スズキブレーキフルード」をご使用にならない場合のブレーキ関係の不具合は保証いたしかねます。



スズキギヤーオイル4輪用



ブレーキフルード



スズキクーラント

◆不凍液

冷却水には、スズキ指定の不凍液「スズキクーラント」を必ず配合してお使い下さい。

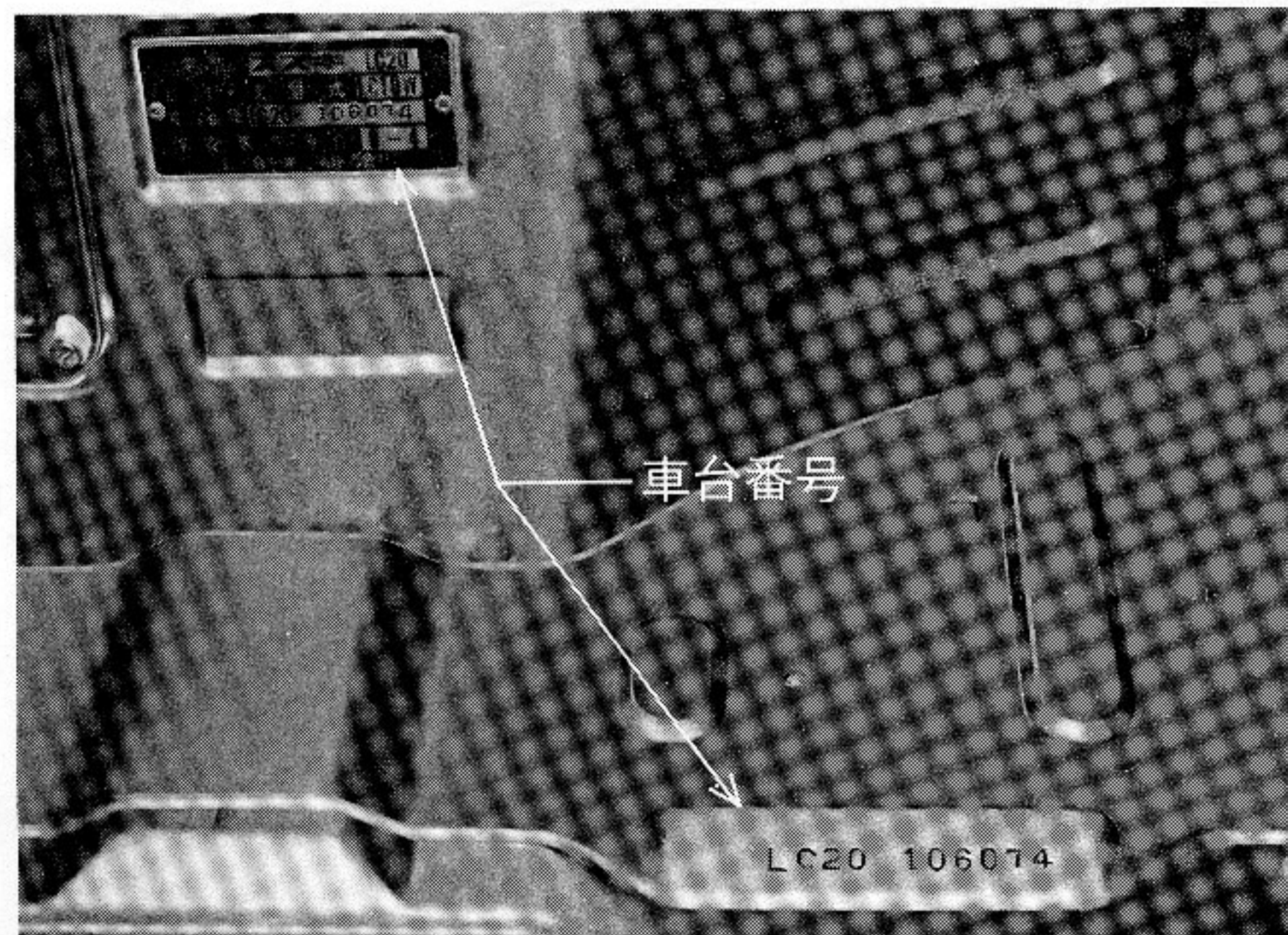
「スズキクーラント」は、不凍効果により冬期の冷却水の凍結を防ぐばかりでなく、防泡効果により、夏期の冷却効果を高めたり、ウォーターポンプの潤滑やラジエター、シリンダーブロックの防錆・防蝕作用をする優れた働きをします。

スズキクーラントは2年間そのまま使用出来ます。

（36頁参照）

車台番号について

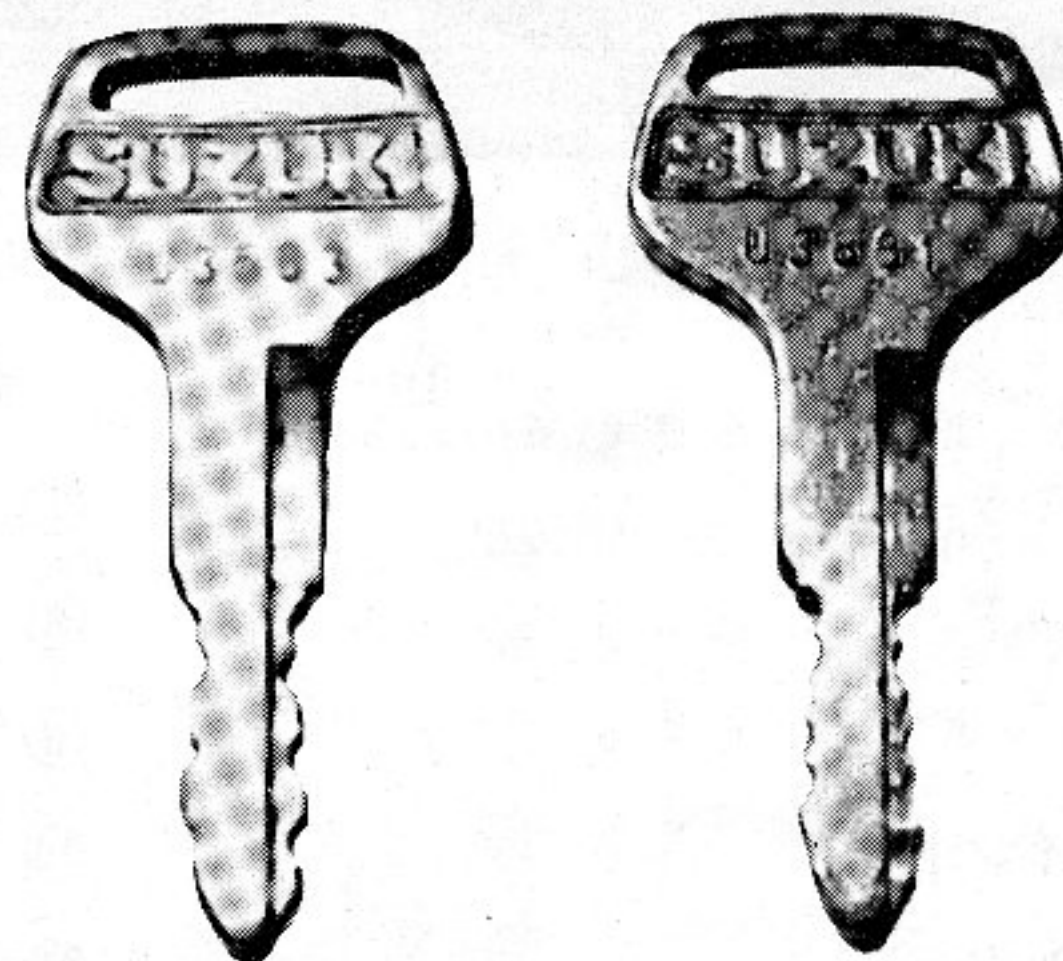
フロントフードパネルを開けると、下記の部分に車台番号が打刻してあります。この番号のスズキフロンテLC20型は世界中であなたの車一台だけです。スズキ車はすべてこの番号で管理されておりますので、代理店へのご連絡、ご相談の際にはこの番号もお知らせください。



キーについて

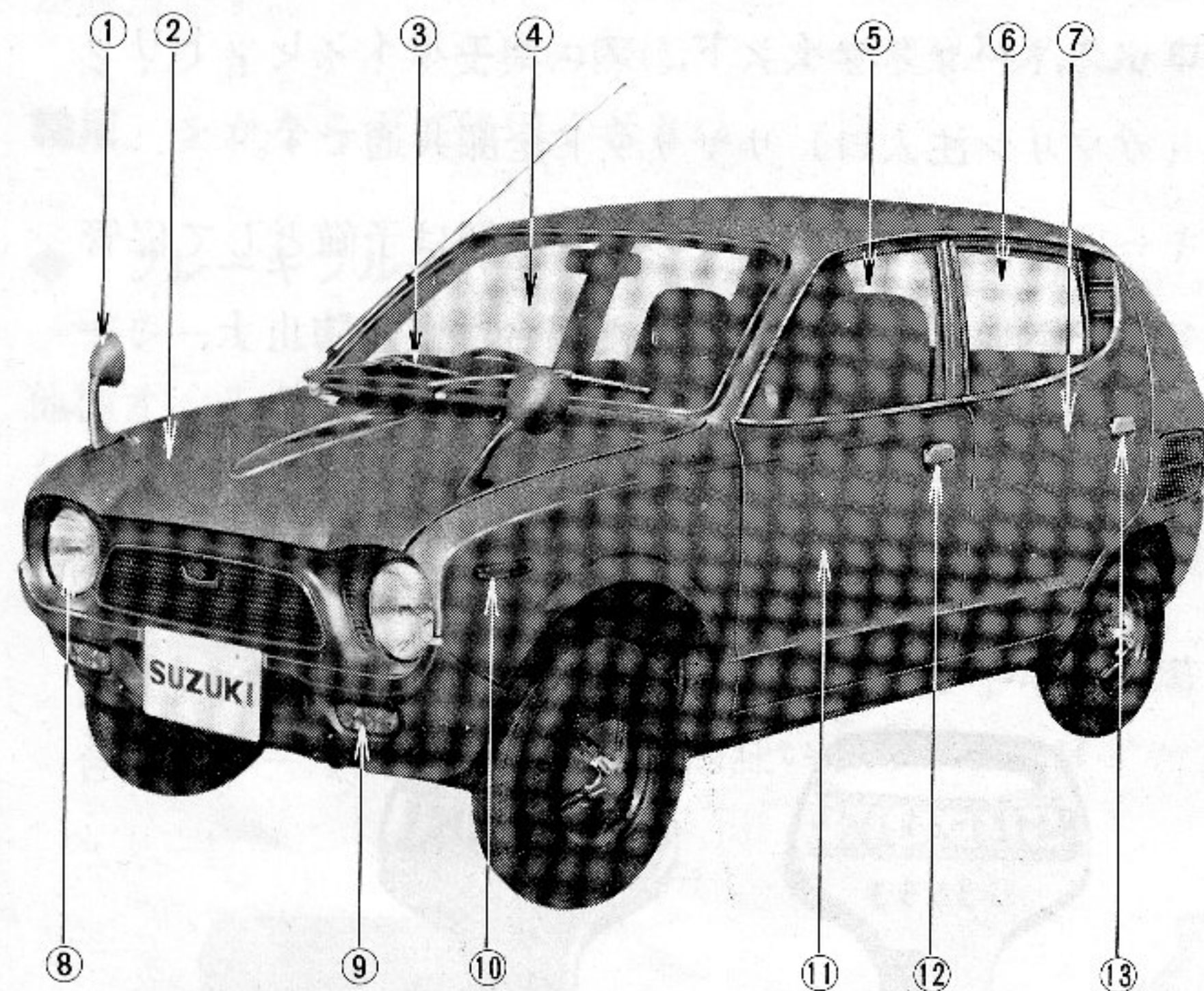
キーは一種類で、イグニッションスイッチ、サイドドアロック、バックウインド、フューエルインレットリッド（ガソリン注入口）リヤリッド全部共通です。

キーは2個ついていきますので、1個は予備として保管してください。キーを紛失した場合は盗難防止上、キーのみの販売はできませんので紛失などしないように十分注意してください。



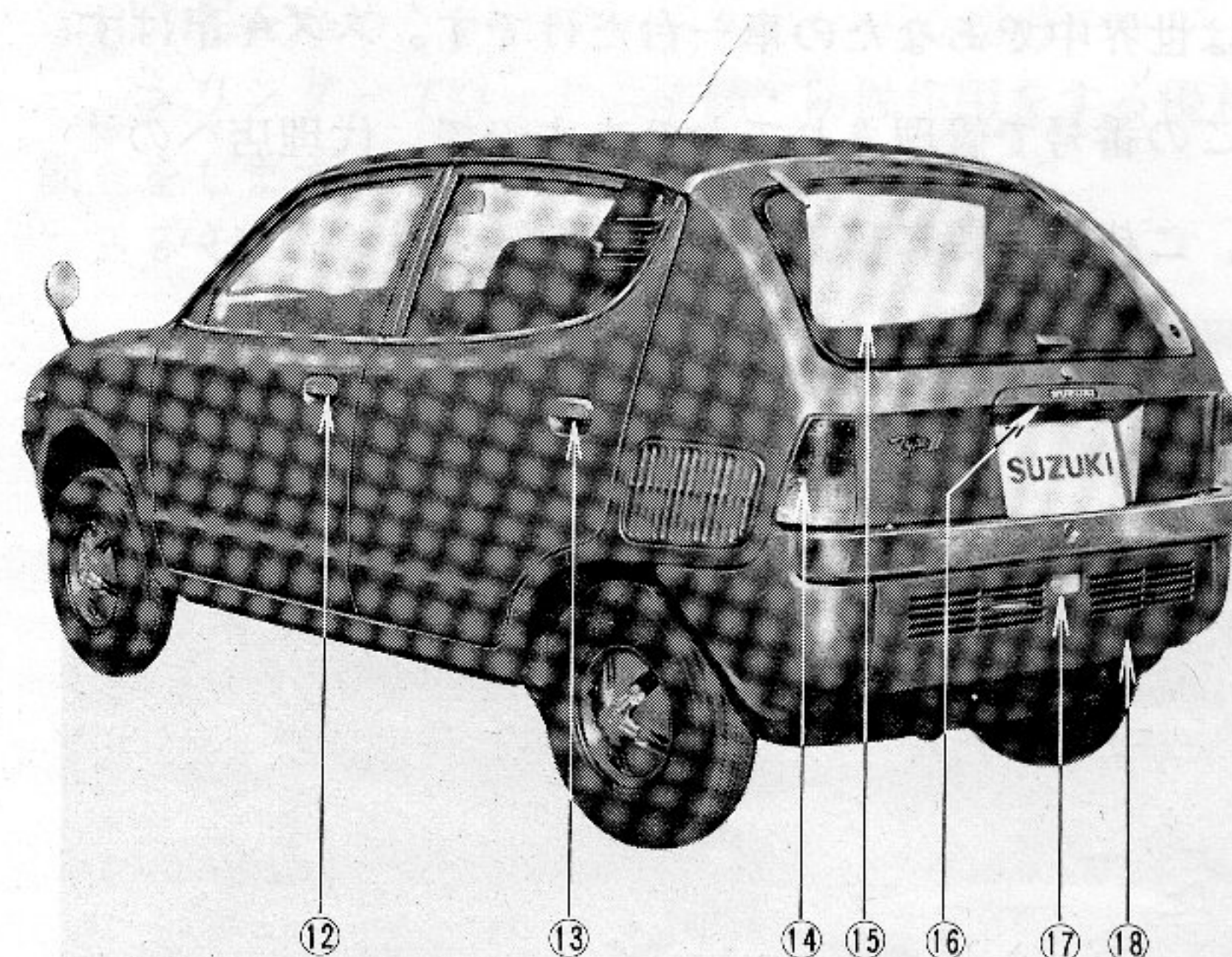
各部の名称 車体各部の名称

◆ フロント



- ① フェンダーミラー
- ② フロントフードパネル
- ③ ワイパー
- ④ フロントウインド
- ⑤ サイドウインド
- ⑥ リヤウインド

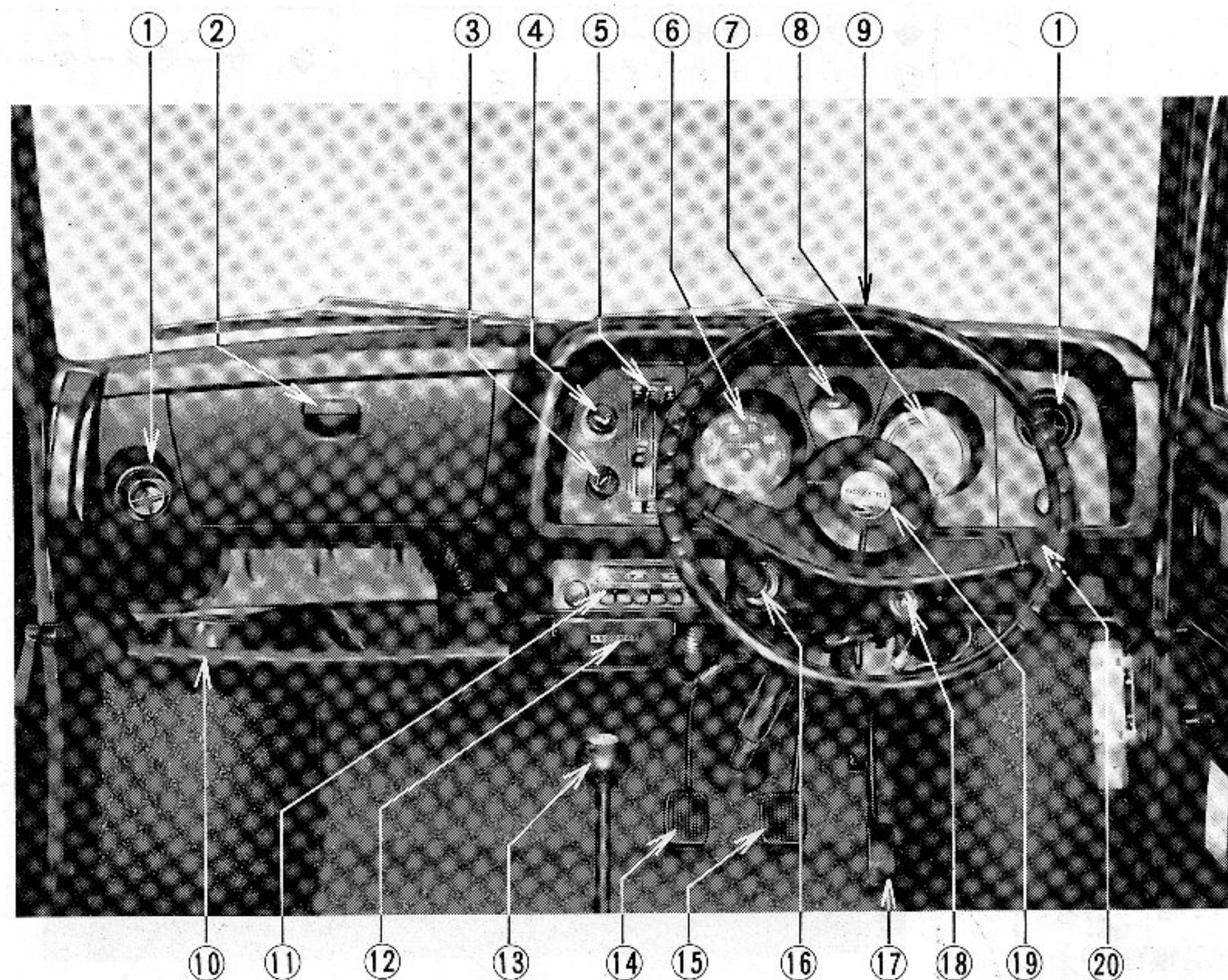
◆ リヤ



- ⑦ リヤドア (4ドア車)
- ⑧ ヘッドランプ
- ⑨ フロントコンビネーションランプ
- ⑩ サイドターンシグナルランプ
- ⑪ フロントドア
- ⑫ フロントドアアウトサイドハンドル
- ⑬ リヤドアアウトサイドハンドル (4ドア車)
- ⑭ リヤコンビネーションランプ
- ⑮ バックウインド
- ⑯ ライセンスランプ
- ⑰ バックアップランプ
- ⑱ リヤリッド

運転室各部の名称

(写真はカスタム仕様)



① サイドベンチレータ

② グローブボックス

③ チョークノブ

④ シガレットライター

⑤ ヒーターコントロールレバー

⑥ スピードメータ

⑦ サーモメーター, フューエルメータ

⑧ 電 流 計

⑨ ステアリングホイール

⑩ パッケージトレイ

⑪ カーラジオ (オプション)

⑫ アッシュトレイ

⑬ ギヤーシフトレバー

⑭ クラッチペダル

⑮ ブレーキペダル

⑯ ワイパースイッチ, ウォッシャーポンプ

⑰ アクセルペダル

⑱ イグニッションスイッチ

⑲ ホーンボタン

⑳ ターンシグナル&ディマースイッチレバー

各部の操作

計器の見方

〔スーパーデラックス、デラックス、スタンダード仕様〕

◆ オイルレベルパイロットランプ

- ◎ イグニッションスイッチを入れると点灯し、エンジンを始動し回転を上げると消灯します。オイル残量が0.7ℓ以下になるとエンジン回転を上げても点灯します。
- ◎ 点灯した場合には、CCISオイルを補充して下さい。(37頁参照)
- ◎ まったく点灯しないときは配線系や電球の故障です。直ちに点検修理してください。

◆ スピードメーター

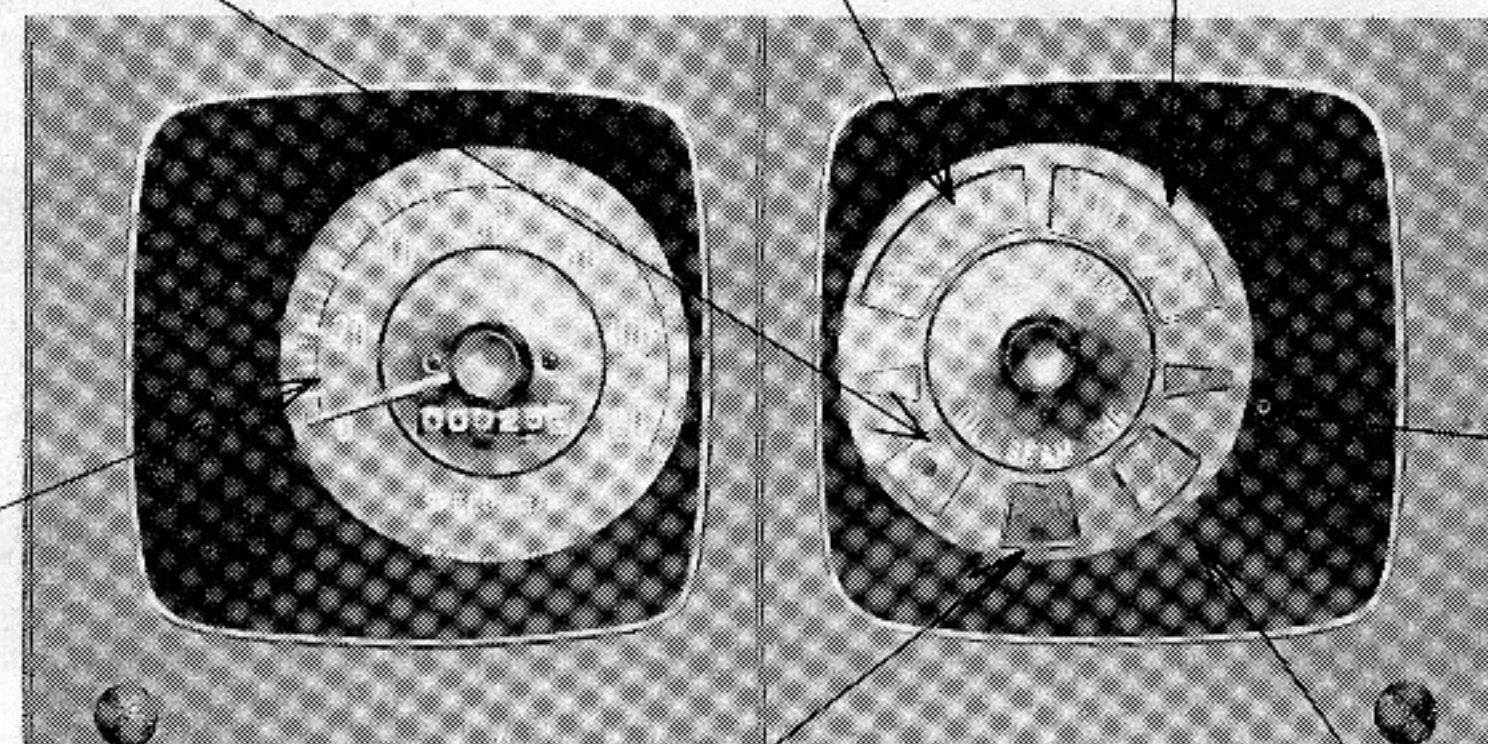
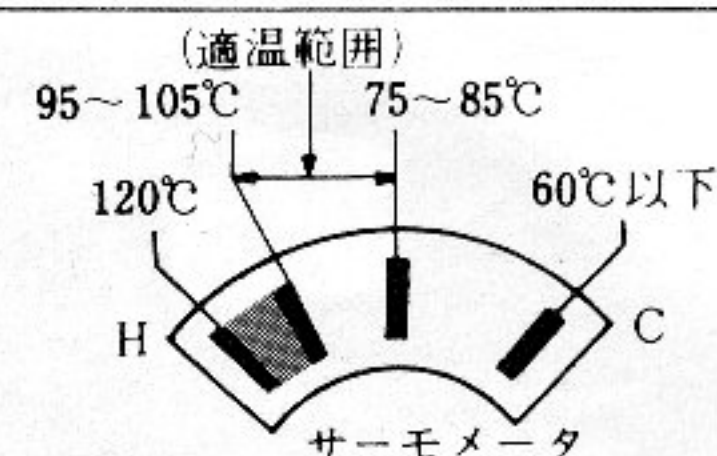
- ◎ 車の走行速度をkm/hで表示します。
- ◎ 中央の数字は累計走行料計です。黒字は100m単位、白字はkm単位です。
- ◎ 高速道路等で走行中に80km/hを越すとブザーが鳴り警告をします。直ちにスピードを落して下さい。

◆ フューエルゲージ

- ◎ メインスイッチを入れるとゲージが作動して、ガソリンの残量を示します。
- Fは満量26ℓ
- Eは空(この時の残量は5ℓ)
- Eになった場合には、ガソリンを補充して下さい。(37頁・49頁参照)

◆ サーモメーター

- ◎ イグニッションスイッチを入れると針が作動し、冷却水の温度を表示します。針が停止位置から動き始める時の温度は約50℃です。走行中は、中間の2本の線の間を指示するのが正常です。これを超えてH側を指すようでしたら注意して下さい。(35頁・51頁参照)



◆ フラッシュパイロットランプ

- ◎ ウィンカーデイマースイッチレバーを作動させると点滅します。
- ◎ このランプが正常な間隔で点滅すれば、ウィンカーランプは正常に作動しています。

◆ ビームパイロットランプ

- ◎ ヘッドランプがハイビーム（遠くを照らす）の時、青く点灯します。
- ◎ ロービーム（近くを照らす）のとき消灯します。

◆ チャージウォーニングパイロットランプ

- ◎ イグニッションスイッチを入れると赤く点灯し、エンジンを始動し、充電を始めると消灯します。
- ◎ 走行中にもかかわらず点灯している時は直ちに修理が必要です。

〔カスタム仕様〕

◆フューエルゲージ

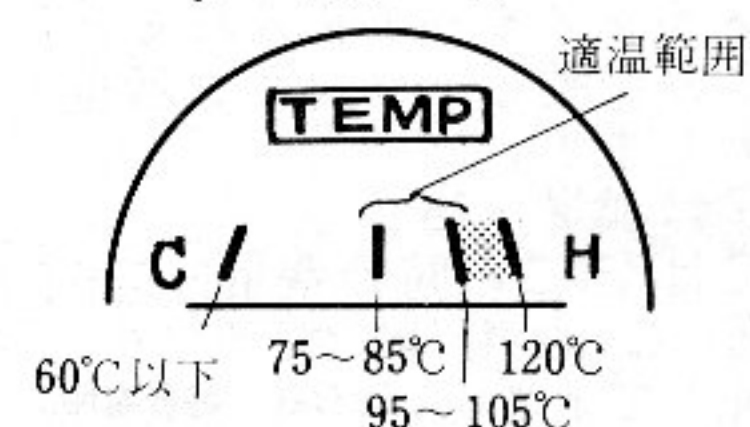
- ◎メインスイッチを入れるとゲージが作動し、ガソリン残量を表わします。
Fは満量 26ℓ
Eは空(この時の残量は5.0ℓ)
Eになった場合には、ガソリンを補充して下さい (37頁・49頁参照)

◆サーモメーター

- イグニッションスイッチを入れると針が作動して、冷却水の温度を表示します。
針が停止位置から動き始める時の温度は約50℃です。

走行中は、中間の2本の線の間を指示するのが正常です。
これを超えてH側を指すようでしたら注意が必要です。
(35頁・51頁参照)

サーモメーター



◆ビームパイロットランプ

- ◎ヘッドランプがハイビーム(遠方照射)のとき点灯
- ◎ロービーム(近くを照らす)のとき消灯します。

◆スピードメーター

- ◎走行速度をkm/hで表示します。
- ◎累計走行キロ数を示します。
黒文字は 100m 単位
白文字は 1 km単位
- ◎高速道路等で走行中に80 km/hを越すとブザーが鳴り警告をします。
直ちにスピードを落して下さい。

◆トリップメーター

- ノブの操作で適宜、0に戻せる積算距離計です。
黒文字…100m 単位
白文字…1 km単位

フラッシャーパイロットランプ

- ◎ウinkerディマースイッチを作動させると点滅します。
- ◎このランプが正常な間隔で点滅すればウinkerランプは正常に点滅しています。

◆チャジウォーニングパイロットランプ

- ◎イグニッションスイッチをONにすると赤く点灯し、エンジンがかかりオルタネータが充電を始めると消灯します。
- ◎走行中も点灯している時は直ちに修理が必要です。

◆電流計

オルタネータからバッテリーへの充電状態を示すもので一般走行時には指針は若干⊕側又は中央をさしていなければなりません。

◆デフォグパイロットランプ

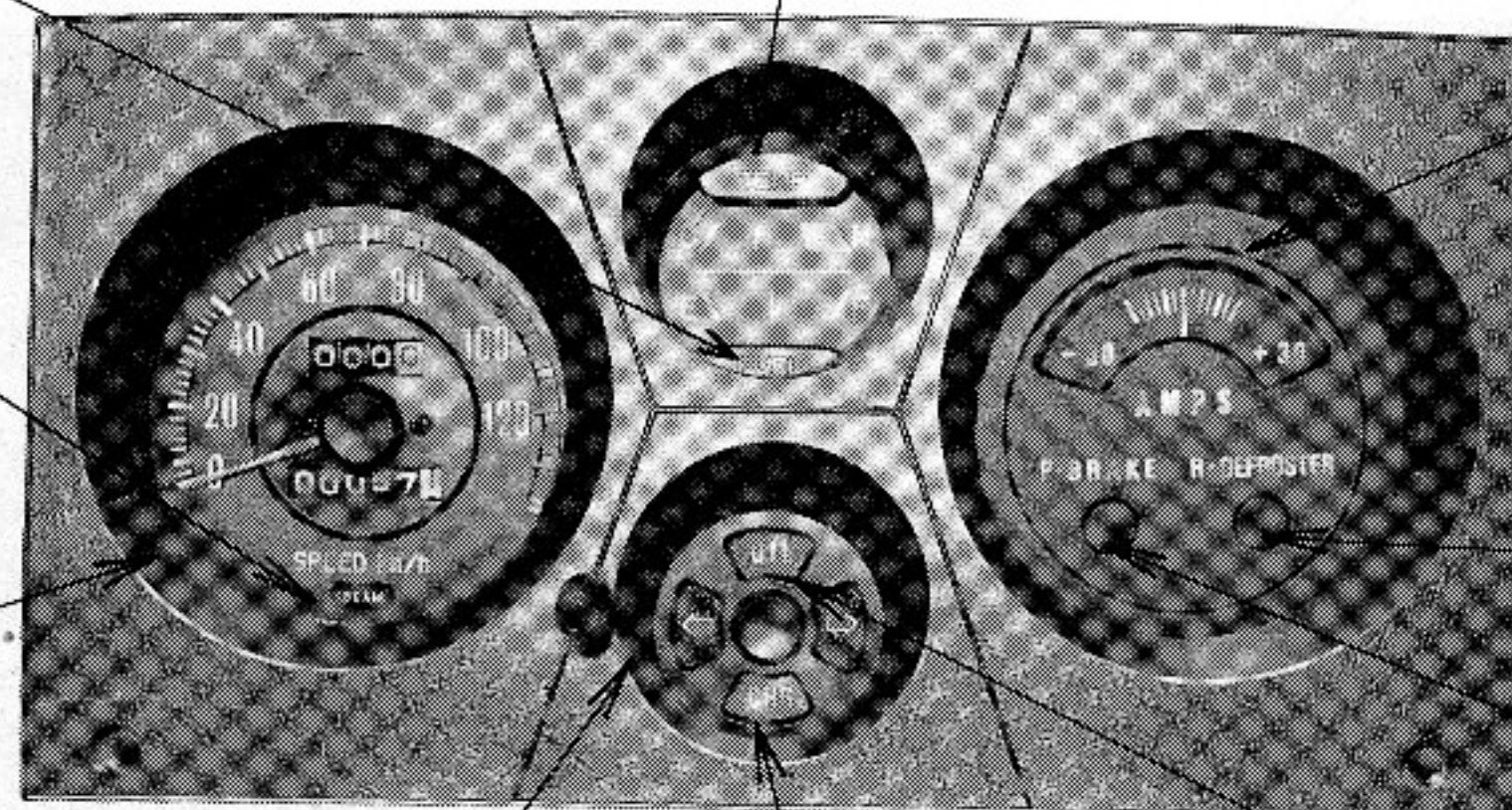
デフォグ作動中に点灯します。

◆パーキングブレーキパイロットランプ

走行中は消灯していなければなりません。

◆オイルレベルパイロットランプ

- ◎イグニッションスイッチをONにすると点灯し、エンジン回転を上げると消灯します。オイル残量が0.7ℓ以下になるとエンジン回転を上げても点灯します。
- ◎点灯した場合には、CCIS オイルを補充して下さい (37頁参照)
- ◎まったく点灯しないときは配線系や電球の故障です。直ちに点検修理してください。



GTtype II 仕様

◆フューエルゲージ

- ◎メインスイッチを入れるとゲージが作動し、ガソリン残量を表わします。
- Fは満量 26ℓ
- Eは空(この時の残量は5.0ℓ)
- Eになった場合には、ガソリンを補充して下さい。(37頁・49頁参照)

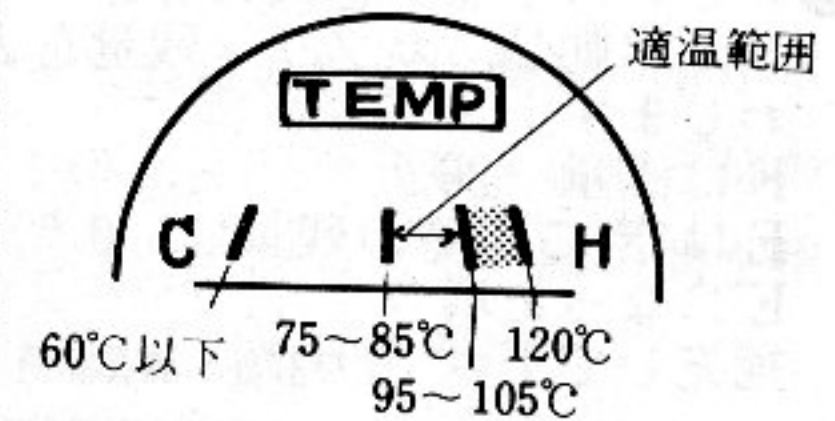
◆サーモメーター

- イグニッションスイッチを入れると針が作動して、冷却水の温度を表示します。
- 針が停止位置から動き始める時の温度は約50℃です。

走行中は、中間の2本の線の間を指示するのが正常です。
これを超えてH側を指すようでしたら注意が必要です。

(35頁・51頁参照)

サーモメーター



◆ビームパイロットランプ

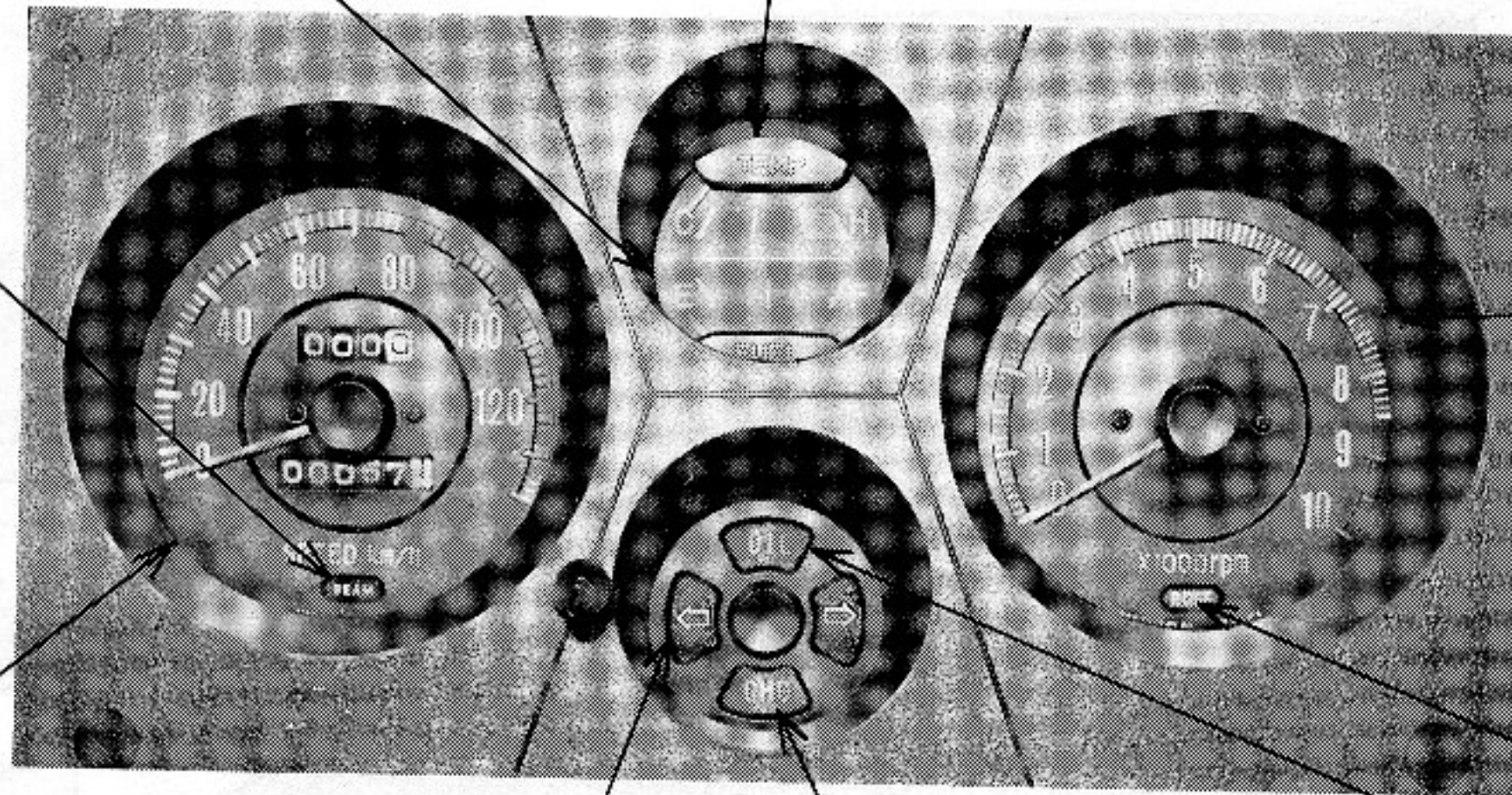
- ◎ヘッドランプがハイビーム(遠方照射)のとき点灯
- ◎ロービーム(近くを照らす)のとき消灯します。

◆スピードメーター

- ◎走行速度をkm/hで表示します。
- ◎四角ワク内は累計走行キロ数を示します。
黒文字… 100m単位
白文字… 1km単位
- ◎高速道路等で走行中に80km/hを越すとブザーが鳴り警告をします。直ちにスピードを落して下さい。

◆トリップメーター

- ノブの操作で適宜、0に戻せる積算距離計です。
黒文字… 100m単位
白文字… 1km単位



◆フラッシャーパイロットランプ

- ◎ウinkerディマースイッチを作動させると点滅します。
- ◎このランプが正常な間隔で点滅すればウinkerランプは正常に点滅しています。

◆チャジウォーニングパイロットランプ

- ◎イグニッションスイッチを入れると赤く点灯し、エンジンがかかりオルタネーターが充電を始めると消灯します。
- ◎走行中も点灯している時は直ちに修理が必要です。

◆回転計

- ◎エンジンの回転数はrpmで示します。
- ◎エンジン回転は7,500回転以上、上げないでください。

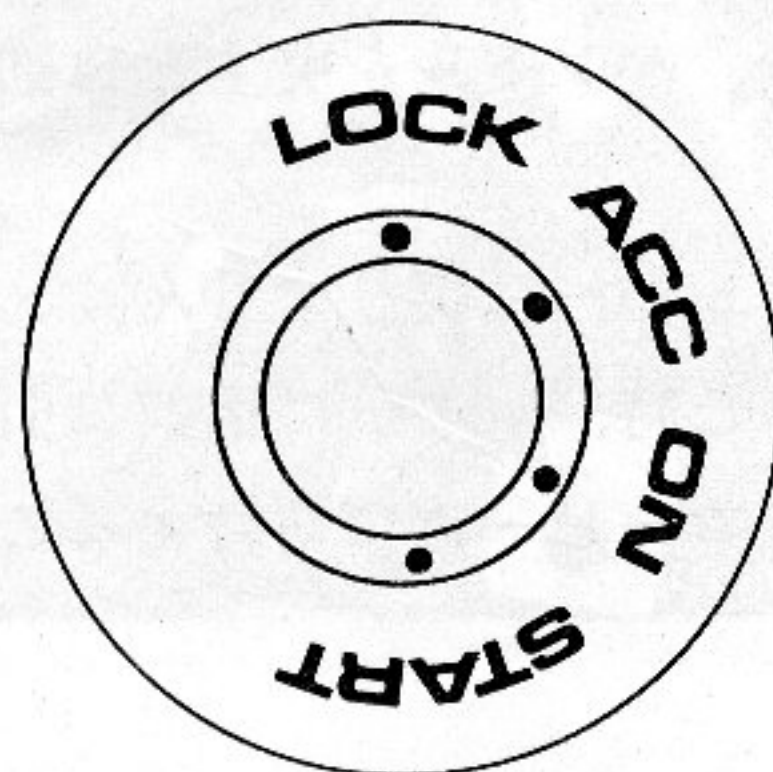
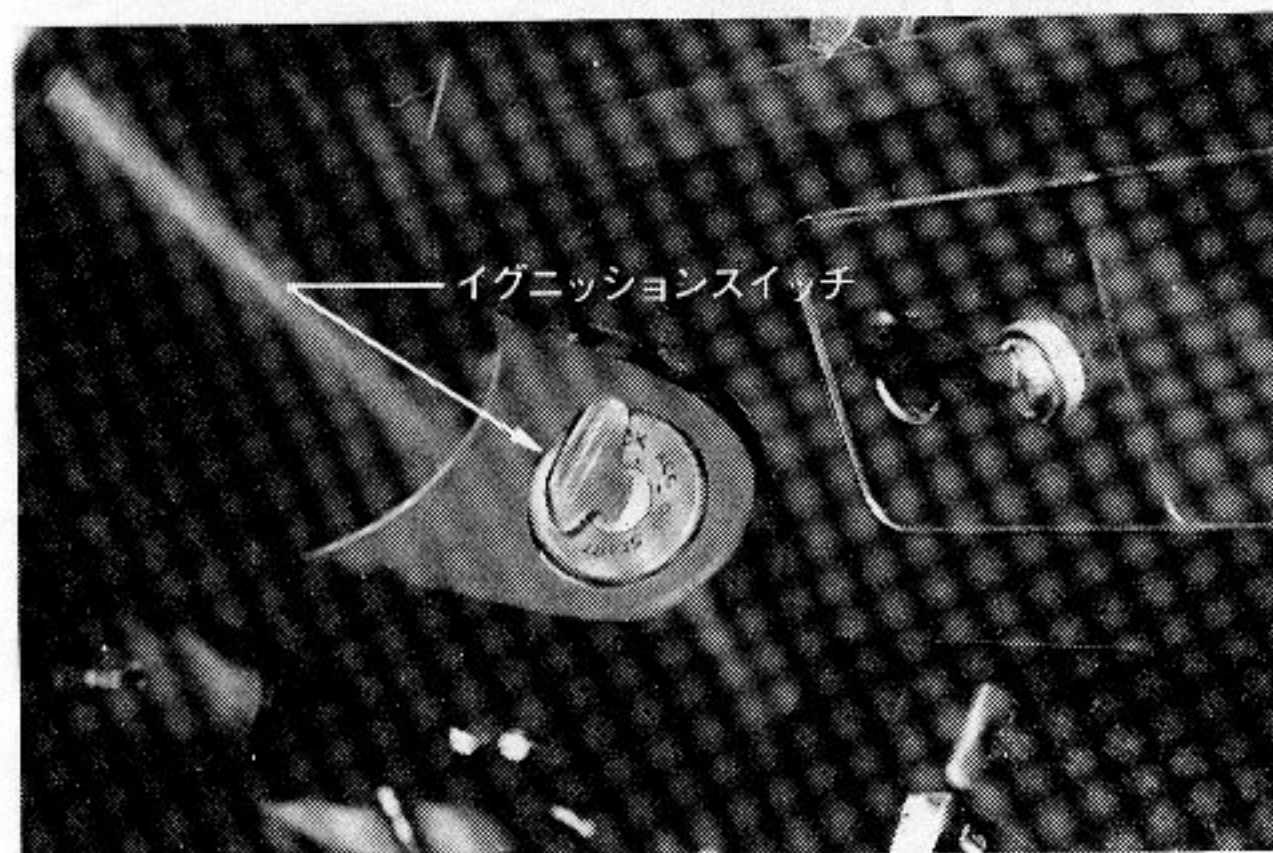
◆デフォッガーパイロットランプ

- デフォッガー作動中に点灯します。

◆オイルレベルパイロットランプ

- ◎イグニッションスイッチを入れると点灯し、エンジンを始動し回転を上げると消灯します。オイル残量が0.7ℓ以下になるとエンジン回転を上げても点灯します。
点灯した場合には、CCISオイルを補充して下さい。(35頁参照)
- ◎まったく点灯しないときは配線系や電球の故障です。直ちに点検修理してください。

スイッチ関係の操作



◆ イグニッションスイッチ

このスイッチは電気系統のメインスイッチ、スタータースイッチ及び盗難予防のステアリングロックの役目をします。

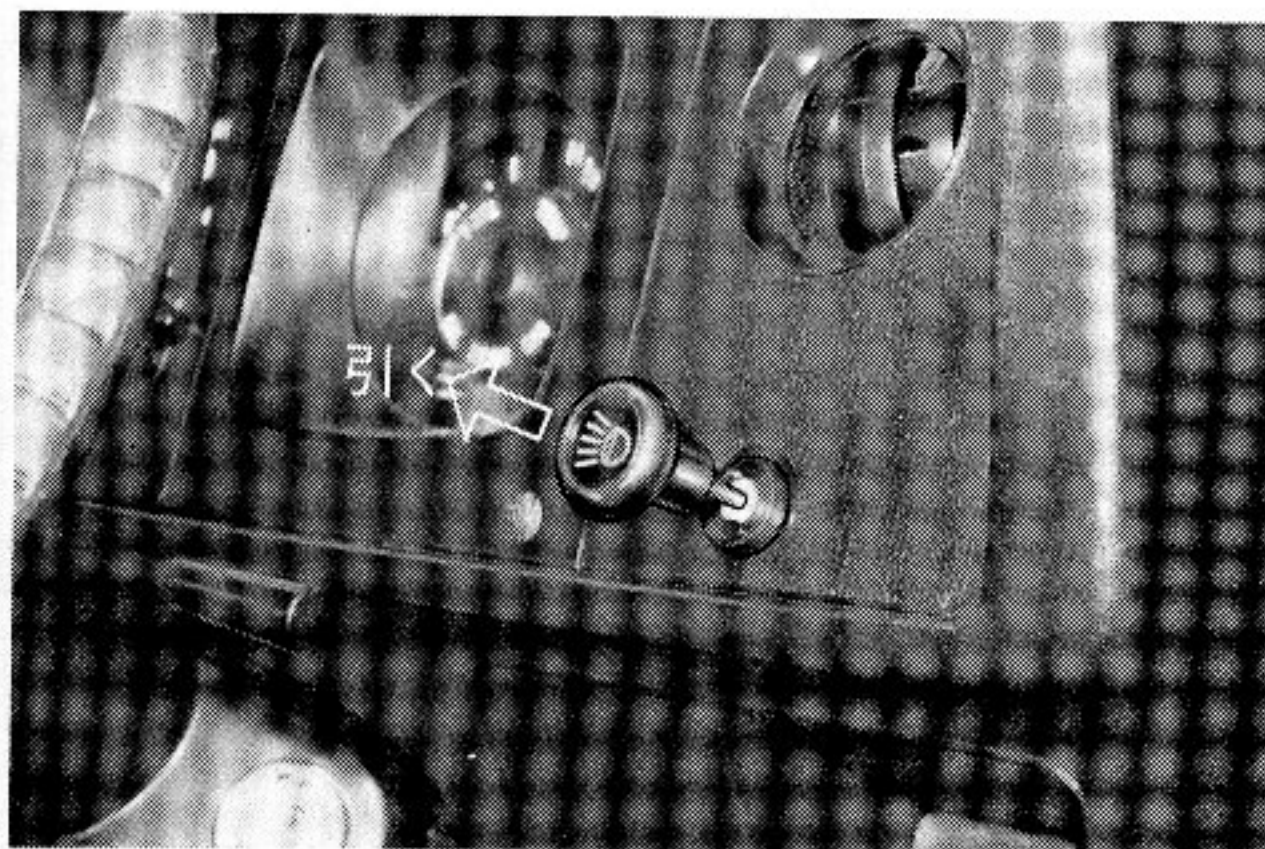
◎ **LOCK**……キーの抜き差しできる位置でキーを抜くとステアリングホイールをロックし（ステアリングホイールを少し動かした時ロックが掛る）、盗難防止に役立ちます。ステアリングロックを解く場合はキーを差し込み、ステアリングホイールを軽く左右に動かしながら「**ACC**」位置まで回します。

◎ **ACC**……エンジンを止めたままラジオ、シガレットライターが使える位置です。

◎ **ON**……エンジン回転時の位置で、すべての電気系統が作動します。エンジンをかけずに **ON** にしたまま放置しないで下さい。

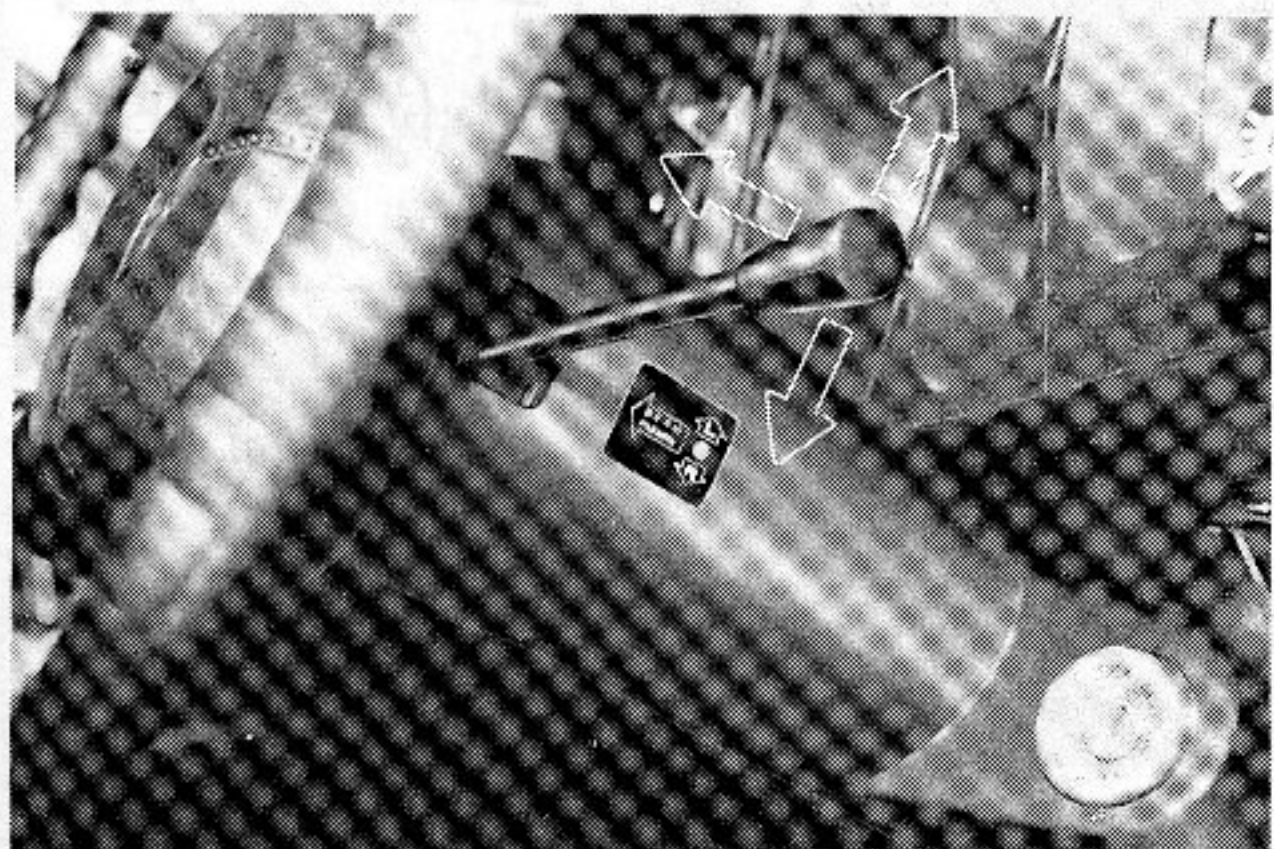
◎ **START**……エンジンを始動する位置でスターターモーターが作動します。エンジンが始動したらすぐ手を離して下さい。

※ 車を牽引してもらう時は必ず「**ACC**」の位置にして下さい。



◆ ライティングスイッチ

1. 右へひねると前後のパーキングランプが点灯します。
2. ひねりを戻して1段引くとスモールランプとテールランプ、ライセンスランプ、メーターランプが点灯します。
3. 2段目まで引くとヘッドランプ、テールランプ、ライセンスランプ、メーターランプが点灯します。

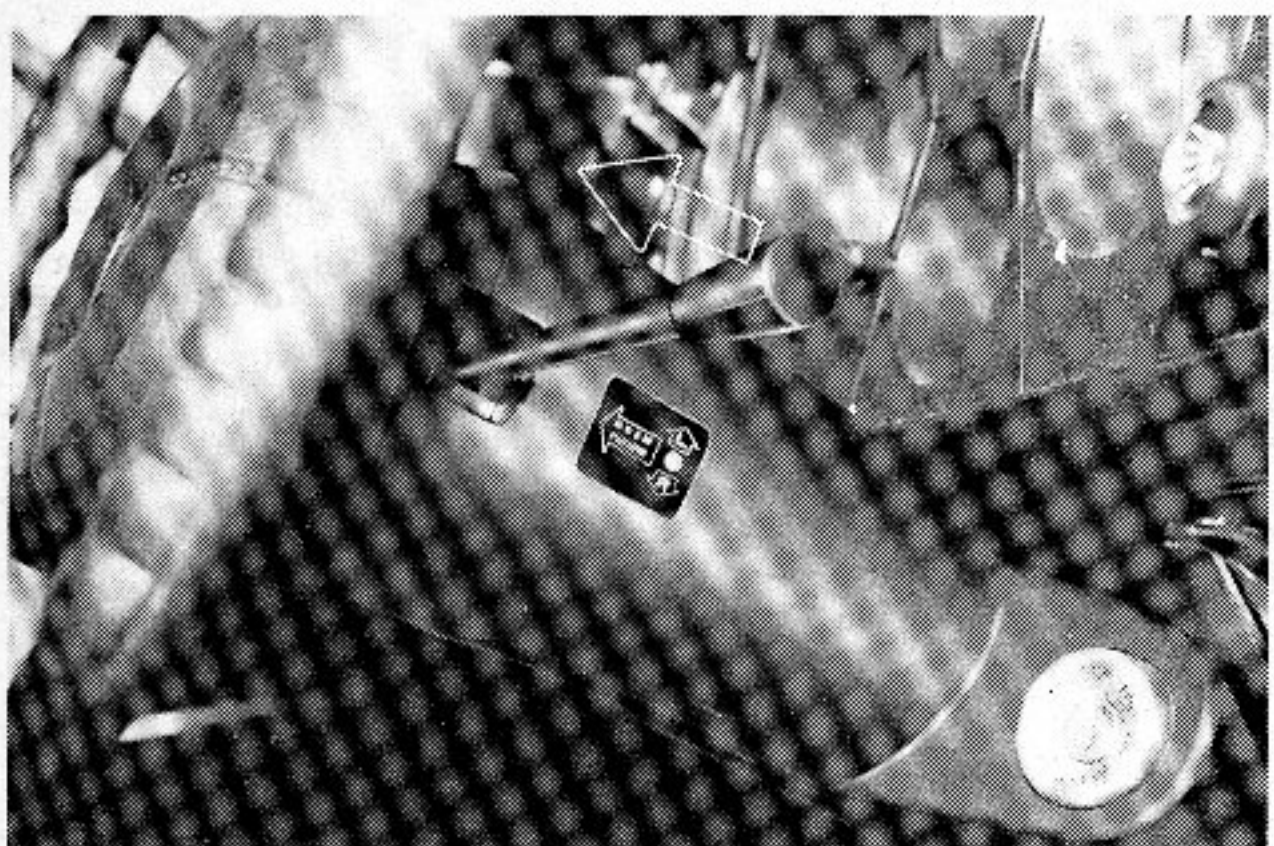


◆ ターンシグナル & ディーマースイッチ

1. レバーを図のように上下することにより上で左側、下で右側のターンシグナルランプが点滅します。レバーは転向後、ハンドルを戻すと自動的に元の位置に戻ります。

ハンドルの操作が少ない時には、自動的にレバーは戻りません。

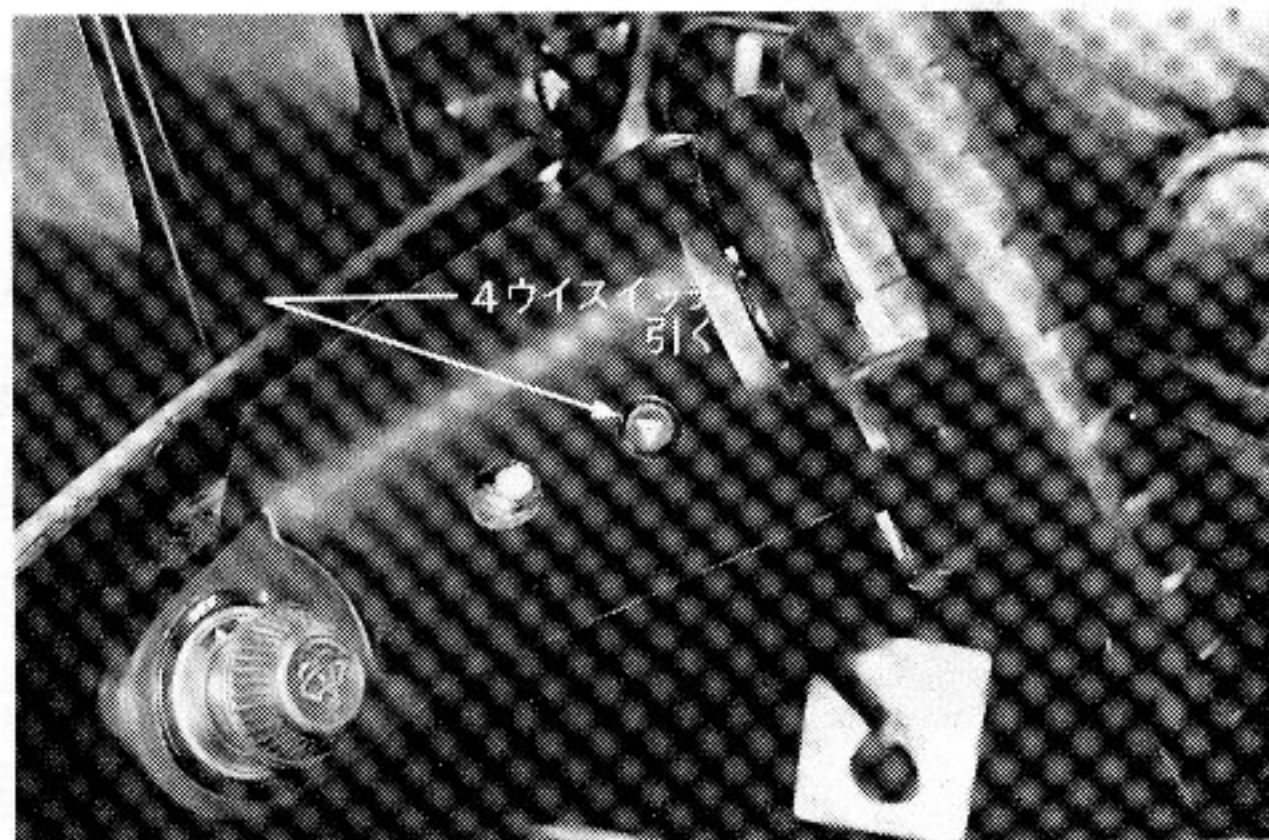
2. ライティングスイッチを2段目まで引いた時、レバーは手前に引くとヘッドランプの照射方向が、ハイビームまたはロービームに切替えることができます。



◆ パッシングライト

ライティングスイッチに関係なく、レバーを手前に引いている間ヘッドランプがハイビームに点灯します。

高速道路で先行車を追い越すときなどの合図として使います。手を離すとレバーが戻り消えます。

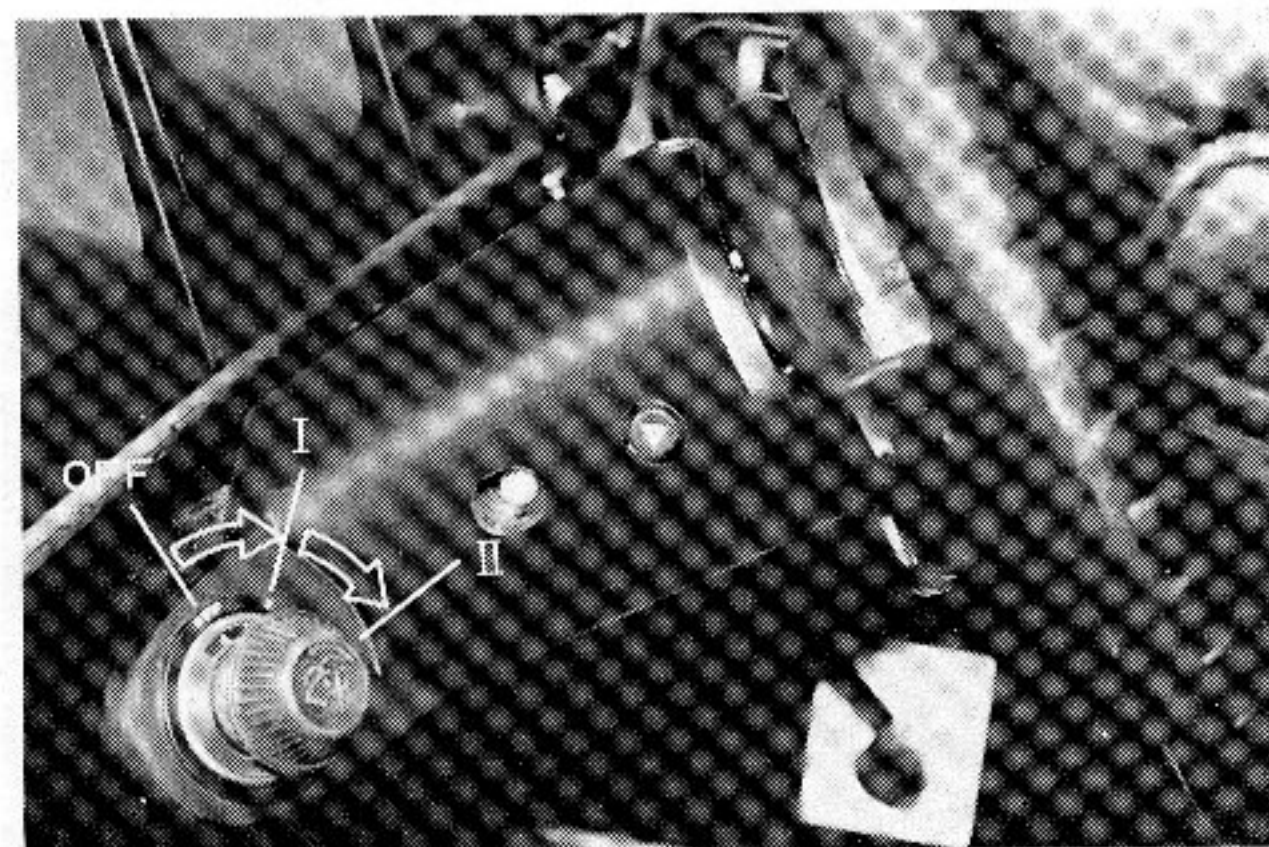


◆ 4ウェイフラッシュスイッチ

非常駐車時に作動させ、追突事故を防止する為の警告灯です。

スイッチを引くと前後左右のターンシグナルランプが同時に点滅し、駐車していることを知らせます。

※ 非常の場合以外は使わないでください。走行中、トンネル内などで使用すると他車の誤解をまねき危険です。



◆ ワイパースイッチ（イグニッションスイッチが入っている時のみ作動）

1. ウインドウオシヤポンプを回すとワイパーが作動し、ウインドガラスの汚れを拭きとります。
2. ウインドウオシヤポンプを戻すとワイパーは自動的にウインドガラスの下端で止ります。

乾いたウインドガラスのホコリをワイパーで拭くとガラスを傷つける原因になりますので、かならずウインドウオシヤでガラスを濡らしてから拭いてください。

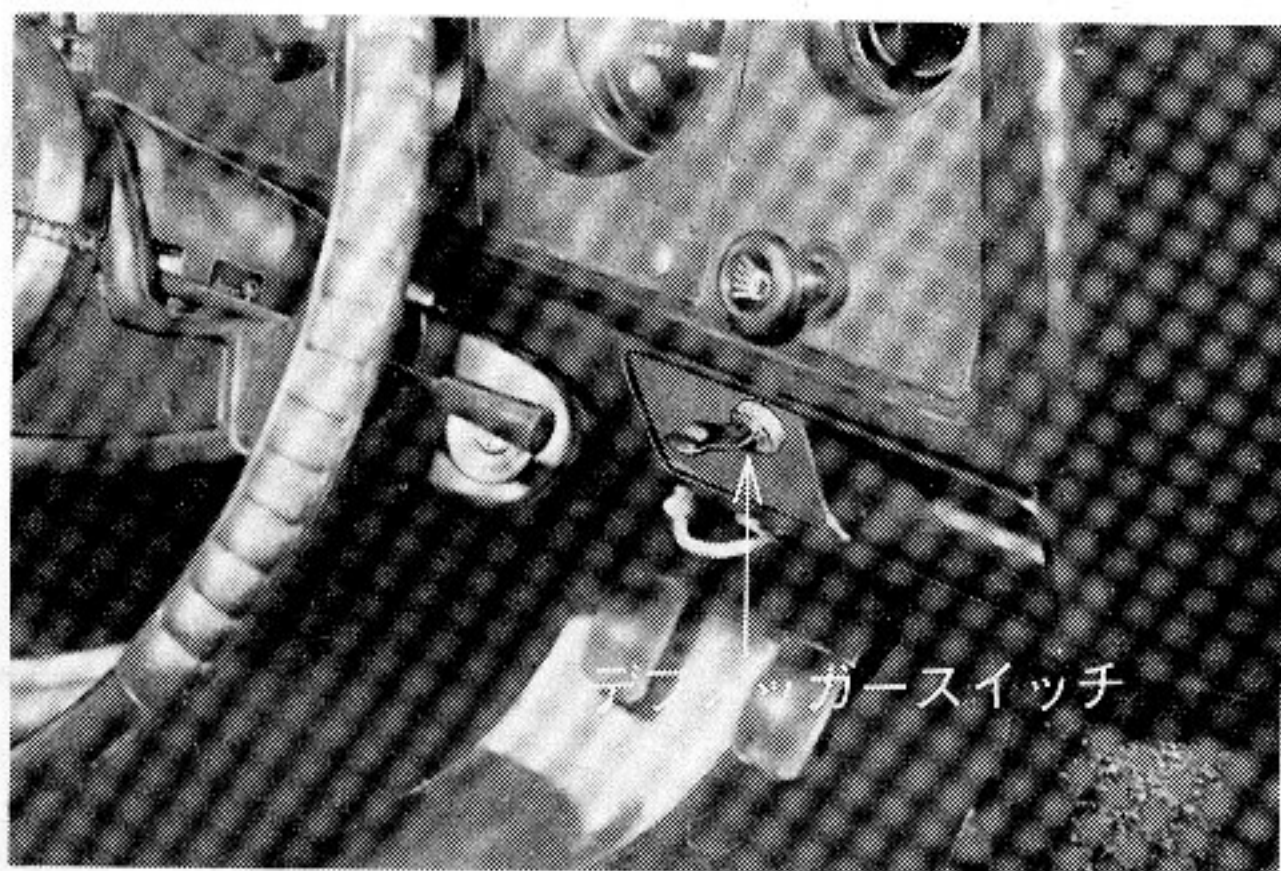
※ スーパーデラックス（2ドア車）、カスタム、GTtypeII、仕様車はワイパースイッチが2段になっており、つまみを1段回すとゆっくり、2段目まで回すと速くなります。



◆ フォグランプ（GTtypeII仕様）

ライティングスイッチを引いた時（1段及び2段引いた時）にスイッチレバーを押すと点灯し、手前に引くと消灯します。

霧の濃い日等、見通しの悪い日に使用します。

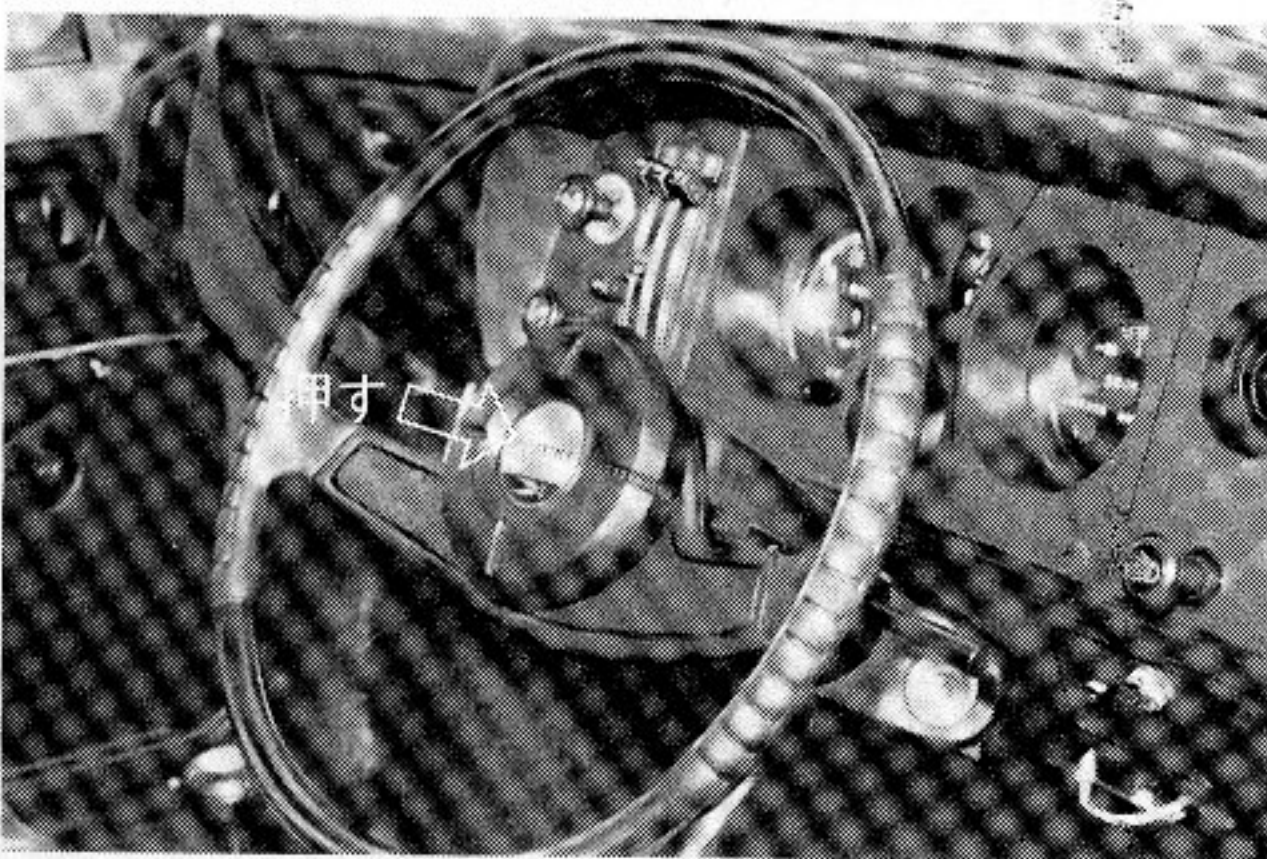


◆ デフォッガー（カスタム，GTtypeⅡ仕様）

リヤウインドが曇ったとき，ガラスを暖めて曇りをとることができ，後方の視界を確保します。

※デフォッガーは消費電力が多いのでリヤウインドの曇りが消えたら直ちにスイッチを切って下さい。

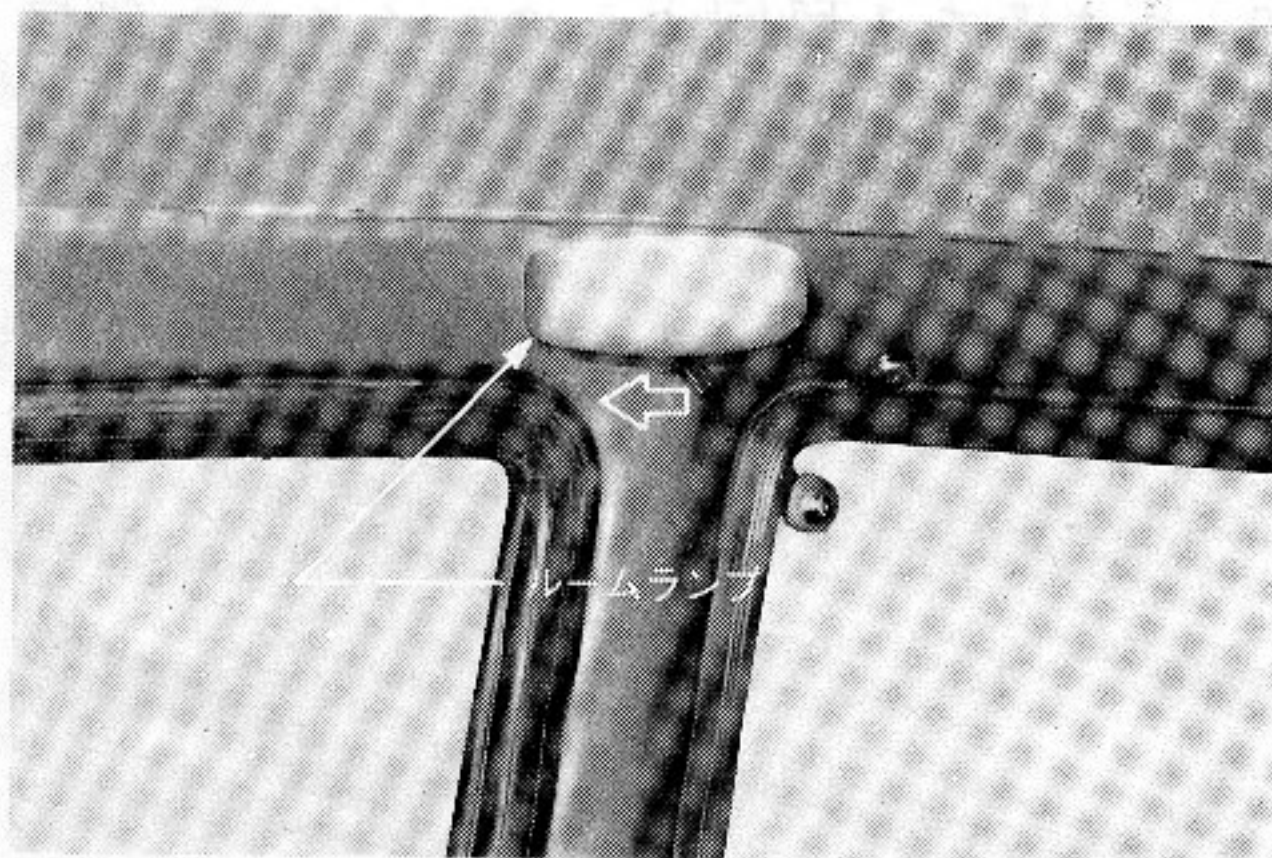
※デフォッガーが作動中はデフォッガーパイロットランプが点灯しています。



◆ ホーンボタン

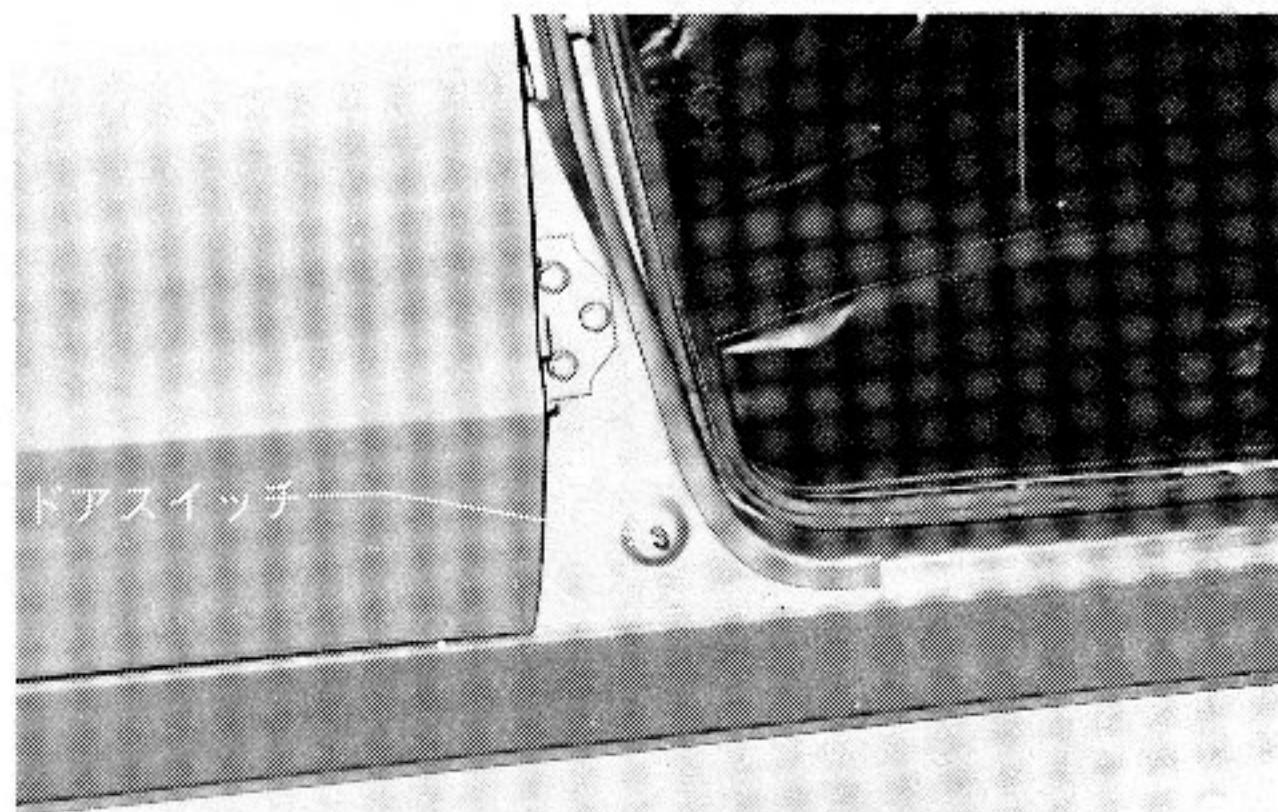
イグニッションスイッチがONの時にボタンを押せば鳴ります。

ホーンの使い方一つで運転者の性格がわかるといわれます。必要な時だけ的確に鳴らすよう心掛けてください。



◆ ルームランプスイッチ

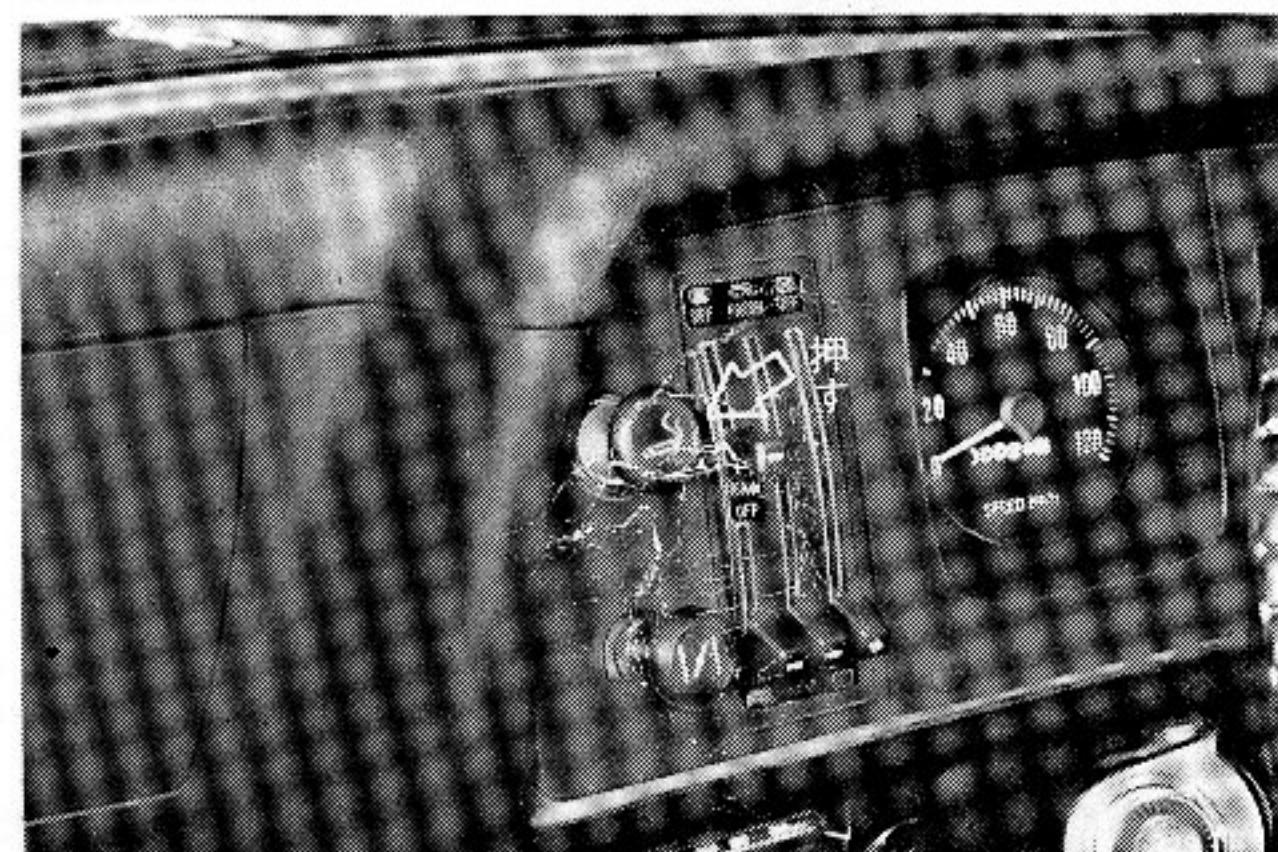
このランプはイグニッションスイッチに関係なくいつでも点灯できます。前側に倒すと点灯，後側に倒すと消灯します。



◆ ドアスイッチ (スーパーデラックス, カスタム, GTtypeII仕様)

右側のドアをあけた時, ルームランプが点灯する様, ドアスイッチが着いています。

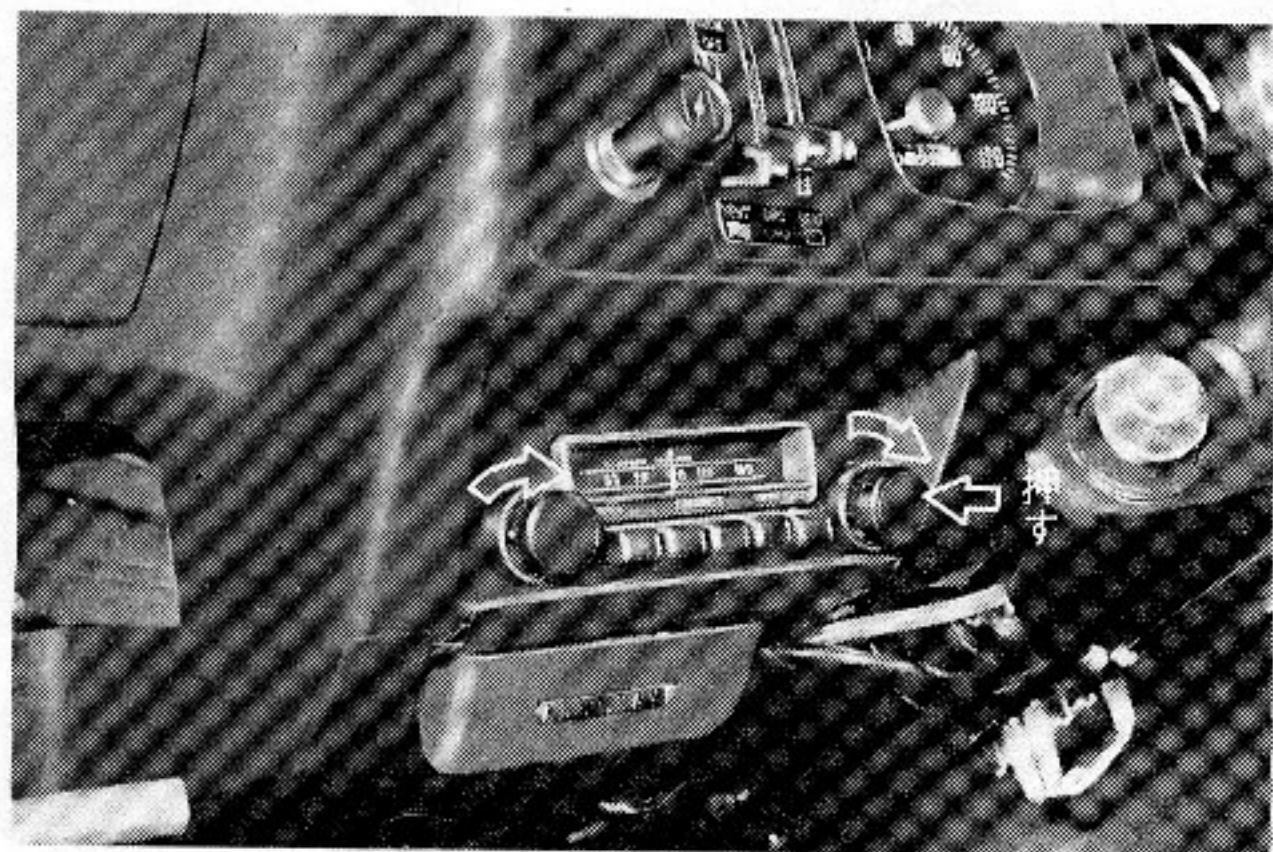
ドアをあけた時スイッチが作動してルームランプが点灯します。



◆ シガレットライター (スーパーデラックス, カスタム, GTtypeII仕様)

1. シガレットライター本体を軽く押し込んでください。
2. 数秒でシガレットライター先端が赤熱して自動的に元の位置に戻りますので, 引き抜いて使用してください。

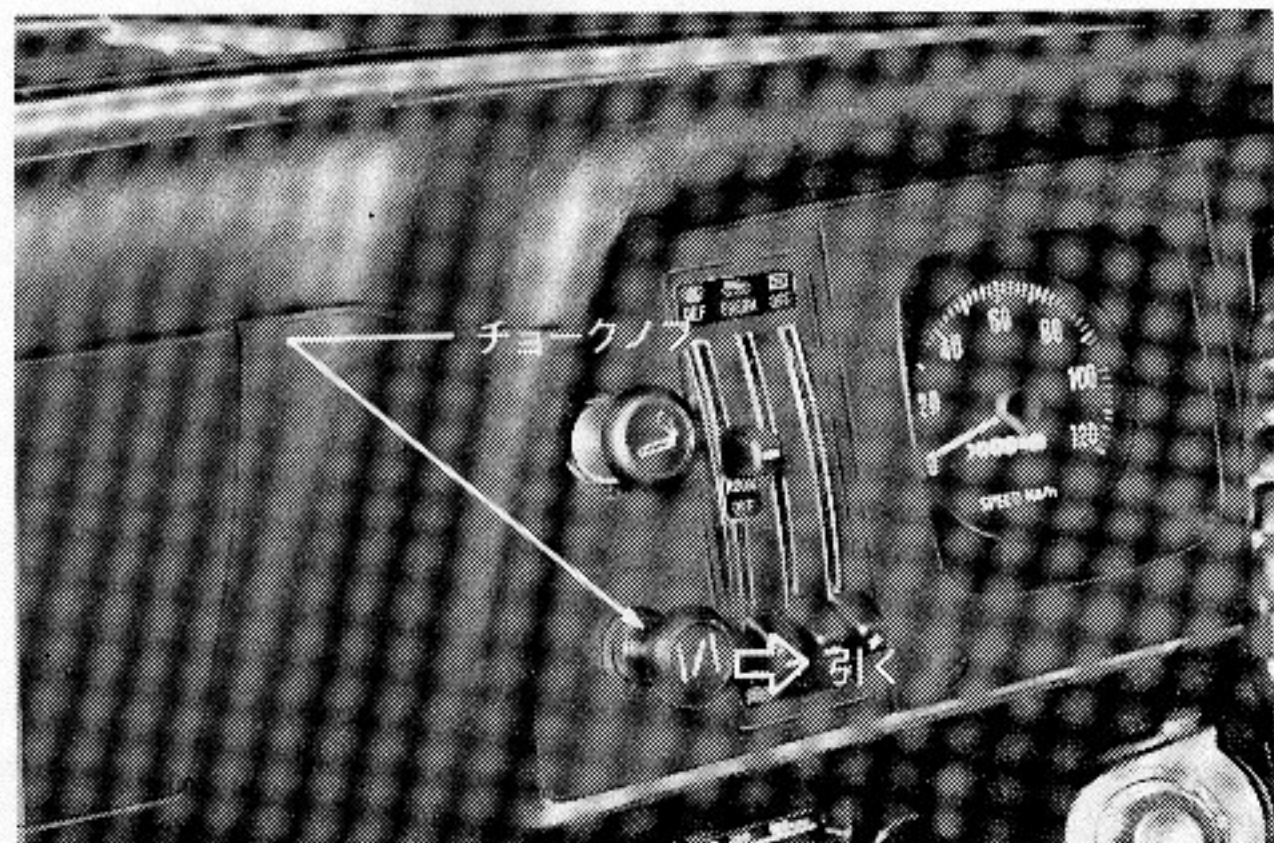
※ { 押し込んだらすぐ手を離して飛び出すのを待ちましょう。
{ 押えつけたまましているとシガレットライターをいためます。



◆ ラジオ（デラックス、スタンダード仕様はオプション）

1. 右のつまみを押すとスイッチが入り，回すと音量の調整ができます。中央のプッシュボタンを希望の局にセットしておけばいつでもボタンを押すだけで選局できます。
2. 左のつまみを回すとプッシュボタンに関係なく選局できます。
プッシュボタンのセットは，プッシュボタンを1cm程引き出し，左のつまみで選局してプッシュボタンを押し込めばできます。

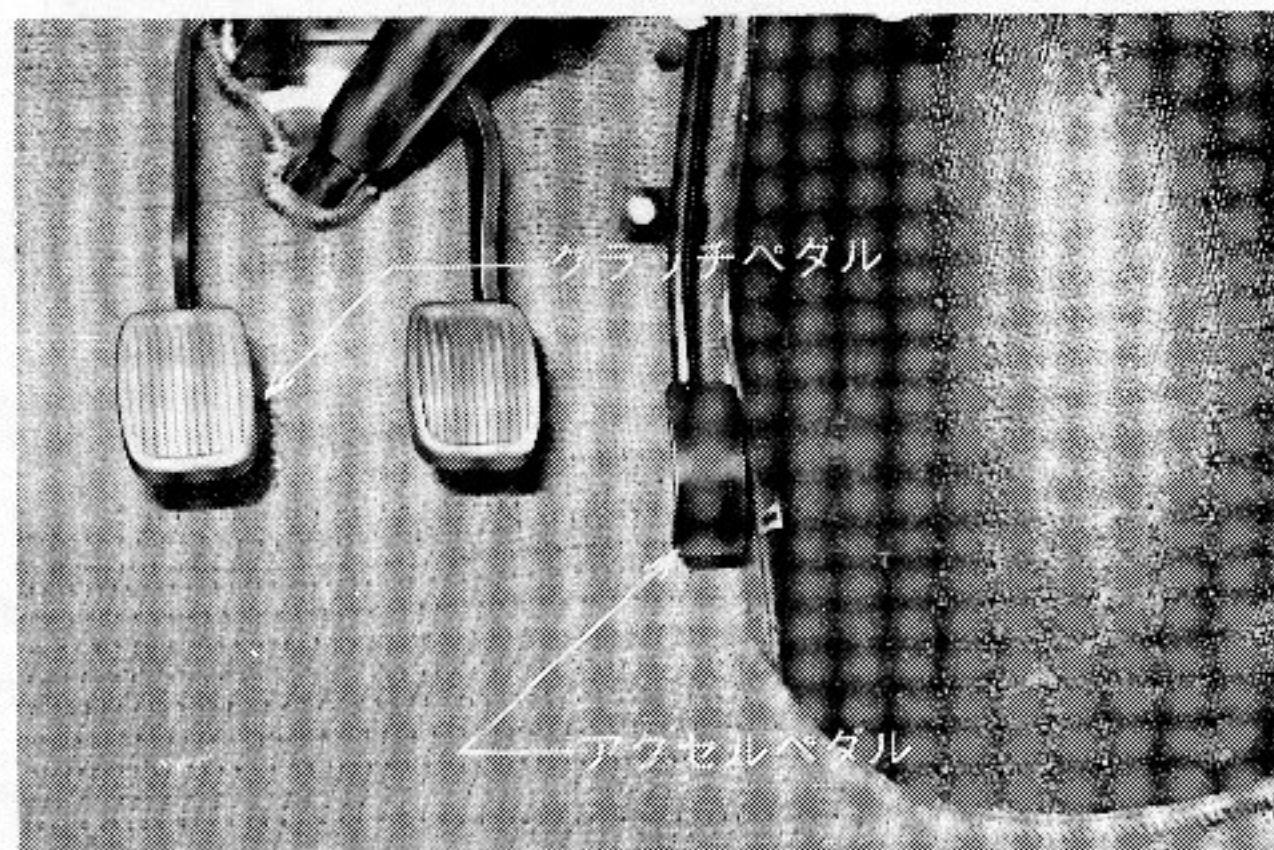
操縦関係の操作



◆ チョークノブ

1. エンジンが冷えているときの始動は、クラッチペダルを踏み、チョークノブを一杯引いて、アクセルを踏まずに行ってください。
2. エンジンが始動したら、アクセルペダルを2～3回あおるように踏みこんだ後、つまみを徐々に戻して、好みの回転数（2,000rpm位）に合わせてください。

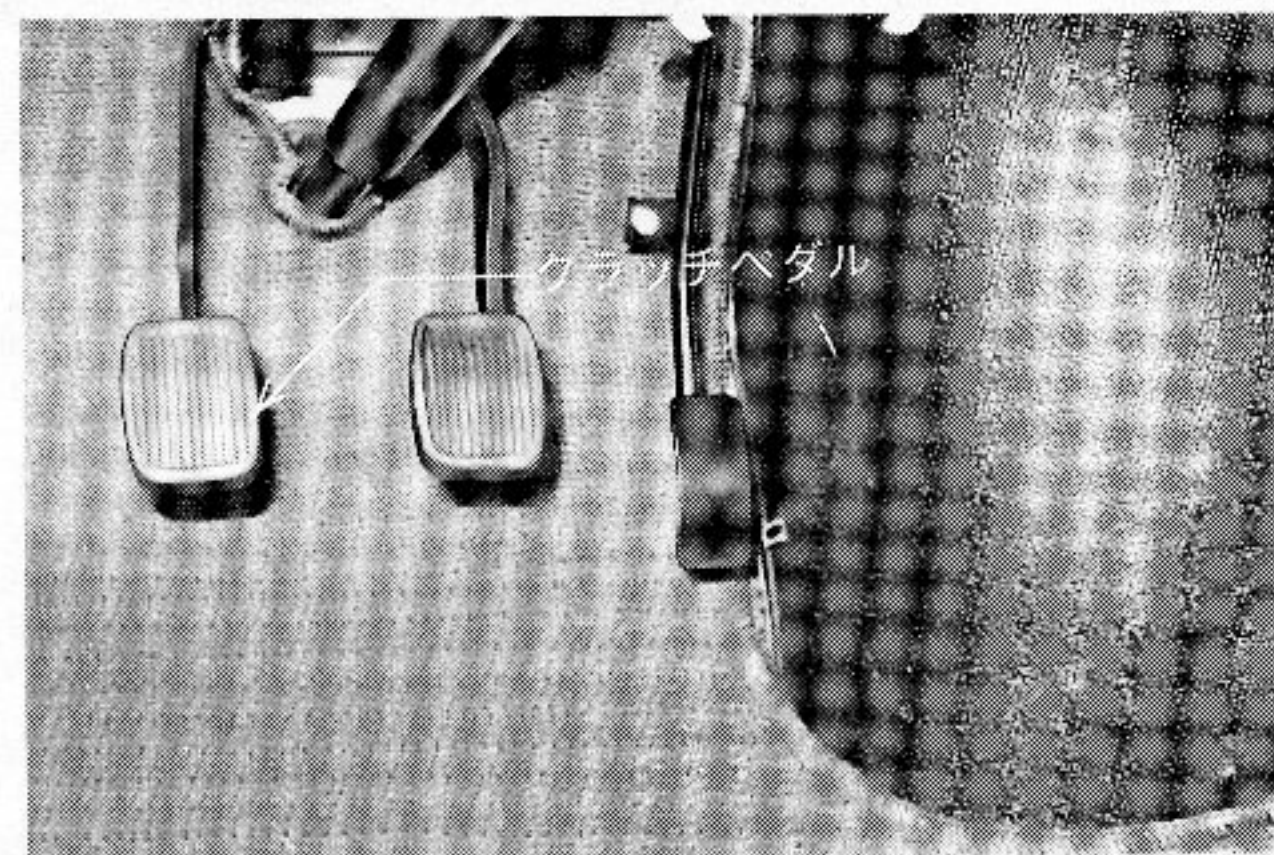
※ 始動時、およびエンジンがかかっていない時にアクセルペダルをむやみにあおらないでください。加速ポンプが働き吸いこみ過ぎとなります。



◆ アクセルペダル

エンジンの回転をコントロールするペダルです。踏みこめばエンジン回転が上がり、出力も速度も高めることができます。

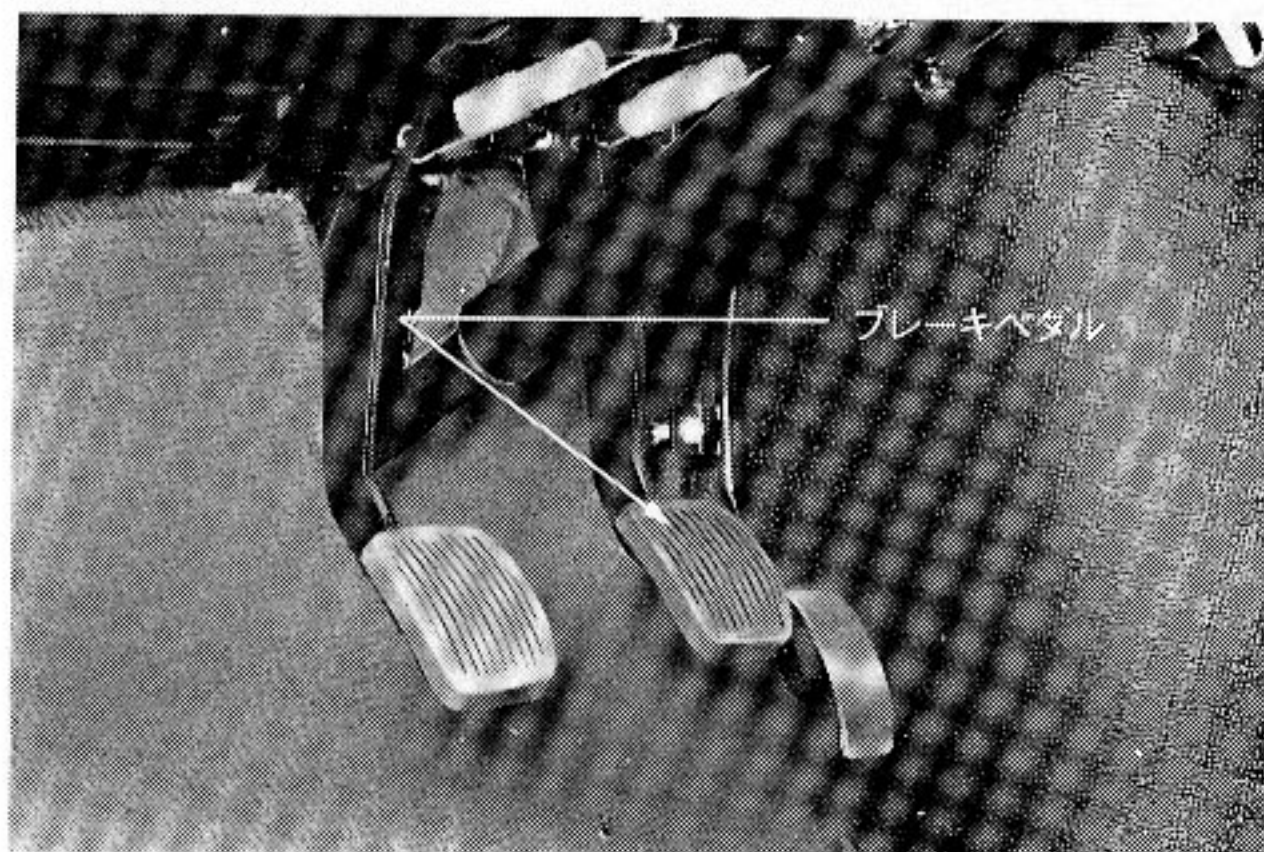
ペダルの操作はゆるやかに作動させるのがコツです。急激なペダル操作は燃料を無駄に消費します。



◆ クラッチペダル

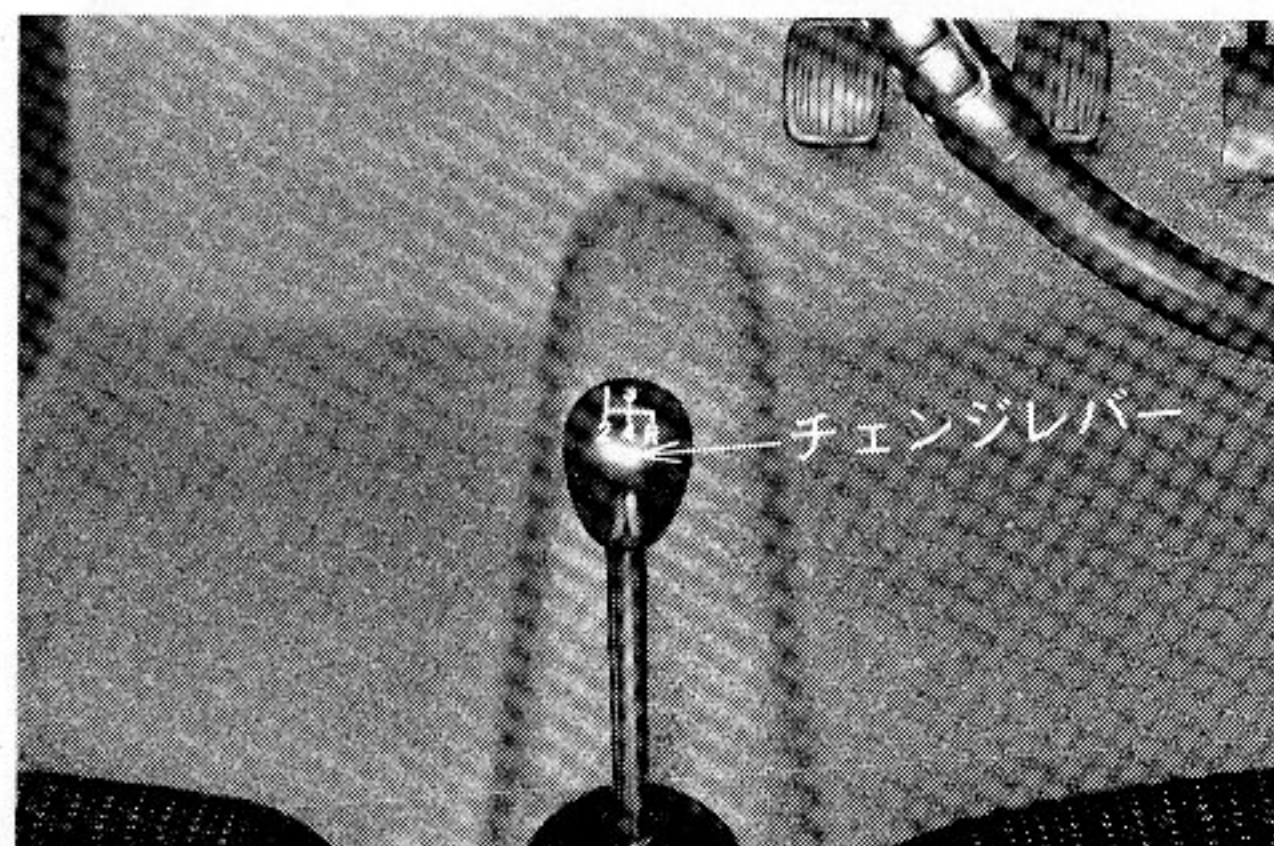
チェンジ操作のときなどにエンジンの動力を一時的に断つもので、ペダルを踏みこむと断たれ、放すと接続します。

ペダルは必要な時以外は足をのせないでください。ペダルに足を乗せたままにするとクラッチが滑ってクラッチ板の焼付きなどを招くことがあります。



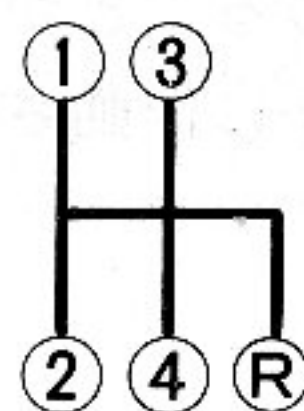
◆ ブレーキペダル

ペダルを踏みこむと、前後輪に油圧が作動して制動します。ブレーキペダルは一気に踏みこむことは避けて2回以上にわけて踏みこむようにしてください。一気に強く踏みこむと制動効果が低下するばかりでなく、横すべりの原因ともなります。



◆ チェンジレバー

ギヤ・チェンジ操作をするためのレバーです。



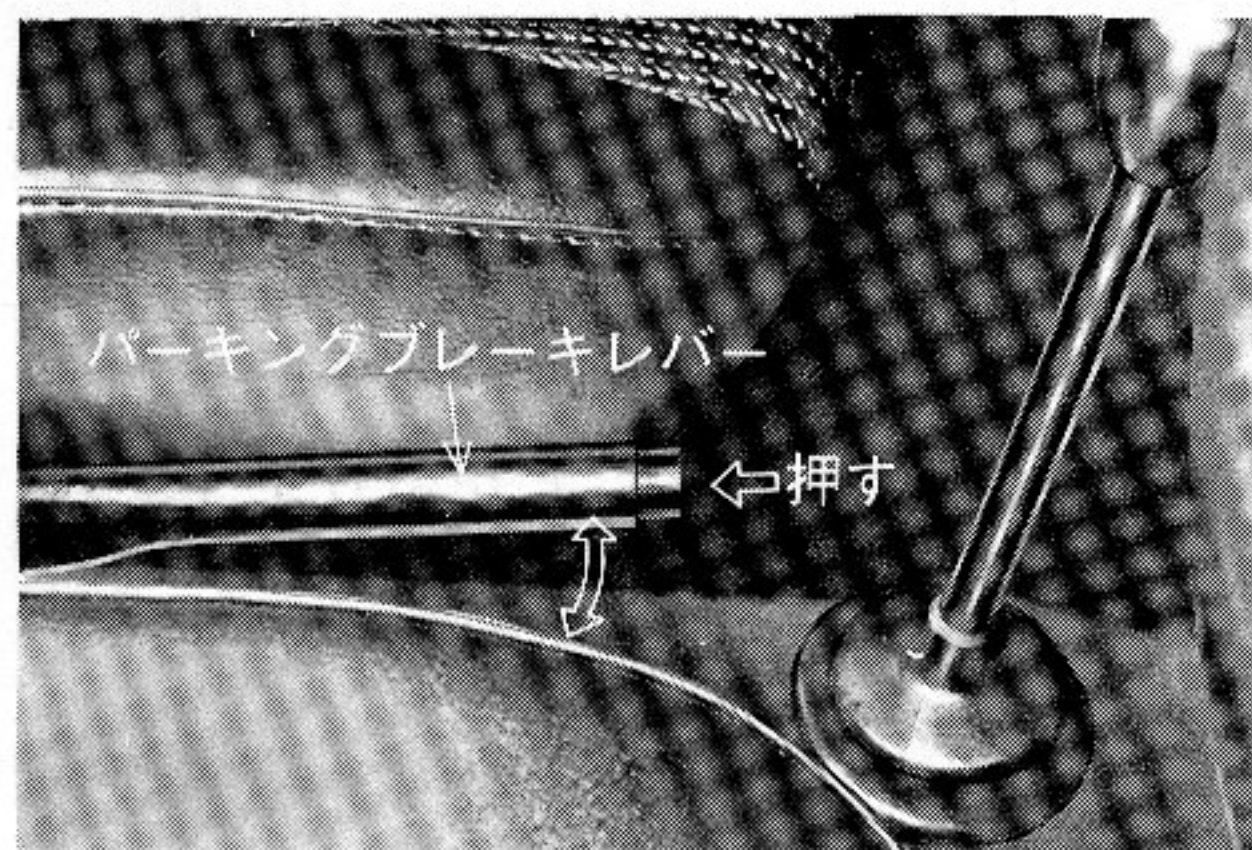
1速(ロー)……左へ軽く押して前に倒します。

2速(セカンド)……左へ軽く押して後に倒します。

3速(サード)……レバーが自然に立っている位置から前に倒します。

4速(トップ)……レバーが自然に立っている位置から後に倒します。

R(リバーズ)……レバーを上から押えながら右に引き後に倒します。

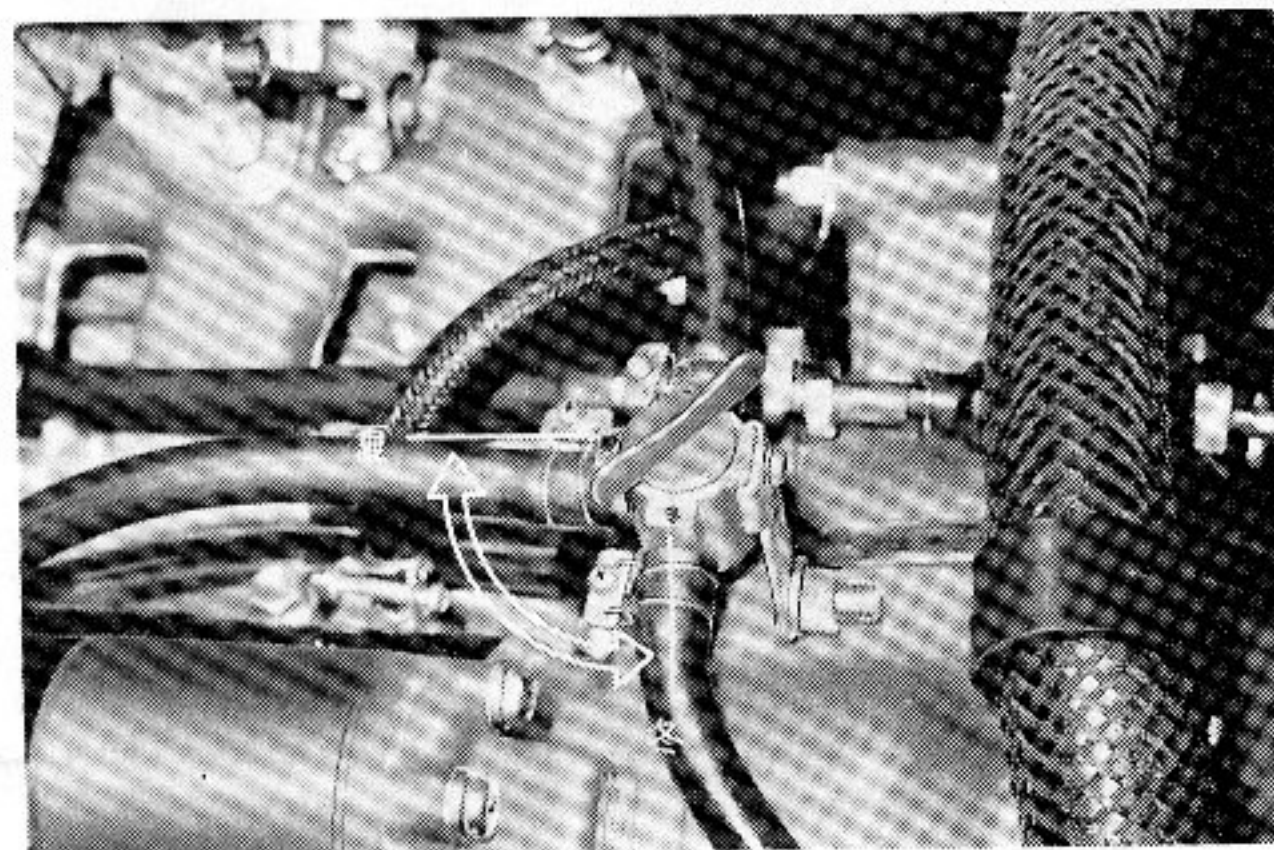


◆ パーキングブレーキレバー

駐車の際はかならず、このレバーを引いてください。

レバーを引くと後2輪にブレーキがかかります。

レバーを戻すときは、一旦レバーを引き上げて、先端のノブを親指で押し込んでレバーを戻すとスムーズに戻ります。

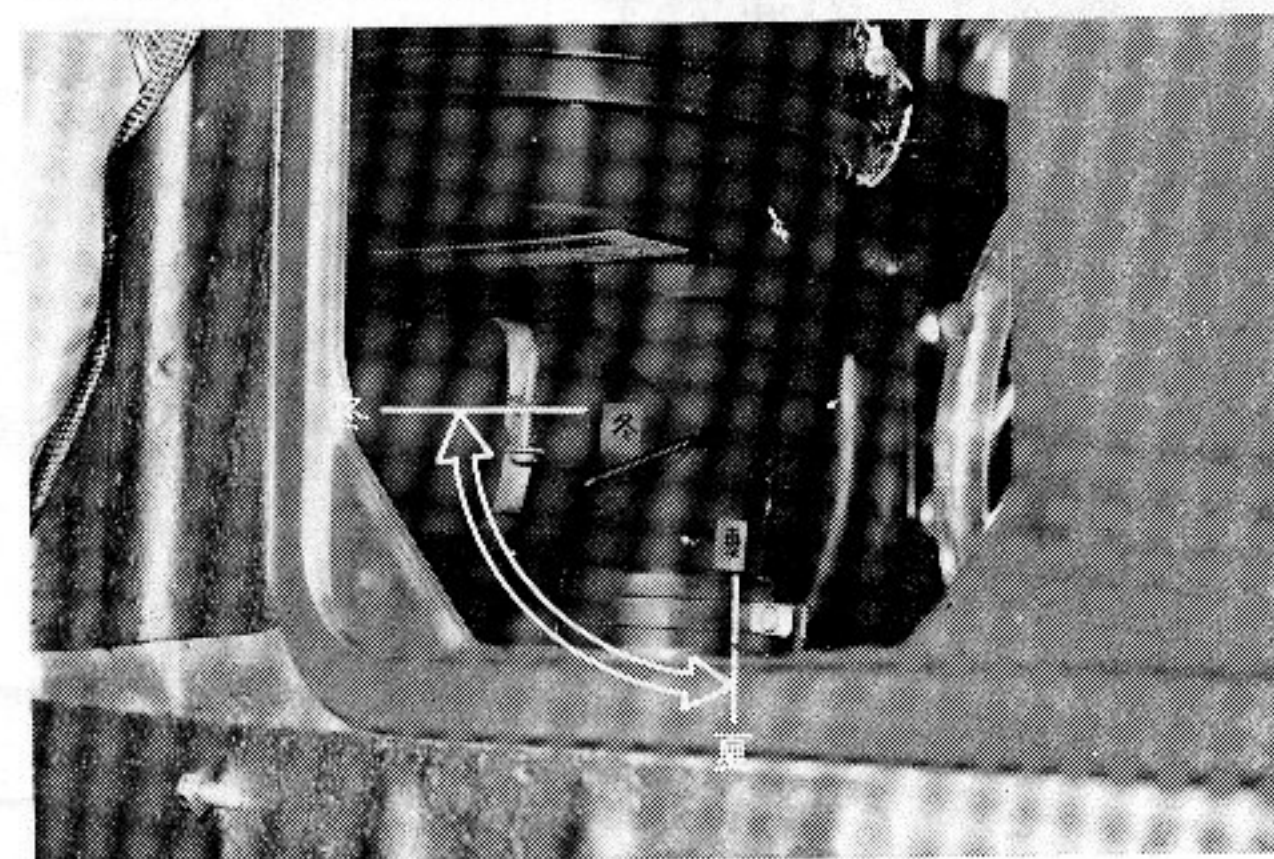


◆ 温水マニホールドコックの切替

リヤリッドパネルを開けると、エンジン右側に温水マニホールドの切替用コックがありますので「夏↔冬」で切替えてください。

夏・冬の切替えをあやまりますとエンジンの出力低下等のトラブルを生じますので必ず下記により切替えてください。

夏	外気温20℃以上
冬	外気温20℃以下



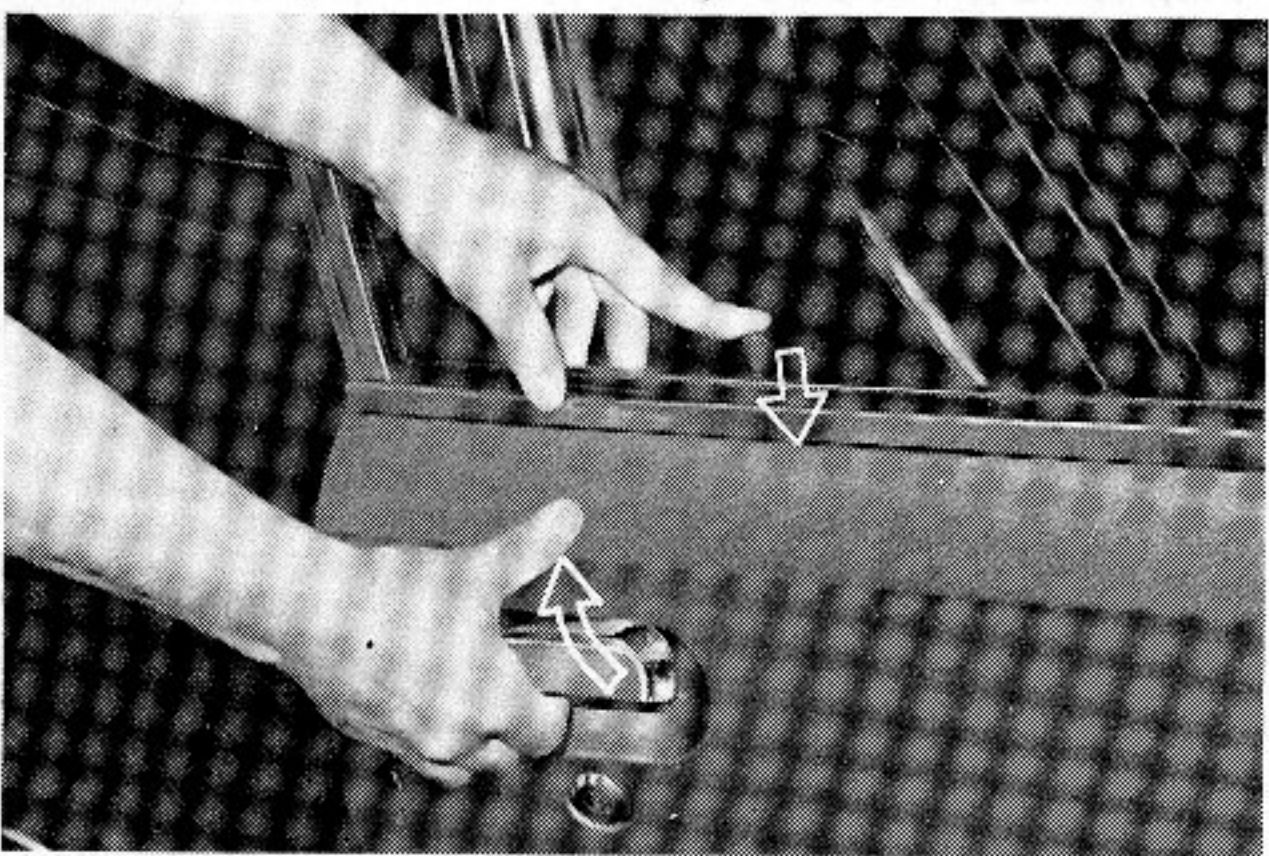
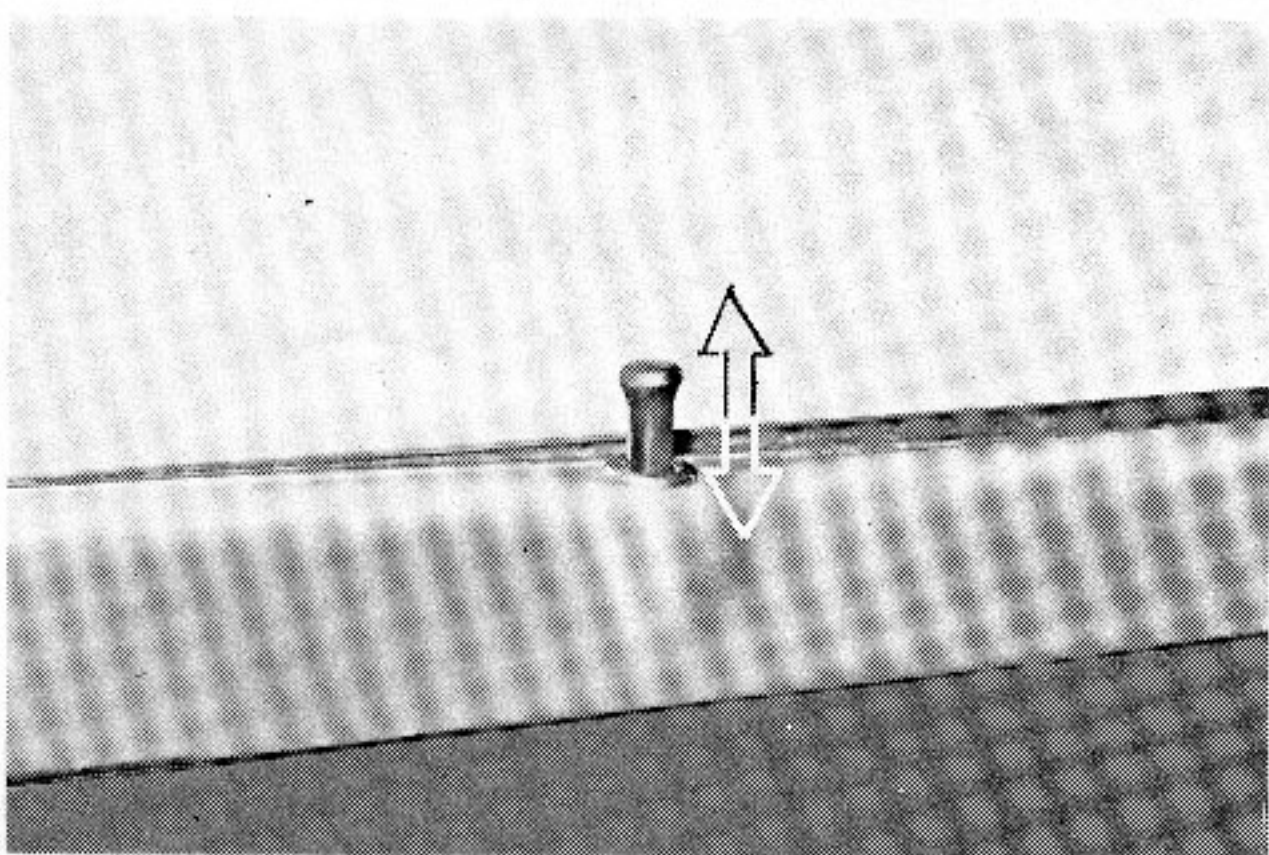
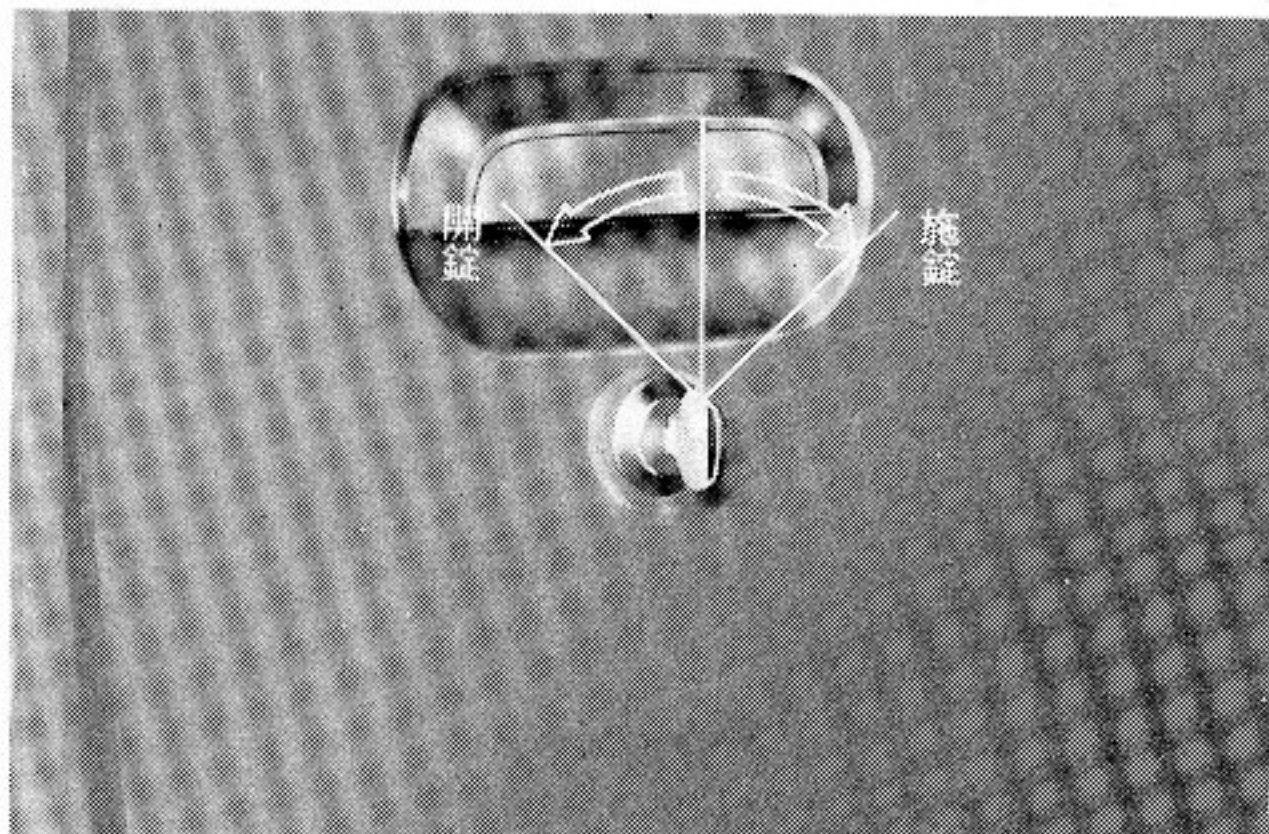
◆ ウォームエアバルブの切替

リヤリッドパネルを開けると、エンジンルーム左側にエアークリーナが有ります。エンジン性能向上の為、エアークリーナケースの吸入口に付いている「夏↔冬」の切替レバーを外気温20℃を目安に切替えてください。

夏	外気温20℃以上
冬	外気温20℃以下

※ ウォームエアバルブの切替レバーの操作を誤りますとエンジン不調を招く場合がありますからご注意ください。

ボディー関係の操作



◆ サイドドア

1. ドアの開閉……サイドドアを外から開くには、ドアアウトサイドハンドルを手前に引いてください。

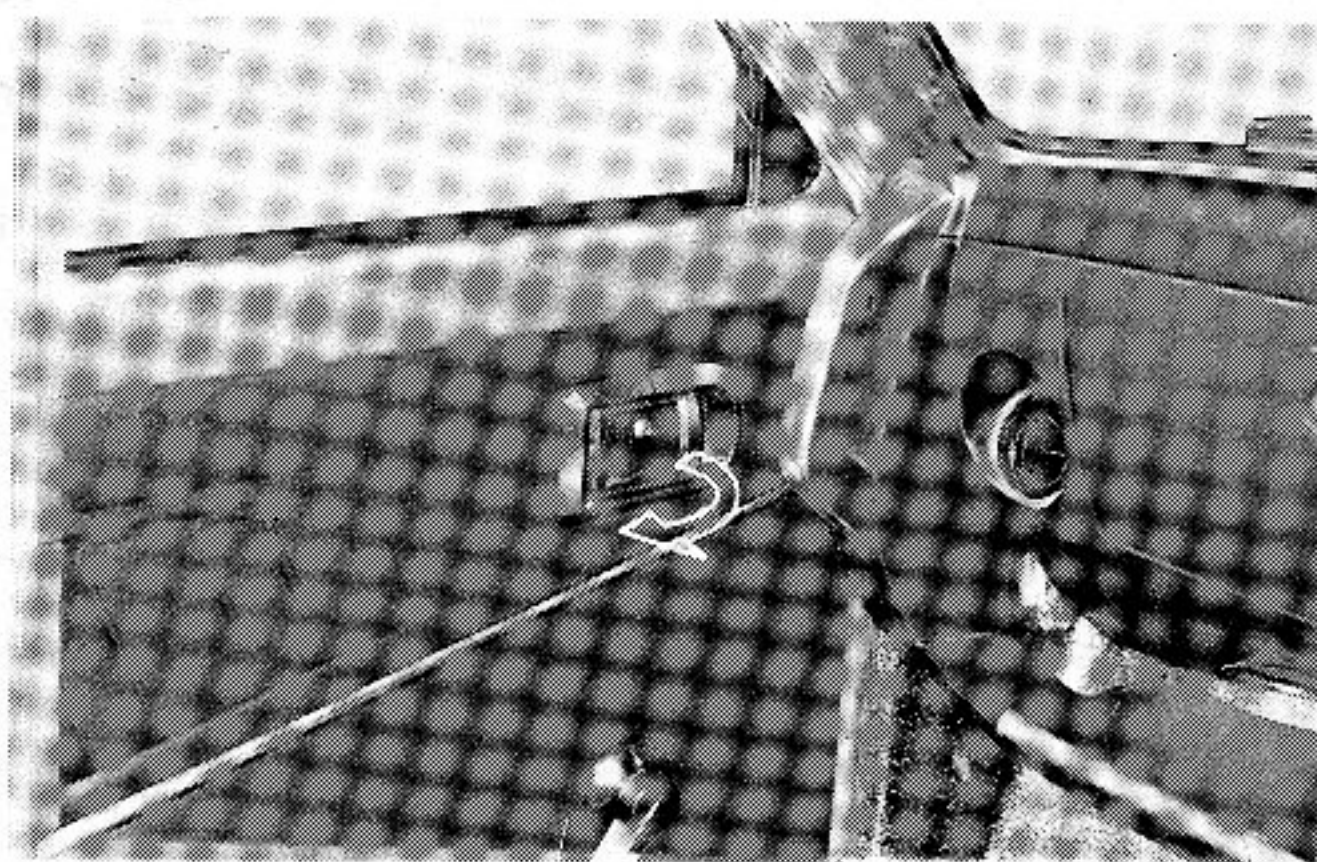
内側から開けるには、ドアアウトサイドハンドルを手前に引いてください。

2. ● ドアのロック…ドアロックノブを押しこむとドアは内側からも外側からも開けることができなくなります。

また、キーで施錠する場合は、キーを差しこみ右へ45度まわして、元に戻してキーを抜き取ってください。開錠はこの逆です。

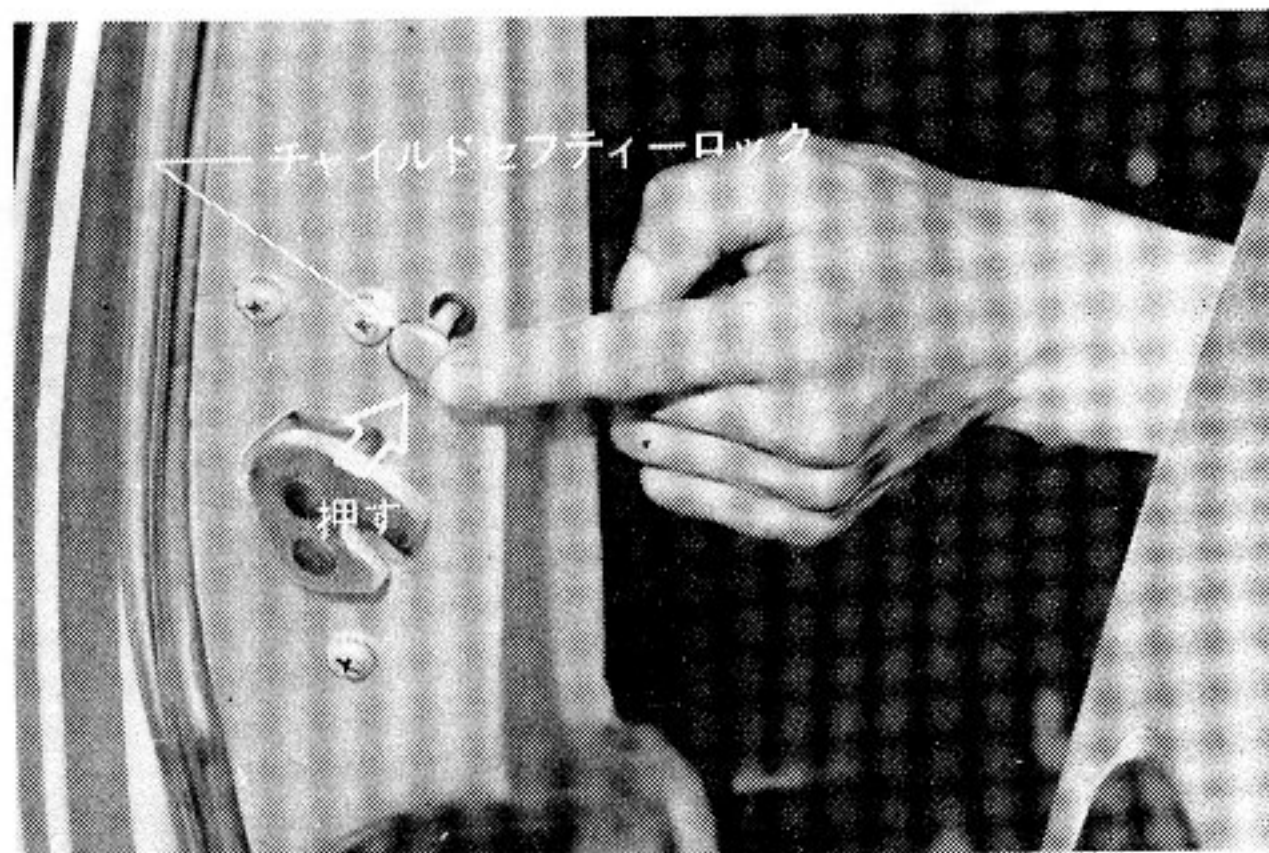
補助者席側はドアを開けた状態でロックノブを押し込み、そのままドアを閉じると施錠できます。

● サイドドアはドアロックノブを押し、ドアアウトサイドハンドルを引き上げたままドアを閉めると施錠できます。キーを車内に忘れないようにしましょう。



<注>

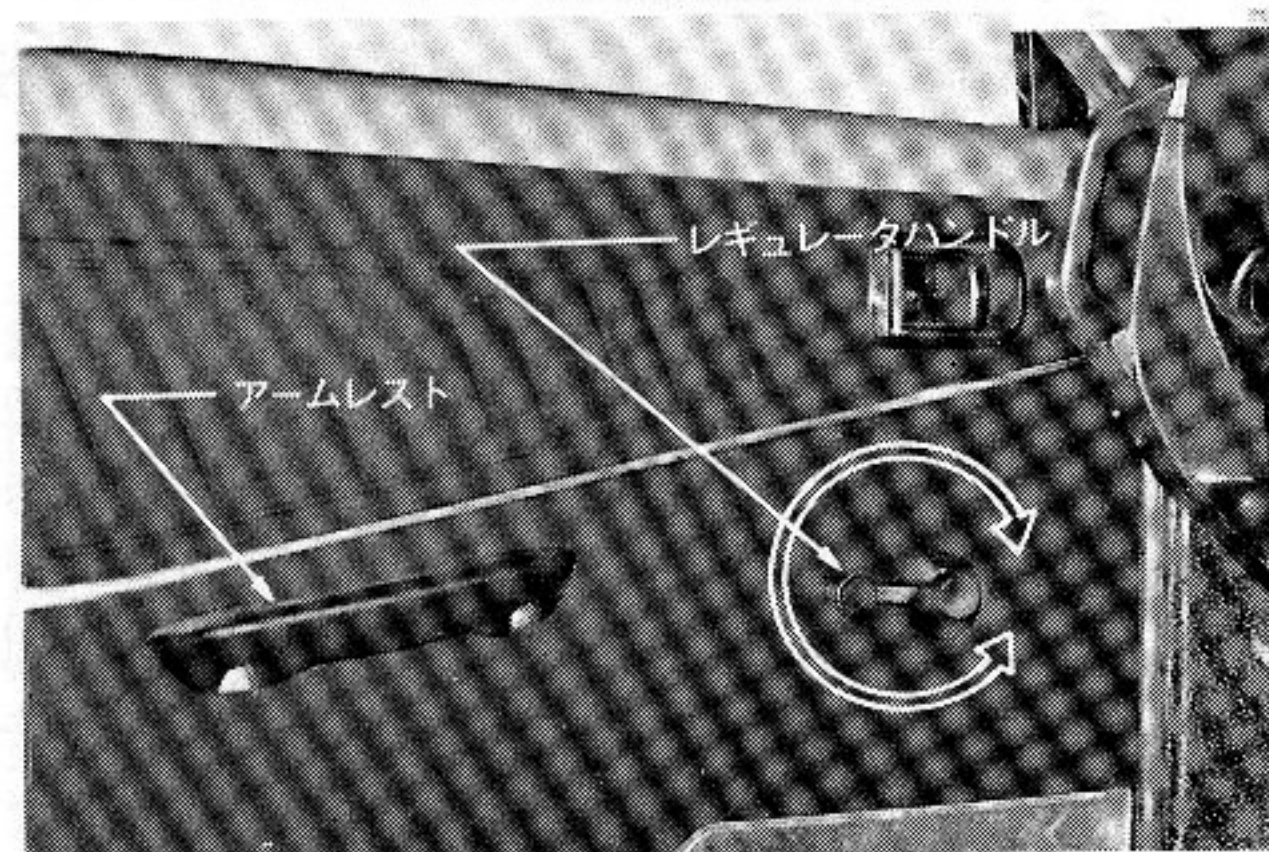
- ドアを開けるとき必ず後方を確認しましょう。いきなり開けると後続車がぶつかる恐れがあります。
- 半ドアの状態では、運転中ドアが開くおそれがありますので確実に閉めましょう。



◆ リヤドア（4ドア車）

リヤドアはロックノブを押し込むとロックできます。

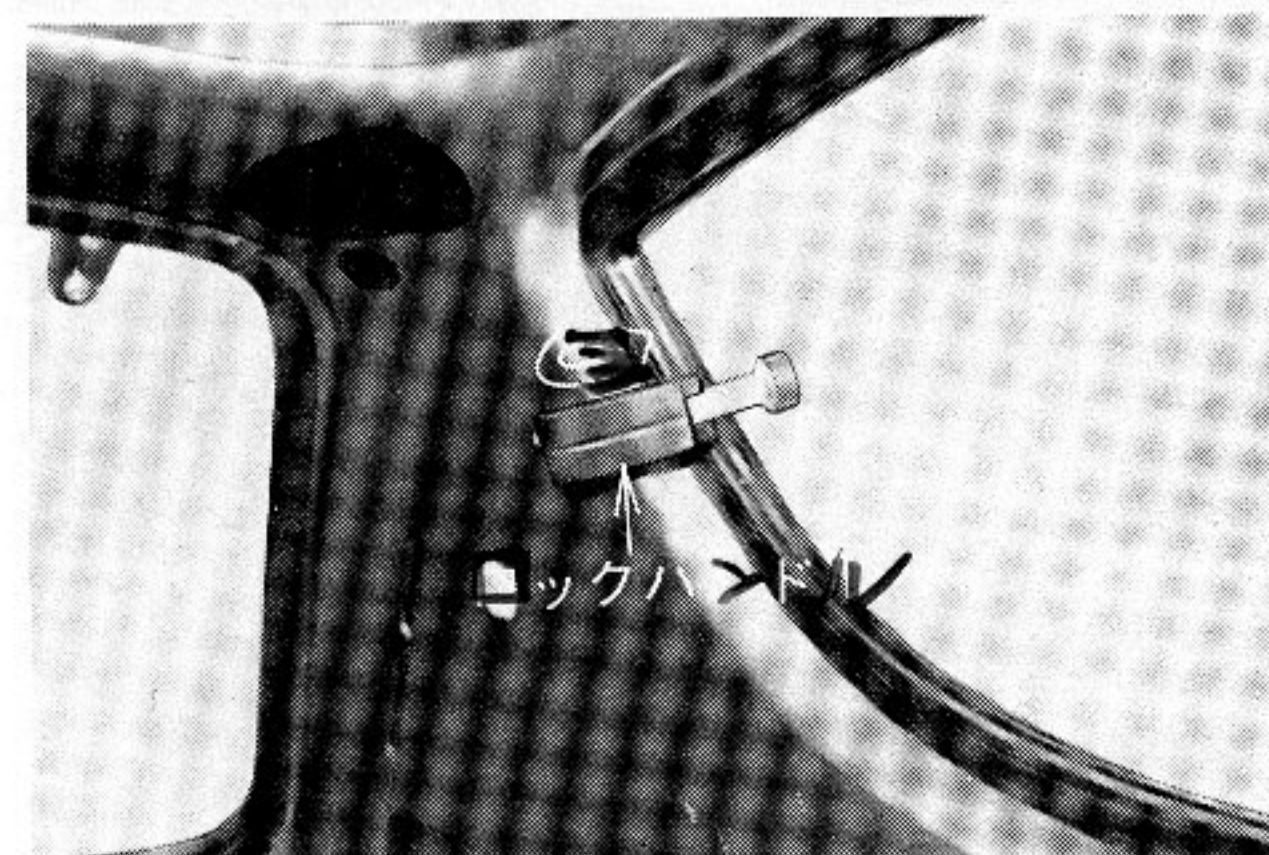
- チャイルド・セフティーロック……リヤドアは安全のため二重ロック式になっています。チャイルド・セフティーロックノブを押すとインサイドハンドルの操作ができなくなり、走行中にお子様などがいたずらしてもドアを開ける危険性が極めて少なくなります。チャイルド・セフティーロックは外側のアウトサイドハンドルにより開けることができます。



◆ サイドドアガラス（4ドア車リヤサイドドアガラス）

ドア内側のレギュレータハンドルを回して上下させます。

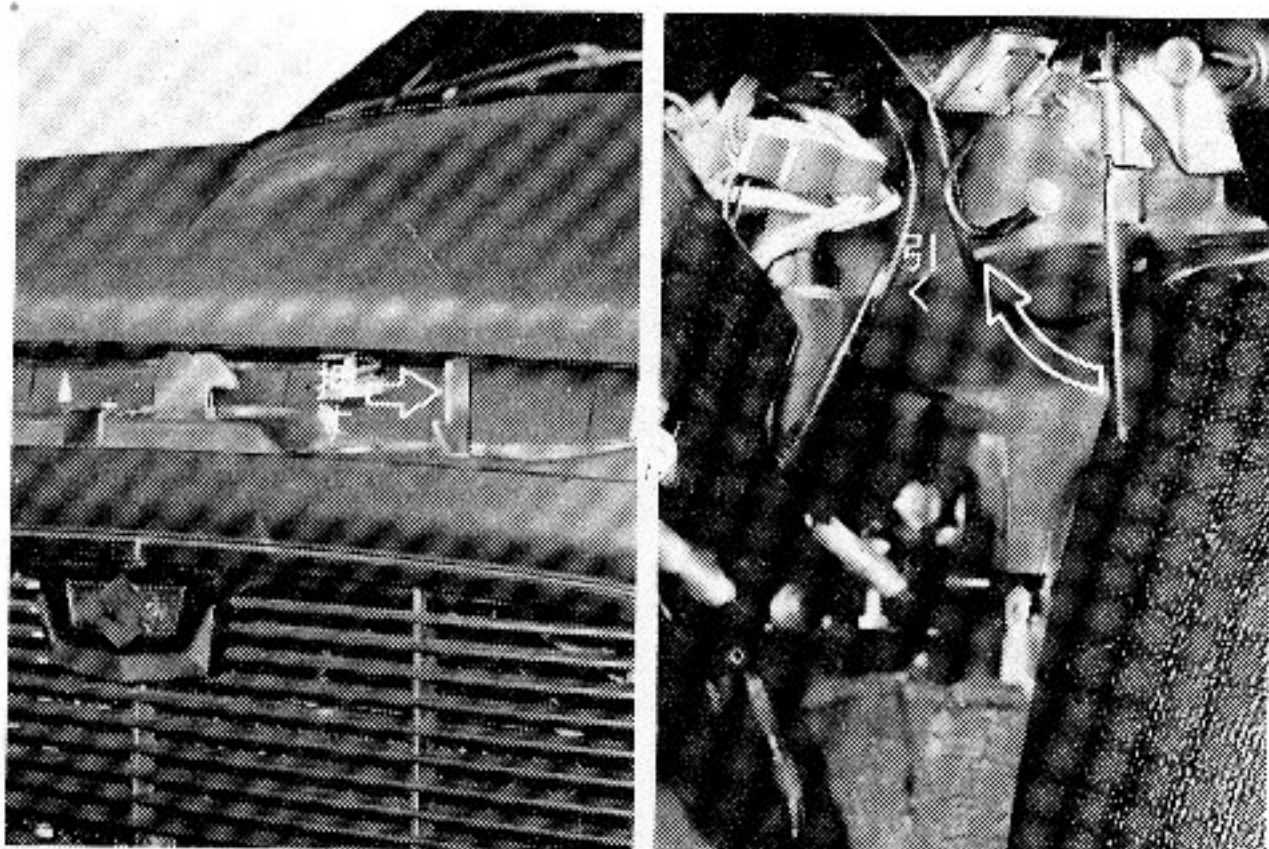
レギュレータハンドルを前方に回すとガラスが下り、後方に回すとガラスが上ります。



◆ リヤウインドガラス（2ドア車）

後方のロックハンドルを手前に引き、ロックを外して外側に押し開きます。

リヤウインドガラスを閉じたら、ロックハンドルをカチンと音のするまで後方に押し、完全にロックしてください。



◆ フロントフードパネルの開閉

1. フロントフードパネルを開けるには、計器板右下にあるフードロック・リリースレバーを引きます。
2. セフティーロックを手で押しながら、フードパネルを持ち上げます。
3. フードパネルは、上に押し上げて手を放すと、ステーで支えられます。
4. フードパネルを閉じるには、フードパネルを軽く持ち上げステーを引いてフードパネルを静かに倒します。
5. フードパネルの前部のロック部分を押し完全にロックさせます。



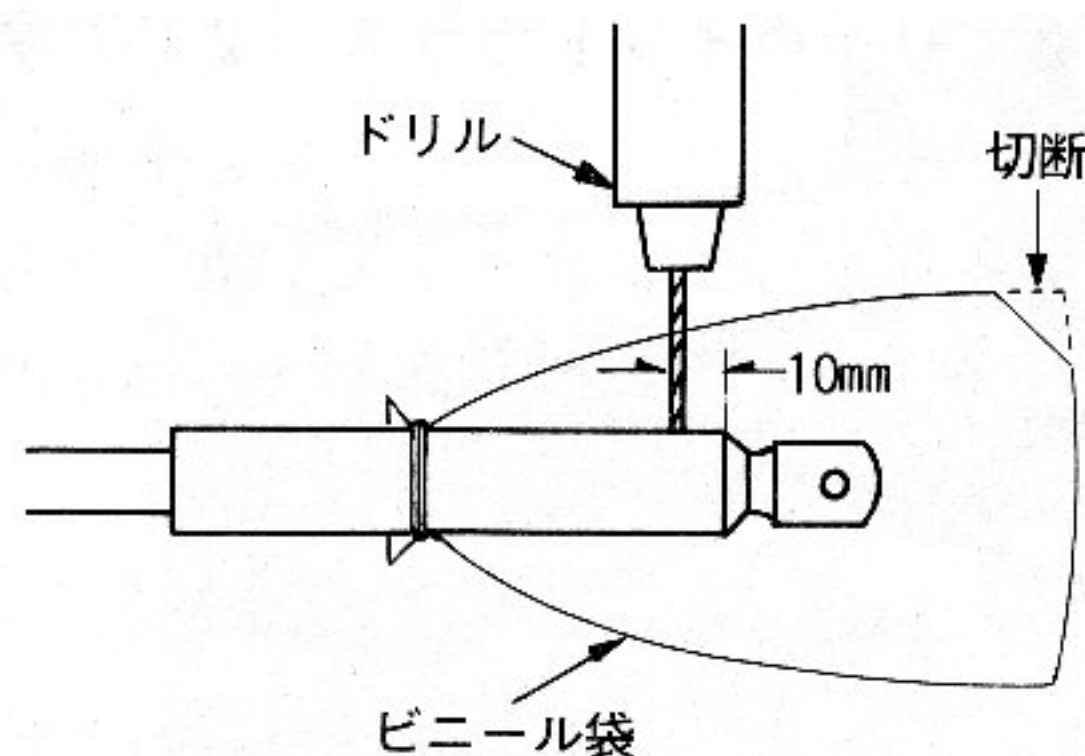
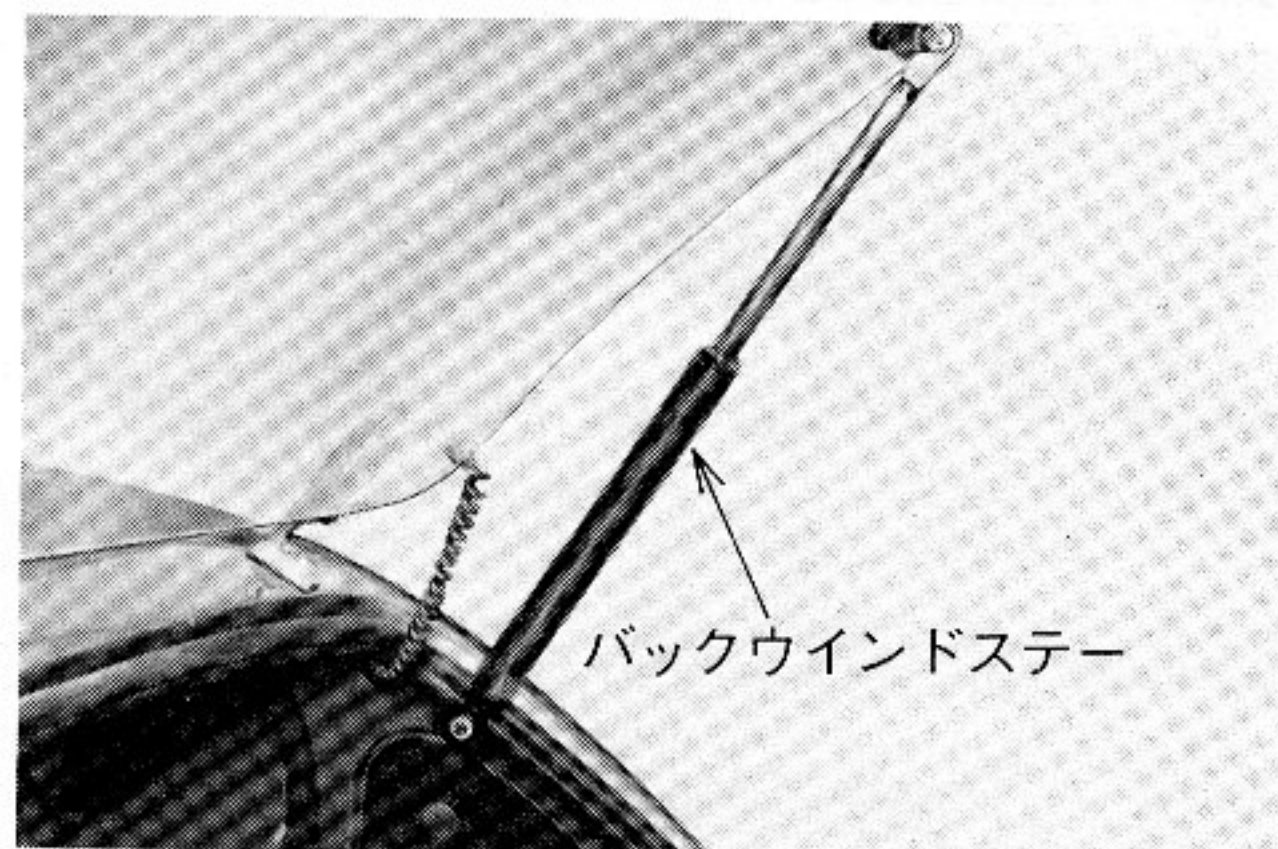
◆ バックウインド(スーパーデラックス, デラックス, カスタム・GTtype II仕様)

キーを差し込み右に90度回せば開きます。

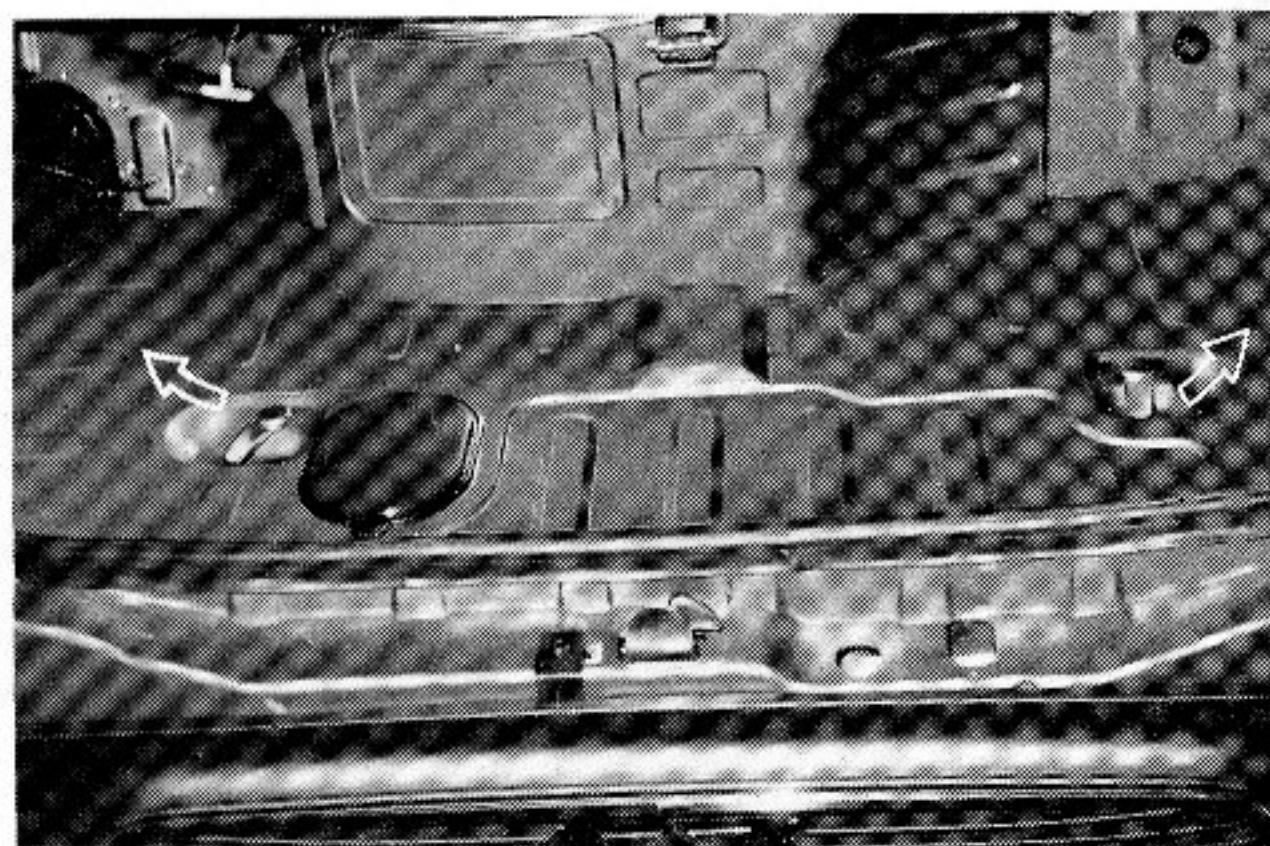
閉じるときは静かに下し、ハンドルの部分を押えてロックしてください。

- <注>
- バックウインドを閉じるとき静かに下してください。
 - バックウインドを閉じるときガラスの部分を押えないでください。

バックウインドステーは内部に高圧ガスを封入してあるので廃却する場合は、ビニール袋をかぶせてその上から2～3mmのドリルで穴をあけてガスを抜いてください。



- <注>
- ① ビニール袋の底には前もって10～15mmの穴をあけてください。
 - ② ビニール袋を使わない場合には、穴から油や切粉が飛び出すことがありますので注意してください。

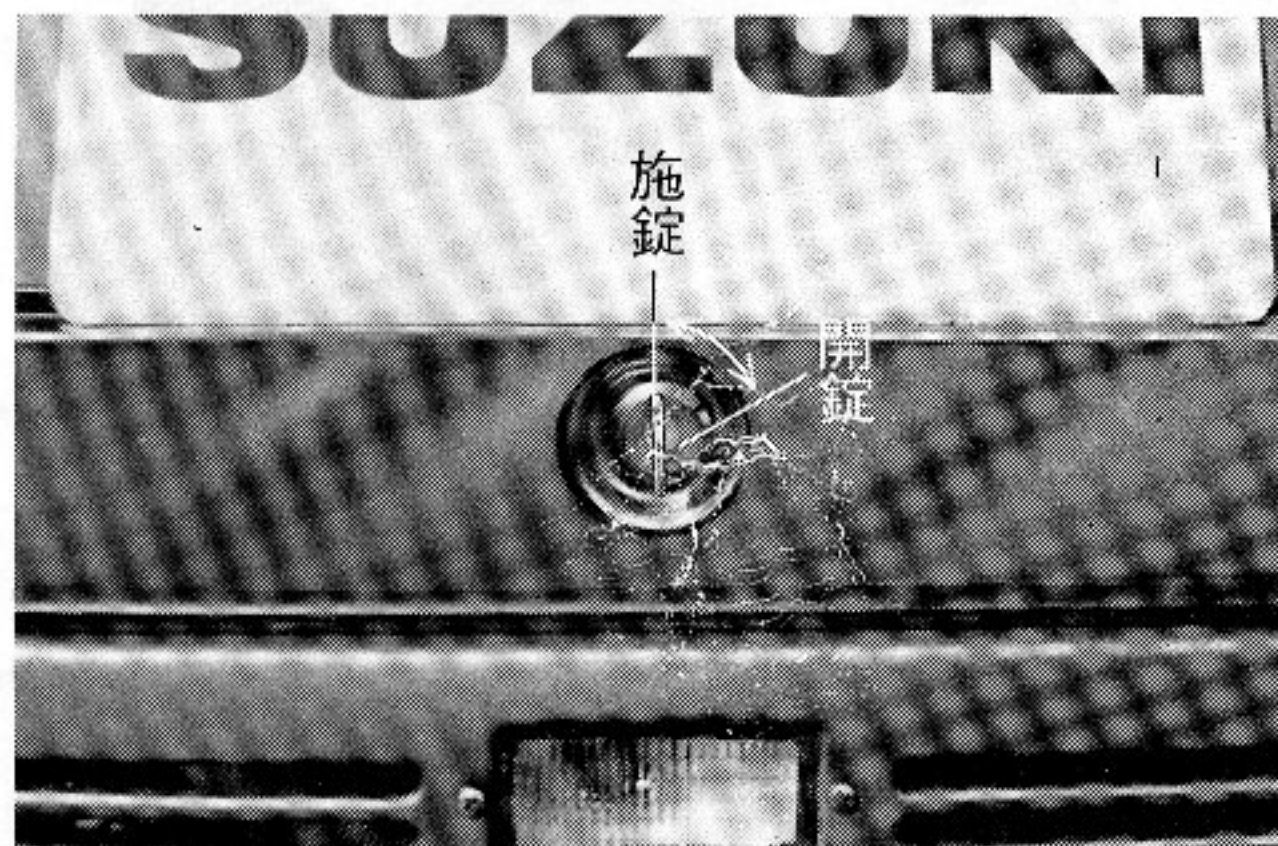


◆ フロントサービスリッド

フロントフードパネルを開けるとサービスリッドがあります。

2個のレバーを内側に回すとサービスリッドが外れます。

取付はこの逆です。



◆ リヤリッドパネルの開閉

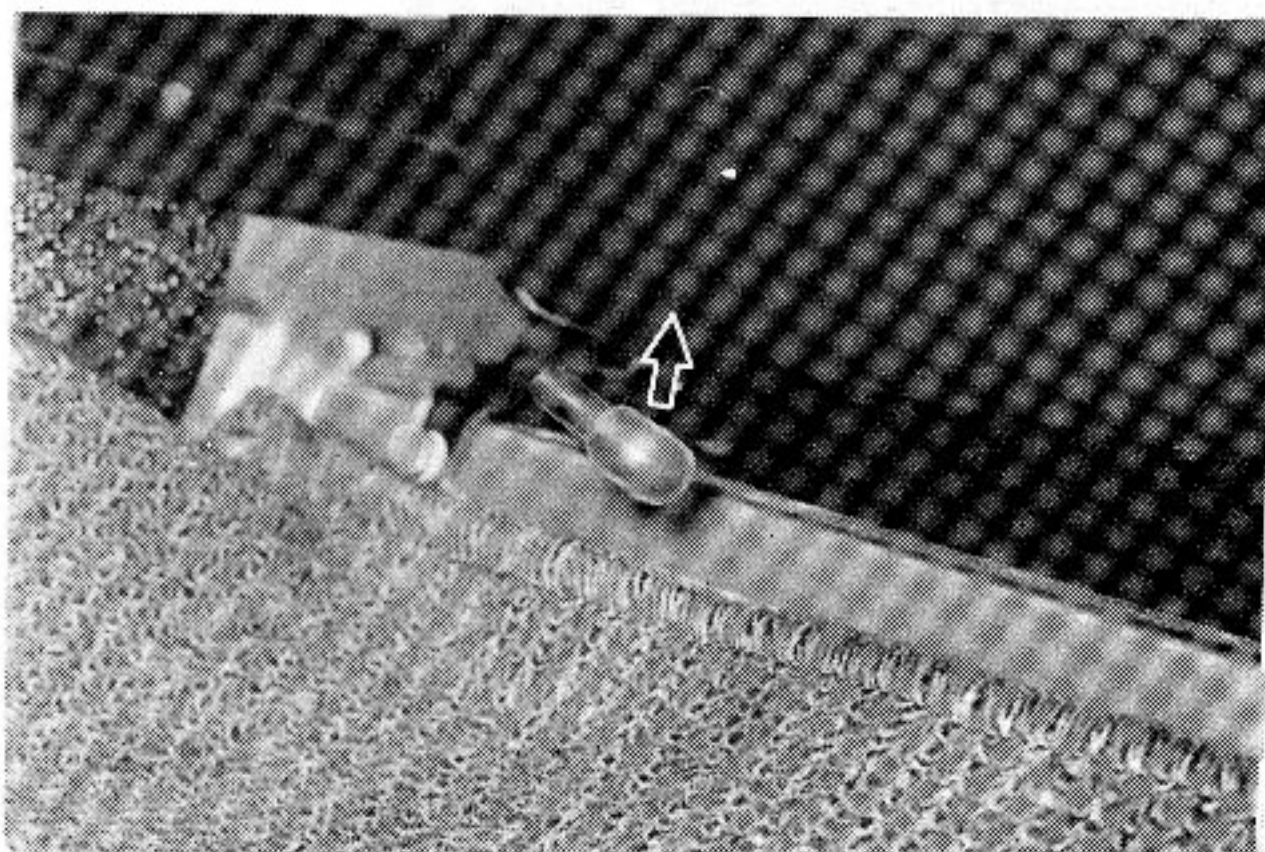
キーを差し込み右に回すとリヤリッドロックが外れますので手前に引いてください。

閉める場合はこの逆です。



◆ リヤサービスリッド

リヤシートの後側にサービスリッドがあります。ボルト（4本）を外すとサービスリッドが外れ、エンジンの点検がしやすくなります。

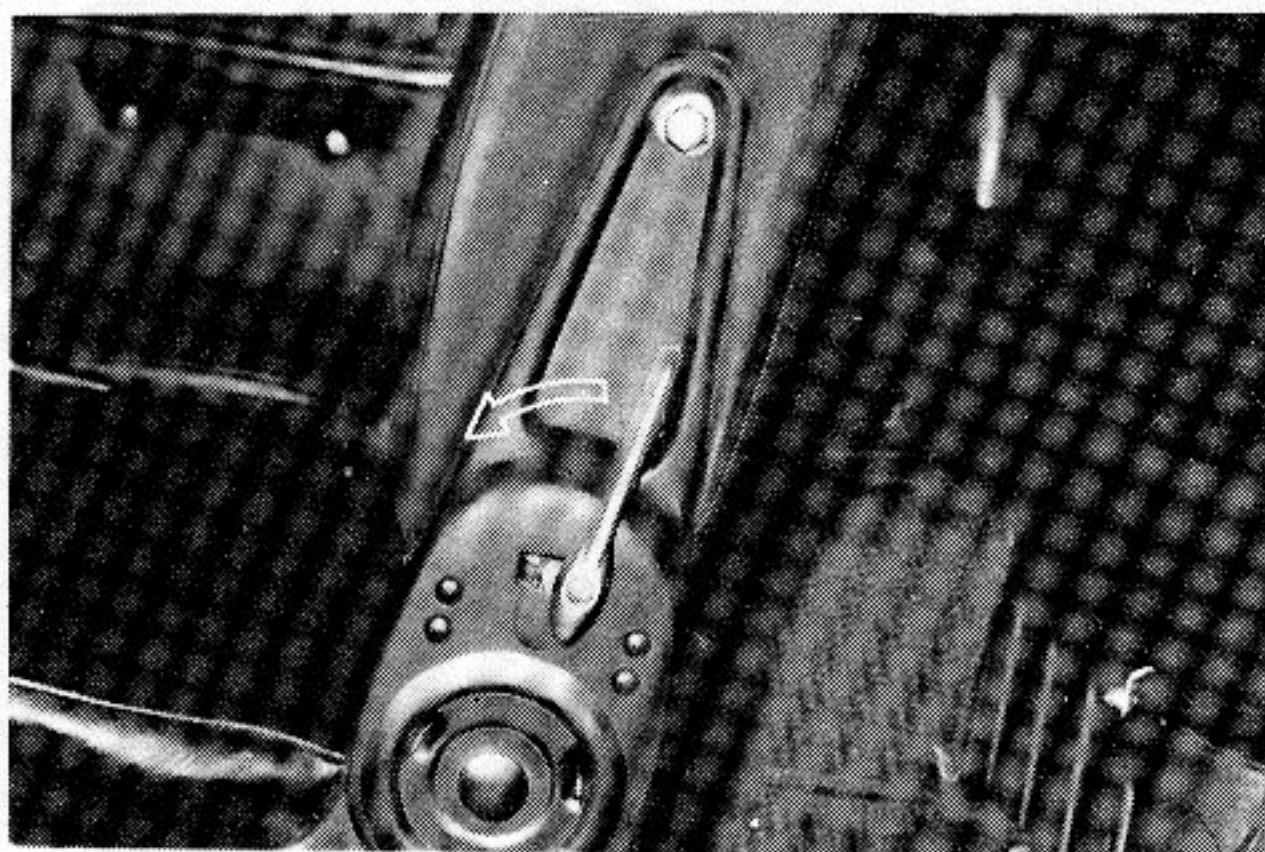


◆ フロントシート

シートの位置調節……シート下側のアジャストレバーを引き上げシートをスライドさせると、前後に80mm移動させることができます。

好みの位置でシートを止め、レバーを放してください。

(デラックス、スタンダード仕様車はドライバー側だけのシート位置調節ができます。)



◆ リクライニングシート

シートバックの角度を自由に調節できます。レバーを引いてシートバックを好みの角度に傾けてレバーを離せば、自動的にロックされ、その角度を保ちます。

リヤークシートの乗り降りの際は、レバーを引くとバックシートが自動的に前に倒れますので、この状態で行なってください。

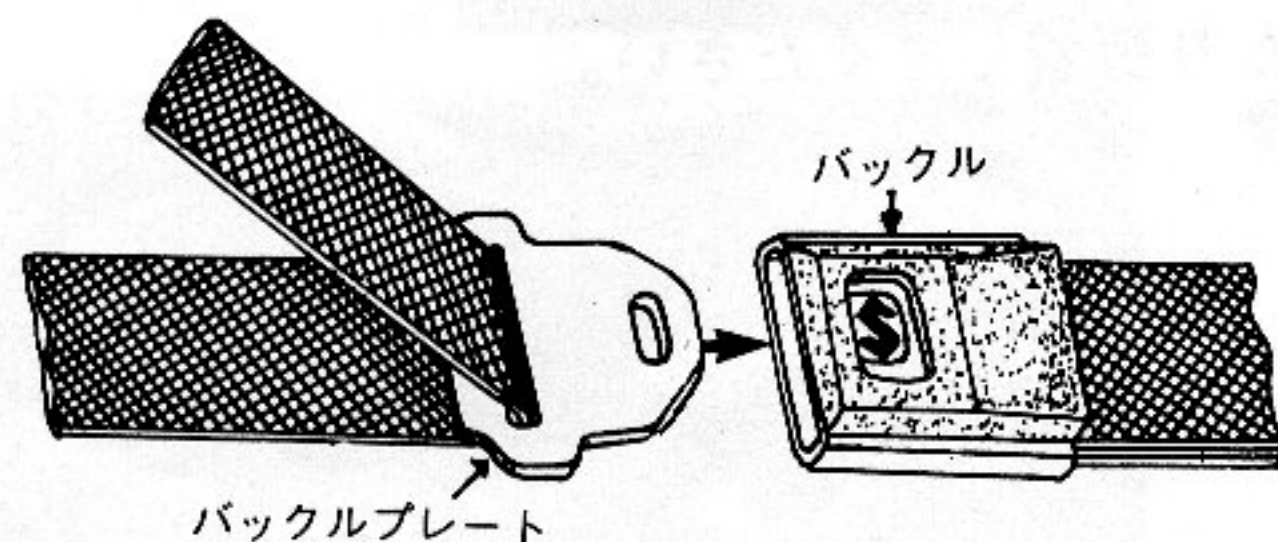
(スタンダード仕様はできません。)



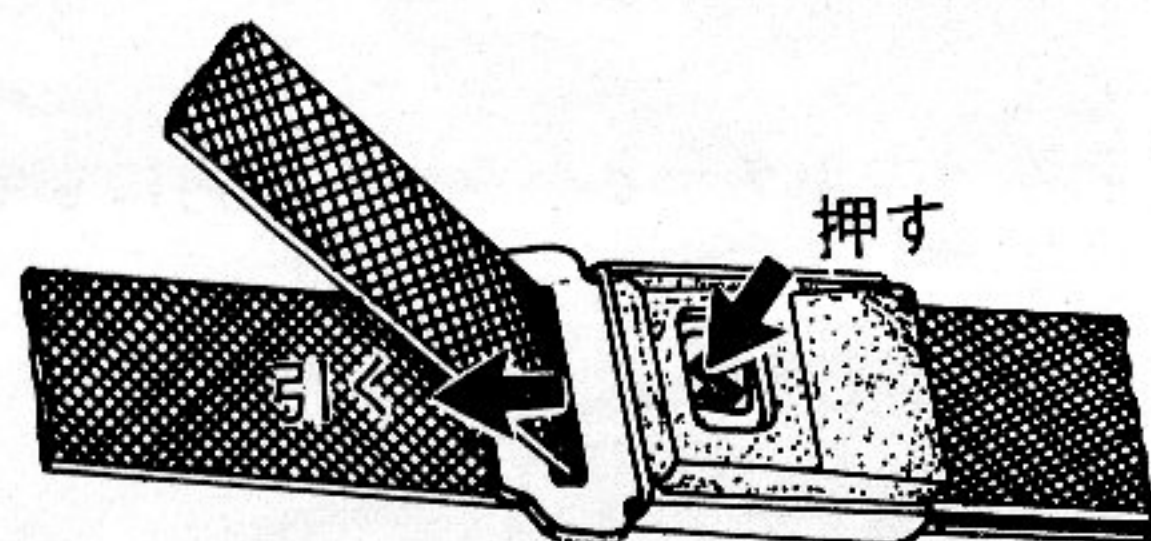
◆ シートベルト

フロント………フロントシートベルトは、ドライバー側、アシスタント側共に3点式のシートベルトが付いています。

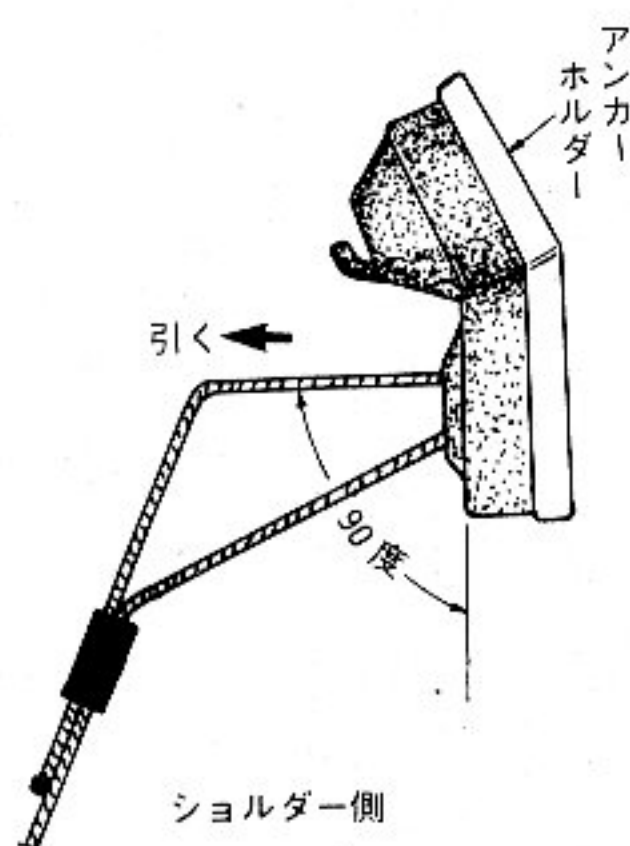
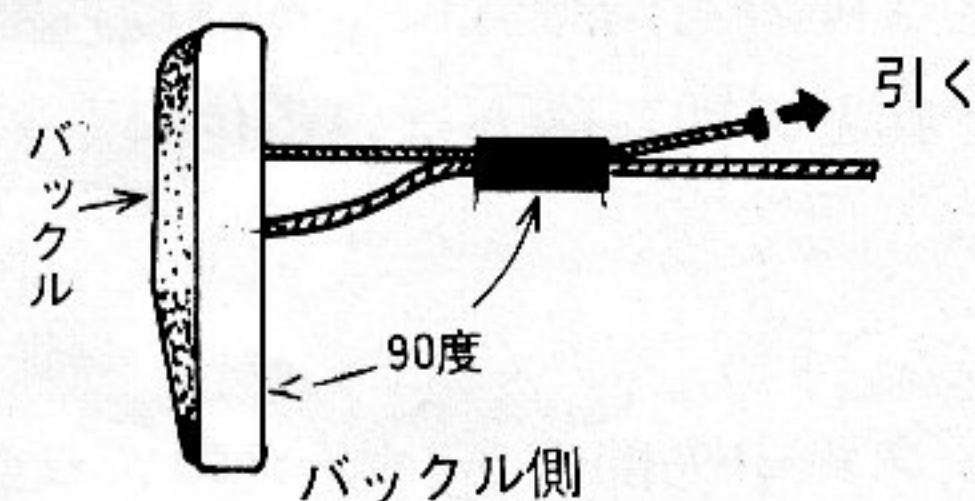
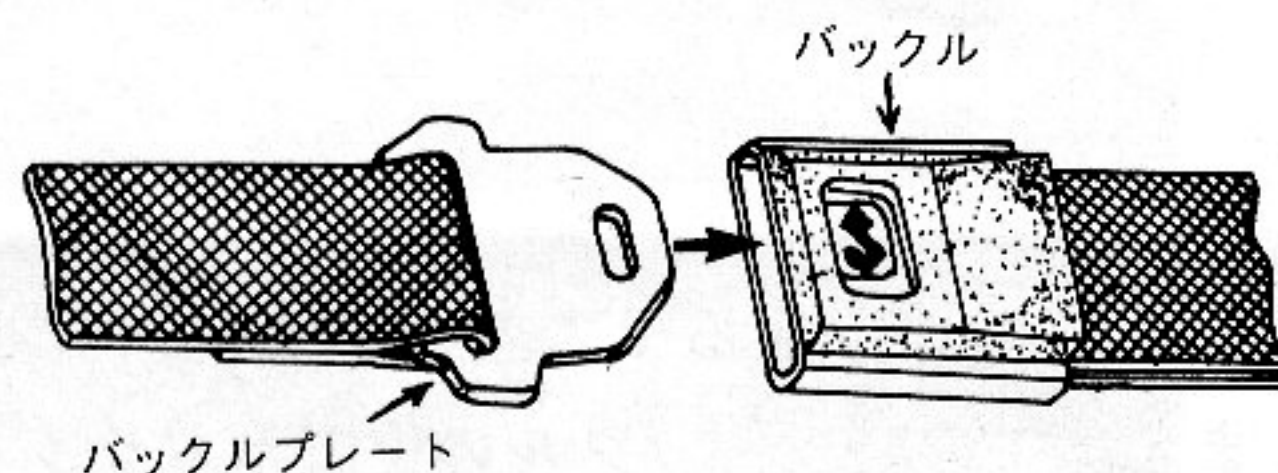
①シートの位置を運転しやすい位置に調整し、ベルトをあらかじめいっぱいにゆるめておくと同時に、ねじれていないことを確認します。



②バックルにバックルプレートを「カチッ」と音がするまで差込み、ベルトの長さが体に合うようにベルトを調整します。この時、バックルの位置がドライバー席は体の左側腰骨に、アシスタント席は体の右側腰骨にくる様に調整してください。またベルトの張りは肩ベルトと胸との間に拳がはいる位にしめます。



③シートベルトを取はずす場合は、バックル中央部の  マークのプッシュボタンを押し、バックルプレートを引き抜いてください。



リヤー … リヤーシートベルトは、左右に2点式のシートベルトが付いています。

①ベルトをバックル側からいっばいに引き出し、ねじれていないことを確認します。

②シートに正しい姿勢ですわり、バックルにバックルプレートを「カチッ」と音がするまで差込み、ベルトの長さが体に合うようにベルトを調整します。この時、シートベルトは腰骨にぴったり装着してください。

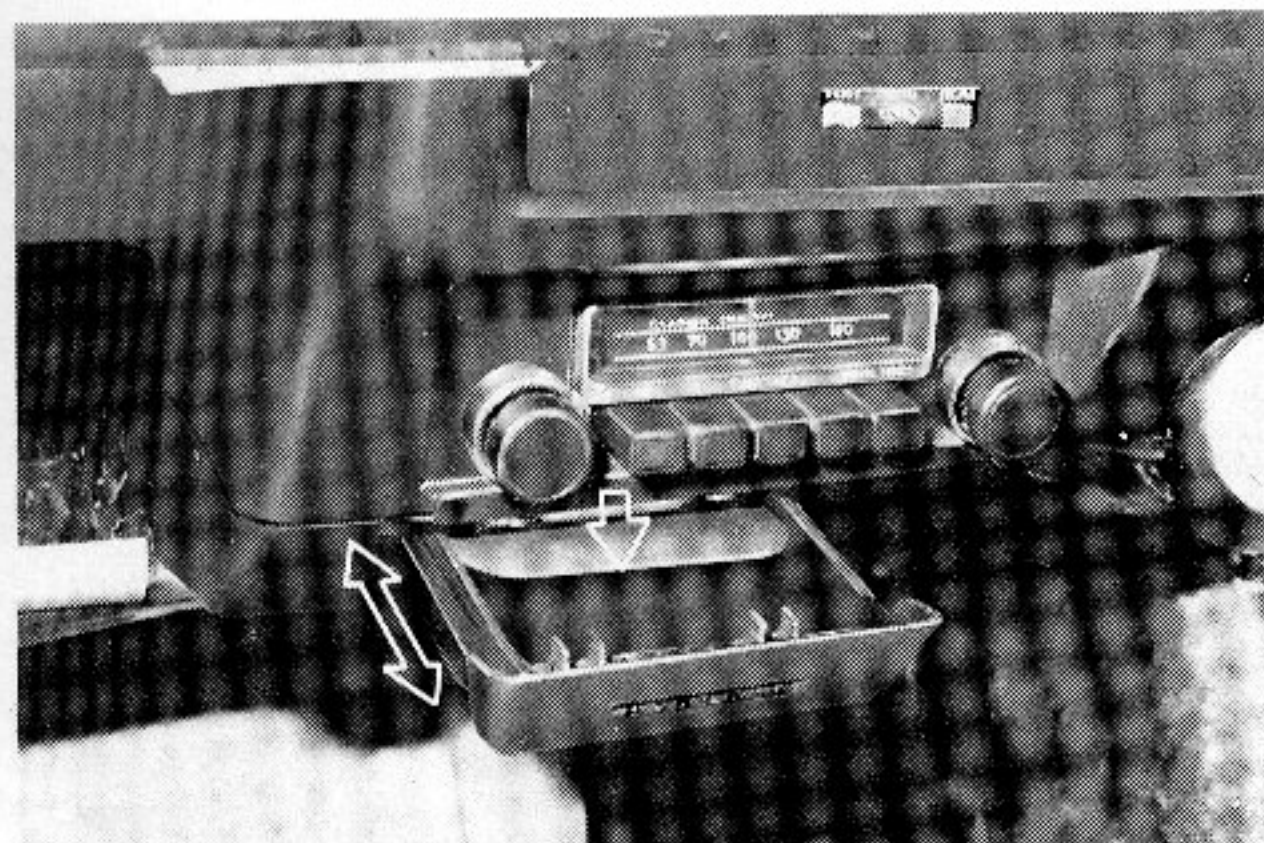
◆シートベルトの長さの調整方法

ベルトとバックルを直角にして、ベルトの端を引くと短くなり、反対にバックルを引くとベルトは長くなります。

ショルダー側はセンターピラー部のアンカーホルダーとベルトを直角にしてベルトの長さの調整をします。

〈注〉

- シートベルトは車を運転する前に必ず装着してください。
- 1つのシートベルトを2人以上で使用しないでください。
- ショルダーベルトが首にかかる様な小さいお子さまにはシートベルトの装着をさけてください。



◆ アッシュトレイ（前）

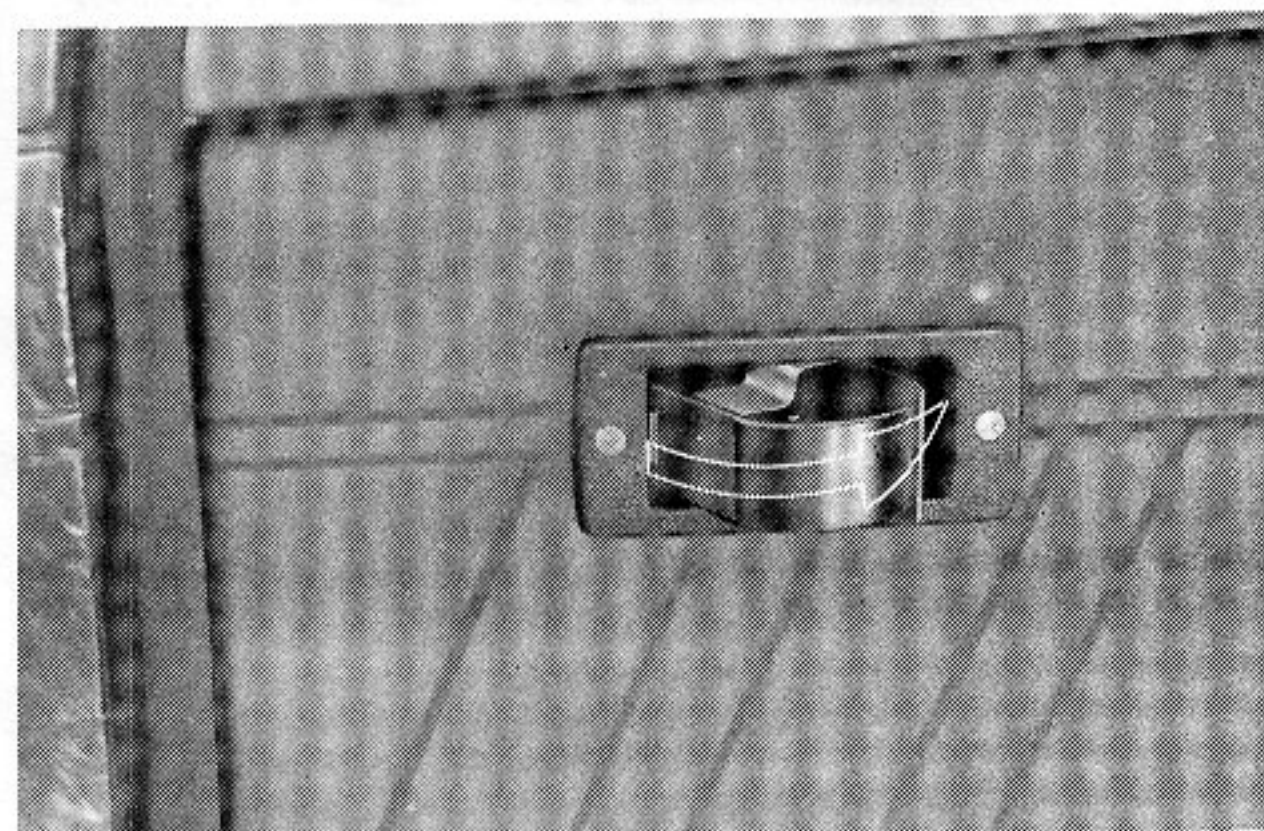
計器板中央下側に取付られています。使用する場合は引き出してお使いください。

清掃する場合はアッシュトレイ全体を下に押しながら引くと取外せます。

※ タバコを消した後は必ずアッシュトレイを完全に閉めてください。また、

アッシュトレイの中に紙や布切等の可燃物はいれしないでください。

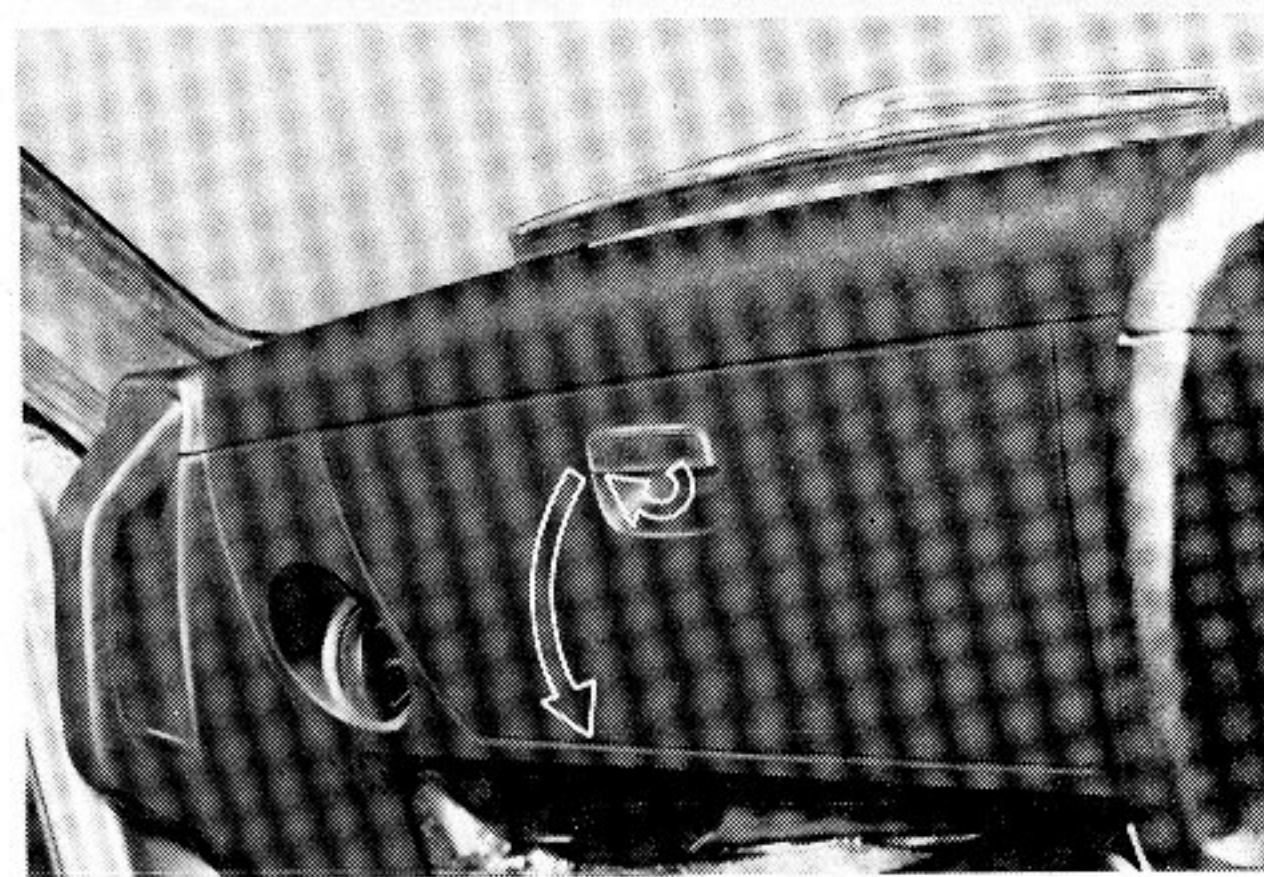
※ 車からはなれる場合は必ず、アッシュトレイが閉まっているか確認してください。



◆ アッシュトレイ（後）

後席のトリムボードにうめ込まれています。後端を押すと反転してでてきます。清掃する場合は中央部を押えて引き出してください。

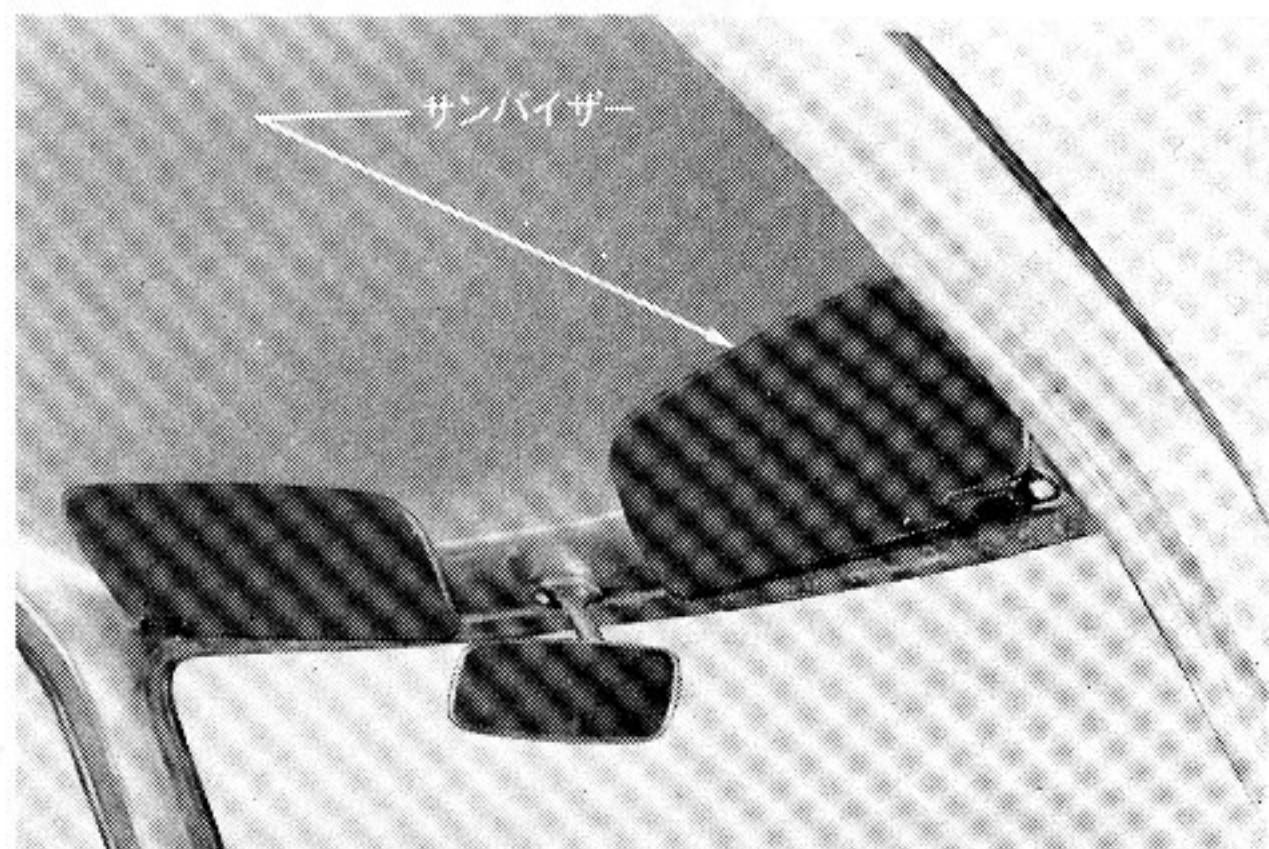
（デラックス、スタンダード仕様には付いていません。）



◆ グローボックス

ノブの内側にあるストッパーレバーを引くとロックが外れて手前に開きます。

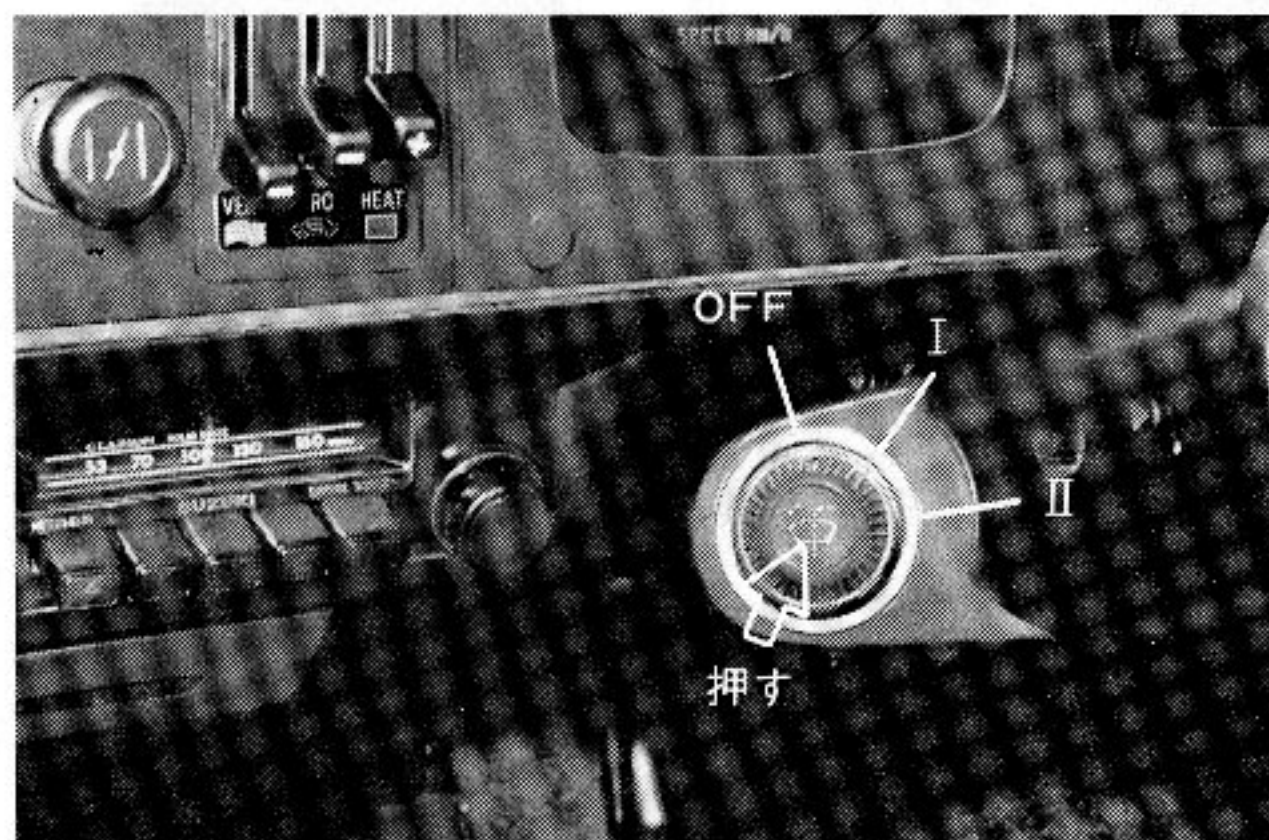
ボックスは、セーム皮、その他ドライブ用品や小物入れに利用してください。



◆ サンバイザー

太陽光線のまぶしさを防ぎます。

太陽に向かって走るときは、サンバイザーを手前に引きおろしてください。



◆ ウィンドウォッシャポンプ

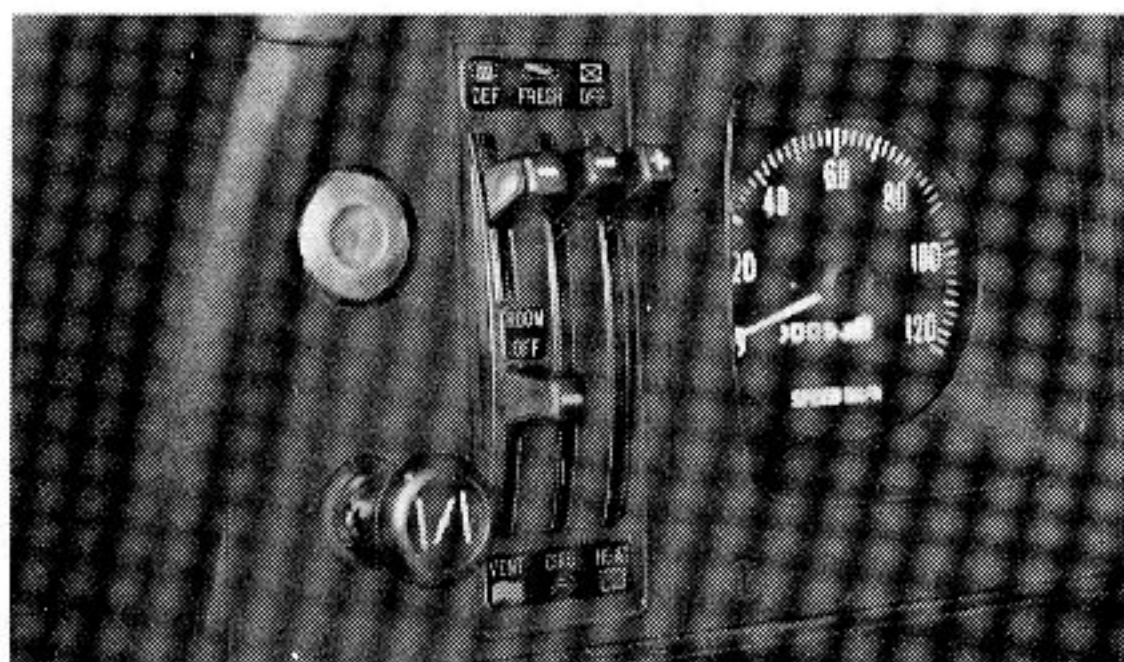
ゴムポンプを押すとフロントウインドにウォッシャ液が噴出します。ウォッシャ液の補充は、水道の水か市販のウォッシャ専用液をタンクに補充してください。

※ 寒冷地に於いて冬期はウォッシャ専用の不凍液を配合してお使いください。



◆ サイドベンチレーター（スタンダード仕様を除く）

風向はベンチレータを回転させて調整します。ベンチレーターからの風が不要の時はベンチレータを回転させて閉じます。



◆ カーヒーター

ヒーターは次のような機能をもっています。

- ヒーター（暖房用）として………
- デフロスタ（フロントウインドの曇りどめ）として………
- ベンチレーション（換気用）として………

DEF↔ROOM切替レバー

温風、外気を窓側に送るか足元に送るかの切替えるレバーです。

DEF ……窓側に送風

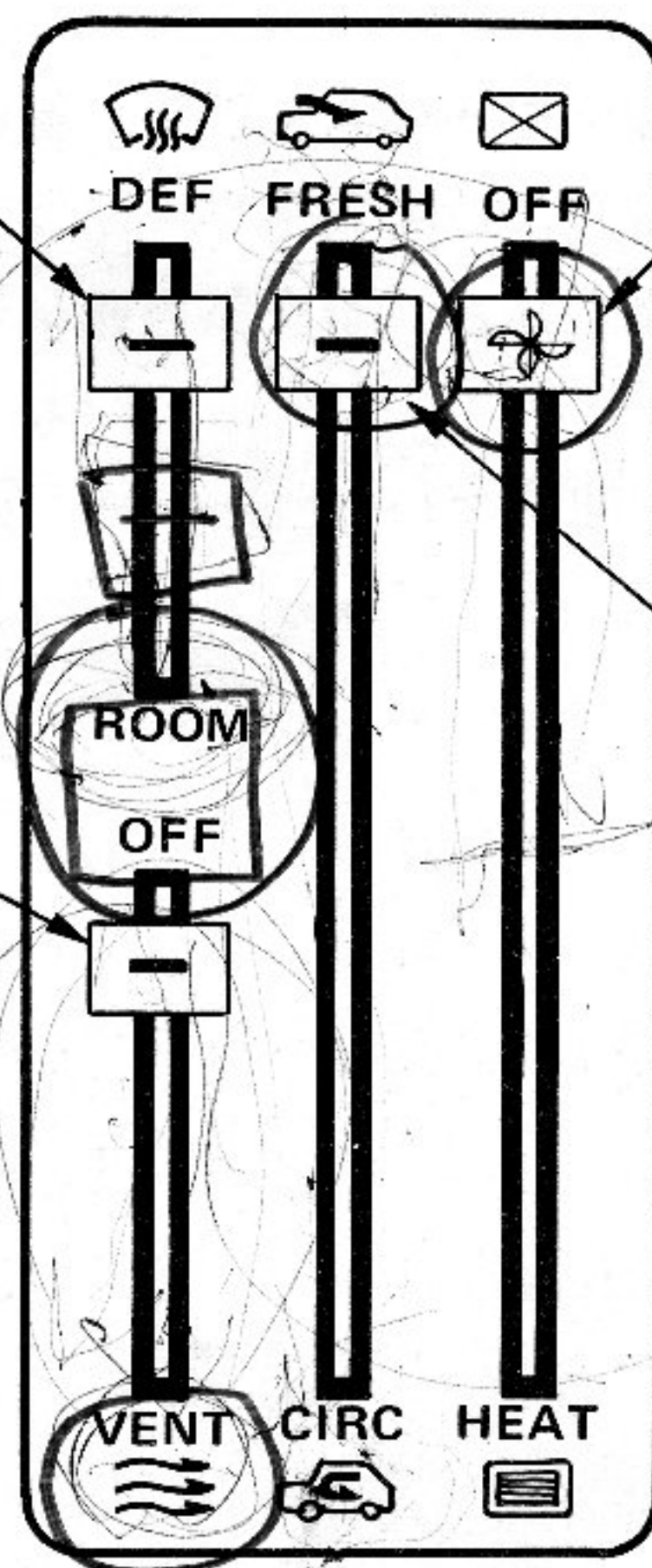
ROOM ……足元に送風

OFF↔VENT切替レバー

ベンチレーションの切替レバーです。

OFF ……外気が入って来ません。

VENT ……新鮮な空気が流れ入ります。



ヒーターON↔OFFレバー&ヒーターファンスイッチ

●HEATの位置にするとヒーターがききます。

●HEATの位置でノブを引上げるとファンが回ります。

1段 ……弱い温風

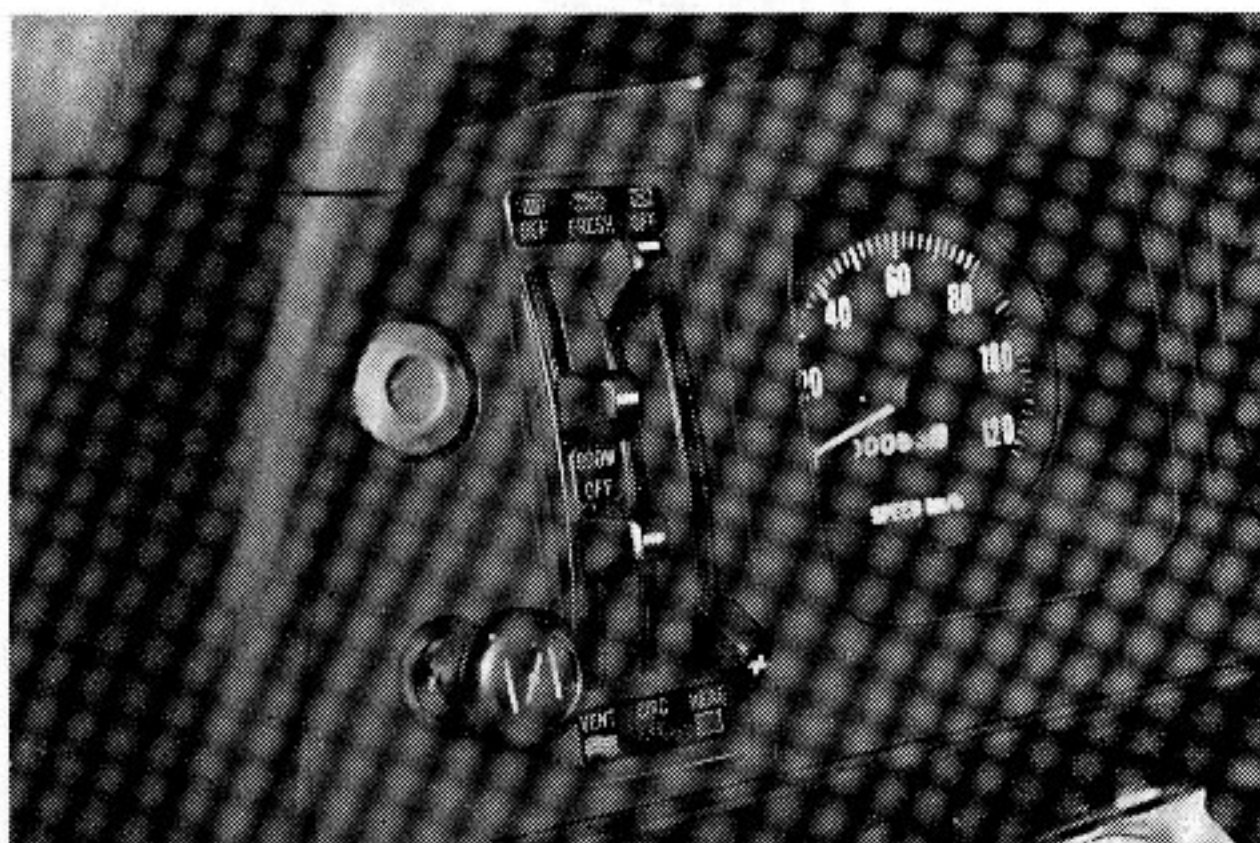
2段 ……強い温風

FRESH↔CIRC切替レバー

外気導入と内気循環の切替レバーです。

FRESH ……外気導入(外気を暖めて室内に送ります。)

CIRC ……内気循環(室内の空気を循環させて暖めます。)



(1) 車内を暖める操作

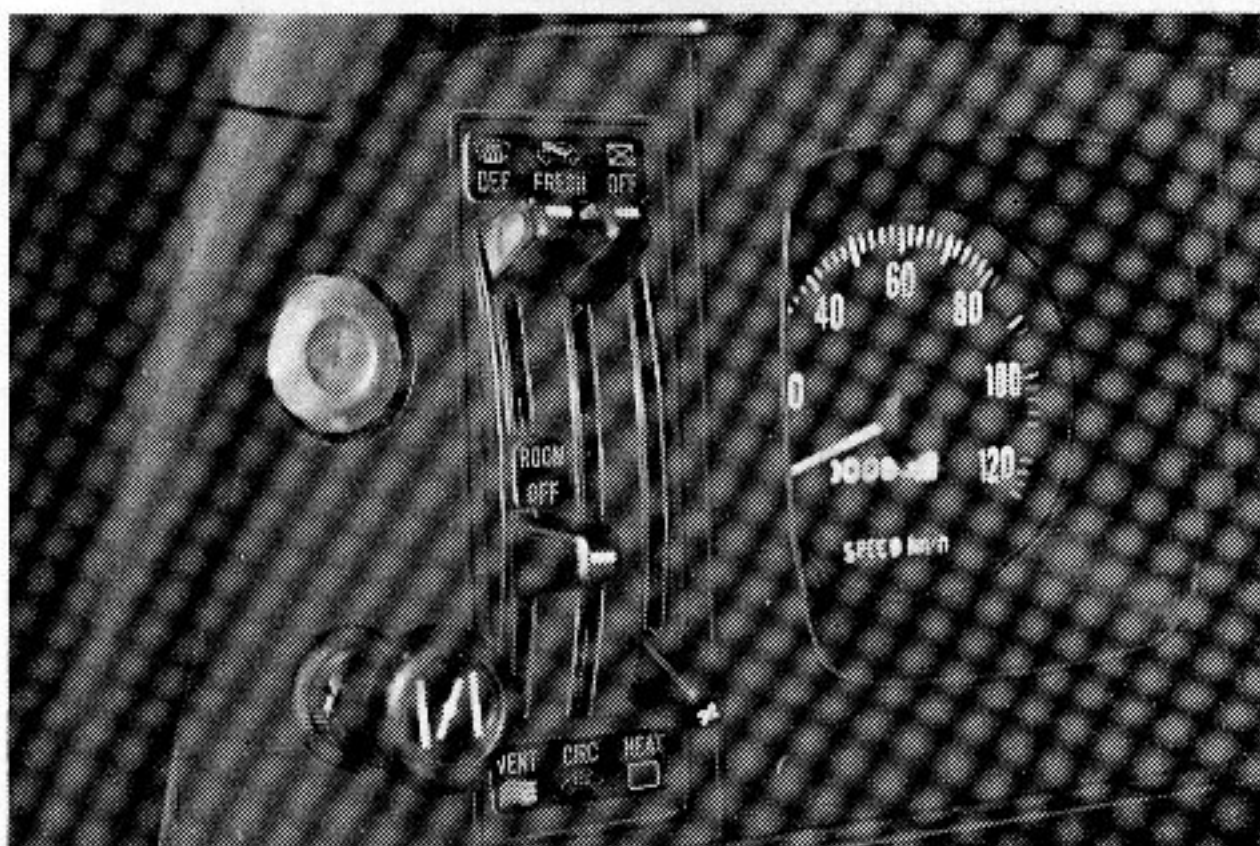
OFF ↔ HEATレバーをHEATにする。

CIRC ↔ FRESHレバーをFRESHにする。

ROOM ↔ DEFレバーをROOMにする。

ヒーターファンスイッチ  (引く)は強、弱好みの位置にセットしてください。

※ CIRC ↔ FRES レバーをCIRCにすると、短時間で室内の暖房が出来ます。

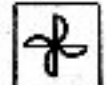


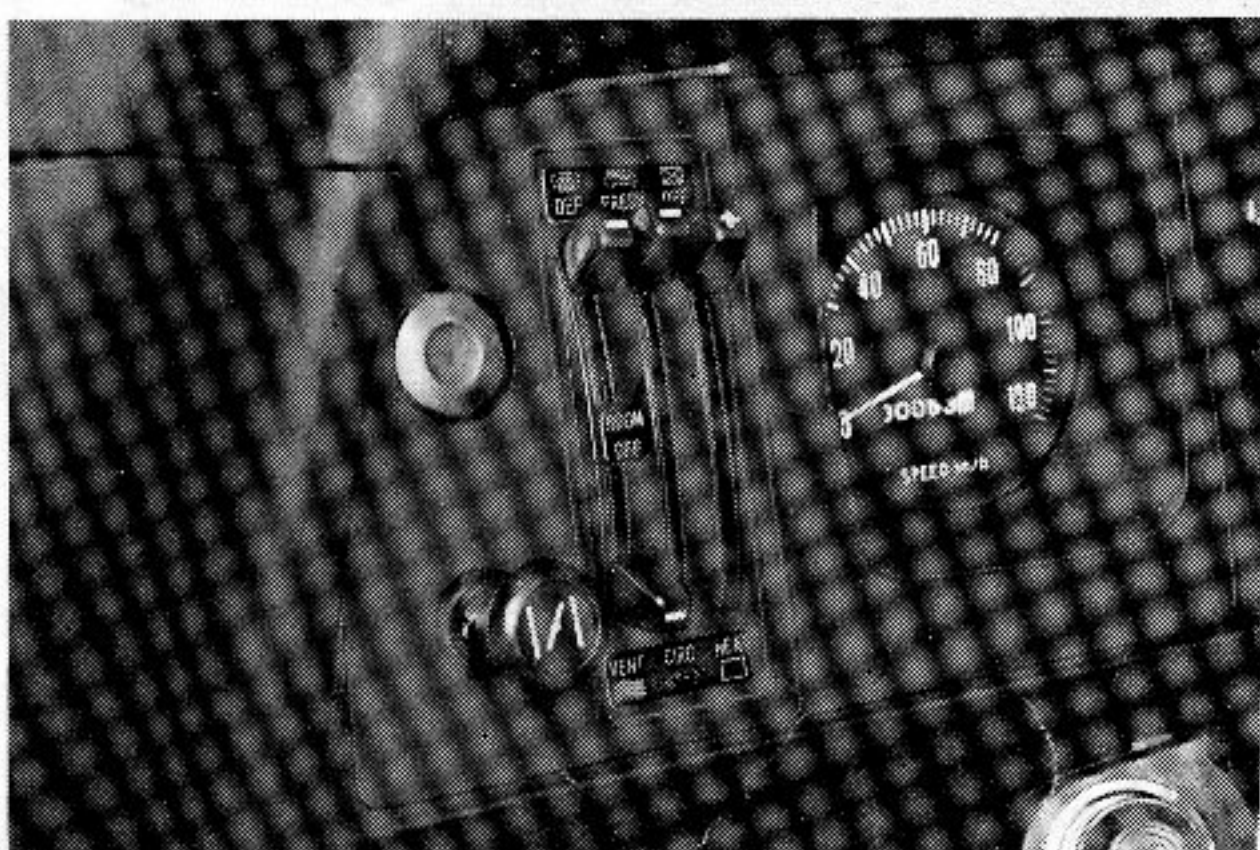
(2) 冬期フロントウインドの曇り止めをする操作

OFF ↔ HEATレバーをHEATにする。

CIRC ↔ FRESHレバーをFRESHにする。

ROOM ↔ DEFレバーをDEFにする。

(ヒーターファンスイッチ  を引けば早く曇りがとれます。)



(3) 夏期フロントウインドの曇り止めをする操作

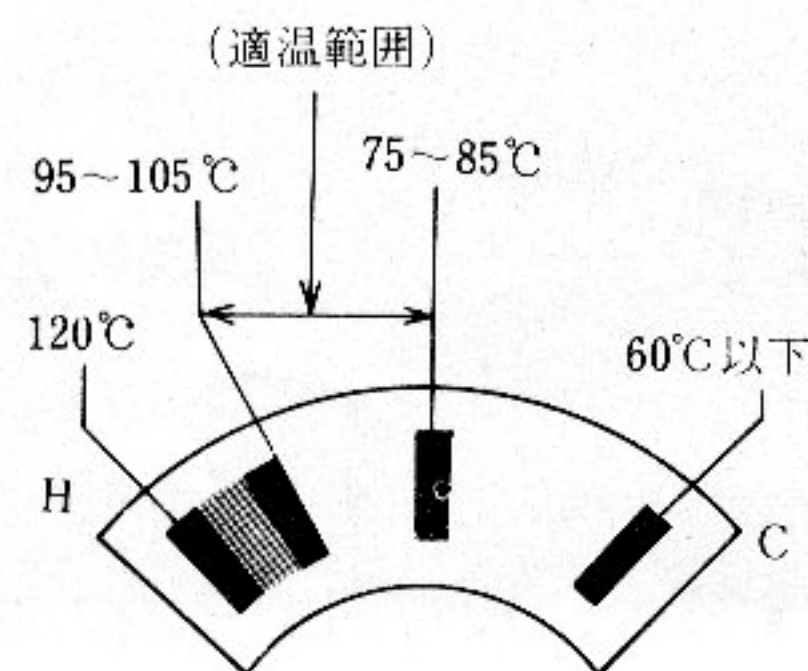
CIRC ↔ FRESHレバーをFRESHにする。

OFF ↔ HEATレバーをOFFにする。

OFF ↔ VENTレバーをVENTにする。

ROOM ↔ DEFレバーをDEFにする。

(サイドベンチレーターも使用すると一層効果があります。)



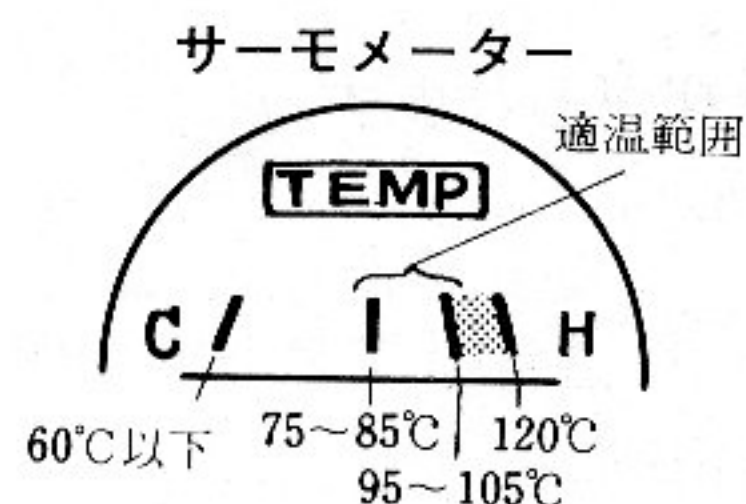
(スーパーデラックス、デラックス、スタンダード仕様車)

<注>(1) OFF↔HEATレバーをOFFに戻す時、FRESH↔CIRCレバーもFRESHに連動して戻るようになっています。

(2) 冬期の始動時ヒーターを作動させると暖機時間が長くなりますので、サーモメータの指針がC点に上るまで、OFF↔HEATレバーは必ずOFFの位置にしておいてください。

(3) FRESH↔CIRCレバーをCIRCの位置にして走行中、サーモメータの指針が適温範囲を超えてH側を指すようでしたらただちにレバーをFRESHに戻してください。

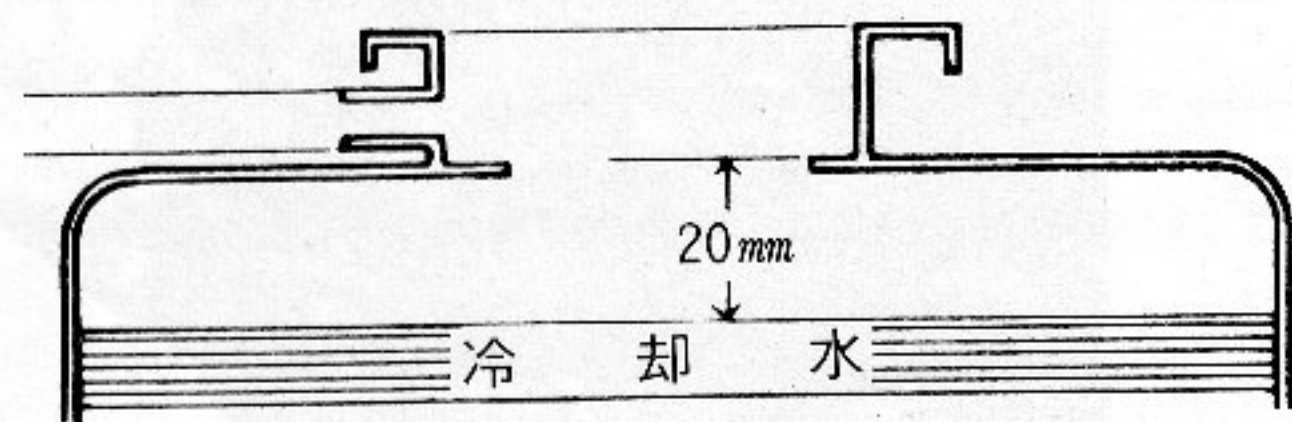
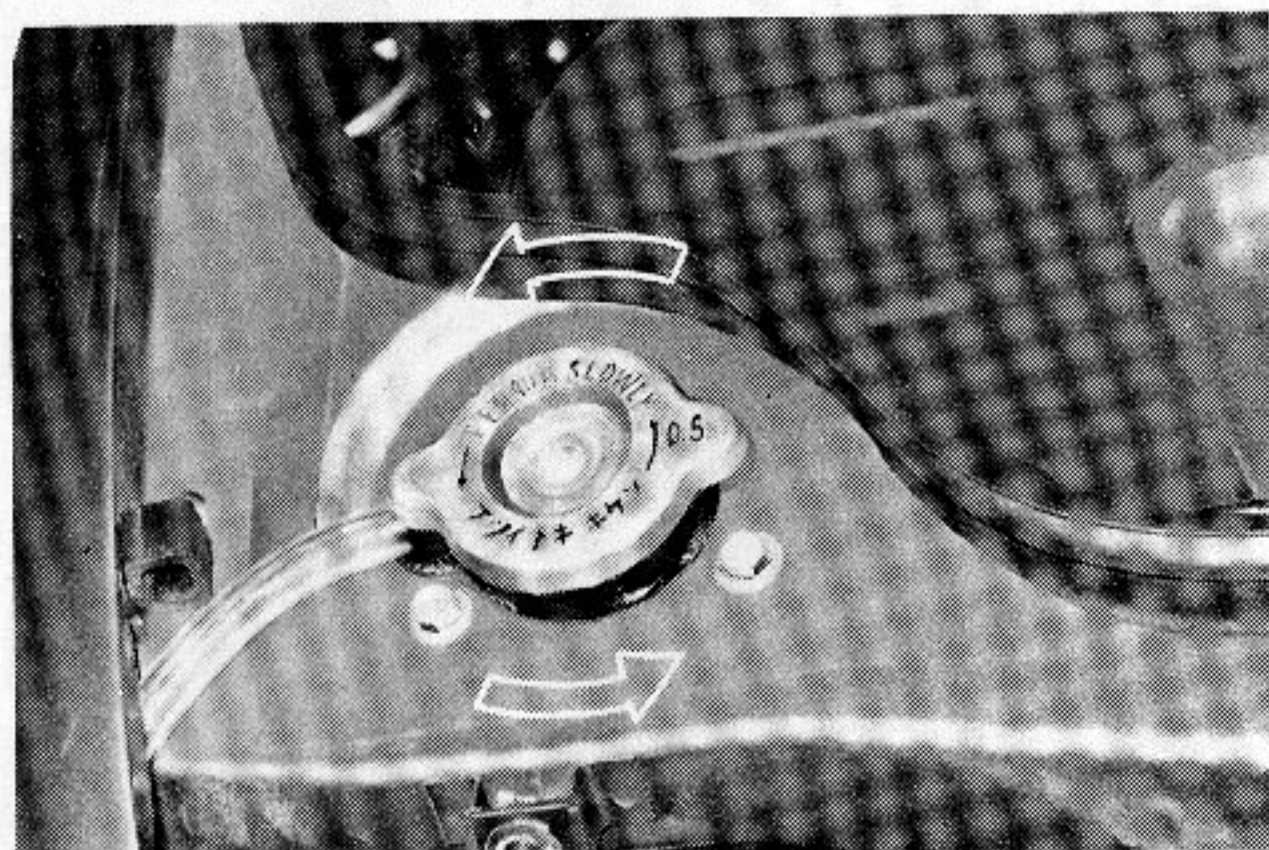
尚、レバーをFRESHにしてしばらくしてもサーモメータの指針が適温範囲に戻らない場合はオーバーヒートと考えられますので、ただちに走行を停止して77頁の処置をしてください。



(カスタム、GTtypeII 仕様車)

走行準備と走行

給油・給水のしかた



◆ 冷却水

○注入……フロントフードパネルを開けると注入口があります。

ラジエータキャップを矢印の方向にひねって取外し、冷却水を注入します。

＜注＞ 1. ラジエータキャップを取るときは、一度に外すと沸とうした冷却水が噴出して焼けどをすることがあるので引っかかる位置で回転を止め蒸気を逃した後、更にひねって取り外してください。

2. 冷却水の注入はゆっくり行なってください。

3. 冷却水注入後エンジンを数分回転させて、冷却水の量を再確認してください。

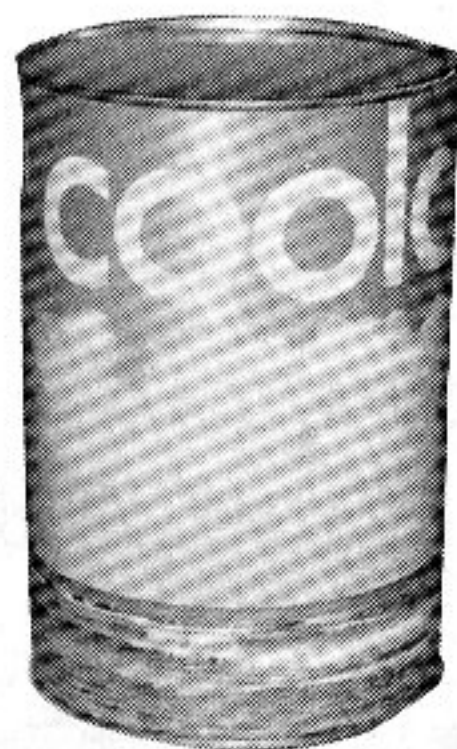
4. 井戸水や河川の水は使用しないで下さい。

○排出……ラジエータ下部より出ているホースにドレンコックが付いています。ドレンコックをゆるめて冷却水を排出します。

※ 1. 冷却水を排出した後は、清浄な水でサビや水あかを洗い流してください。

○補充……冷却水の水面が注入口より20mm以上下ったら口元まで一杯入れてください。

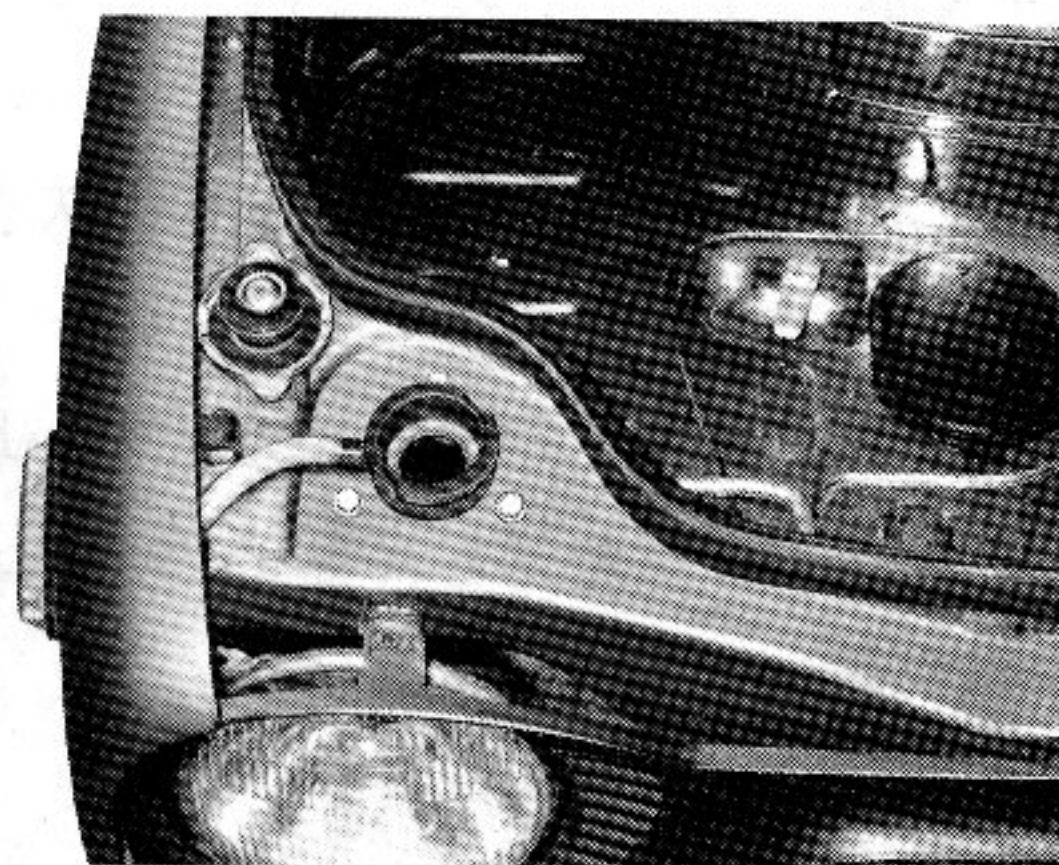
自然蒸発による場合は、水だけを補充しますが、減量が著しい場合や頻繁に補充が必要なときは、水洩れなどが考えられますので、お買求め販売店またはスズキ代理店で点検を受けてください。



(スズキクーラント使用量)

ラジエータ容量 5.4ℓ

凍結温度	-16℃	-20	-25	-30	-36	-44
スズキクーラント 使用量	1.8ℓ	2.2	2.5	2.8	3.1	3.5
濃度	30%	35	40	45	50	55



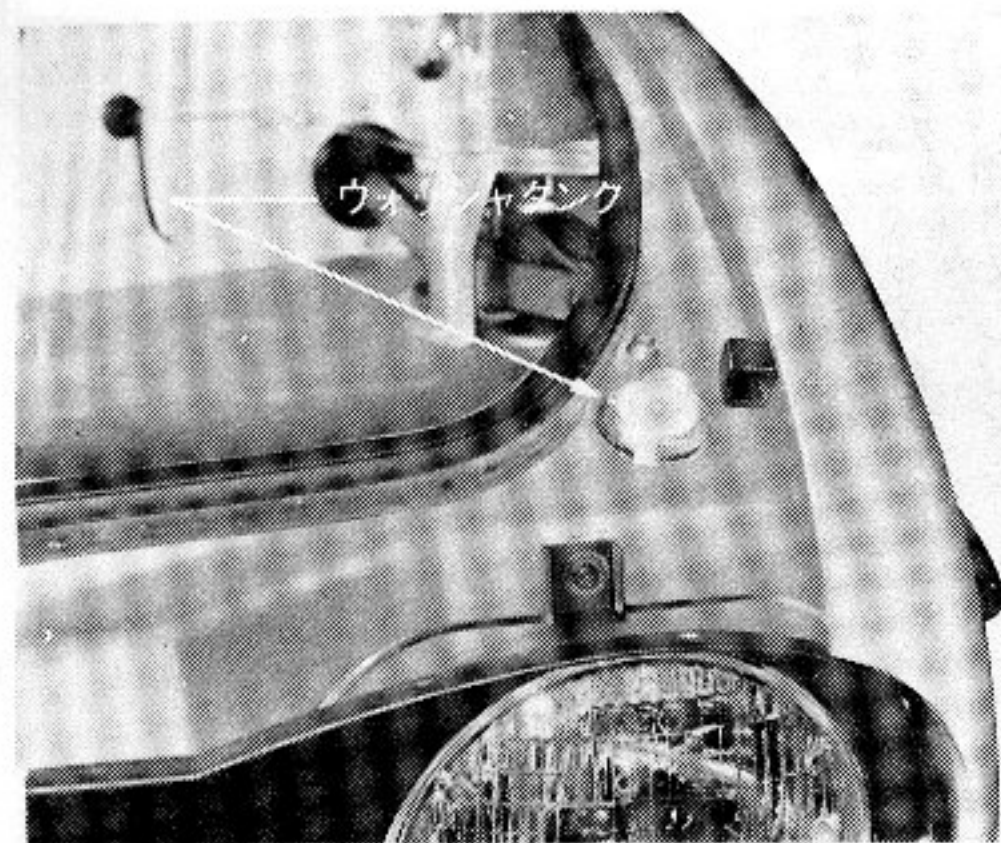
◆不凍液の注入

冬期に入る前に不凍液「スズキクーラント」を入れて下さい。

スズキクーラントの混入量が各地の最低気温に合った濃度になっているか、お買い上げの販売店又はスズキ代理店で確認して下さい。

《注意》

1. スズキクーラントは2年間有効です。期間が過ぎた場合は、完全に抜き取って、交換して下さい。
2. スズキクーラントは不凍液としてだけでなく、防泡、防錆、防蝕やウォーターポンプの潤滑などの働きがありますので濃度30%以上にして下さい。
3. スズキクーラントを混入した冷却水は緑色をしています。茶色や黒く濁って来た場合には交換して下さい。尚防錆剤の入っている車の冷却水は、黄かっ色をしています。冬期に入る前にスズキクーラントと入れ換えて下さい。
4. ご愛用車のシリンダーヘッドはアルミ軽合金を使用している為、粗悪なクーラントを使用するとシリンダーヘッドを腐蝕させ思わぬトラブルの原因となりますので、必ず「スズキクーラント」をご使用下さい。スズキクーラントは化学製品ですから、他銘柄のクーラントと混合使用しないで下さい。



◆ ウインドウォッシャー液

フロントフードパネルを開けると、タンクがあります。

フタを取って真水、またはウインドウォッシャー専用液を補充してください。

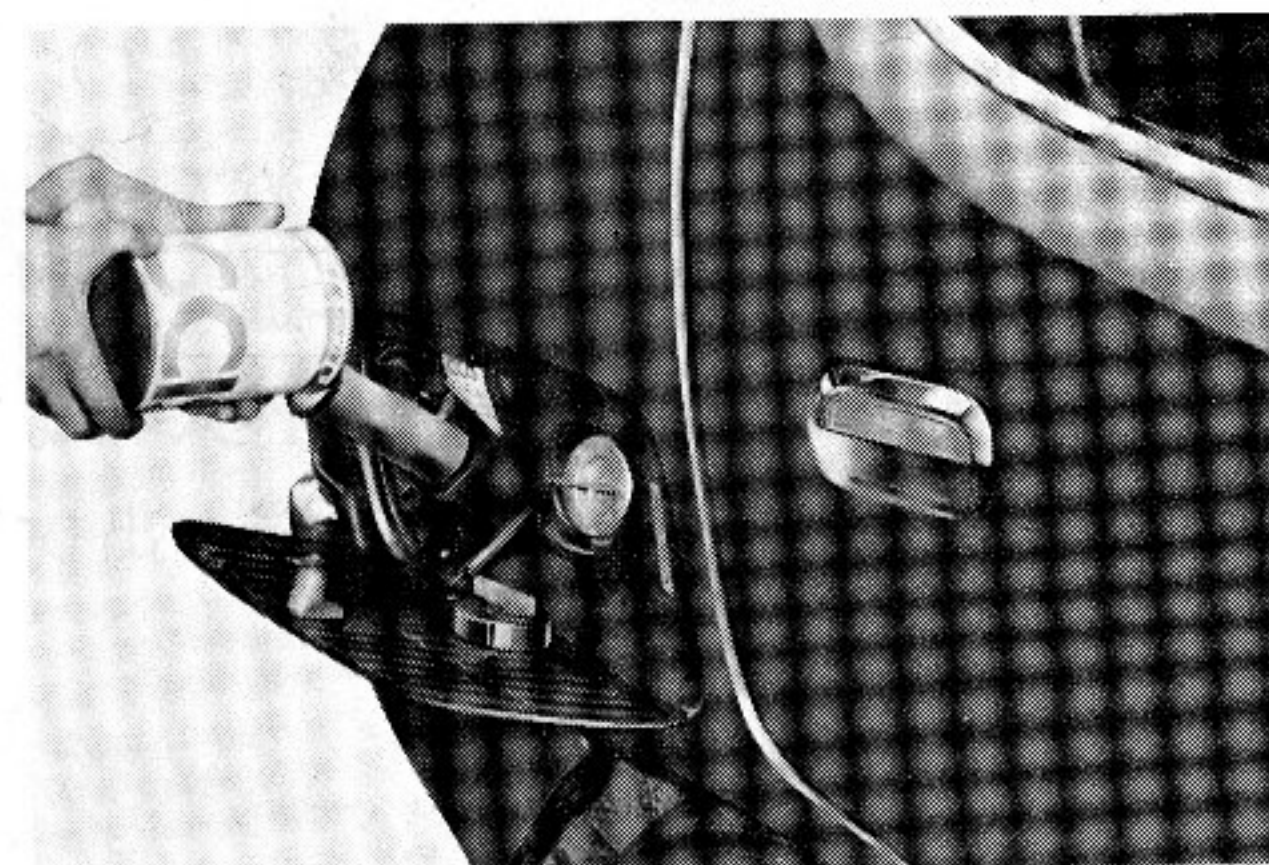
タンク容量	1ℓ
-------	----



◆ ガソリン

車体右側面にフューエルインレットリッドがあります。キーを差し込み右に回すと、ロックが外れますので、リッドを開けてタンクキャップを左にひねってとり、リッドのキャップ受けに入れ、**レギュラー(無鉛)ガソリン**を補給してください。

タンク容量	26ℓ
-------	-----

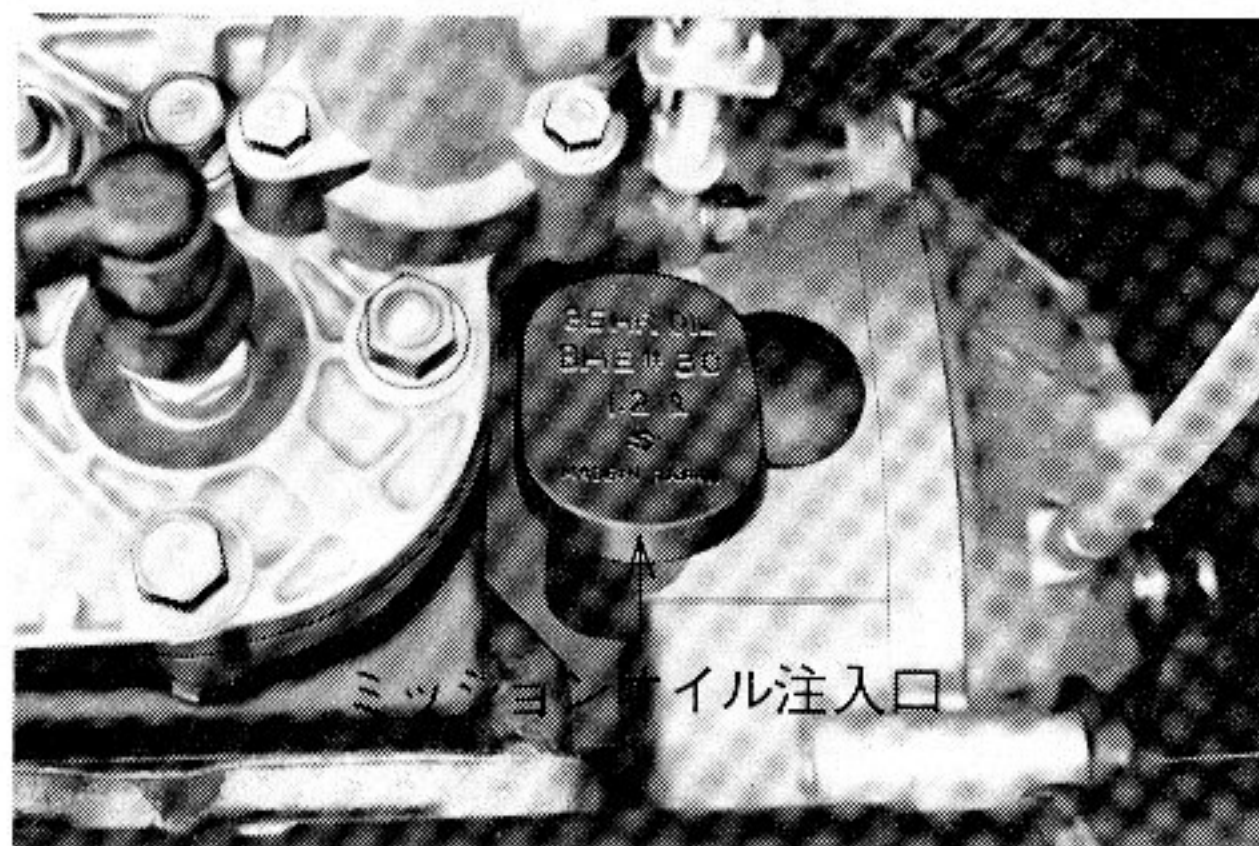


◆ CCISオイル (エンジンオイル)

ガソリン注入口の後側にCCISオイル注入口があります。キーを差し込み右に回すとリッドのロックがはずれるので手前に引いてください。

タンクキャップを左にひねってとり、リッドのキャップ受けに入れてください。注入する場合、フィルターを引き出し、「スズキCCISオイル」又は「スズキCCISスーパーオイル」を補給してください。

タンク容量	4.0ℓ
-------	------



◆ ミッションオイル

リヤリッドを開けると、エンジン部に給油口があります。ゴムキャップを外して給油してください。

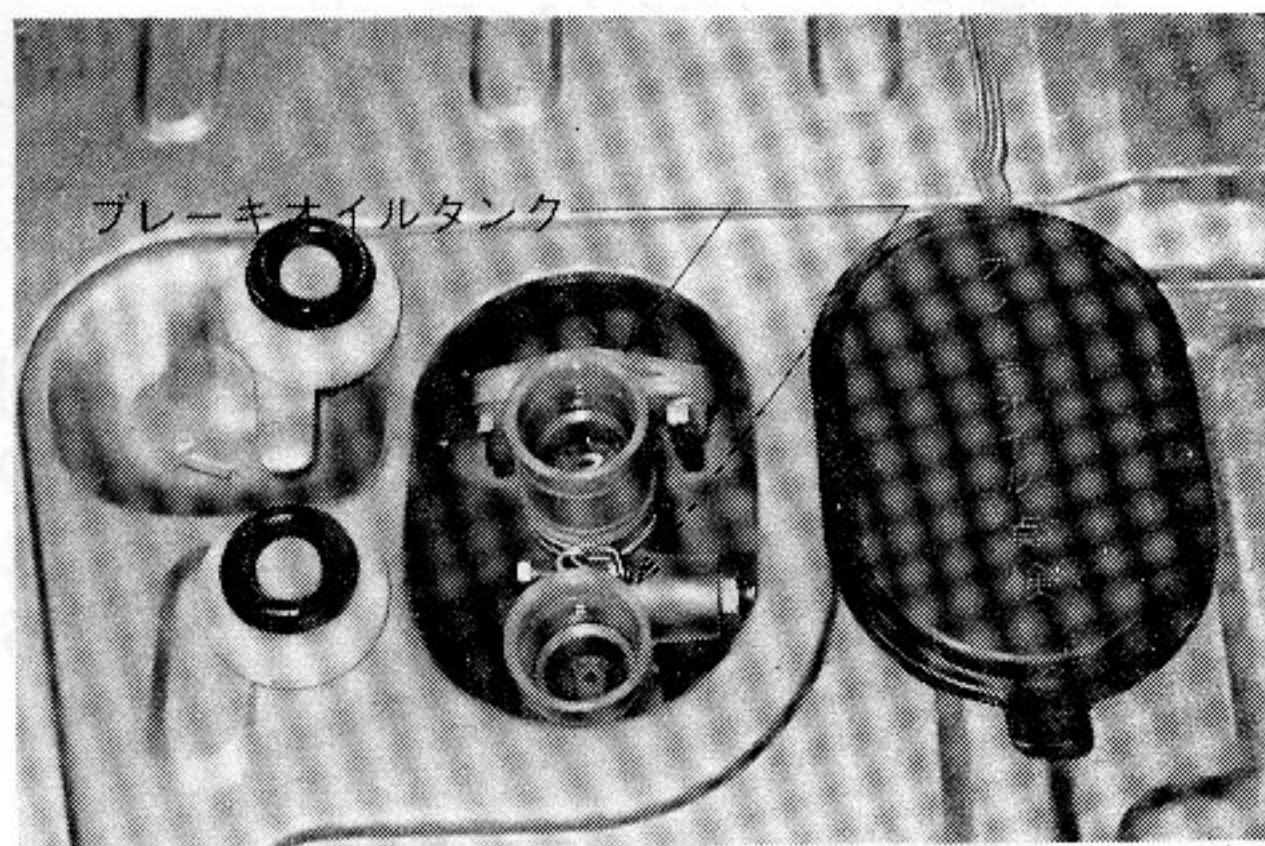
ミッションオイルは、最初の1か月目に交換して、その後は3か月ごとに補充、6か月ごとに交換するのが耐久性上適切です。

ミッションオイル容量	#90	1.2ℓ
------------	-----	------

3か月ごとの補充……アンダーカバーのサービスホールより見えるオイルレベルプラグを外し、この孔よりオイルが漏れ出るまでオイルを補充します。オイルレベルプラグを外すと最初3cc程流れ出ますがこれはレベルプラグの部分に留ったオイルですので、これで直ちにオイルが充分入っていると判断しないようにしてください。

6か月ごとの交換……ドレンプラグを取り去りオイルを完全に抜いた後、(オイルを抜くのは走行後エンジンが暖かい間に行なう) 再びドレンプラグをはめて、オイルレベルプラグよりオイルが出るまでオイルを給油します。 規定容量 1.2ℓ

＜注＞オイルを注入する場合は静かに除々に注入してください。急激に注入すると正確なオイルレベルがわかりません。またオイルレベルよりオイルが流れ出したらオイルが流れ出なくなるまで待つてプラグを締めてください。



◆ ブレーキオイル (スズキブレーキフルード)

フロントフードパネルを開け、トランクルーム左側にある「ブレーキオイル点検」のフタを開けると左側にブレーキオイルタンクがあります。キャップを取り外し油面がタンク上面より10mm 程の位置にあるOIL LEVELより下にある場合は、「スズキブレーキフルード」を補充してください。

尚、ブレーキオイルタンク内にフロートが入っているものはフロートの位置よりオイルレベルを判断してください。

《注意》

1. ブレーキフルードは2年に一度交換してください。
2. 補充する場合必ず「スズキブレーキフルード」を使用してください。他銘柄のブレーキフルードを使用すると、沸点が下ったり思わぬトラブルの原因となります。
3. ブレーキフルードは長期間使用していると、空気中の水分を吸収し沸点が低くなりますので、2年に1回新しいブレーキフルードと交換してください。
4. ディスクブレーキ車のブレーキフルードは1年毎に交換。
5. ディスクブレーキ車のプロポーションングバルブは2年毎に交換。

エンジンの始動・走行

◆ エンジン始動

エンジンをかける前に先ず次のことを確認してください。

1. サイドブレーキは完全に引いてあるか。
2. チェンジは中立にあるか。

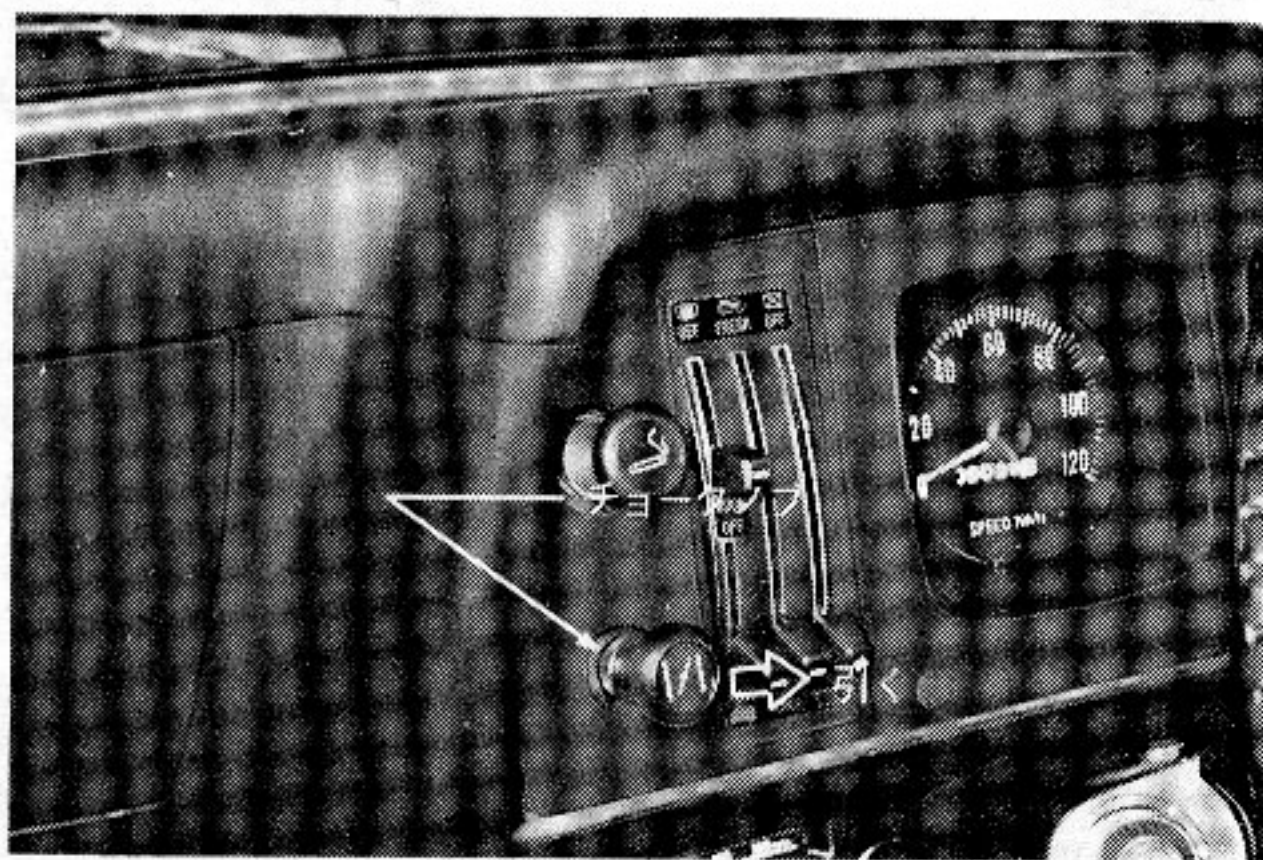
クラッチペダルを踏み込んで（必ず実施）キーを1段右に回します。1段回わすとチャージランプ、オイルレベルパイロットランプの点灯、ガソリン量の確認をします。更に右に回してセルモータを作動させて、エンジンを始動します。セルモータは5秒以上続けて回転させないでください。始動しなかったら、5秒位休んでやり直します。エンジンが始動したら、すぐキーから手を離します。

◆ 寒冷時の始動

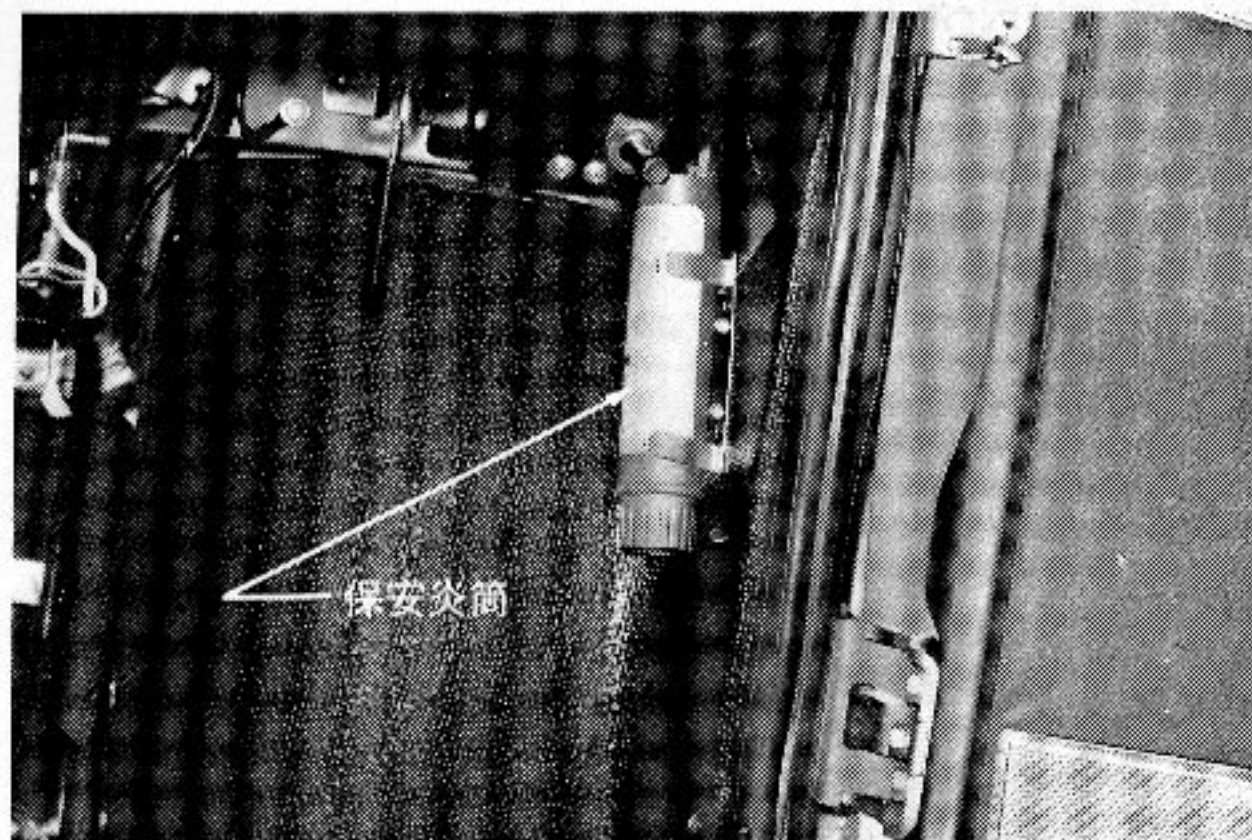
1. チョークノブ〔㊶〕を一杯に引いてください。
2. クラッチペダルを踏んでください。
3. アクセルペダルを踏まずに始動してください。
4. 気温が+5℃以下の時は、アクセルペダルを2～3回あおる様に踏んでから始動してください。
5. エンジンが始動し回転が上ったら直ちにチョークノブを半分程戻し、3～4回空ふかししてから発進してください。
6. 300～1000m走行したら、チョークノブを完全に戻してください。

〔チョークノブ〔㊶〕を戻し忘れた時、又は始動後チョークノブを長く引きすぎて止まった時〕

1. チョークノブを完全に戻してください。
2. クラッチペダルを踏んでください。
3. アクセルペダルを一杯に踏んで始動してください。
4. 始動したら空ふかしを3～4回行なってください。
5. その後、チョークノブを若干引いたまま 300～1000m走行したら、チョークノブを完全に戻してください。
6. もし、この方法で始動しない時は、エンジンが冷えている時の要領で行なってください。

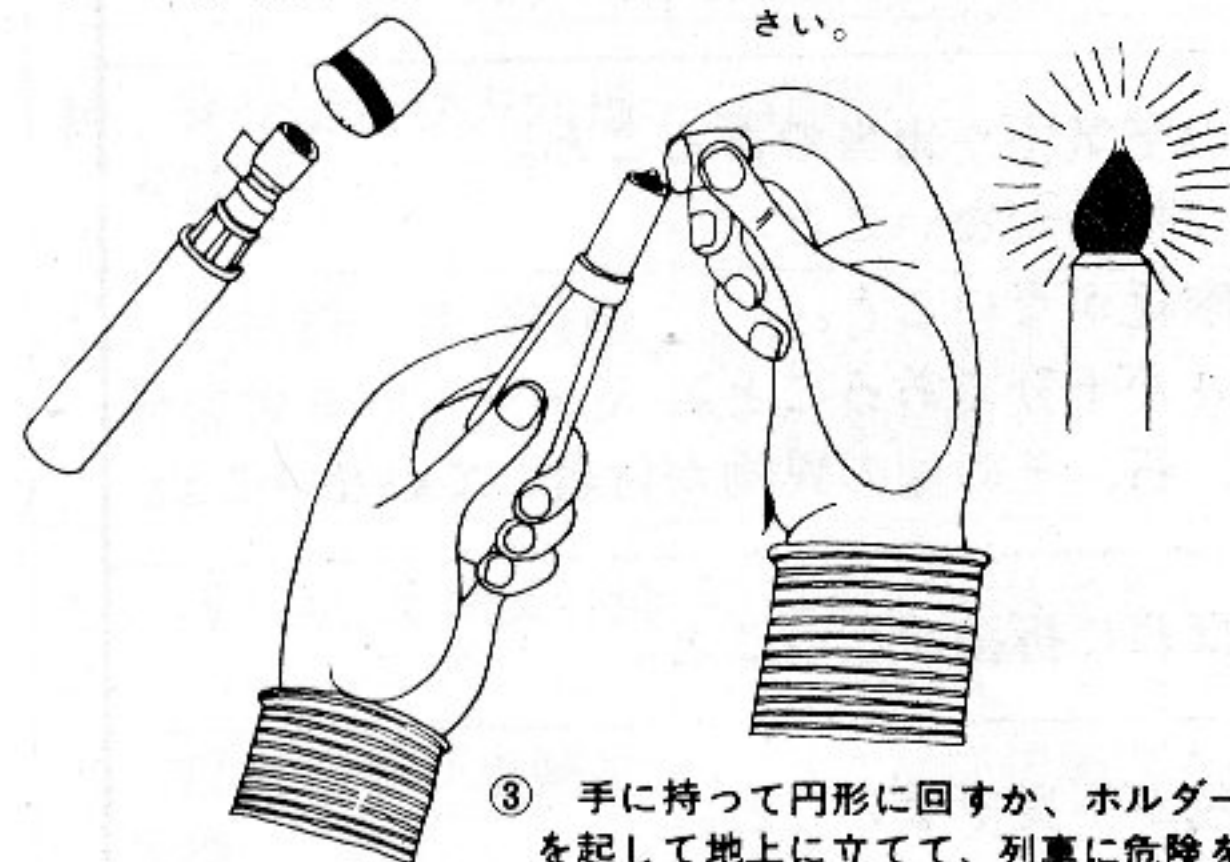


非常信号用具の使い方

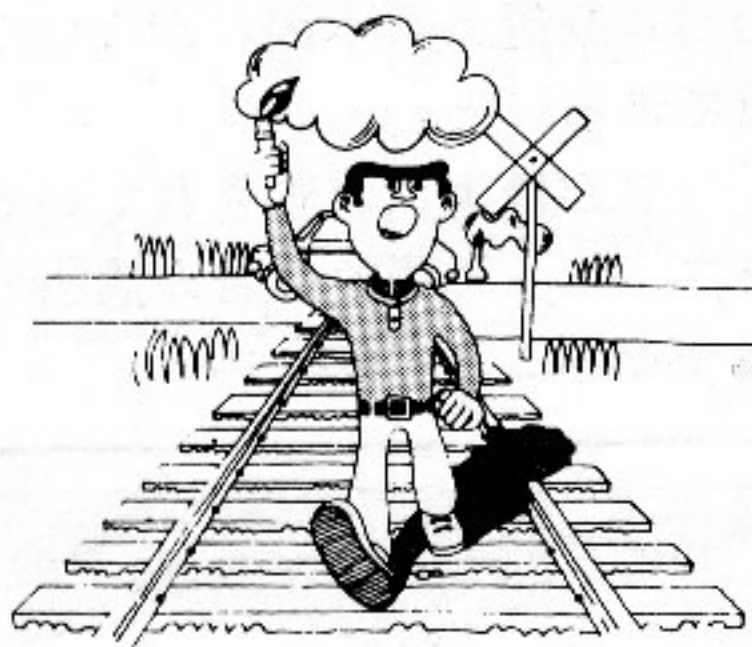


① 車から取出して、
ふたを取りビニール
テープを外します。

② 発炎筒本体を取出して
キャップを持ちマッチを
する要領で点火してくだ
さい。



③ 手に持って円形に回すか、ホルダー
を起して地上に立てて、列車に危険を
合図してください。



◆ 取付位置

室内右下部に取付けてあります。非常ボタンのない踏切（複線区間の警報機が付いている踏切には、非常ボタンがあります。）で動かなくなったとき等にこの発炎筒を取り出して、着火し、列車に危険を知らせてください。

◆ 発炎筒の使い方

左図の順序で着火してください。

《注意》1. 非常信号用としてのみ使用してください。

2. 有効期間（本体底部に表示）経過後はお取換えください。

3. 使用中は炎を顔や身体に近づけすぎないでください。

4. 着火後は約5分間燃え続けます。

◆ 踏切通過の注意

1. 踏切を通過するときには、直前で必ず一旦停止し、安全に通過できることを確かめてから渡ってください。

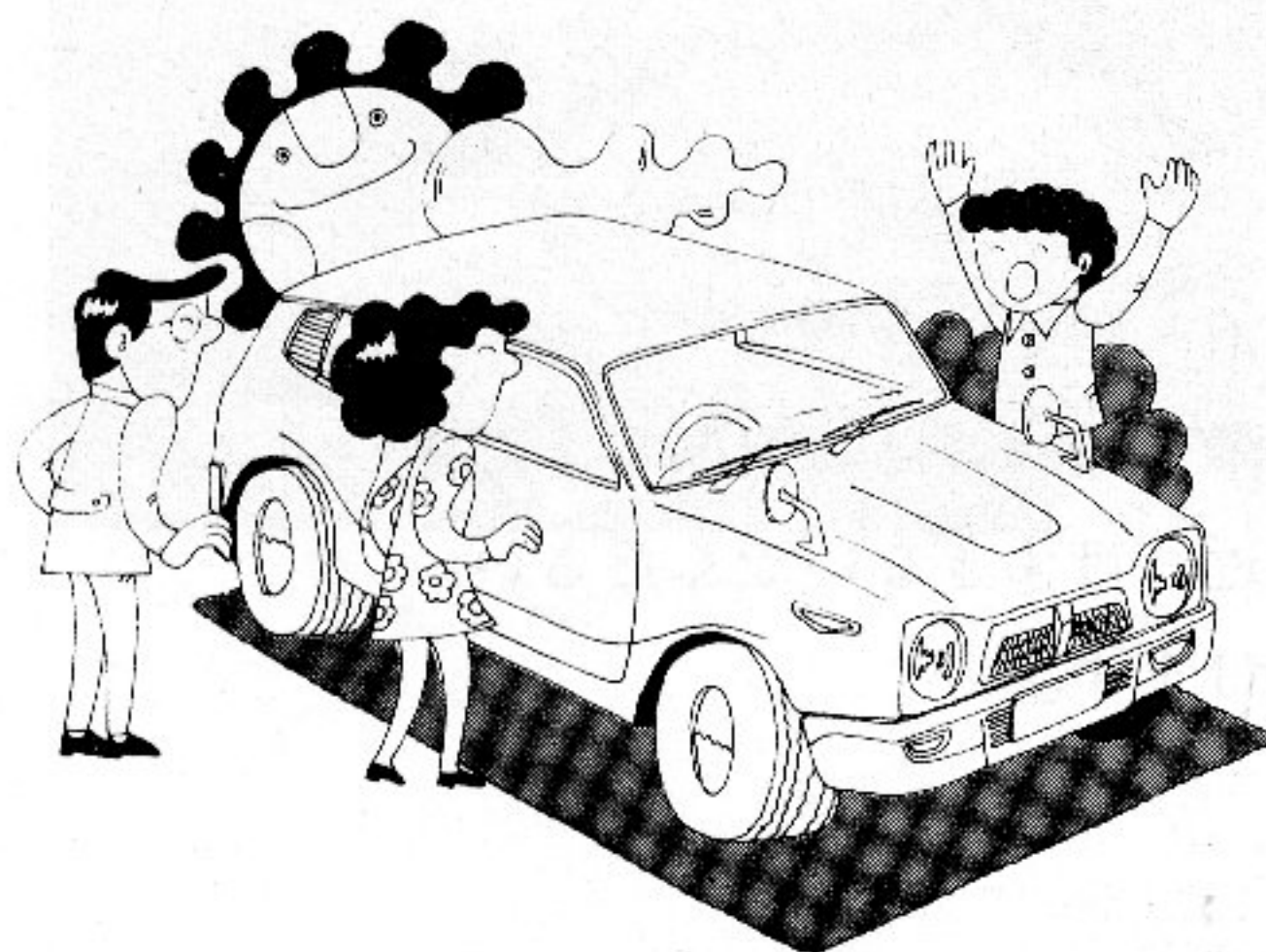
2. しゃ断機が閉じようとしているとき、又、閉じている間及び警報機が鳴っている間は踏切に入ってはなりません。

安全・快適にご愛用いただくために

仕 業 点 検

あなたの愛車のコンディションは日毎に変化します。お出掛け前には、毎日、欠かさず仕業点検をして、愛車の安全をたしかめましょう。

わずかな時間の点検が、あなたの安全を守り、異常個所の早期発見、早期処置であなたの愛車の寿命を増します。



—今日のお出掛けが楽しいものとなるよう
かならず仕業点検を実施しましょう—

◆ 仕業点検項目

点 検 個 所	点 検 基 準
1. かじ取りハンドル	○著しい遊び又はガタがないこと。 ○異常に振れたり、取られたり、又は重かったりしないこと。
2. ブレーキ	○ブレーキペダルの踏み代が適当で、ブレーキのききが十分であり、かつ片ぎきがないこと。 ○ブレーキの液量が十分であること。 ○パーキングブレーキレバーの引き代が適当で、かつブレーキのききが十分であること。
3. タイヤ	○タイヤの空気圧が適当であること。 ○亀裂及び損傷がないこと。 ○異常な摩耗がないこと。 ●溝の深さが十分であること。 ●金属片、石、その他の異物が付着していないこと。
4. シャンばね	○シャンばねに折損がないこと。
5. 原動機	○排気の色が不良でないこと。 ●オイルの量が十分であること。 ●ラジエータ等の冷却装置から水漏れがないこと。 ●冷却水量が十分であること。 ●ラジエータキャップが確実に装着されていること。 ●ウォーターポンプベルトの張り具合が適当で、かつベルトに損傷がないこと。

点 検 個 所	点 検 基 準
6. 燃料装置	●燃料の量が十分であること。
7. 乗車装置	○ドアロックが確実であること。 ○座席ベルトに損傷がなく、かつ確実に取り付けられていること。
8. 物品積載装置	○物品を安全、かつ確実に積載できること。
9. 燈火装置	○点滅具合が不良でなく、かつ汚れ及び損傷がないこと。
10. 警音器及び方向指示器	○作用が不良でないこと。
11. 窓拭器、洗浄液噴射装置及びデフロスター	○作用が不良でないこと。 ○洗浄液量が十分であること。
12. 後写鏡、及び反射鏡	○写影が不良でないこと。
13. 反射器及び車輛番号標	○汚れ及び損傷がないこと。
14. 計 器	○作用が不良でないこと。
15. 前日の運行において異常が認められた個所	○当該個所に異常がないこと。

＜注 1＞●印の点検は60km/h以上の走行ができる道路、
(高速道路など)を走行する予定のない場合には
省略してもよい。

＜注 2＞高速道路を走行する場合は、つぎの事項にもご
留意ください。

○空気圧は正しく調整されているか。

(46頁参照)

○点火時期は正しく調整されているか。(55頁参照)

○スパークプラグは正しい熱価のものを使用し
ているか。(55頁参照)

○バッテリーの液量は規定だけあるか。(47頁参照)

○バッテリーの端子の状態は良いか。

——仕業点検は、あなたの安全、社会の安全のために
法令であなたに義務づけられた点検です——

◆ 仕業点検の順序

点検開始

③車の前から

- ヘッドランプの点灯
- スモールランプの点灯
- 番号標の汚れ
- タイヤ空気圧、傷、摩耗
- 車体の傾き

④フードパネルを開けて

- ラジエータの冷却水量
- ラジエータキャップの装着状態
- ブレーキオイル量
- ウインドウオッシャーの液量

⑤車の下をのぞいて

- アブソーバーのオイル漏れ
- トランスミッションのオイル漏れ
- エンジンオイルの漏れ
- ブレーキ配管、取付部のゆるみ
他の部分への接触・損傷
- ブレーキオイルの漏れ

②運転席に座って(ウオームアップしながら)

- ステアリングホイールの遊びとガタ
- ブレーキペダルの踏み代
- パーキングブレーキレバーの引き代
- 燃料計の作動とガソリン残量
- CCISオイル残量とオイルレベルパイロットランプの点灯
- チャージウオーニングランプの作動
- サーモメーターの作動
- ターンシグナルランプの点滅
- ワイパー、ウインドウオッシャー、ホーンの作動
- バックミラーの写影
- ヘッドランプの照射切換
- デフロスターの作動

⑥車の後から

- テールランプの点灯
- ライセンスランプの点灯
- パーキングランプの点灯
- 番号標の汚れ
- 排気煙の色
- タイヤの空気圧、傷、摩耗
- 車体の傾き
- ブレーキランプの点灯
- バックランプの点灯

①リヤリッドを開けて

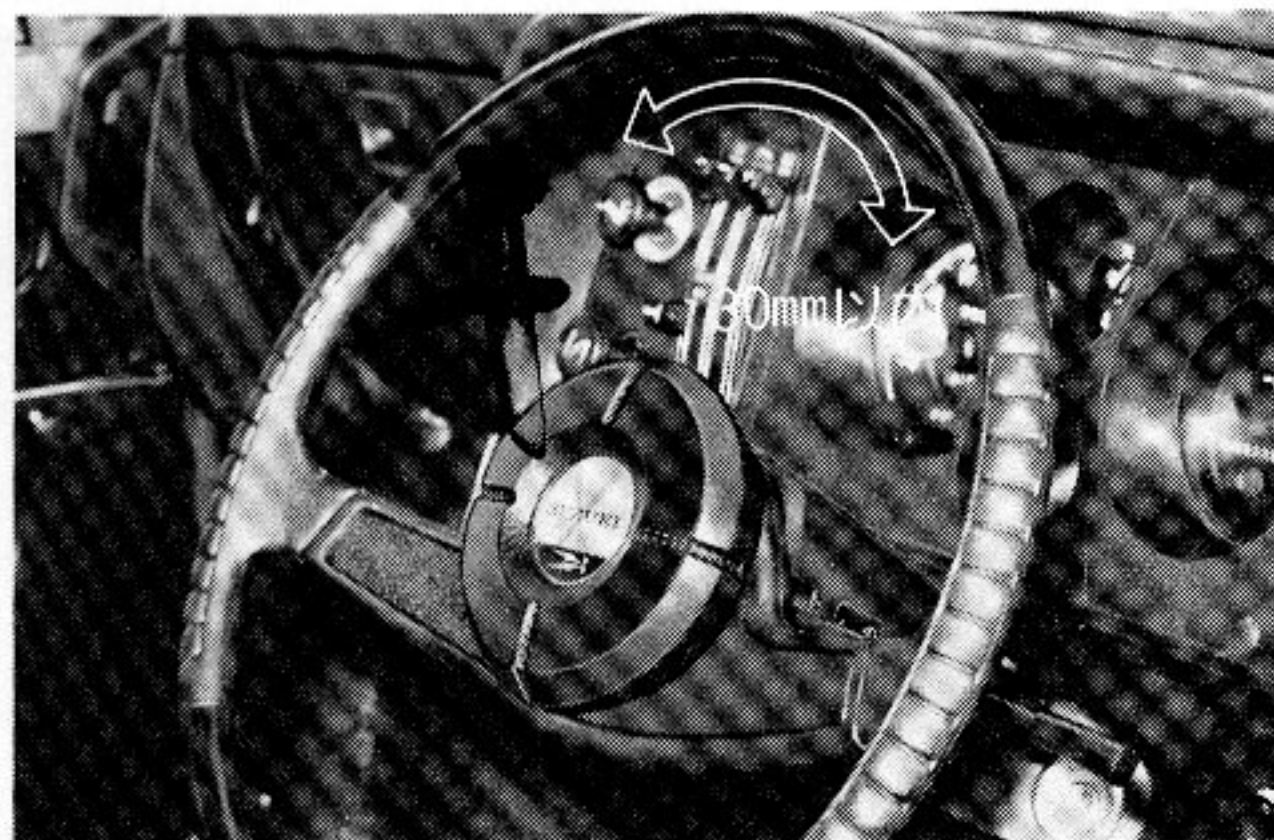
- エンジン各部のオイル漏れ
- ウオーターポンプベルトの張り具合、傷

⑦徐行しながら

- 速度計の作動
- ハンドルの重さ
- ブレーキのきき
- パーキングブレーキのきき

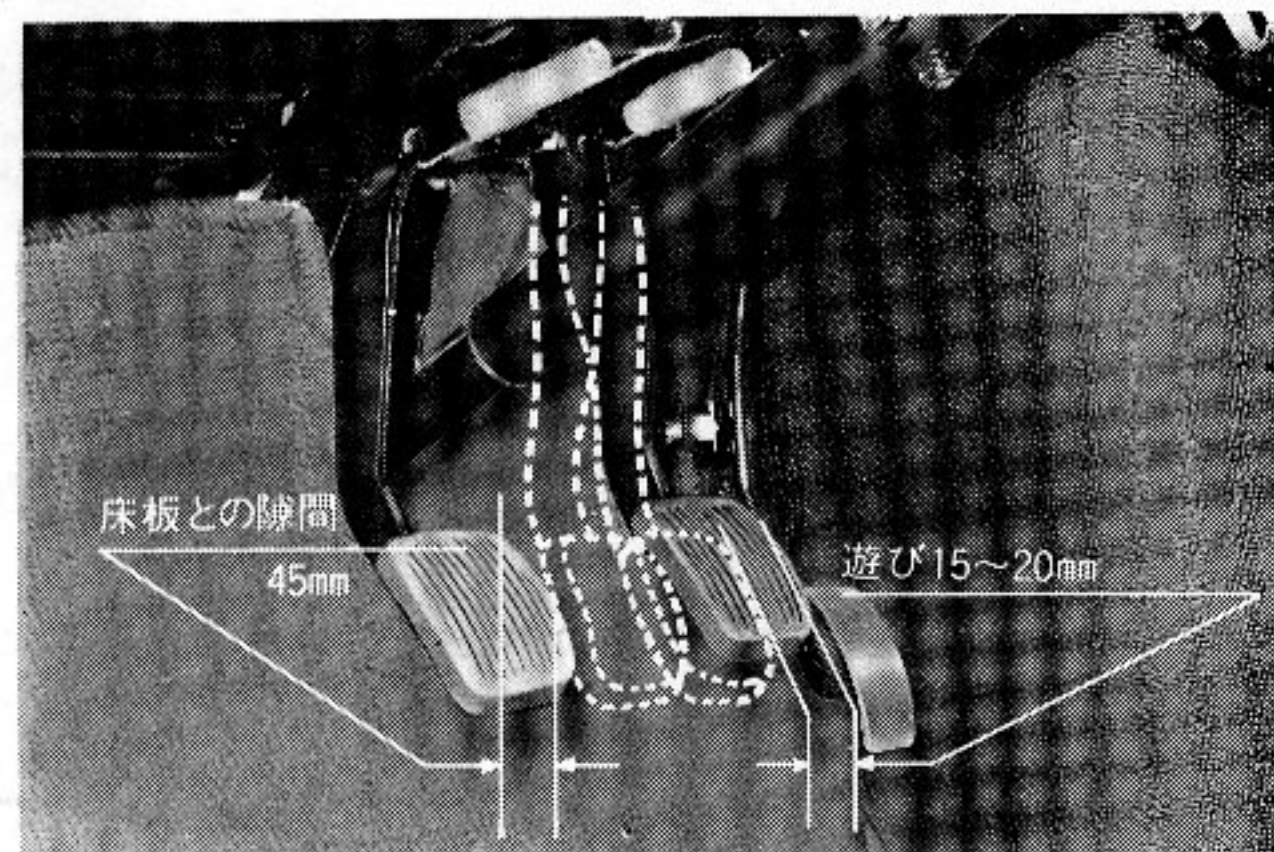


仕業点検の要領



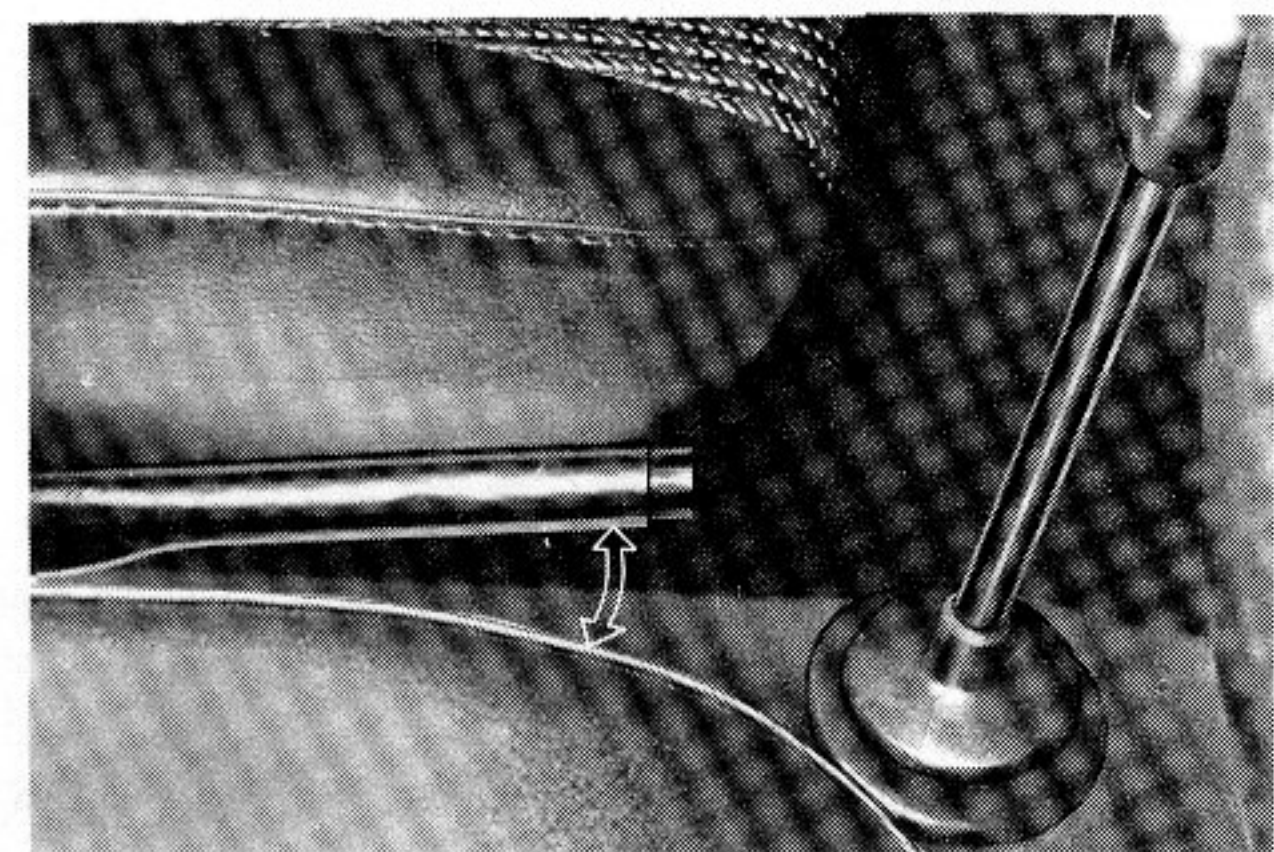
1. ハンドル関係の点検

- 1) タイヤを真直ぐに前向きにしておき、ハンドルを上下にゆすって、ガタがないか点検してください。
- 2) ハンドルを左右に振って、ハンドルの遊びを点検してください。
ハンドルの遊びは、円周上で30mm以内が適当です。
- 3) 走行して、ハンドルが振れたり、取られたり、異常に重かったりしないか点検してください。



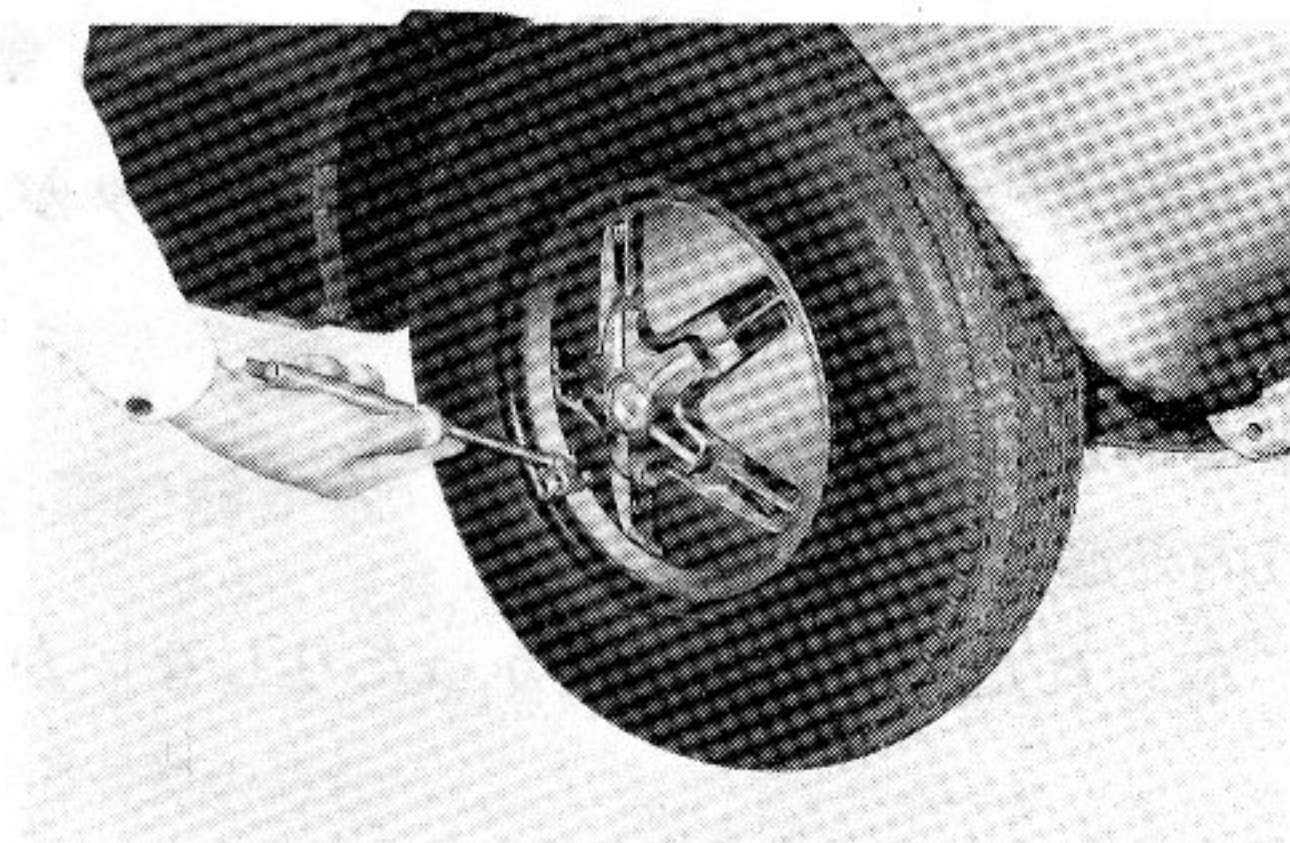
2. ブレーキペダルの点検

- 1) ブレーキペダルを踏んで、踏み代を点検してください。
ブレーキペダルの遊びは15~20mmが適当です。
ブレーキペダルの踏み代は30~40mmが適当です。
又、一杯に踏み込んだ状態で床板との隙間は45mm以上なければいけません。
- 2) ブレーキペダルを踏んで、海綿を踏むようにフワフワするもの、ダブって踏んだとき、1回目と2回目の踏み代が極端に違うもの、ペダルを踏み続けているとペダルが徐々に下っていくものは調整が必要です。
- 3) 走行してブレーキの効きが甘くないか。左右の効きがアンバランスでないか点検してください。



3. パーキングブレーキの点検

- 1) パーキングブレーキを引いたとき、ブレーキレバーのラチェットが7歯以下で完全にブレーキが効くか点検してください。
- 2) ブレーキレバー先端のノブが軽く作動するか点検してください。



適正空気圧の見方



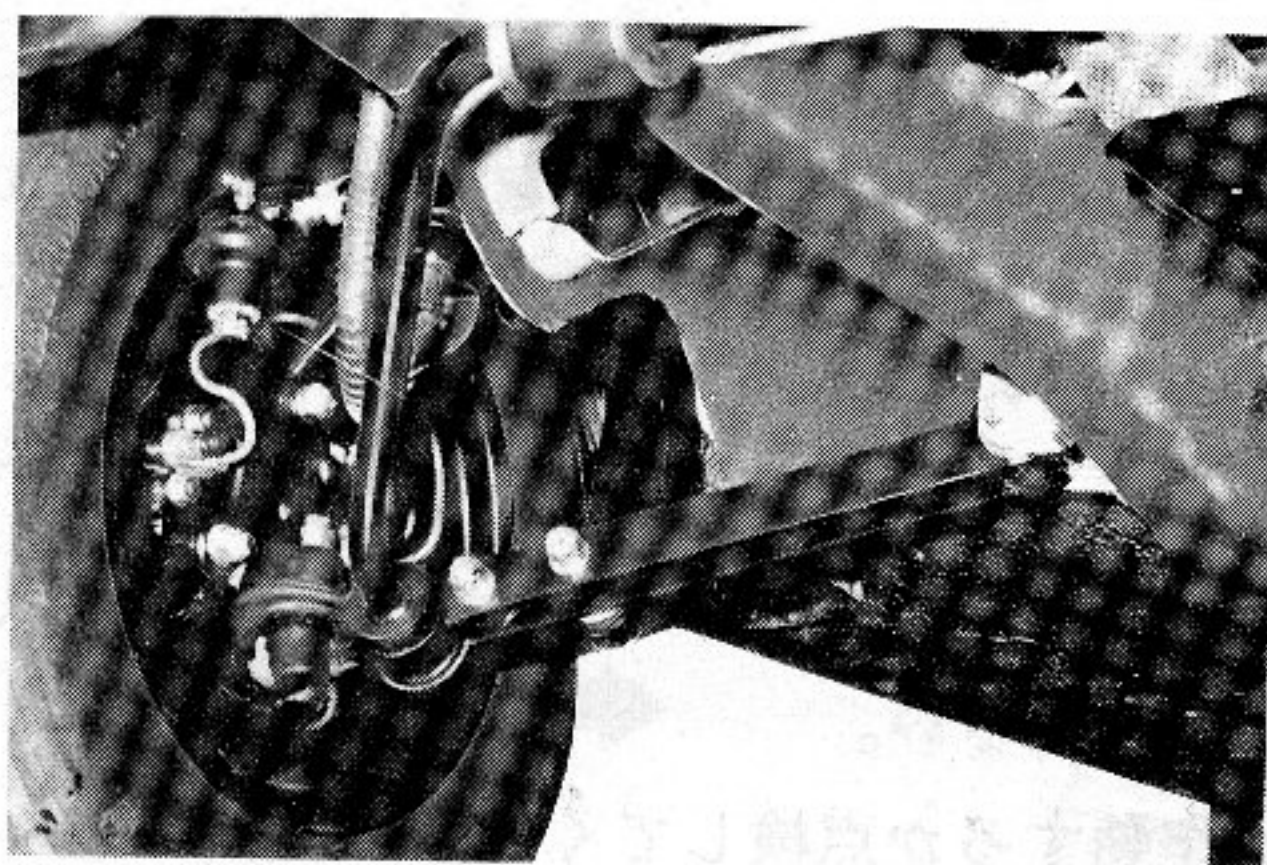
4. タイヤの点検

- 1) タイヤゲージで空気圧を測ってください。
- 2) タイヤの溝の深さは十分であるか。
- 3) 異常な摩耗や亀裂、損傷はないか。
- 4) ハブナットの弛みはないか。
- 5) 針、石、その他の異物が刺さっていないか点検してください。

—標準空気圧—

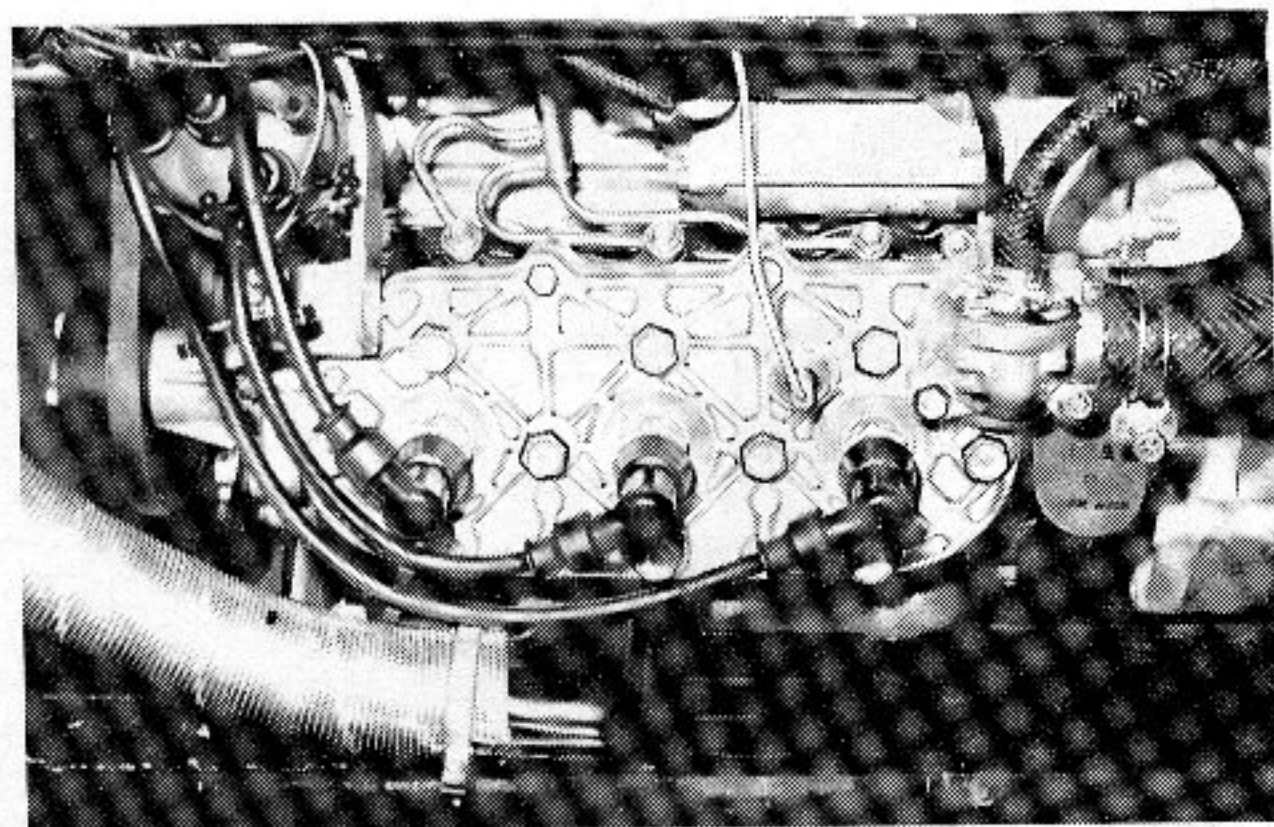
	普通走行 60km/h未満	高速走行
前輪	1.0kg / cm ²	1.1kg / cm ²
後輪	2.0kg / cm ²	2.3kg / cm ²

※空気圧はタイヤの冷えている時に測ってください。



5. 下廻りスプリングの点検

- 1) 車が空車状態で極端に傾いていないか点検してください。
- 2) アブソーバーからの油漏れがないか点検してください。
- 3) スプリングの折れや亀裂がないか点検してください。
- 4) ブレーキオイルの漏れやブレーキ配管取付部のゆるみ及び他の部分への接触、損傷はないか点検してください。
- 5) ミッションオイルの漏れ、エンジンオイルの漏れはないか点検してください。



6. エンジンの点検

- 1) エンジン始動後、異音や異臭はないか。排気煙が異常に濃くないかなど点検してください。
- 2) フロントフードパネルを明けて、バッテリー液量、端子の状態、エンジン各部の汚れの状態などを点検してください。

—バッテリー液量の見方—

※バッテリー液面は UPPER LEVEL と LOWER LEVEL の間になければなりません。

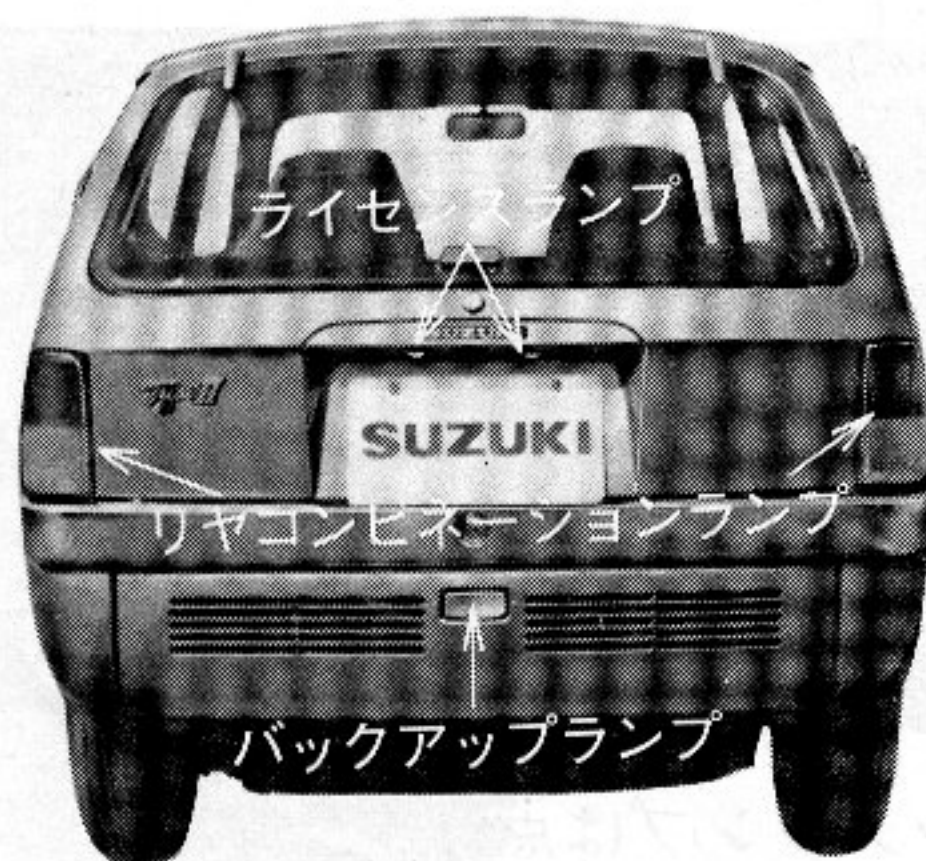
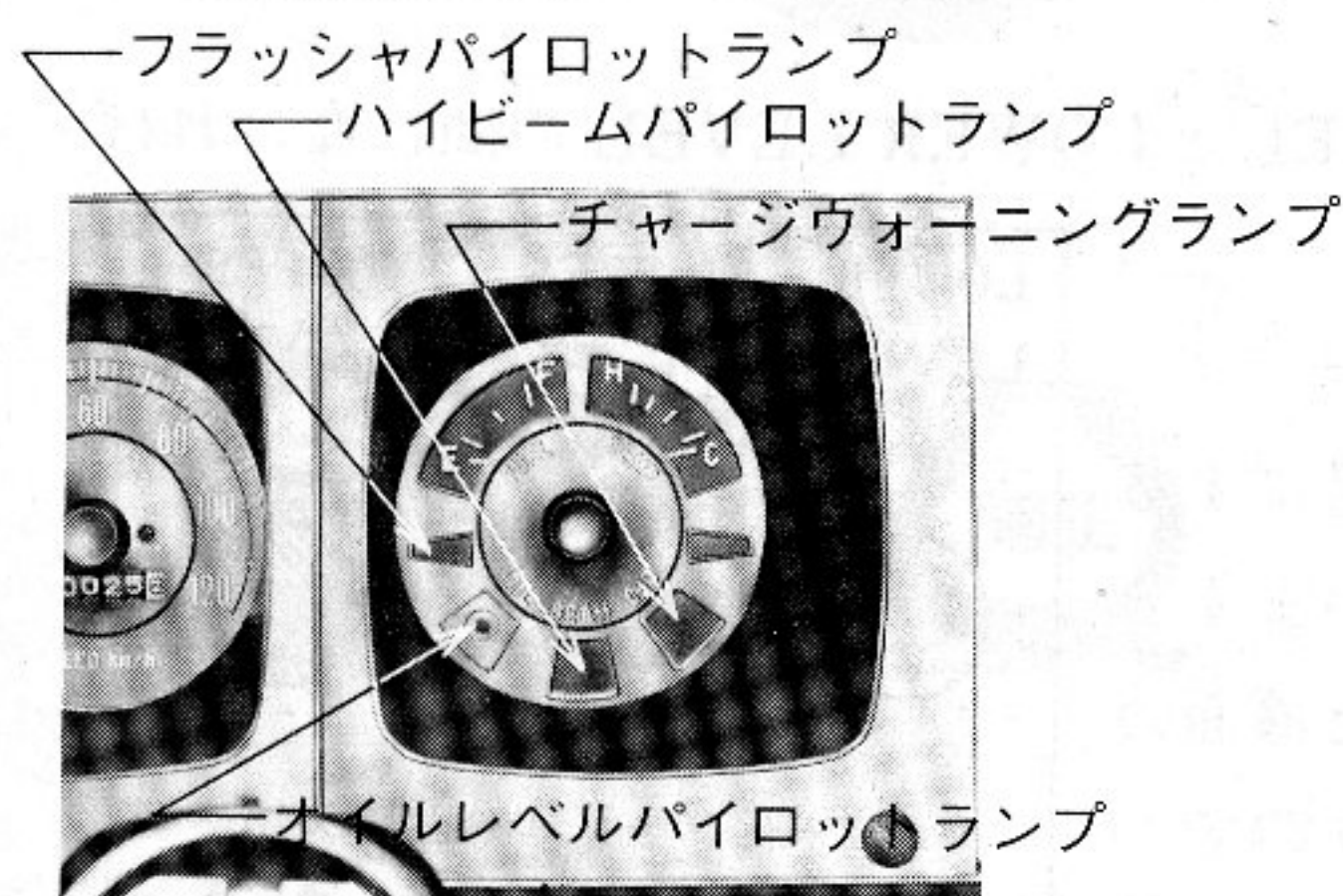
バッテリーには液面の点検を容易にするためレベルプラグが1個付いています。このレベルプラグは上面を見ると液面の位置により右図のように見えますのでバッテリー液面の良否を判定して下さい。

LOWER LEVEL 以下	LOWER LEVEL と UPPER LEVELの間	UPPER LEVEL 以上
バッテリー液 不足	良	バッテリー液 過多



7. 各種ランプ類の点検

- 1) ライティングスイッチを右へひねって、つぎの点検をしてください。
○前、後のパーキングランプは点灯するか。
- 2) ライティングスイッチのひねりを戻し、1段目まで引いて、つぎの点検をしてください。
○スモール（フォグ）ランプは点灯するか。
○テールランプは点灯するか。 ○ライセンスランプは点灯するか。
○メーターランプは点灯するか。



2) ライティングスイッチを2段目まで引いて、つぎの点検をしてください。

- ヘッドライトは確実に点灯するか。明るさは充分か。
- ディマースイッチレバを手前に作動して、ヘッドライトの照射方向の切替えが確実に出来るか、照射方向は正しいか。またハイビームインジケータは正しく点灯、消灯するか。
- テールランプは確実に点灯するか。
- ライセンスランプは確実に点灯するか。
- メーターランプは確実に点灯するか。

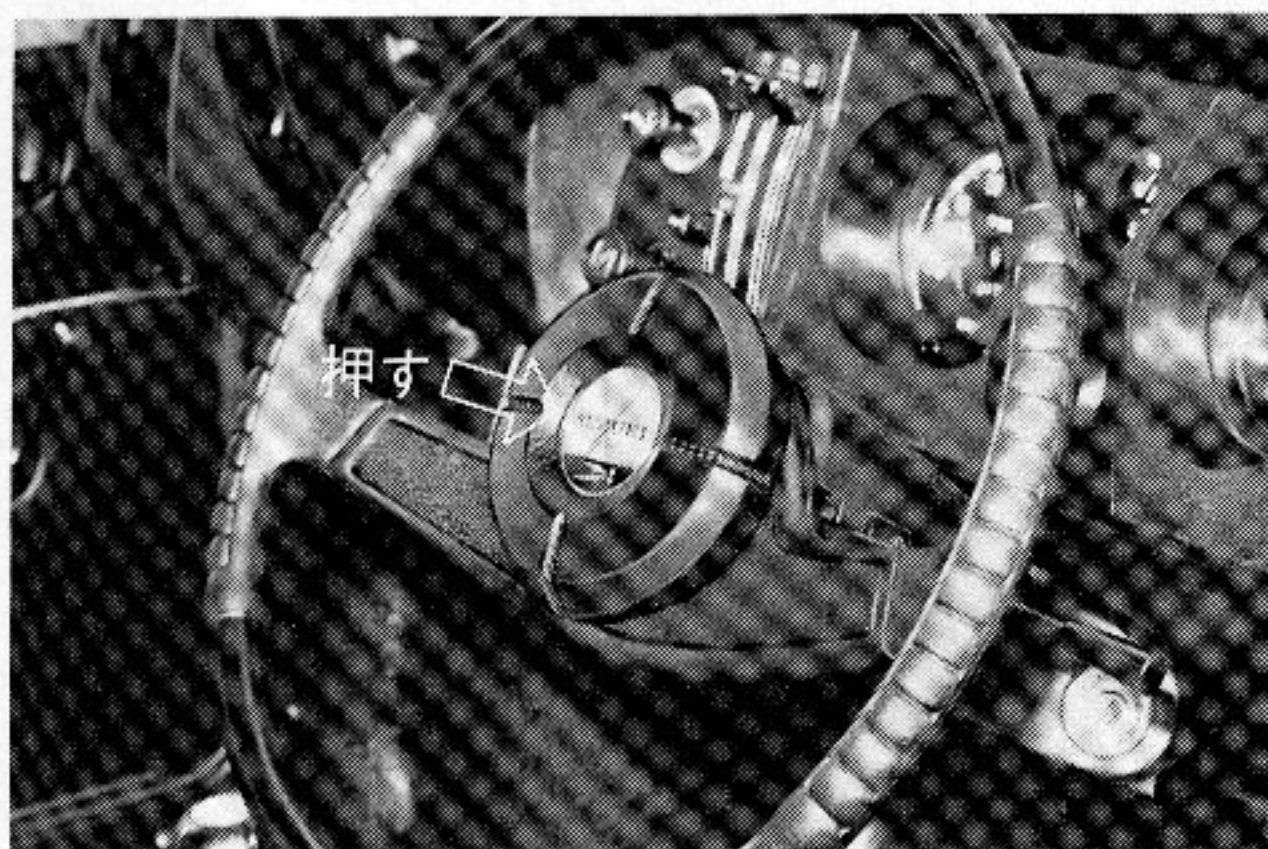
3) 4ウェイフラッシュランプスイッチを引いて、つぎの点検をしてください。

- 前後左右のターンシグナルランプ及び、左右のサイドターンシグナルランプが全て一緒に点滅するか。

4) ○ターンシグナルディマースイッチを作動させて、前後のターンシグナルランプとサイドターンシグナルランプが確実に点滅するか、又スピードメーター内のフラッシュパイロットランプが確実に点滅するか。

5) イグニッションスイッチを入れて、つぎの点検をしてください。

- チャージウォーニングランプは点灯するか。
- オイルレベルパイロットランプは点灯するか。
- ブレーキペダルを踏むとストップランプが点灯し、離すと消灯するか。
- チェンジをリバース(R)にしてバックアップランプが点灯するか。



8. ホーンの点検

- イグニッションスイッチを入れてホーンボタンを押したとき、ホーンが十分な音量で鳴るか。

9. ワイパーウインドウオッシャーの点検

- ウインドウオッシャータンク内に洗浄液が充分入っているか。(35頁参照)
- ウインドウオッシャーポンプを押した時、洗浄液がノズルから噴出するか。
- イグニッションスイッチを入れ次にワイパースイッチを引くとワイパーが確実に作動するか。

- デフロスターは正常に作動するか(30頁参照)

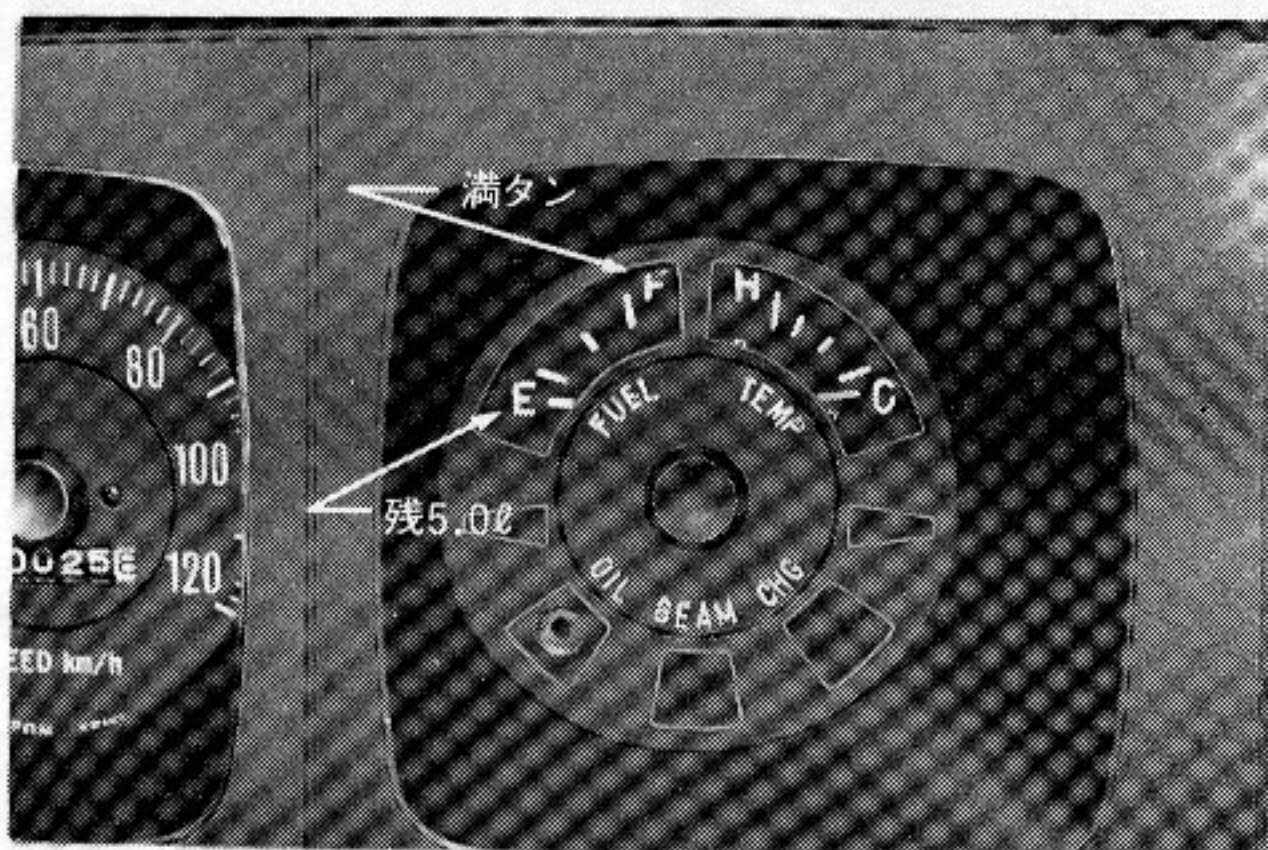
10. ガソリン量の点検

- イグニッションスイッチを入れて、フューエルメーターの針が正常に作動するか点検し、この指針によりガソリン量を読みます。

フューエルメーターの針がFを指すときは、ガソリンは満タンです。

Eを指すと、その時の残量は約5.0ℓです。

高速道路を走行する場合は必ず満タンにしておき早めに補給しておくように心がけてください。



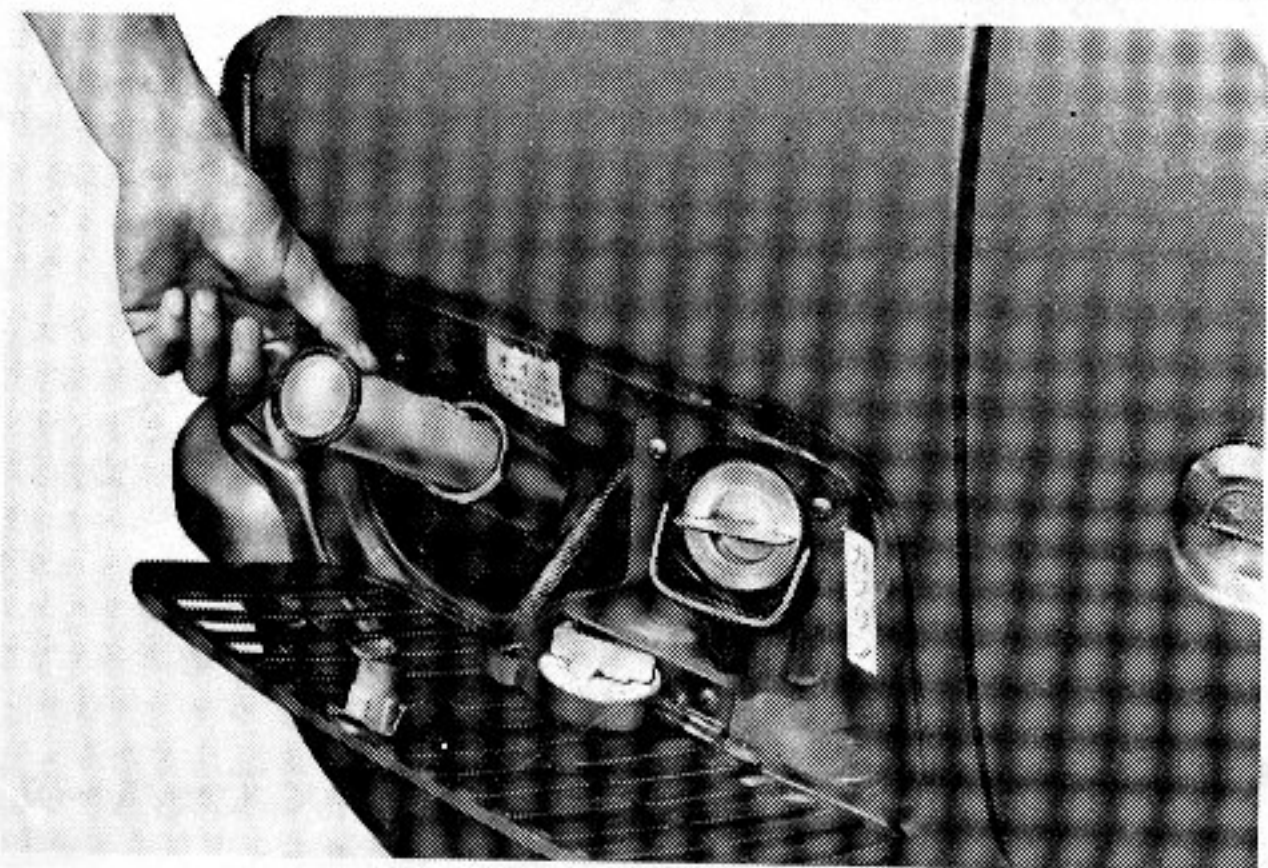
11. CCISオイル量の点検

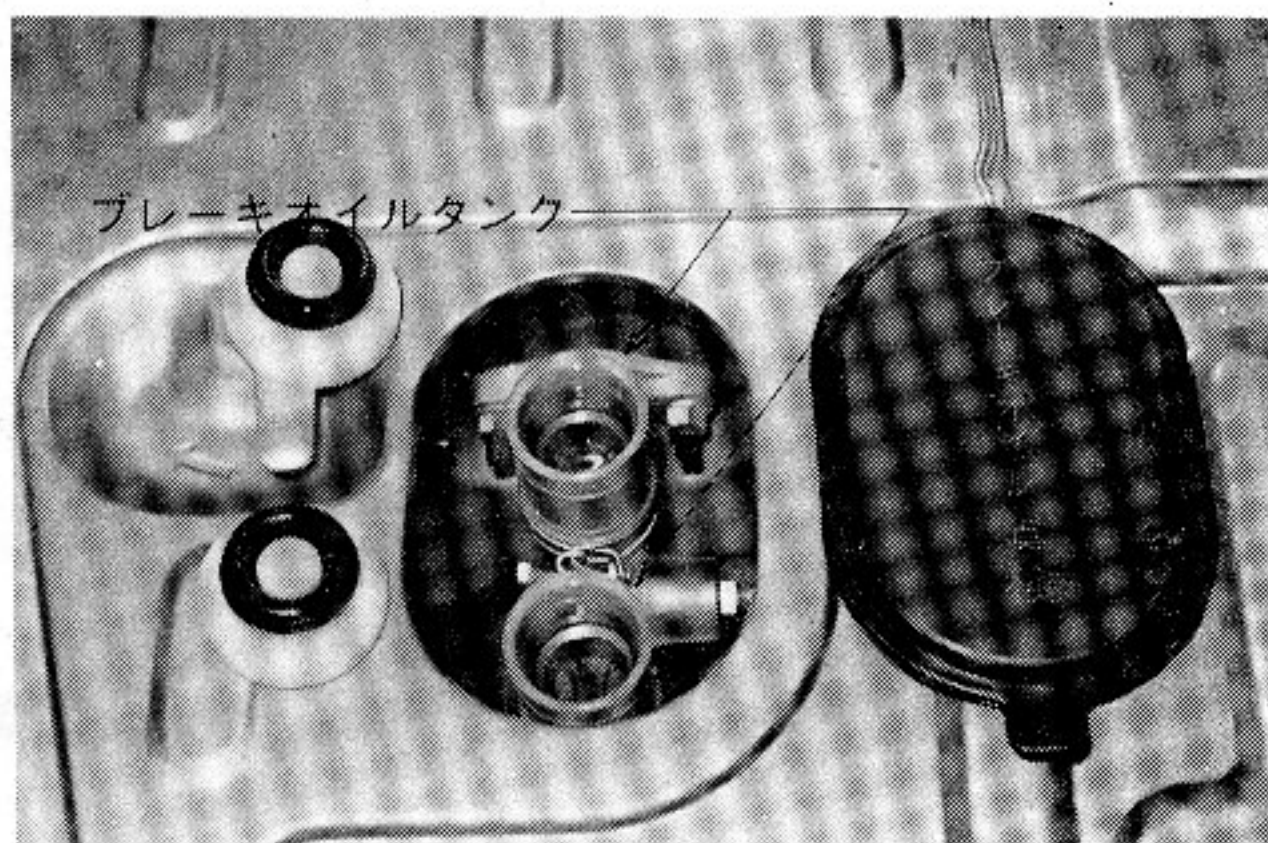
- エンジンをかけ回転をあげても(走行中)オイルレベルパイロットランプが点灯するようでしたらオイルを補給してください。

高速道路に入る場合はタンクのフタを取ってCCISオイルが充分あるか確かめましょう。

ランプが点灯したときの残量は0.7ℓです。

オイルはスズキCCISオイル又はスズキCCISスーパーオイルを補給してください。



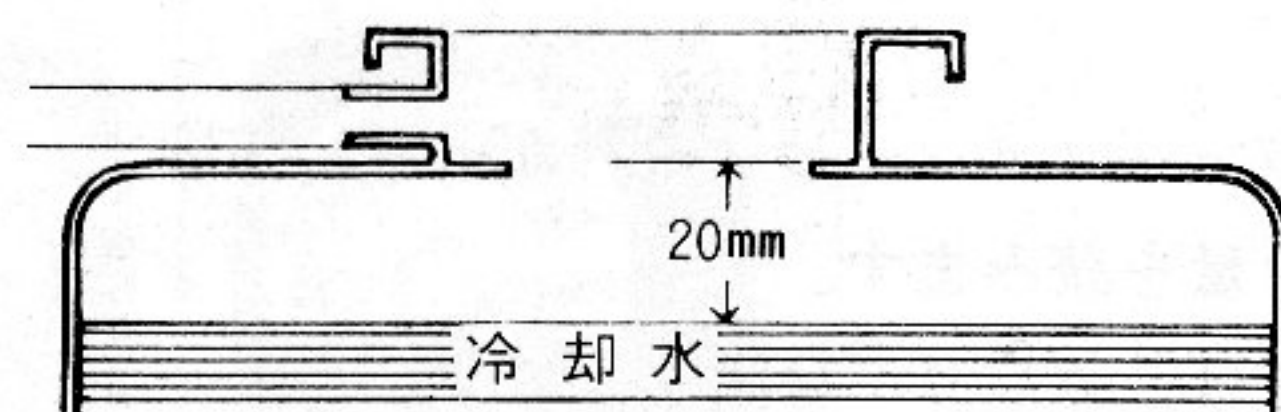


12. ブレーキオイル量の点検

トランクルーム内のブレーキオイル点検用のフタを取って、ブレーキオイルタンクを見てください。オイルの量がOIL LEVELより下にあるようでしたら、OIL LEVELまでブレーキオイルを補充してください。

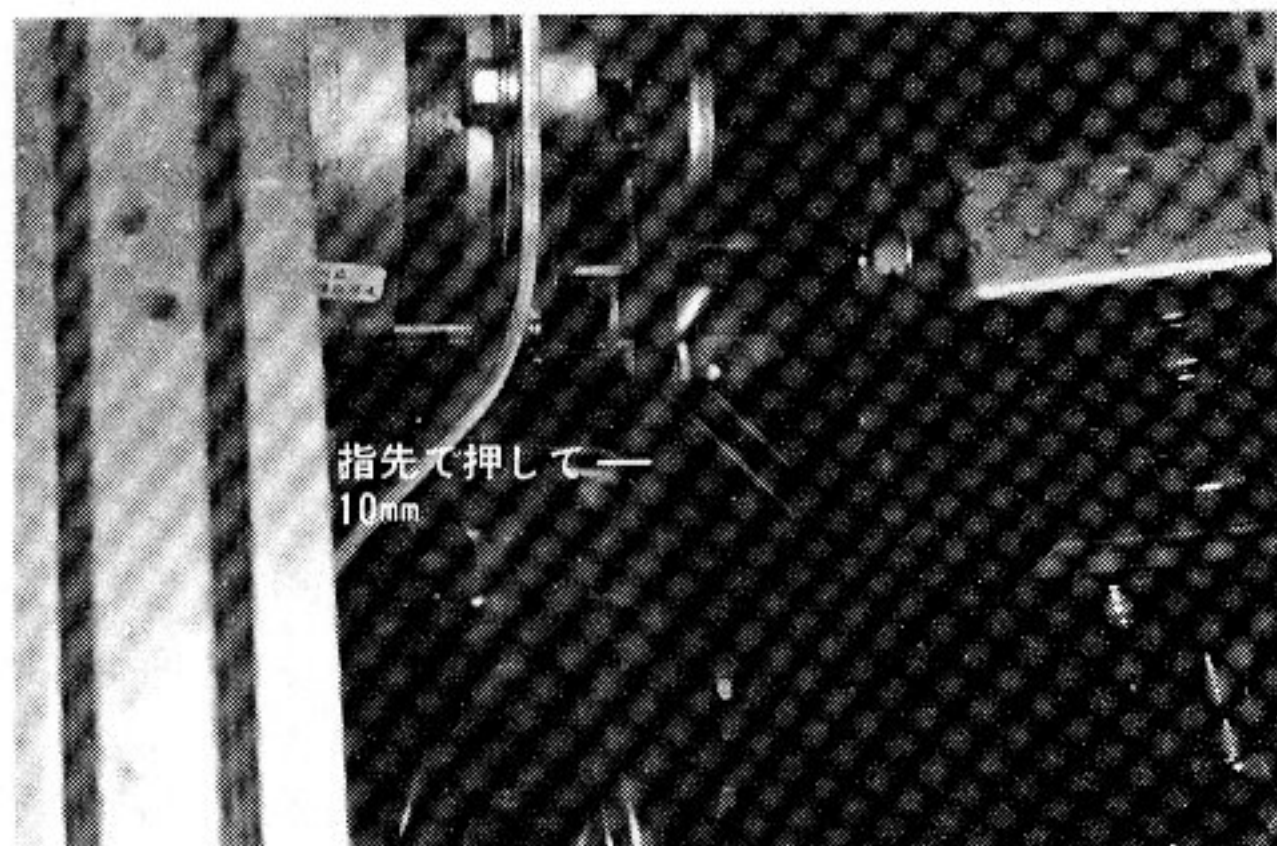
ブレーキオイルは、必ずスズキ指定の「スズキブレーキフルード」を入れてください。

なお、オイルの量が急に減ってしまったような場合にはサービス工場でブレーキ関係の点検を受けてください。



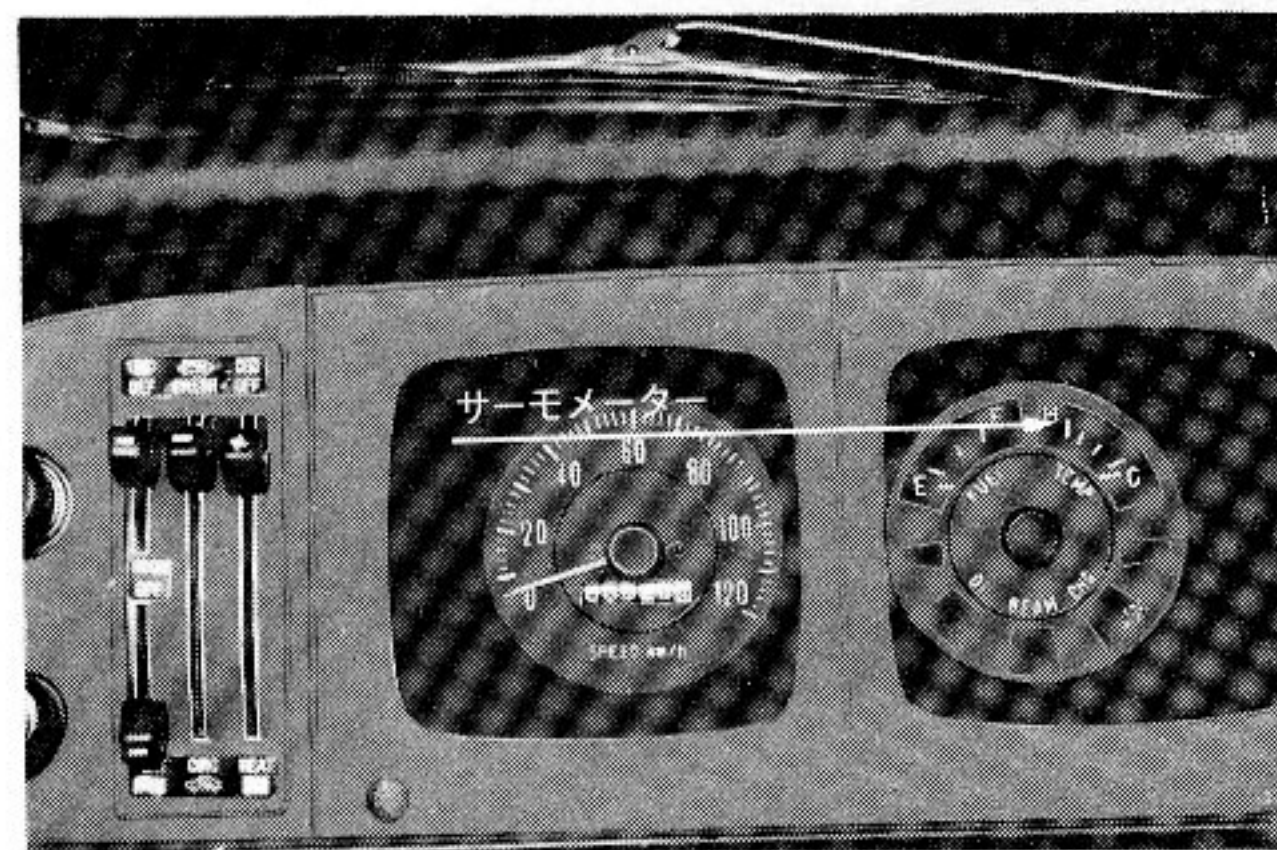
13. 冷却水量の点検

フロントフードパネルを開けてラジエータキャップを取り外し、冷却水の水面が注入口より20mmあれば適当です。注入の際冷却水は注入口まで一杯に入れてください。



14. ウォーターポンプベルトの点検

ベルトの中間を図のように指先で強く押して見てそのたわみ量が10mmであれば適当です。たわみ量が大き過ぎるものは調整が必要です。又、亀裂のあるものは交換してください。

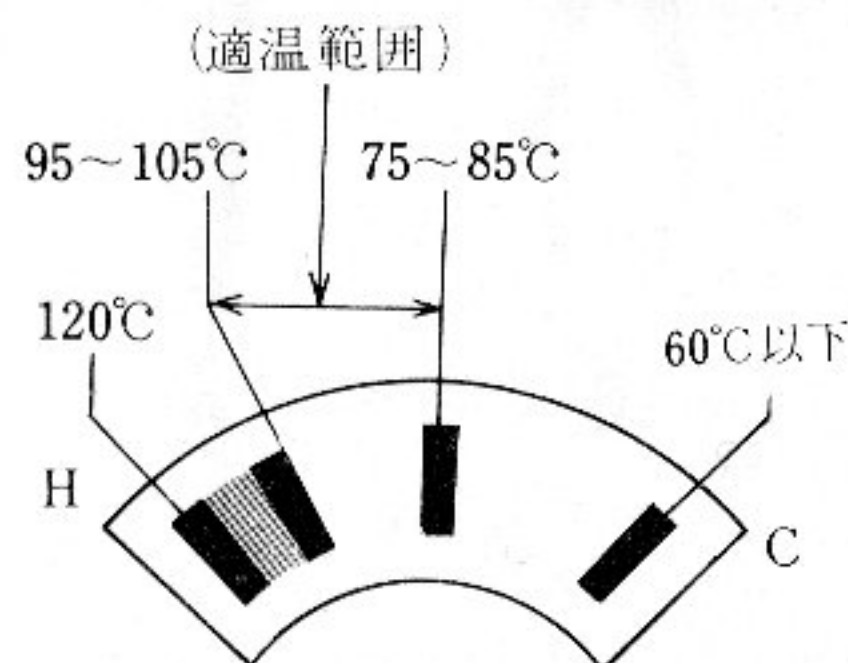


15. サーモメーターの作動点検

エンジンを始動後、しばらくしてからサーモメーターの指針が停止位置より動き始めることを確認してください。

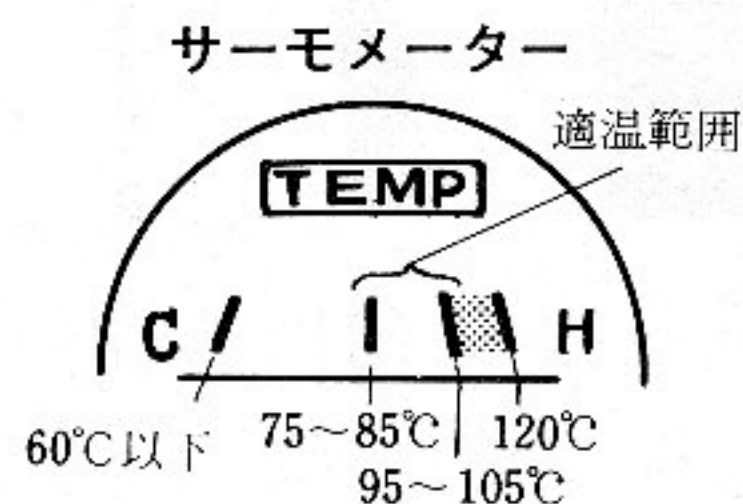
長時間、暖機運転してもメーターの針が動かない場合は、点検、整備が必要です。

走行中はサーモメーターの指針が適温範囲にあることを確認してください。長時間走っても適温範囲に達しない場合や特に過酷な運転をしないのに適温範囲を超えてH側を指す場合は点検の必要があります。



サーモメーター

(スーパーデラックス、デラックス、スタンダード仕様車)



(カスタム、GTtype II仕様車)



16. その他

- 1) フェンダーミラー，ルームミラーの後方視野確認。
- 2) 反射器及び車輛番号標の汚れがないこと。
- 3) ドアロックが完全であること。
- 4) 座席ベルトに損傷がなく取り付けが確実であること。
- 5) スピードメーターの作動具合。
- 6) 各部よりの異音，異臭。

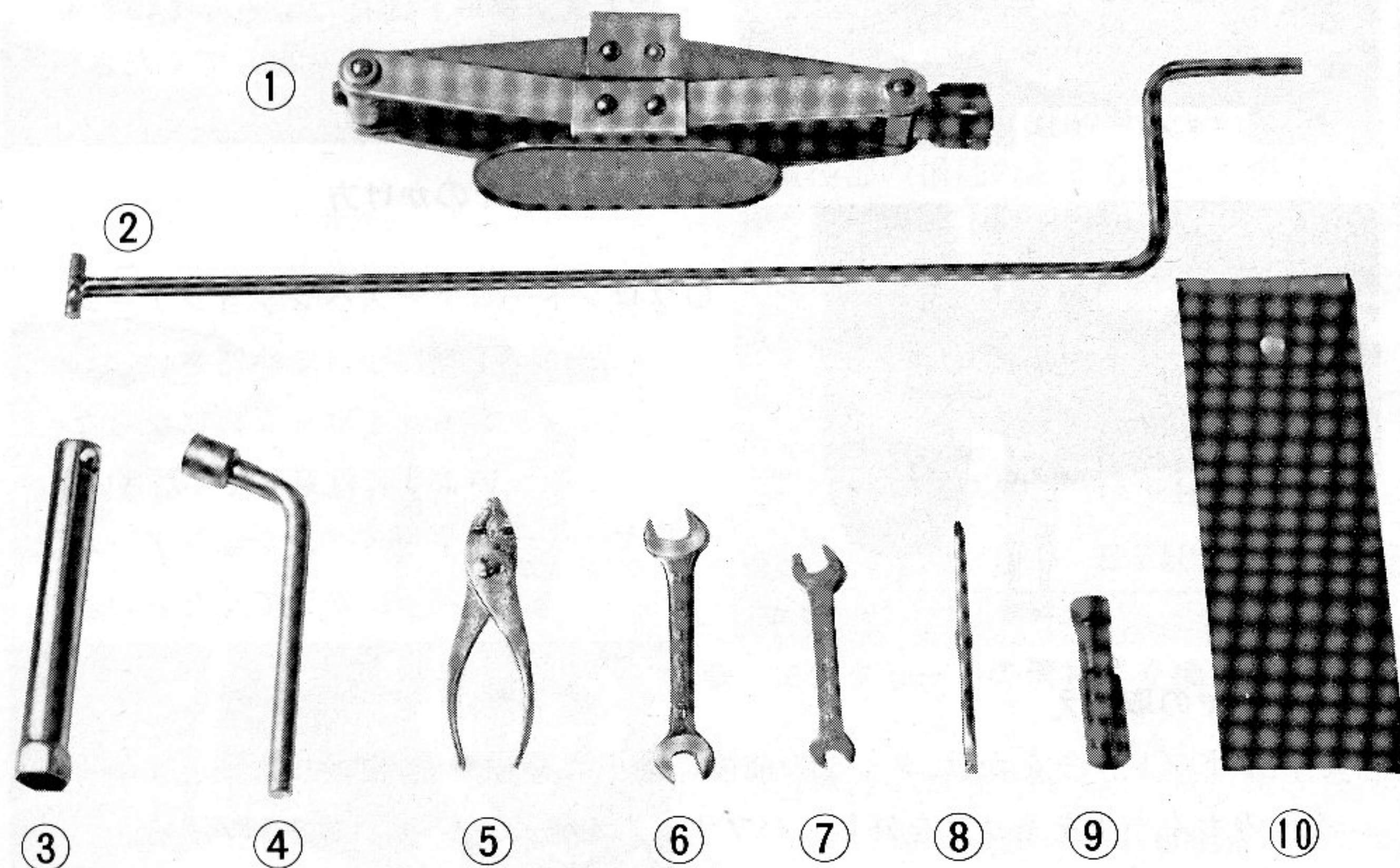
以上に十分注意して点検してください。

簡単な点検と整備

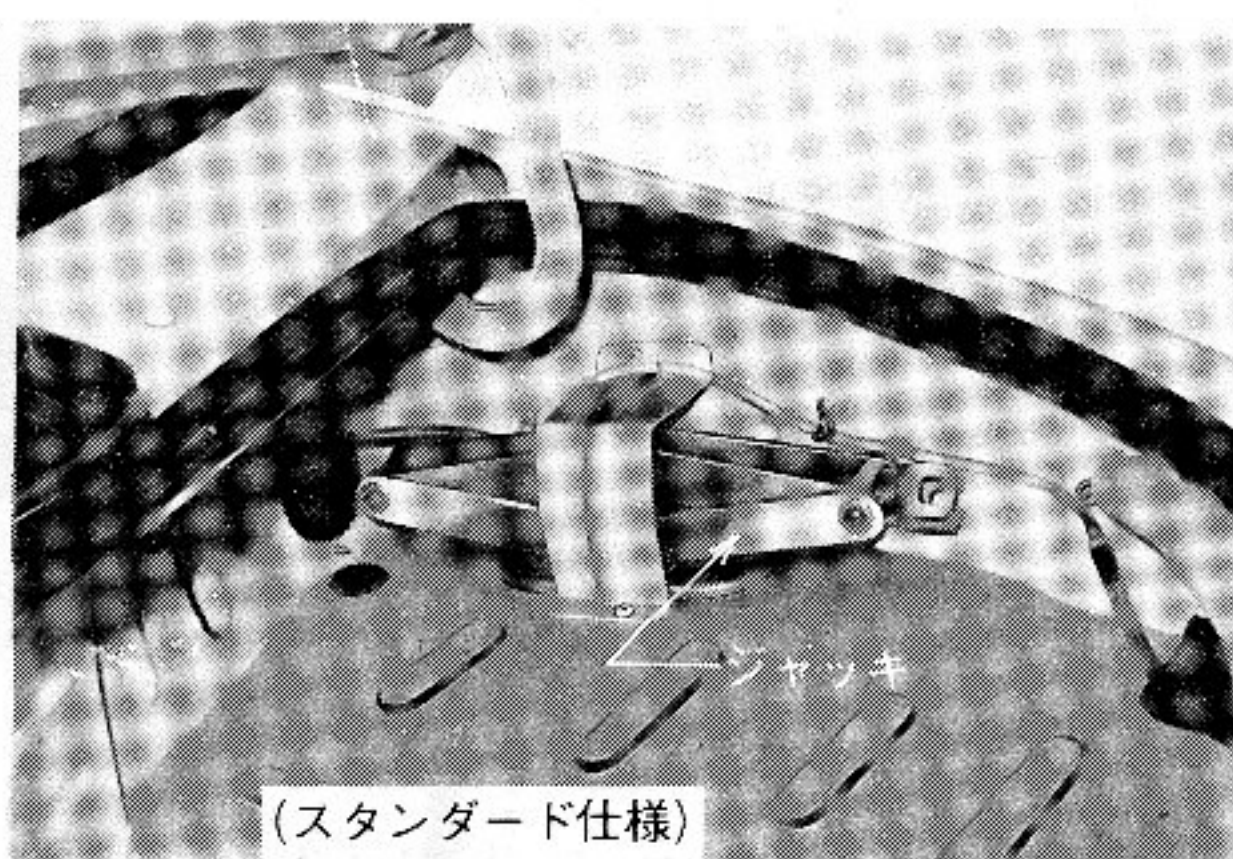
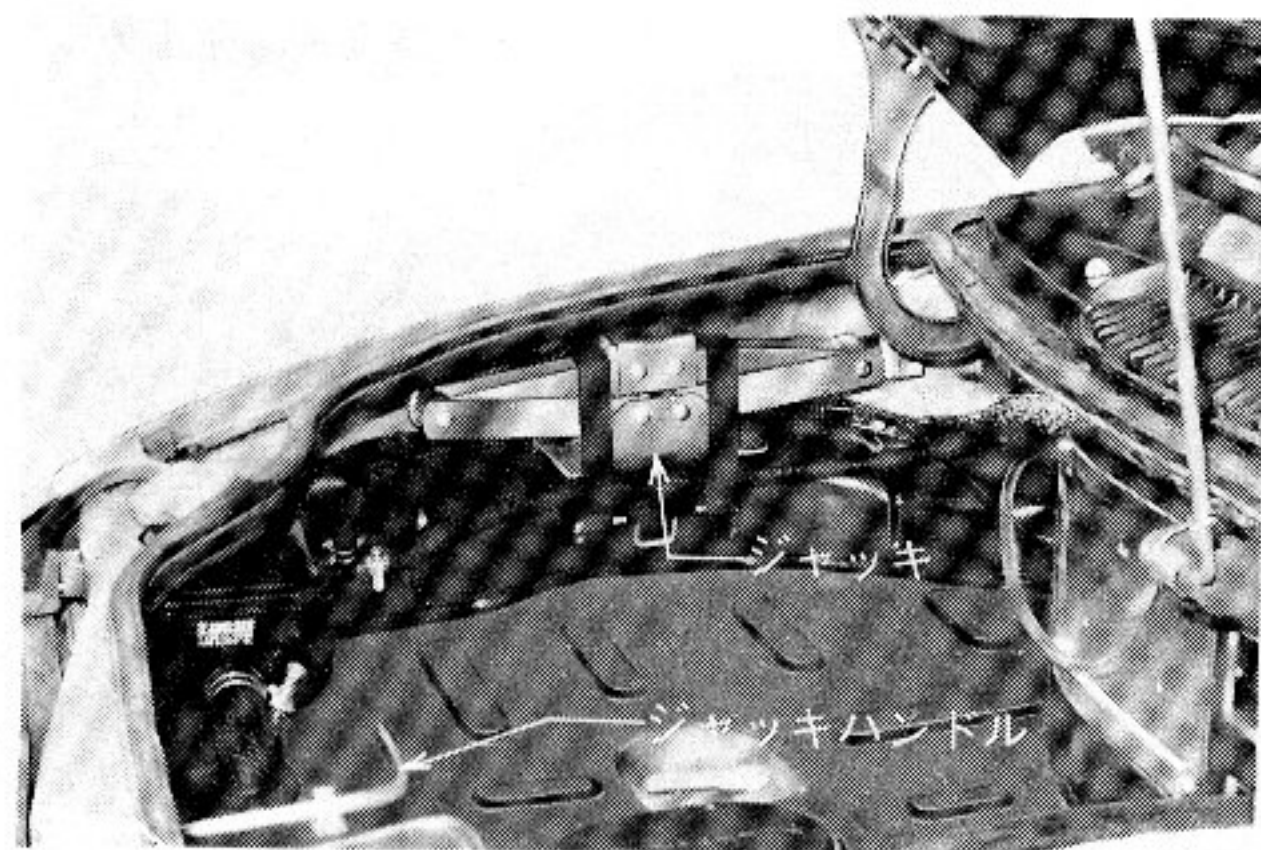
◆ 携帯工具

スズキフロンテLC20型には下記のような携帯工具が添付されています。

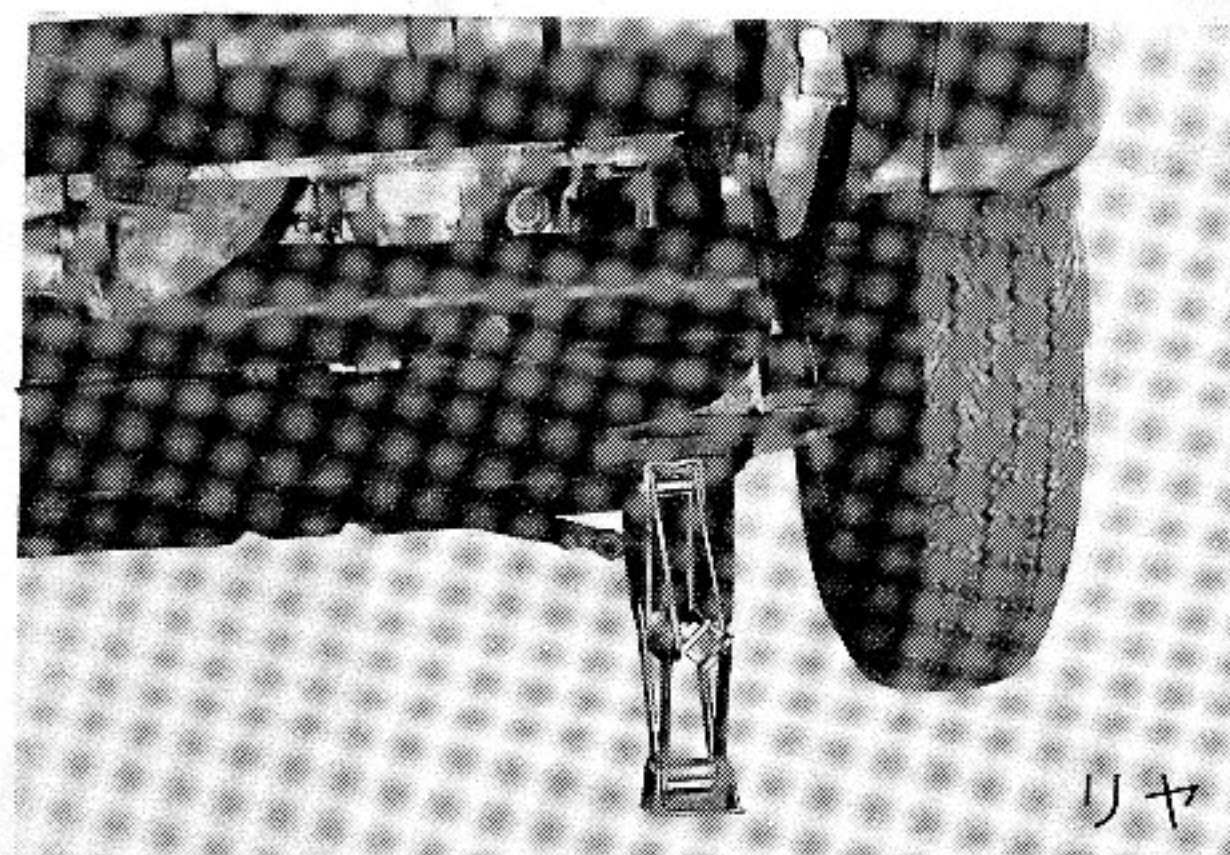
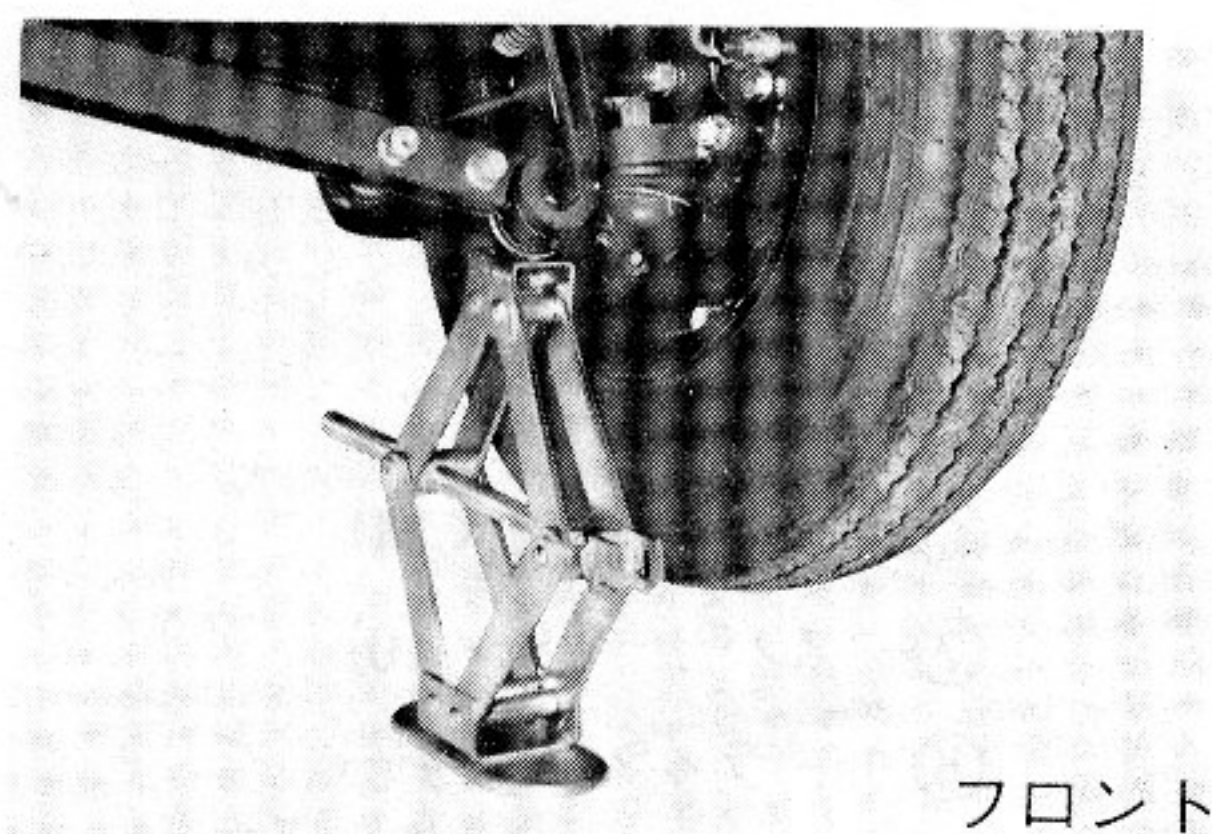
日常の点検、手入れの際にご利用ください。



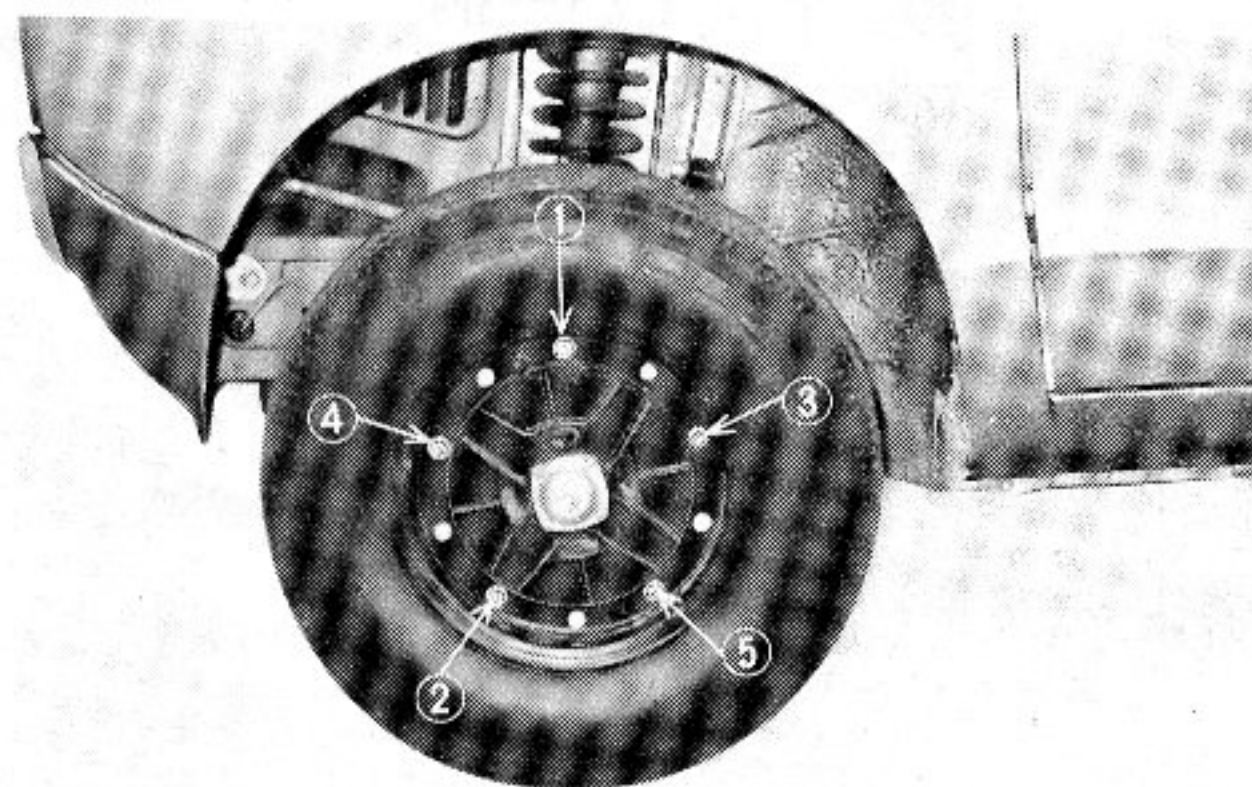
- ① ジャッキ
- ② ジャッキハンドル
- ③ ボックスレンチ
- ④ L型レンチ
- ⑤ プライヤー
- ⑥ スパナ (12×14)
- ⑦ スパナ (8×10)
- ⑧ ドライバー ⊕ ⊖
- ⑨ ドライバー柄
- ⑩ ツールケース



- ◆ ジャッキ，ジャッキハンドルの格納
 フロントフードパネルを開けるとジャッキとジャッキハンドルが格納されています。
 ゴムバンドをはずすと取り出せます。
 スタンダード仕様はジャッキのシャフトを左へ回して取り出してください。



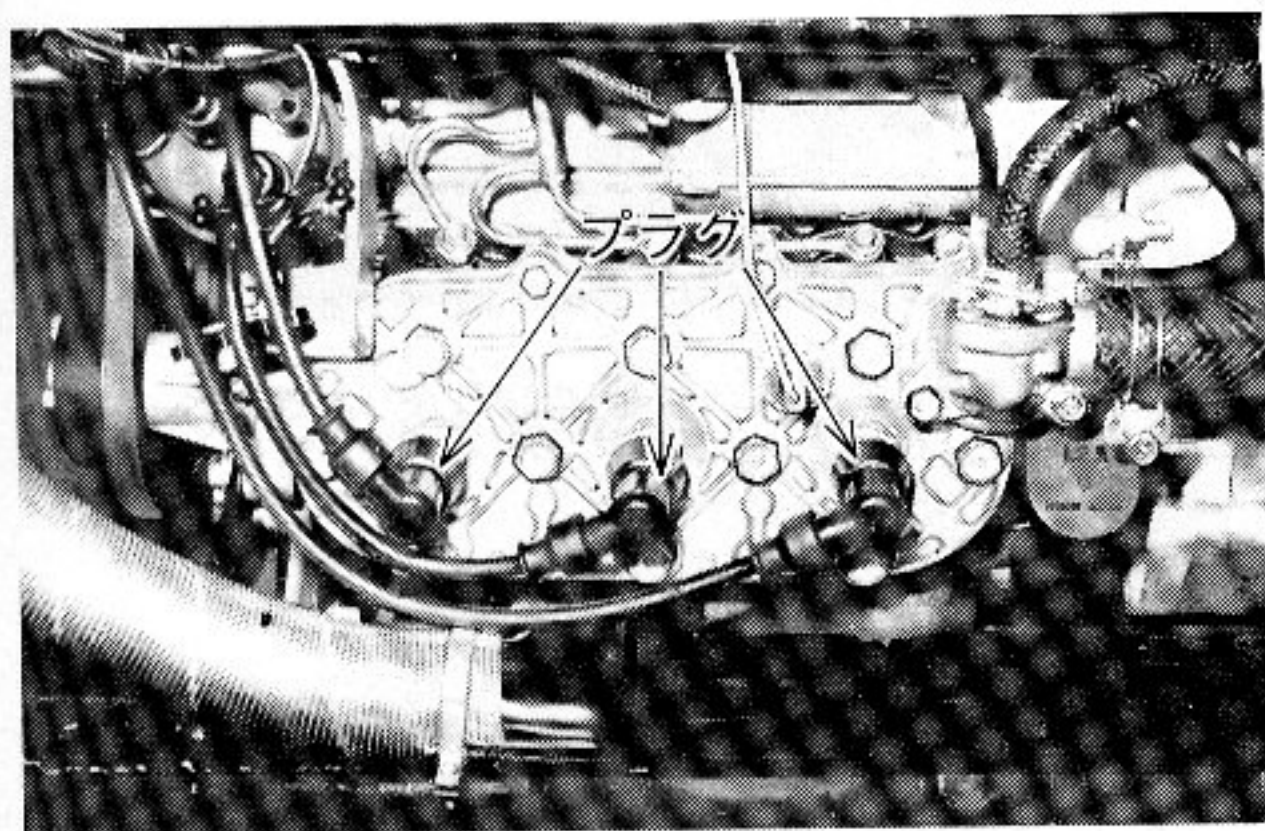
- ◆ ジャッキのかけ方
 ○フロント…ロアサスペンションアーム
 下側にかけてください。
 ジャッキはななめにならないように注意してください。
 ○リヤ………リヤサスペンションアーム
 にかけてください。



◆ タイヤの取替え

サイドブレーキをかけ，タイヤの前後に歯止めをします。交換しようとするタイヤのホイールキャップを外し，ハブナットを弛め，ジャッキアップする。ハブナットを取外しタイヤ交換する。タイヤ交換したら図の番号順に均等に締めて車体をおろしジャッキを外す。

ジャッキを外したらハブナットをさらに確実に締めつける。



◆ スパークプラグの点検

スパークプラグは 3,000km走行時に清掃, 調整。

6,000km走行ごとに交換してください。

スパークプラグの火花間隔は 0.6~ 0.7mmに調整してください。

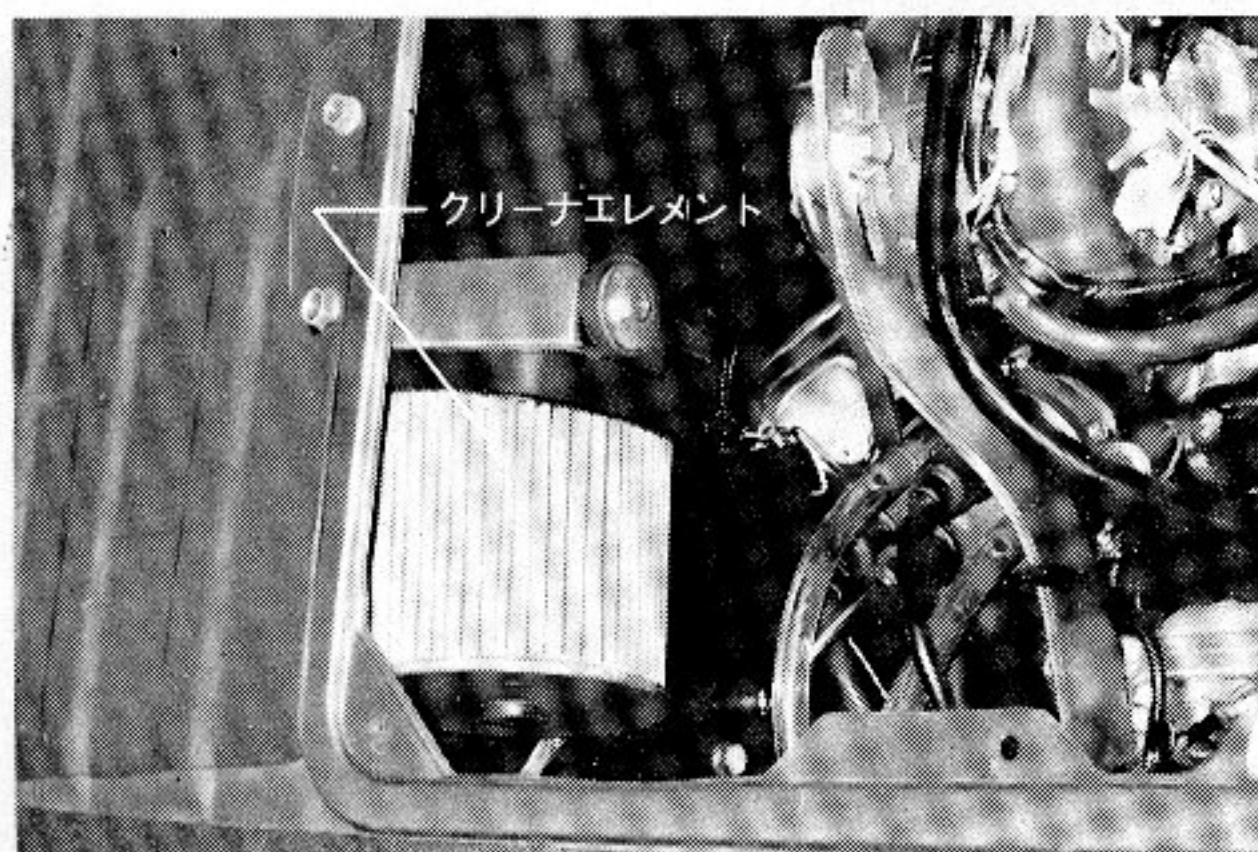
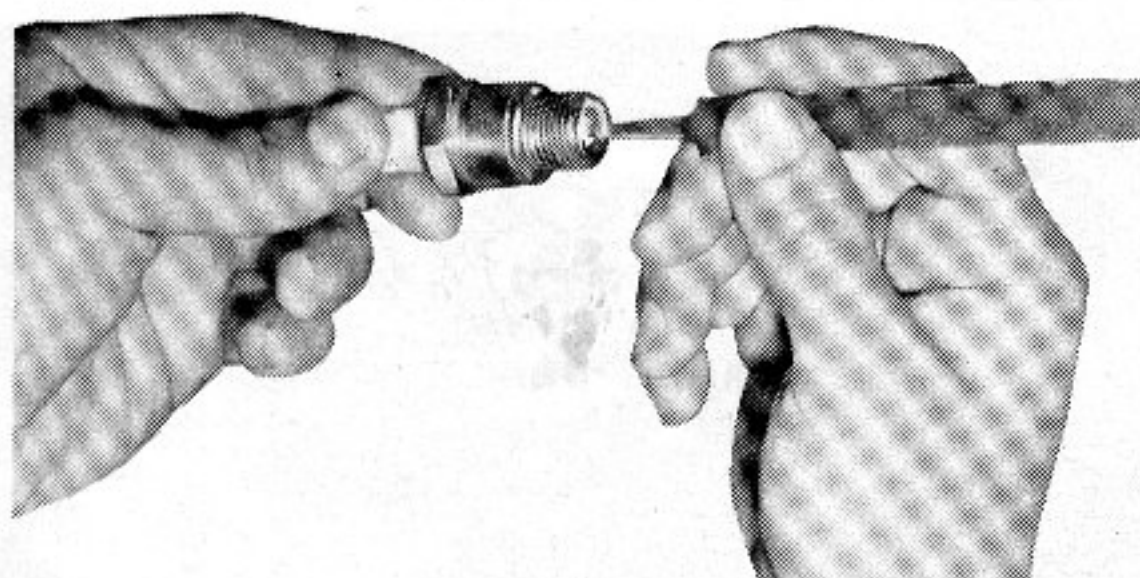
カーボンが推積しているものは, プラグクリーナーか尖ったペン等で掃除してください。

◆ スパークプラグの交換

電極部の損耗のあるものや, 碍子部に亀裂や傷のあるもの及び外傷が認められなくても 6,000km走行したものは交換してください。

また, 長時間の高速走行や過酷な運転される場合は, 普通より一段熱価の高いものに交換してください。

	普通走行	高速走行
32P S	BP 6 HS又はW20FP	BP 7 HS又はW22FS
35P S	B 7 HS 又はW22FS	B 8 HS 又はW24FS

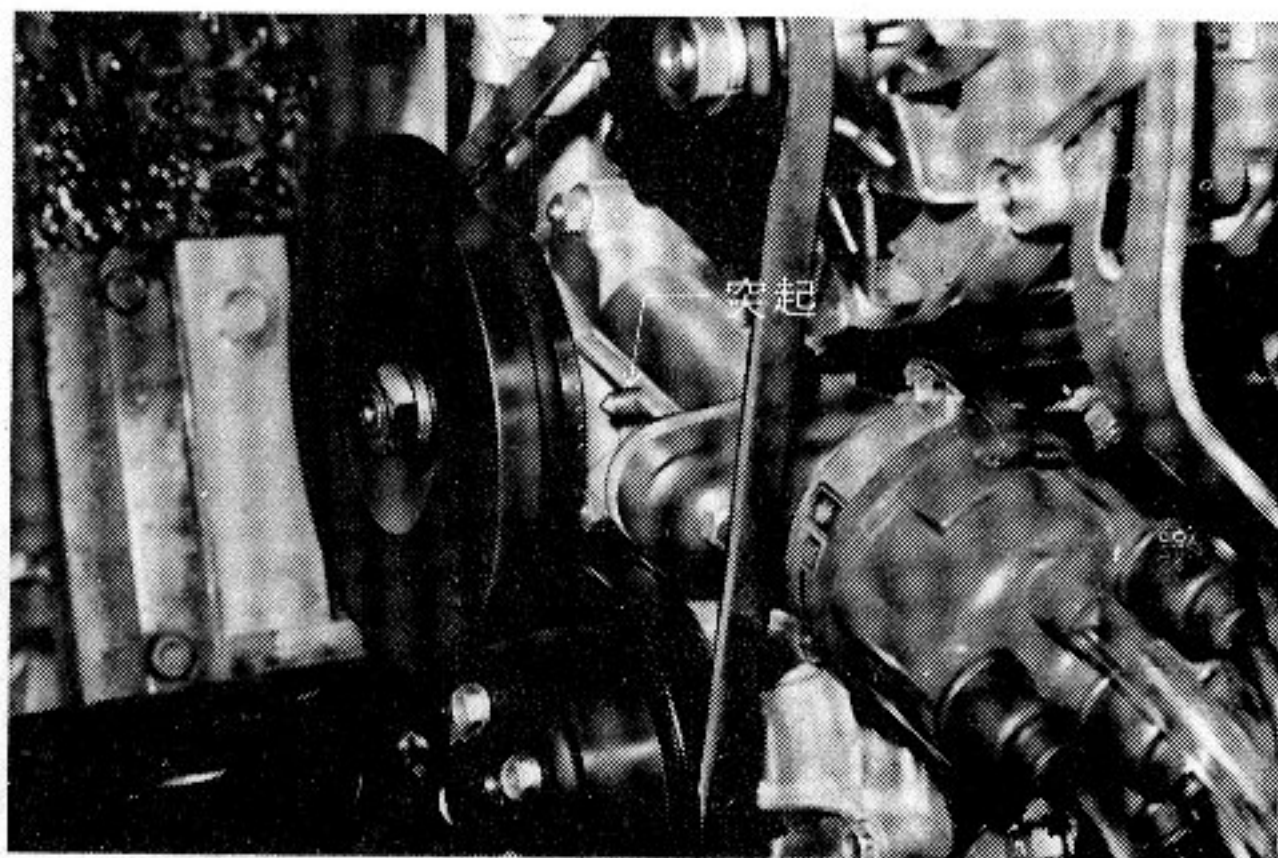


◆ エアクリーナの清掃, 交換

コックを外し, キャップを取り外しエレメントを取り出します。エレメントの清掃は圧縮空気等でホコリを吹き飛ばしてください。

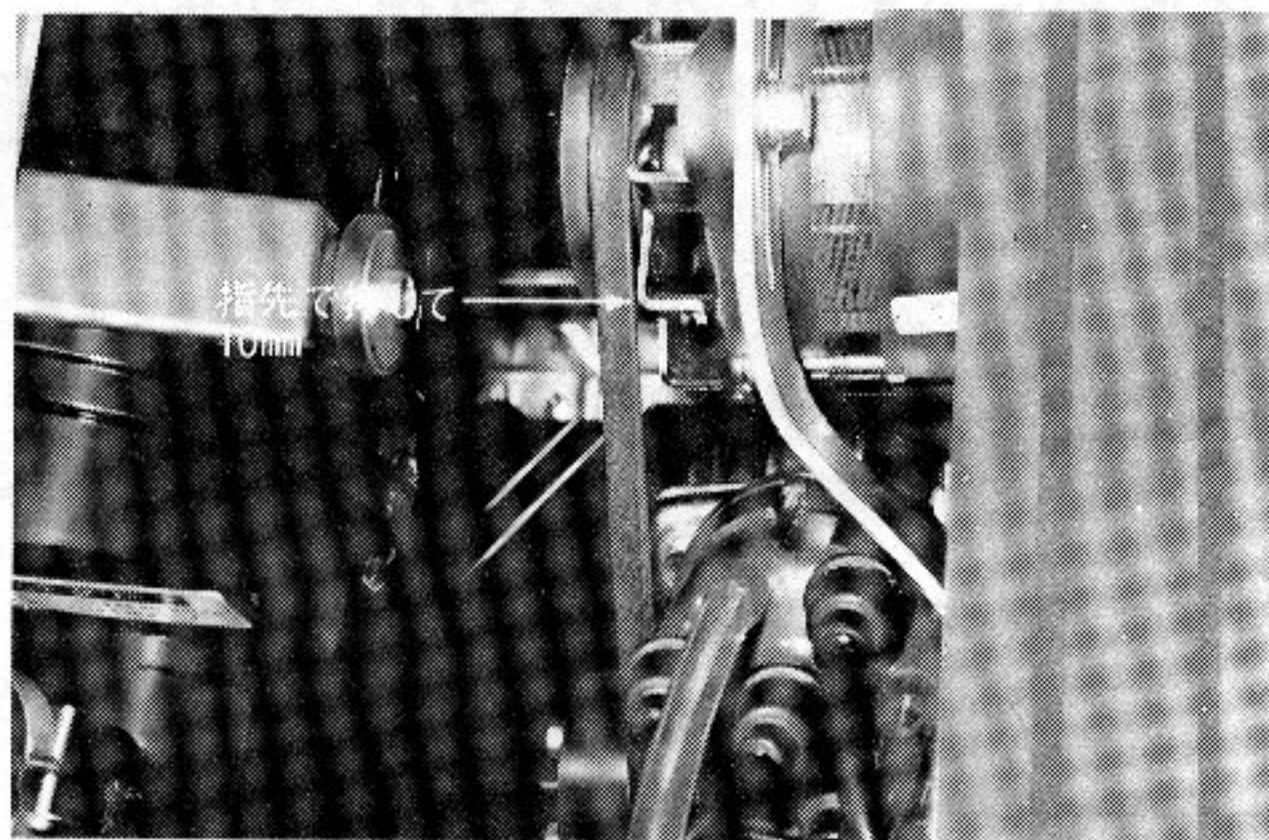
清 掃…… 1,000km ごとに清掃

交 換……10,000km ごとに交換



◆ 点火時期の点検

- 1) イグニッションスイッチを入れる。
- 2) 一番左側のプラグを取り外し、プラグキャップにはめてアースする。
- 3) プーリーを回し、クランクケース側の突起とプーリーの刻印17度の所で火花が飛ばばよい。

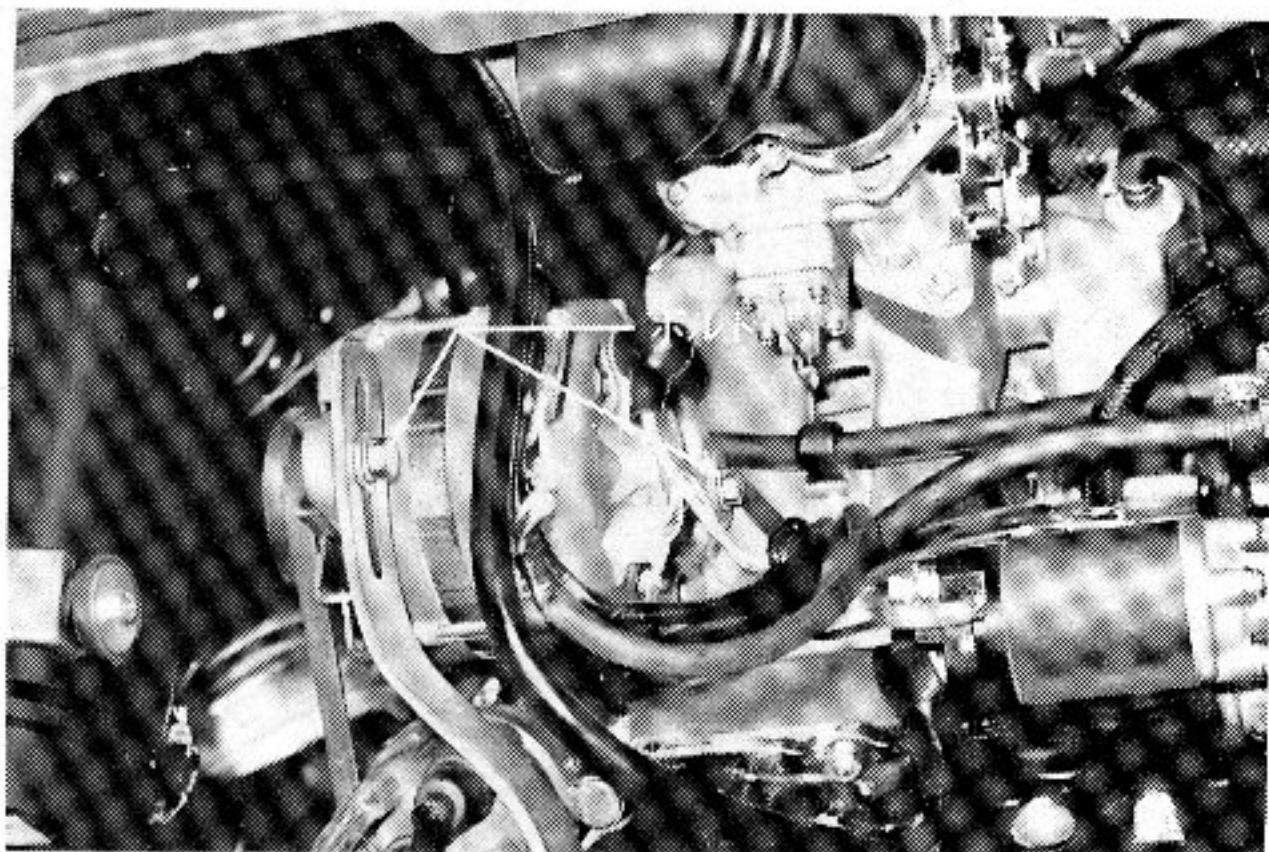


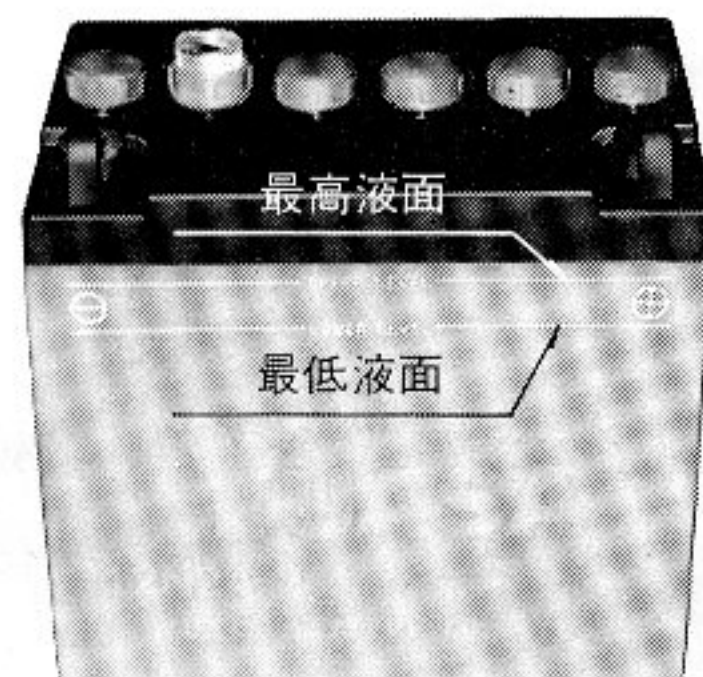
◆ ウォータポンプベルトの点検, 調整

ウォータポンプベルトのたわみは、ウォータポンプとオルタネータの間を指で強く押してたわみ量が10mmが適当です。

調整……オルタネータのセットボルト 3本をゆるめてオルタネータ本体を動か
し、ベルトの張りを調整します。

ゆるめたボルトは確実に締めて固定してください。





◆ バッテリー液の点検

バッテリー液は常に最高液面と最低液面の間になければなりません。最低液面以下になったら直ちに蒸留水を補給してください。

《注意》○バッテリーからは可燃性の水素ガスが発生していますので火気を近づけない

ようにしてください。又端子、液栓が確実にしめてあるか点検しましょう。

○バッテリー液が皮膚に着くとその個所が侵されますので、注意してください。

○充電をする時は車から取外し液栓を全てはずしてください又密閉された場所では換気に注意してください。

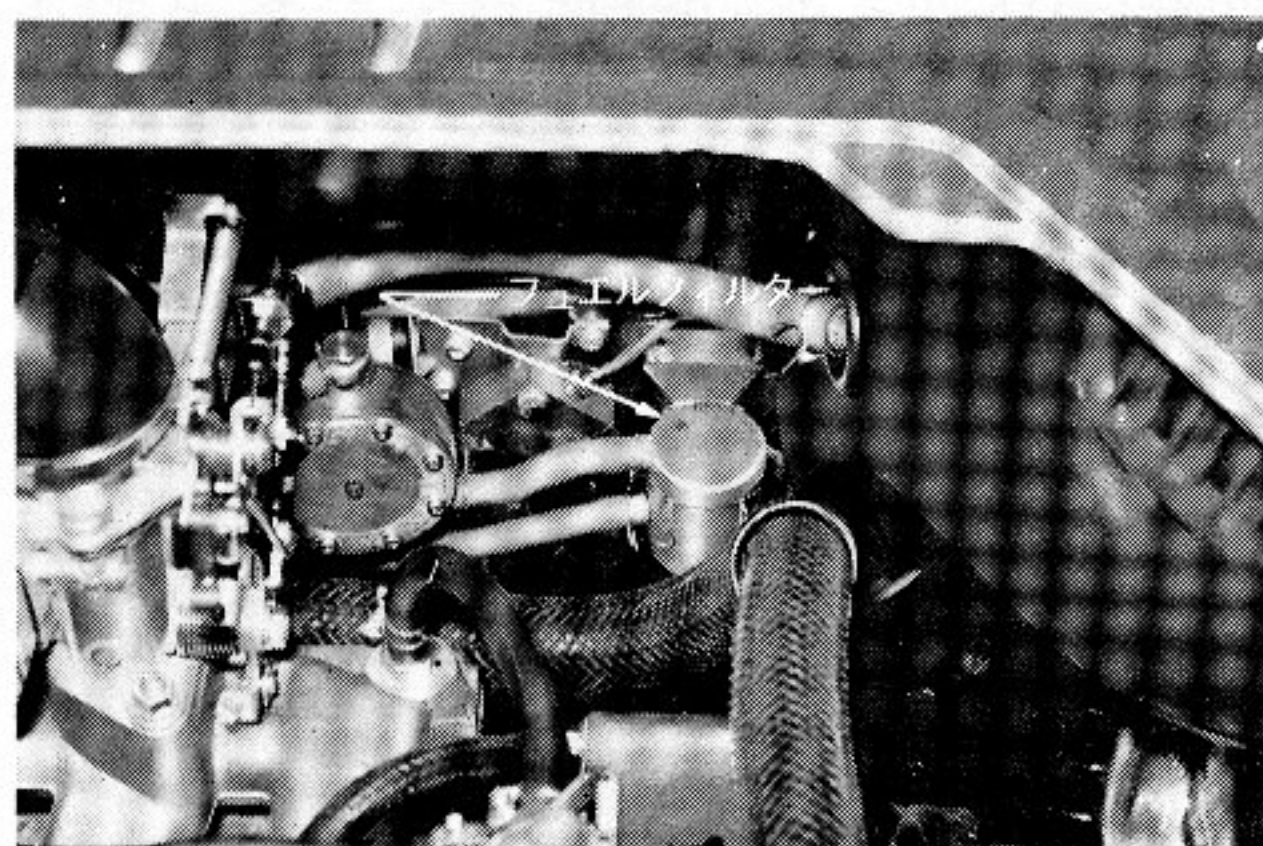
○バッテリーは消耗品です、1.5～2年を目安として交換しましょう。

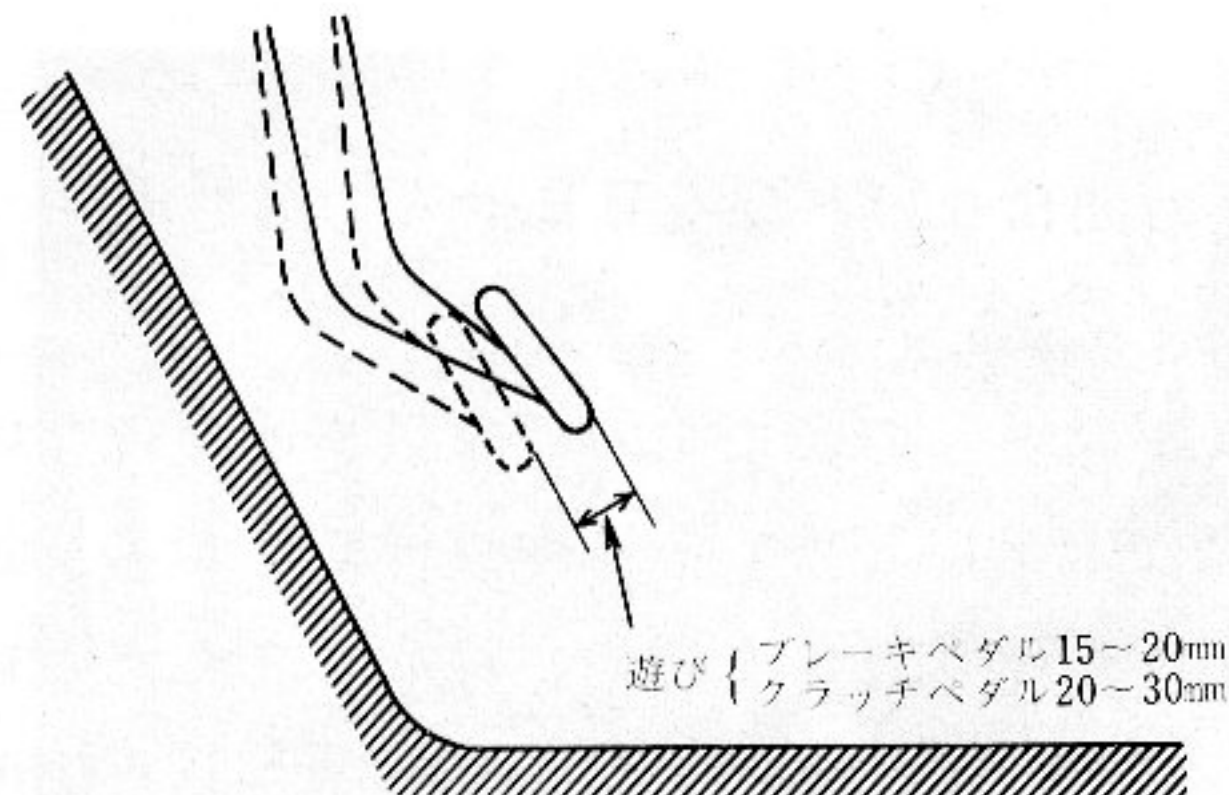
◆ フューエルフィルターの交換

フューエルフィルターは35,000km～40,000km走行ごとに交換してください。

フューエルフィルターはエンジンルームにあります。取り外す際はサークリップを取り外し、引っぱるとホルダーより抜き出せます。

フューエルホースもサークリップを外して抜いてください。





◆ ブレーキペダルの点検,

ブレーキペダルの遊びは15~20mm。

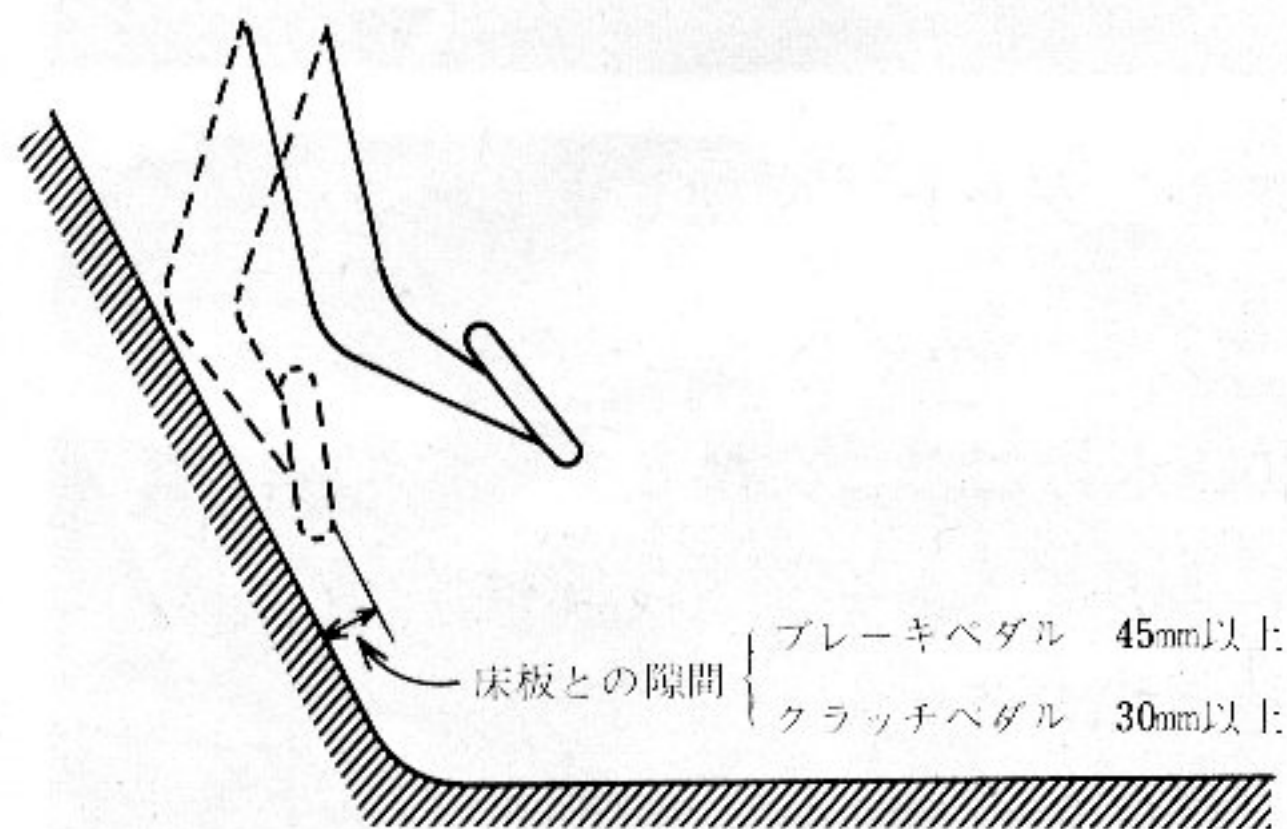
ブレーキペダルの踏み代は30~40mmが適当です。またブレーキが完全にきいた状態で床板との隙間が45mm以上なければなりません。

踏み代の大きいものやブレーキのききが悪いもの、片ききするものは調整をしてください。

◆ クラッチペダルの点検

クラッチペダルの遊びは20~30mm

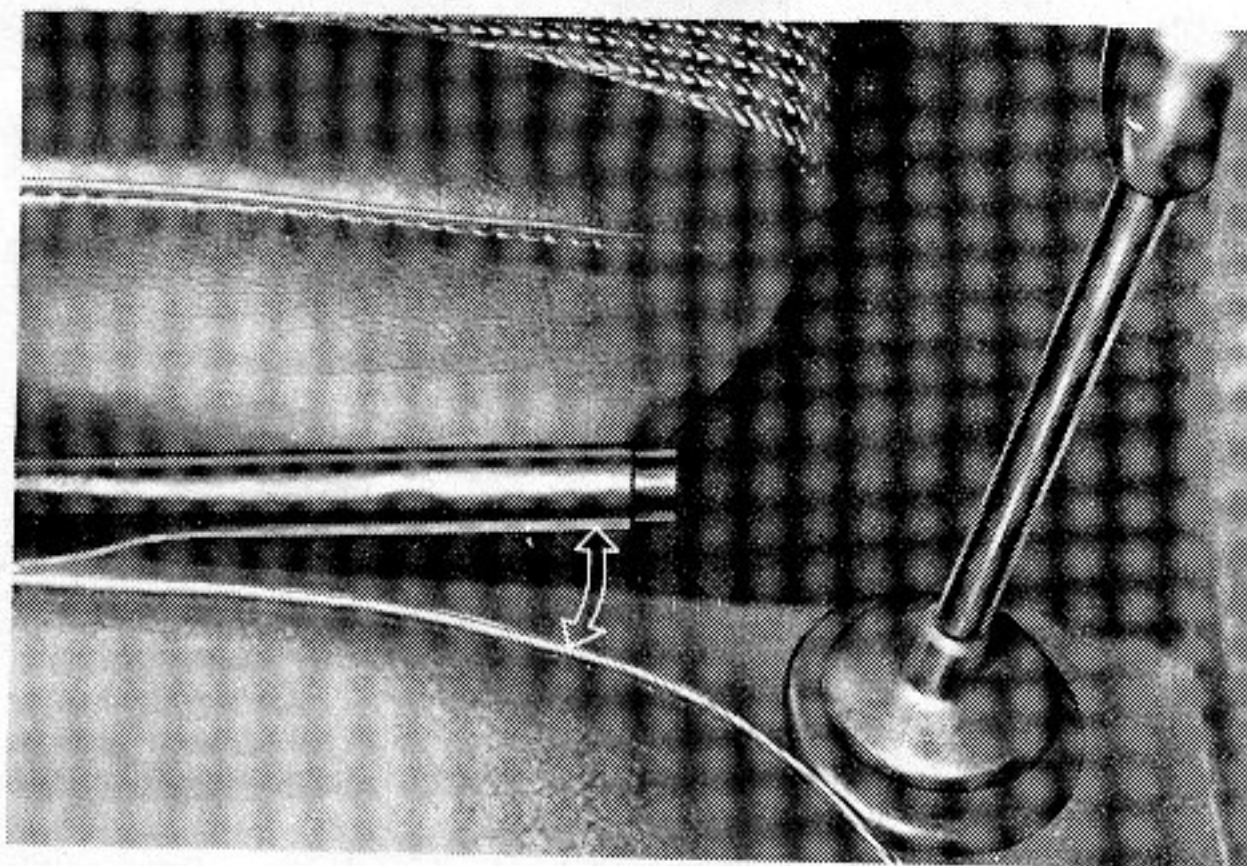
完全にクラッチが切れた時の床板との隙間は、30mm以上が適当です。ペダルを押して遊びの少ないものや大き過ぎるもの、クラッチの切れが悪くてギヤー鳴りのする場合はサービス工場で調整して下さい。



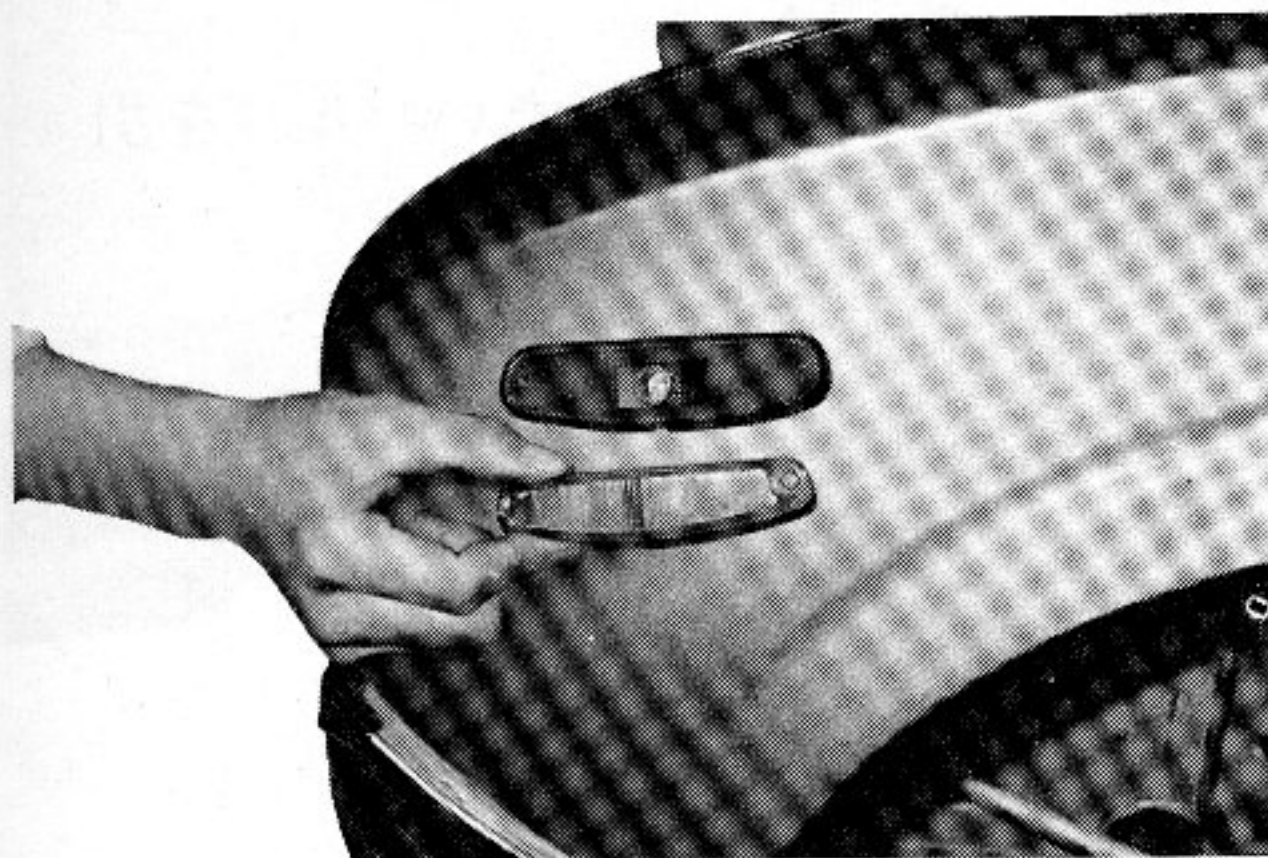
◆ パーキングブレーキの点検

パーキングブレーキレバーを引いて、ラチェットの歯が7歯以下で完全にブレーキが効くか、点検してください。

バーの引き代の大きいものはサービス工場で調整して下さい。



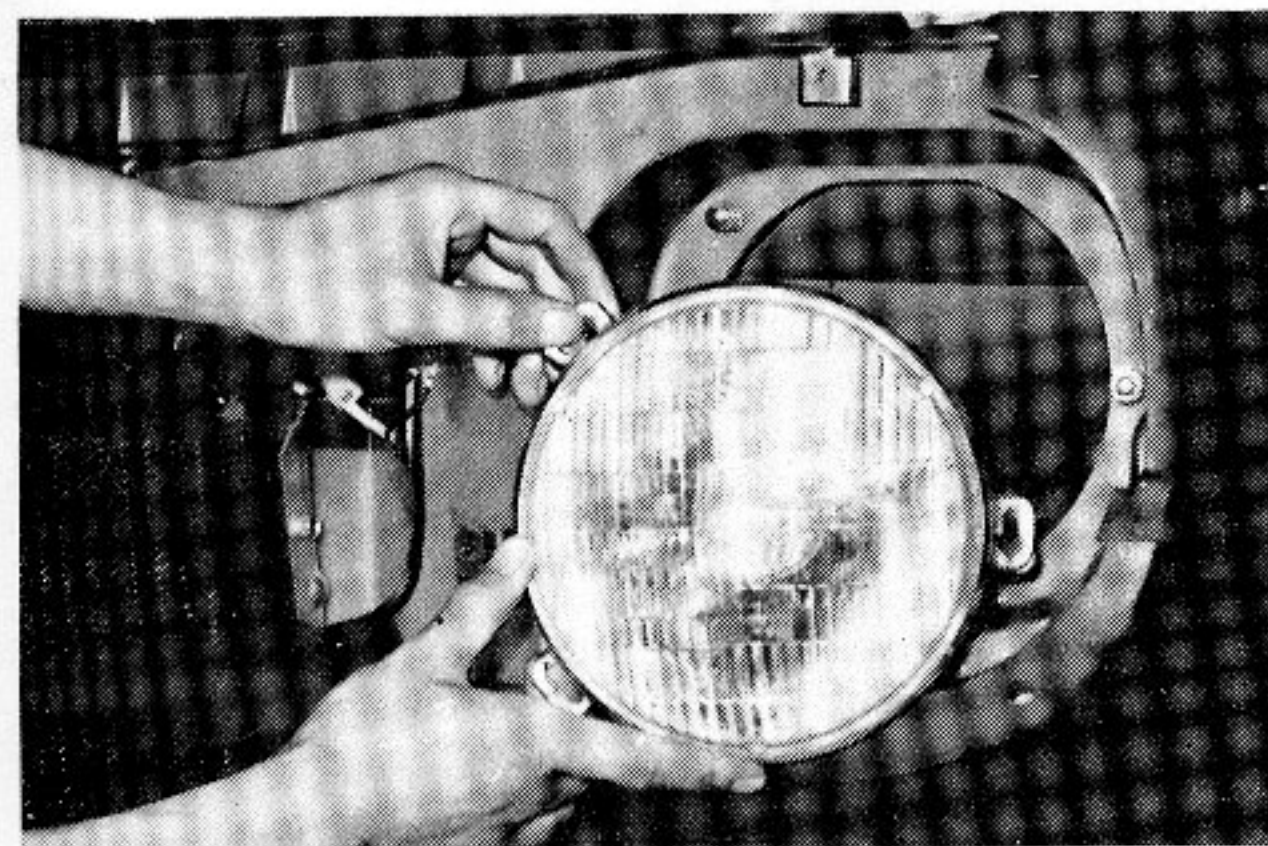
ランプ、バルブ類の交換



◆サイドターンシグナルランプ交換

レンズをとめている2本のビスを外してレンズを取り去り、バルブをわずかに押して左に回すと取り出せます。

レンズをはめるときにアースをかならず共締めにしてください。



◆ヘッドランプの交換

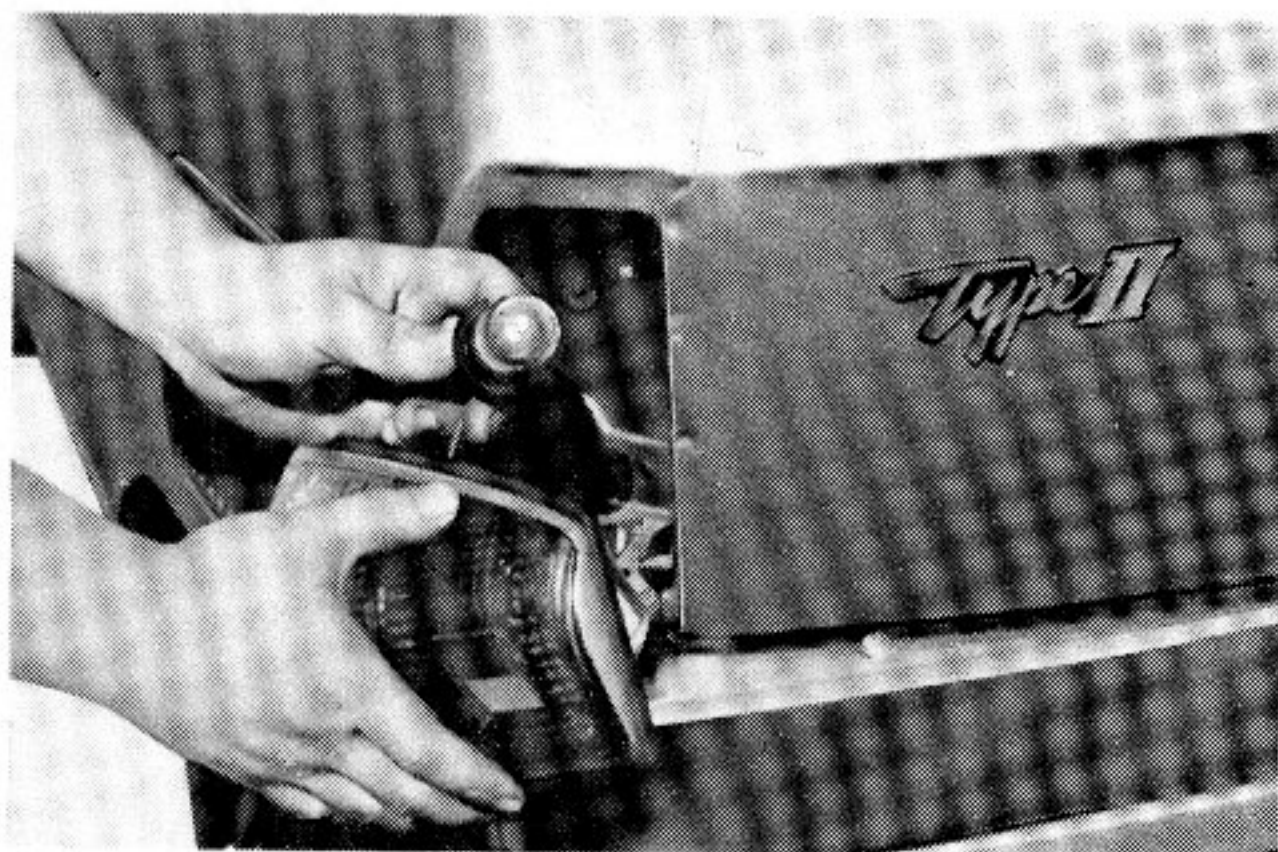
6本のビスを外してフロントグリルを取り去り、ランプを押しながら左にずらし、ランプ全体を取り外す。

尚ヘッドランプの照射角度は法律で決まっていますので、サービス工場で調整を受けて下さい。



◆フロントコンビネーションランプの交換

レンズをとめている2本のビスを外してレンズを取り去り、バルブをわずかに押して左に回すとバルブが取り出せます。



◆リヤコンビネーションランプ交換

室内より2本のビスを外し、ランプ全体を引き出し、交換したいバルブを引き抜いて交換してください。



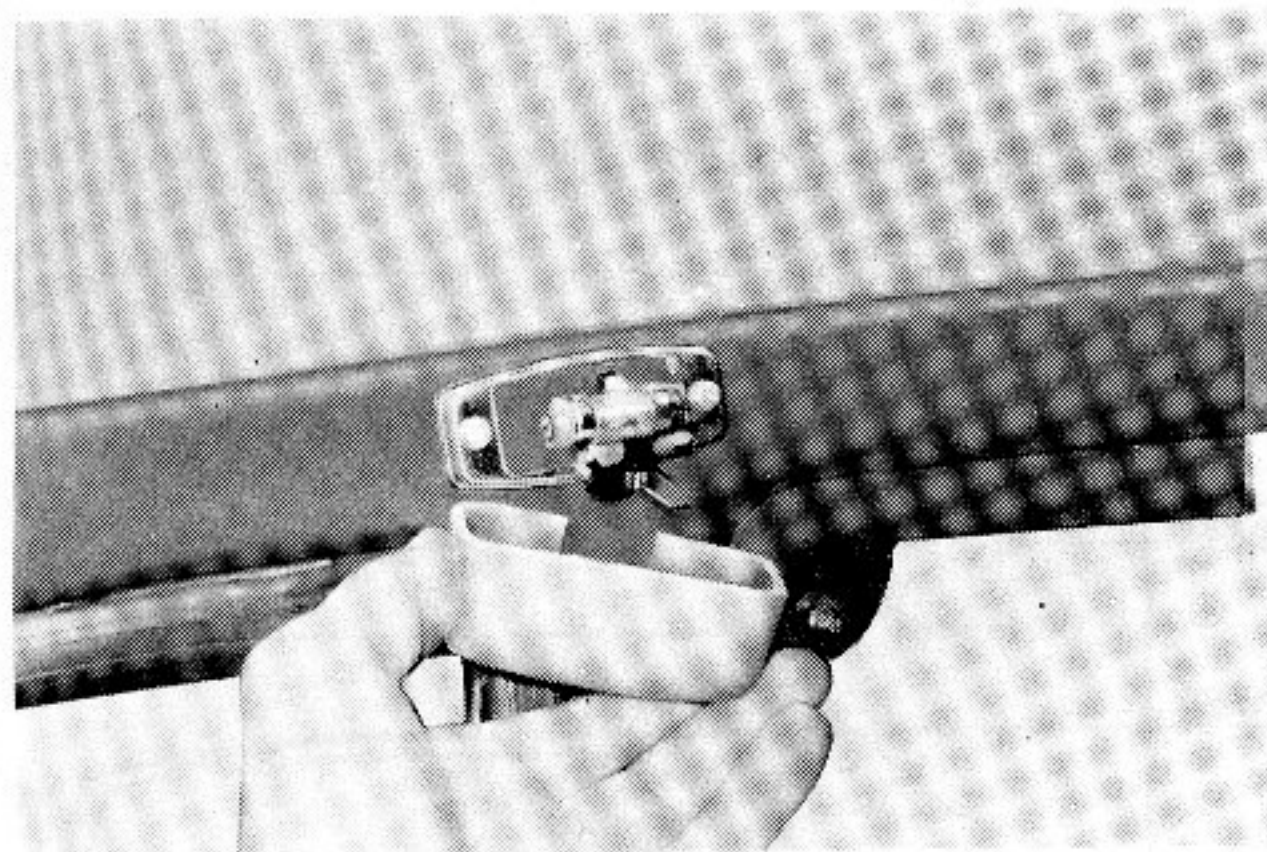
◆バックアップランプ交換

ランプを止めている2本のビスを外して、ランプ全体を取り出し、バルブをわずかに押しながら左に回すとバルブが外れます。



◆ライセンスランプ

レンズを止めている2本のビスを外して、レンズ本体を取り出し、バルブをわずかに押しながら左に回すとバルブが外れます。



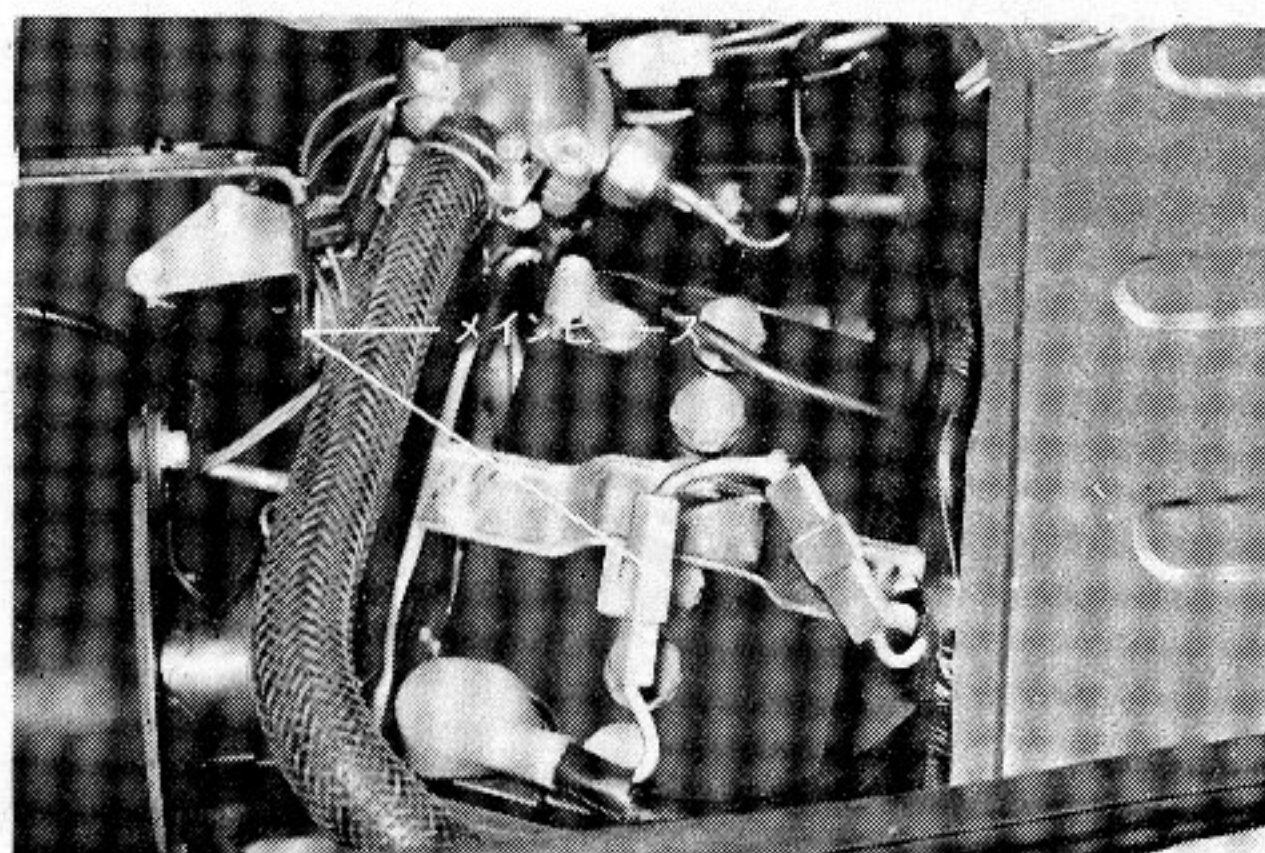
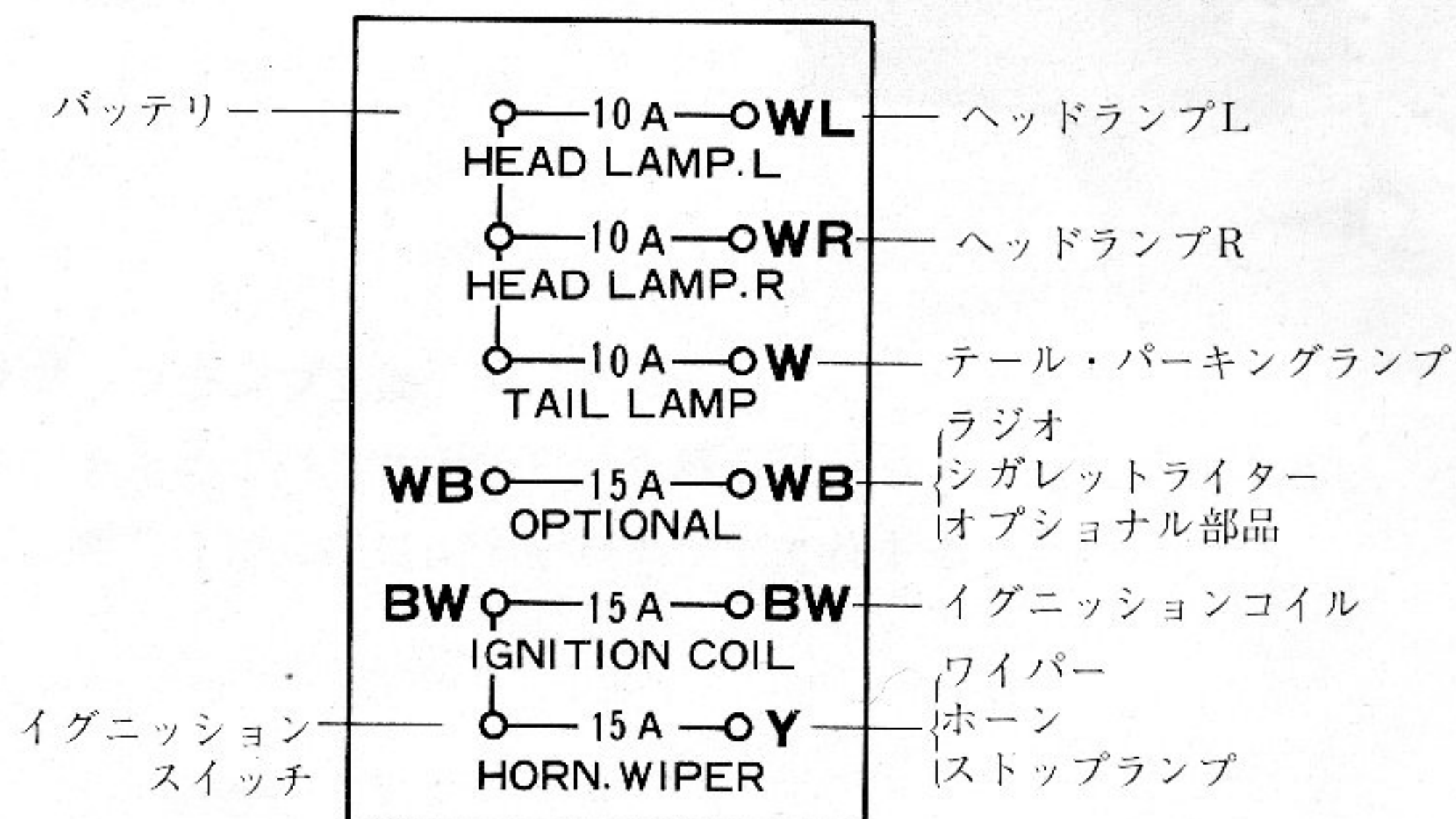
◆ルームランプ

レンズをつまみ引き抜きます。バルブを引けば外れます。



◆ヒューズボックス

計器板右下にヒューズボックスがあります。カバーを手で引き抜けばはずれます。交換の際は必ず規定容量のヒューズをご使用ください。



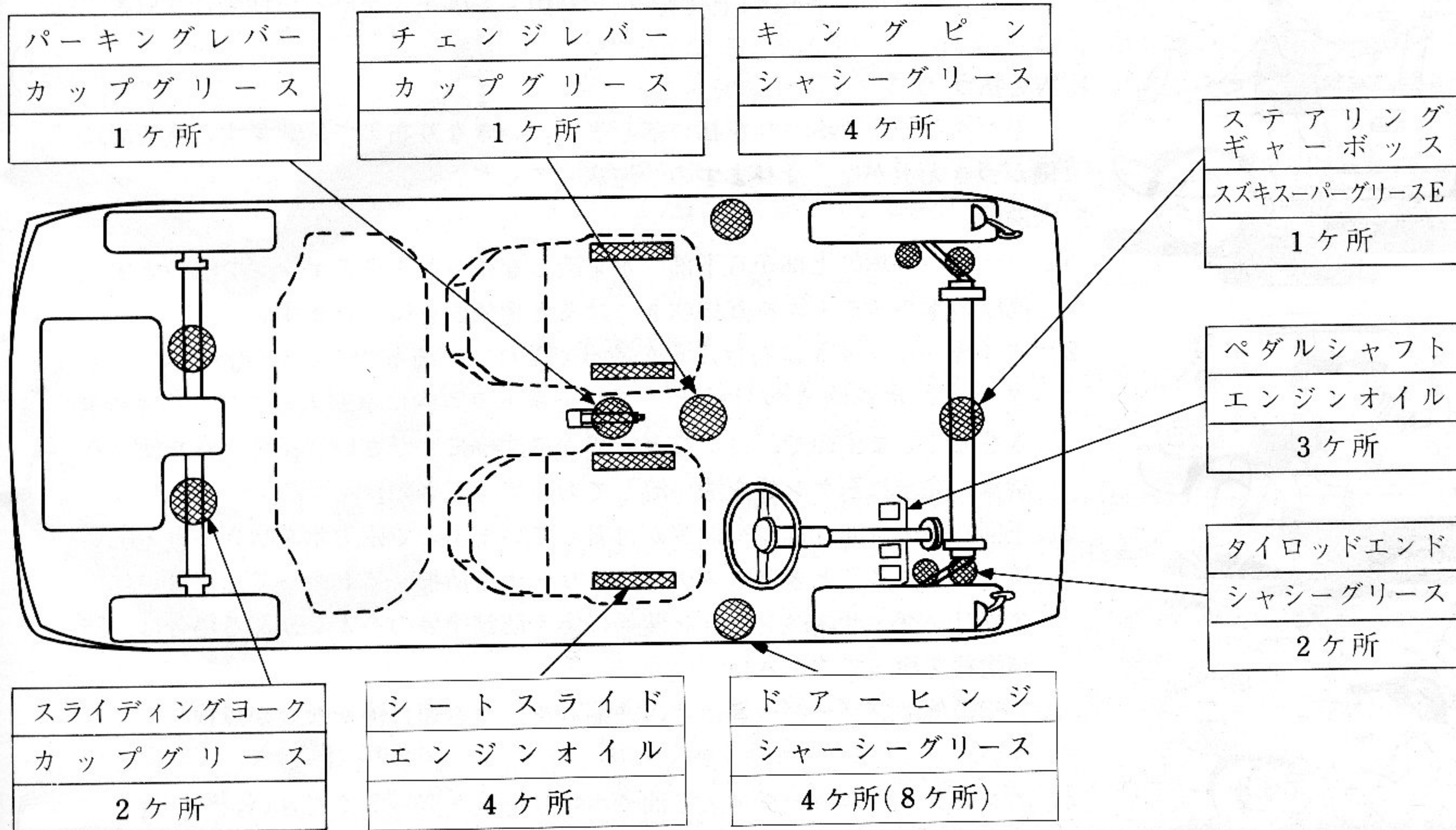
◆メインヒューズ

フロントフードパネルを開け、サービスリッドを取り外すとバッテリーの所にメインヒューズがあります。

交換の際は規定容量のヒューズをご使用ください。

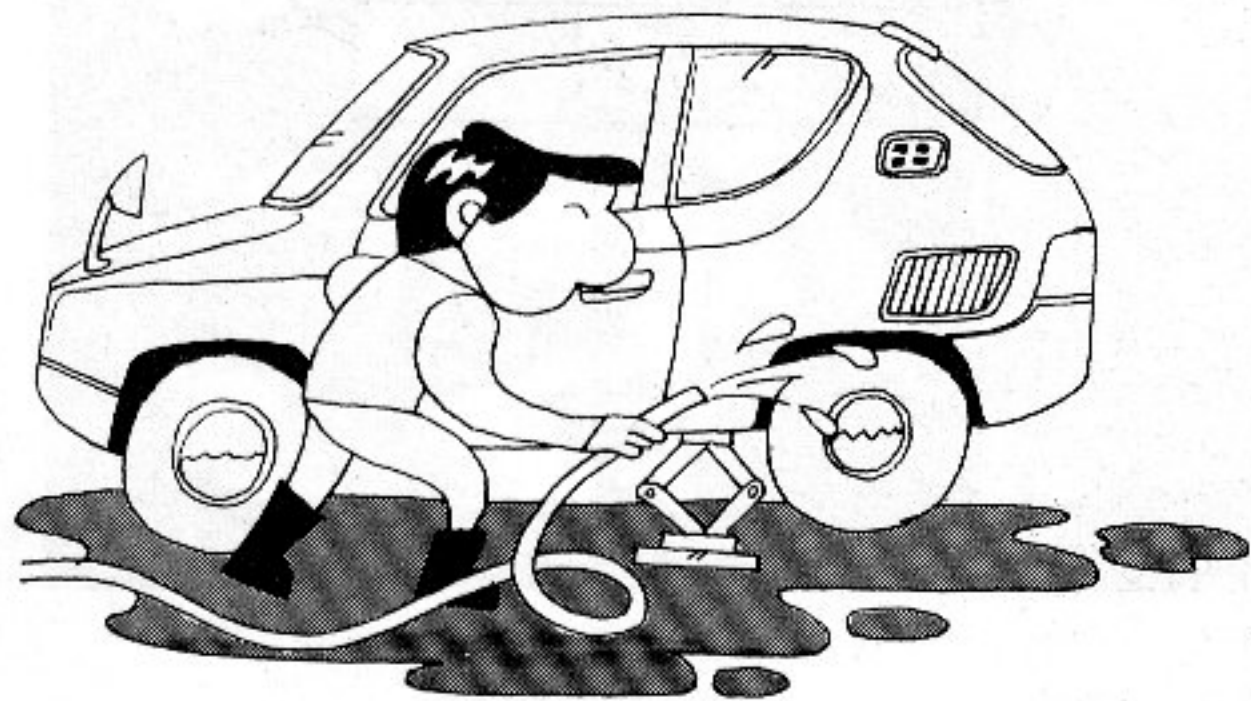
メインヒューズ	30 A
---------	------

◆ 6ヶ月ごとに下図の所に給油してください。



() 内は4ドア車。

日常の手入れ



◆洗車および車内の清掃

車の汚れは見かけが悪いばかりでなく、各部の機能を低下させ、あなたの愛車の寿命を短くします。日曜休日を利用して洗車や車内の清掃を行ないましょう。

1. 埃を払う

毛バタキで埃やホコリを払い落します。いきなり布等で拭きますと塗装面に傷がつき光沢がなくなりますので注意してください。

2. 水洗い

1) ボデー……車の上部から下部へ水を流しながらハケやスポンジで洗います。

高圧の水やスチームを直接吹きつけると塗装面を傷つけます。

2) タイヤ……タイヤは石けん水を使ってきれいに洗ってください。

タイヤに水を吹きつけると、ブレーキドラム内に水が入ってブレーキのききを悪くしますので、ハケなどで静かに洗ってください。(石けん水を使った時は、完全に石けん分を洗い流しておいてください)

3) 下回り……下回りは泥や油等が付着していますので圧力水を吹きつけて洗い流します。又、ときどきスチームクリーナーで清掃してもらってください。

スプリング・サスペンション関係に傷や防錆塗装のハガレがある場合は、防錆塗料を塗ってください。

その他アブゾーバー等からの油漏れや、ゴム類に傷がないか点検してください。

4) エンジンルーム……ウエスで油やホコリを拭き取ってください。



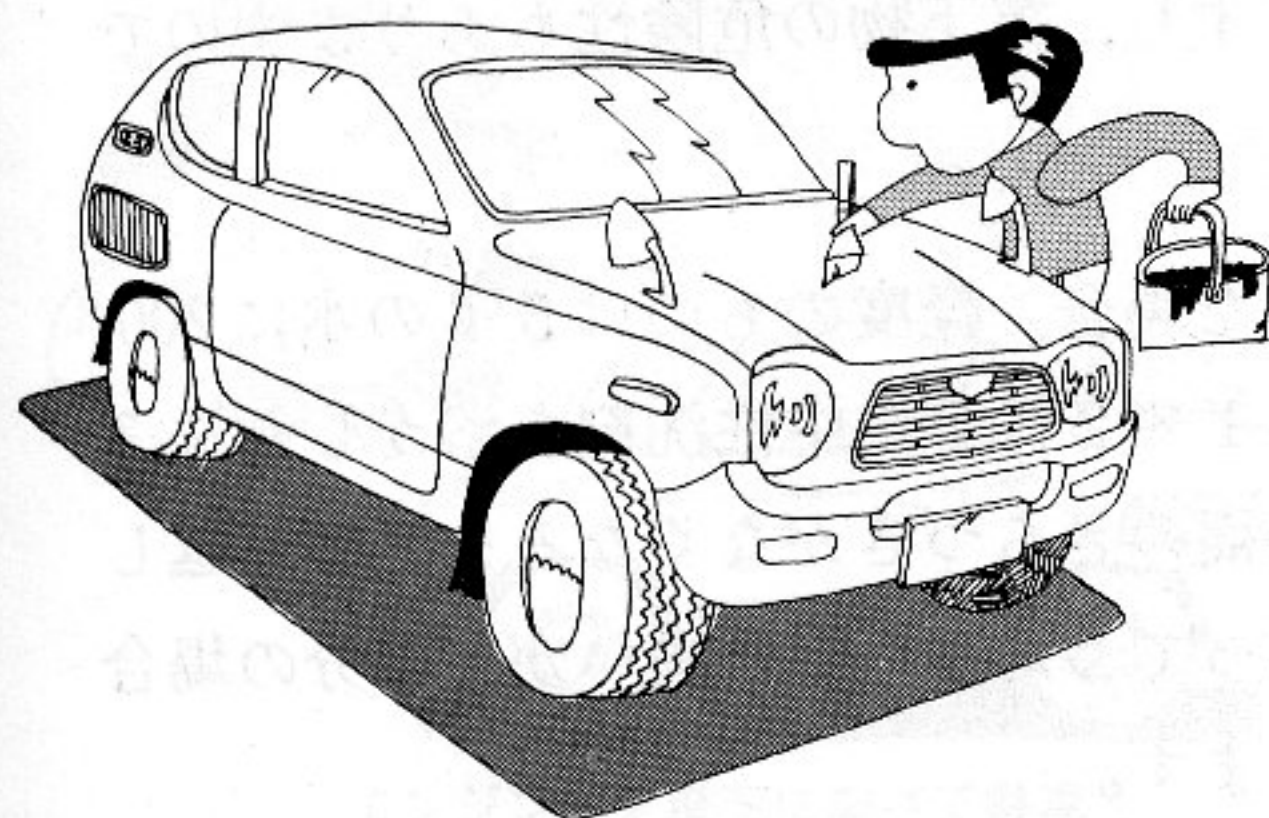
3. 水気を拭き取る

セーム皮か柔い布で充分拭き取ります。窓ガラスやメッキ部品の水気も充分に拭き取ってください。

4. ワックスをかける

柔い布にワックスをつけて良くのばし、少し乾いてからきれいな柔い乾布で磨きます。塗装面がいつまでも光沢を保つ為に少なくとも月に2回はワックスをかけるようにしましょう。

※車を磨いている時に、塗装面の傷を発見したらすぐに修正塗装をお買い上げ販売店または代理店のサービス工場にお命じください。(傷が小さい場合には筆で修正できます) 小さい傷と思ってそのままにしておきますと錆が発生して取返しがつかなくなります。



5. 車内の清掃

車内をいつもきれいにしてスッキリした気持で運転しましょう。室内のシートや内張り、マット等汚れたまま長く放置しておきますと汚れが取れなくなります。

2か月に1度位は次の要領で車内の大掃除を行ないましょう。

- 1) フロントシートを外してホコリや汚れを払い落とし、通風の良い所で陰干しをします。
- 2) フロアーマット類も取り外して良くはたき(レザーの場合は水洗い)乾燥させます。
- 3) グローブパッケージトレイ(物入れ)、アッシュトレイ(灰皿)もきれいに掃除しておきます。
- 4) 車内のゴミをひろい、電気掃除機などを利用して埃を除きます。
- 5) リヤシート、トリムボード、ダッシュボードのレザー等の汚れをきれいな布で拭き取ります。(汚れがひどい時は石けん水を使用してください)
- 6) ドアの水抜き孔がつまってドアの中に水がたまることがありますのでつまっている時には針金で孔を通してください。



◆塗装面を保護するための留意事項

1) 洗車清掃は手まめに行なってください。

汚れは時間がたつと落ちにくくなり、また塗装面に異物が入ったままにしておくと塗装面が化学変化しやすく、はん点変色の原因になりますので注意してください。

2) 排煙の多い工場、線路際、外灯の下近くに駐停車はさけてください。

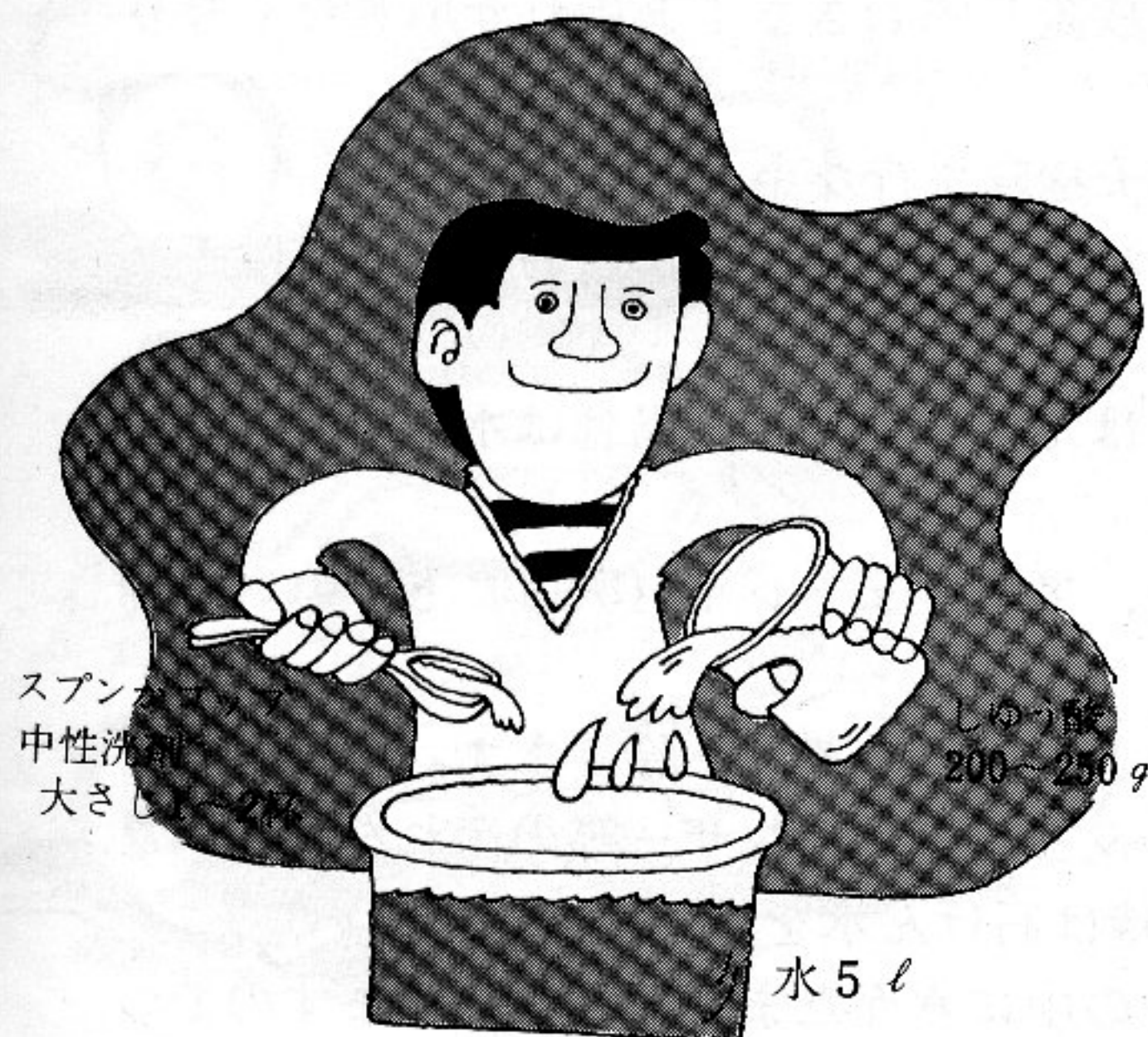
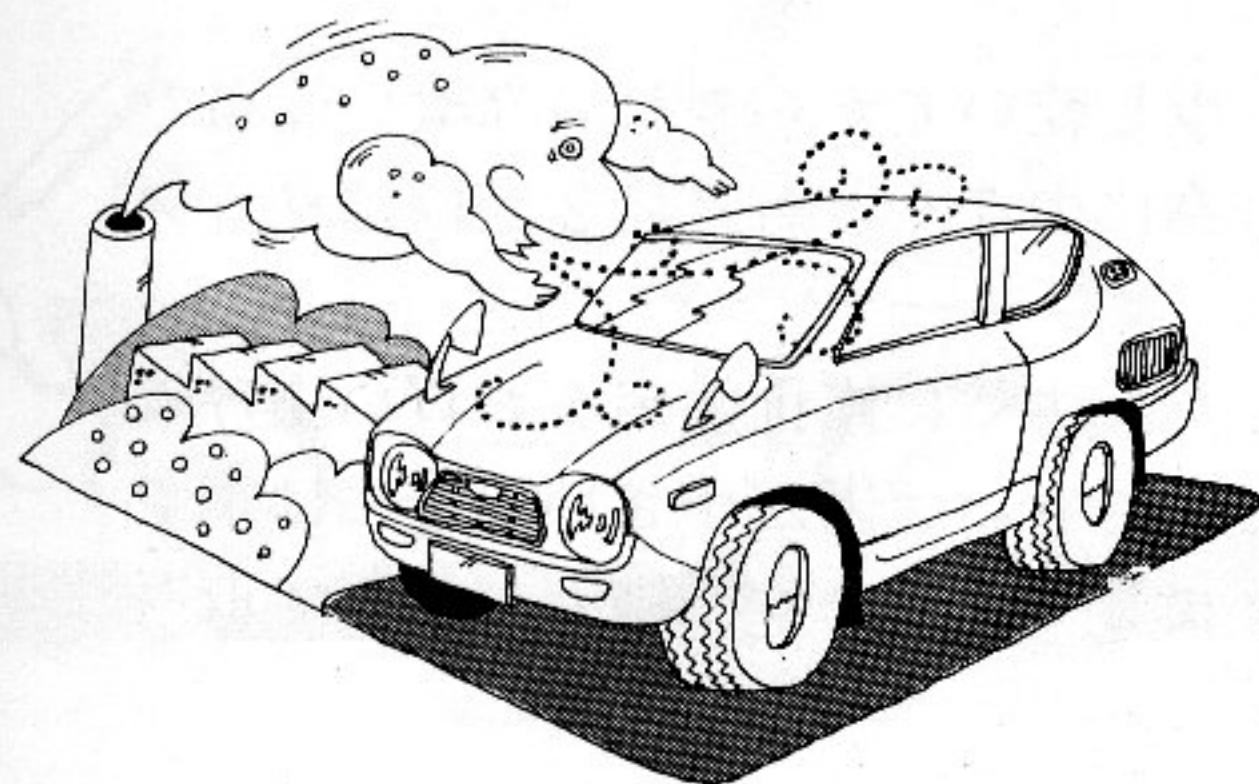
工場の排煙、砂塵、虫の排せつ物や体液が塗装面に付着しますので、できるだけ駐停車はさけ、やむを得ない場合は車体カバーで覆ってください。

3) 工事現場近くに駐停車はさけてください。

溶接火花にさらされる危険がありますし、落下物の危険性もありますのでさけてください。

※1. 鉄粉が錆びて細かい点錆が発生した場合、軽度のものは5ℓの水に200～250gのしゅう酸（乾性）と大さじ1～2杯分の中性洗剤を溶かした洗浄液をスポンジまたは布につけ、塗装面のざらつきがなくなるまで繰り返し念入にこすった後、水洗を充分行なってください。水洗いが不十分の場合は点錆や、しみを生ずることがあります。

※2. 工場、その他の排煙等によるはん点、しみおよび昆虫類、樹液、農薬等によるはん点が発生した場合、軽度のものは水洗いし、ポリッシングコンパウンド、カーワックスでみがいてください。



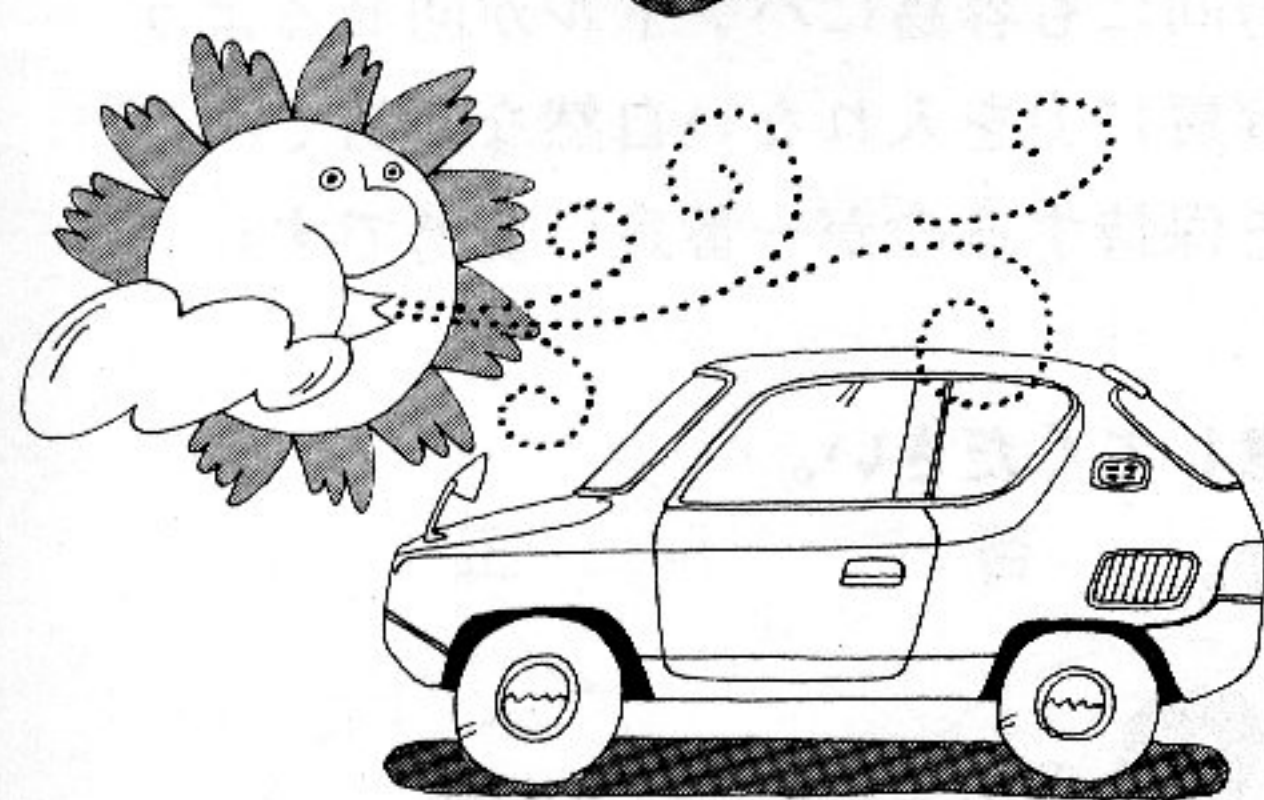


◆車の保管

車は一日の半分は眠っています。塗装、メッキ部品等の寿命はこの保管の仕方の良否によって大きく左右されます。車の保管にはつぎの事項に注意してください。

1. 格納

- 1) 出来るだけ直射日光、風雨にさらさず、ガレージ等に格納しましょう。(ガレージがない場合には車体カバー等で覆います)
- 2) タイヤのために水たまりをさけて乾燥した所に保管しましょう。
- 3) 災害や水害の場合にはすぐに出られるように心掛けて格納しましょう。
- 4) いたずらや、盗難防止のためアンテナは格納しましょう。



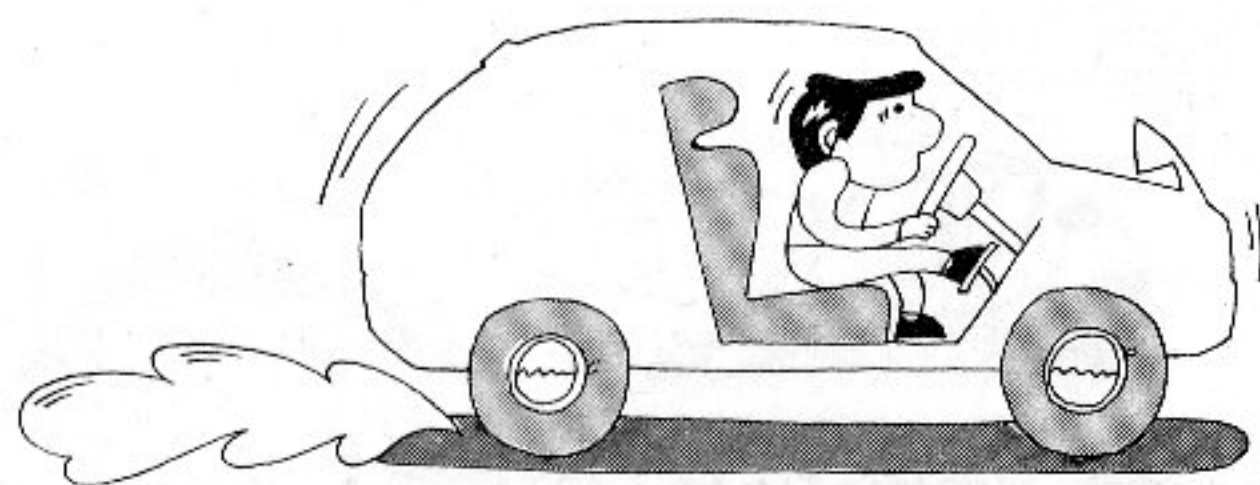
エンジン部を風下に向けて駐車

2. 寒冷時の注意

同じ車庫の中でも場所によって気温が違います。車庫の奥の方(気温の高い所)にエンジンを持ってくるようにしますと始動の時に随分と違ってきます。

また、野外に放置する場合にはエンジン部を風下に向けて駐車させ、長時間放置する場合は車体カバーで覆いましょう。

正しい運転



これでは疲れます



前へ飛び出さない注意が必要

◆姿勢

姿勢は運転の第一歩です。長時間の走行にも、悪路走行にもつかれない自然でゆったりした姿勢を保ちたいものです。そのためには

- 1) シートスライドの出来る車は自分の体身に合ったスライド量を決めます。シートスライドのない車は、シートクッションを敷くのも一つの方法です。
- 2) ハンドルにまっすぐ向い合って腰かけます。背中が背もたれにぴったりつきます。
- 3) ハンドルを保持するには、一般に手を10時10分の位置に保持するのが良いと言われています。要するにいずれの方向にも容易にハンドルが回せるように保持すれば良い訳です。肘を軽く曲げ肩に力を入れない自然な姿勢でハンドルの中央部、または、ややその上部を保持するのが一番良い姿勢です。

◆始動

エンジンをかける前にまず次のことに注意してください。

1. サイドブレーキは完全に引いてあるか。
2. チェンジは中立にあるか。

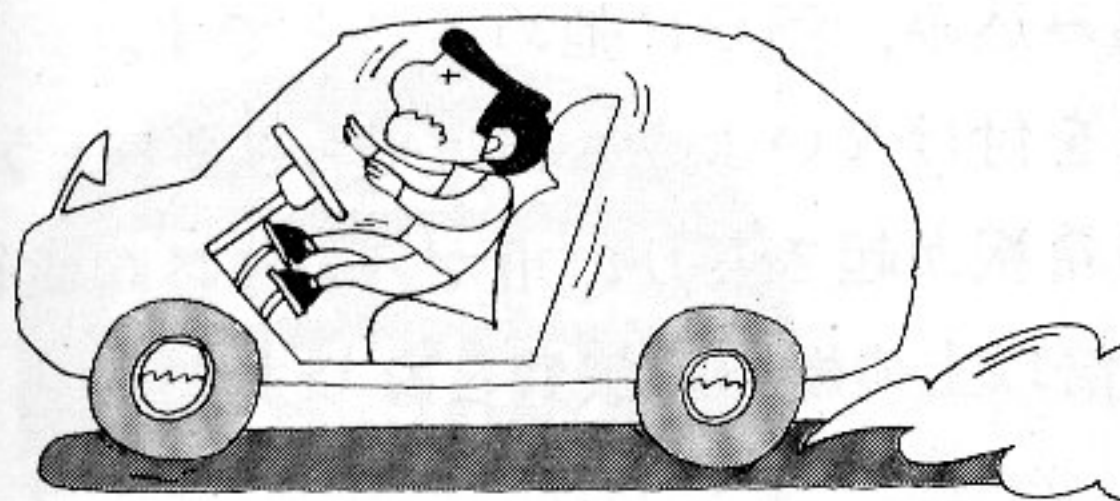
以上2つの注意は車が前へ飛び出さないための用心です。

この2つの確認が終わったら寒い朝にはチョークノブを引いてください。

次にクラッチを切り（必ず実施）エンジンキーを右に回します。

1段回わすとチャージランプが点灯します。（これでエンジン点火準備OK）

その時にフューエルメーターも作動しますのでガソリン量を確認します。さらに回してスタータを作動させます。スタータモータは5秒間以上続けて回転させないでください。始動しなかったら、5秒位休んでやり直します。エンジンがかかったら、すぐエンジンキーより手を離します。



◆発 進

まず後方を確認し、車が来ていないことを確かめてから、クラッチペダルを踏み込みギヤをローに入れます。ギヤがローに入りにくい時は、クラッチを踏み直すと楽に入ります。ギヤがローに入ったらサイドブレーキを外しアクセルを少しずつ踏みながらクラッチペダルを離してゆきます。

スムーズにクラッチ操作を行なう秘訣はエンジンの回転音を聞きながら行なうことです。クラッチペダルを徐々に離して行くとエンジン音が変わるところがあります。ここでアクセルペダルを徐々に踏み込んで行くと共にクラッチペダルを離して行きます。

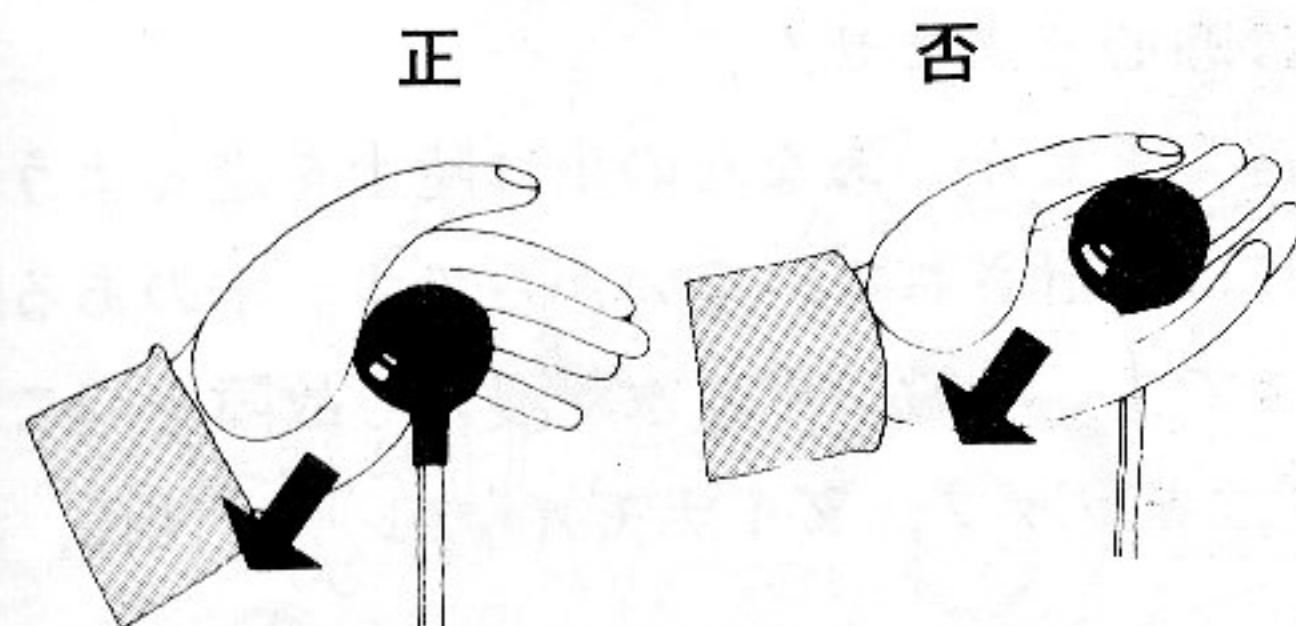
◆ギヤシフトのやり方（チェンジ操作とクラッチ操作）

- ギヤシフトはクラッチの踏み込みに合せ、ギヤシフトレバーを1度中立(ニュートラル)の位置で止めるような感じで、2動作でチェンジ操作を行って下さい。

ギヤが入ったら、アクセルペダルは少しずつ踏み込みながら、クラッチペダルは徐々に戻して行くようにして下さい。このチェンジ操作が終わったら直ちにクラッチペダルから足を離して下さい。

- チェンジレバーのにぎり方は図の様に手のひらを下に向けて下さい。
- チェンジ操作は下記の速度を目安にして下さい。

- 1 速(ロー) 0 ~ 15km/h
- 2 速(セカンド) ... 10 ~ 30km/h
- 3 速(サード) 20 ~ 50km/h
- 4 速(トップ) 40km/h ~ 法定制限速度まで



◆加 速

アクセルのふかし方の原則は静かに踏み込み、静かに弛めることです。

アクセルをふかすときは、アクセントを付けないよう心掛けておきましょう。また、アクセルを急激に踏むとオイルの希釈が起きたり、車がスムーズに走行せず、加速効果がない上に定速運転の3倍以上の燃料の浪費となります。

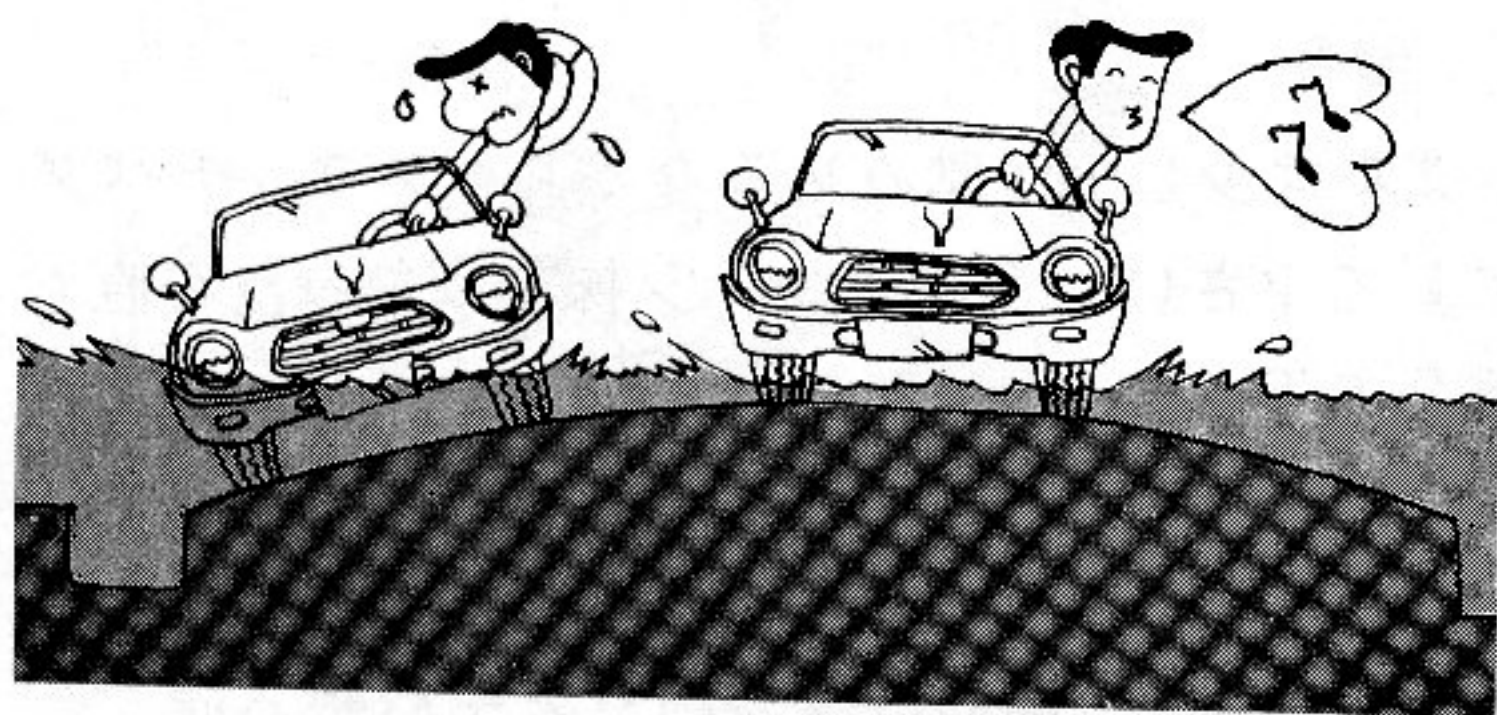
◆高 速 走 行

高速で走行する場合は急ブレーキや急ハンドルは絶対に避けましょう。又、長時間の高速連続走行や長い坂の登りなどエンジンに無理をする時はエンジンの回転が落ちない程度にスターターボタンを引いて（半チョークにして）走ってください。

◆水たまりの走行

水たまりを勢いよく水しぶきを上げて走ってゆく車をよくみかけます。でもカッコいいからとまねすることは感心できません。

元来、車は水に余り強いとは言えません。あなたの車は陸上を走るように設計されており水の中を走るようには設計されていないからです。水のある所は、なるべく浅い所を選んで渡るべきです。一般に車に水が浸入し故障を起こす箇所は電気関係（ポイント、プラグ、キャップ、ダイナモ）、ブレーキ関係、エアークリーナーです。



道路の中央は比較的水が少い

**安全は
正しい運転と
整備から**

制限速度を守りましょう

(軽)は高速道路で 一般道路で

80 km/h

60 km/h

万一電気関係に水が入りエンジンの調子が悪くなったらエンジンが停る前に車を水辺から出し、ニュートラルにしてエンジンを回転させ風と熱でかわかしてください。

もしエンジンが停ってしまったらポイントとプラグキャップの水分を拭きとります。

またブレーキに水が入りますとブレーキがきかなくなり危険です。こんなときは、ブレーキペダルを軽く踏んで走行するとブレーキドラムの熱で乾きます。しかし乾燥させている間は非常に危険ですので走行には、充分気を付けてください。



●フェード現象

ブレーキシューが過熱すると、摩擦力が低下するので、同じ力でペダルを踏んでも制動距離が非常に長くなったり、効かなくなったりします。この現象をフェード現象と云います。

●ベーパー・ロック

過熱のためにホイールシリンダ内のブレーキ液が蒸気化し、ペダルの踏みごたえが弱くなり、効かなくなります。この現象をベーパー・ロック現象と云います。

◆ブレーキ

制動距離はスピードが増すにつれて急速に大きくなります。たとえば100km/hの時の制動距離は、50km/hの時の4倍になります。ブレーキは出来るだけ早めにゆっくりとかけてください。又、降雨時とか水たまりを走行しますとブレーキ・ドラム内に水が浸入し、一時的にブレーキが効かなくなる事があり危険です。この様な場合はブレーキペダルを軽く踏みながらしばらく走りますと、ブレーキシューの湿りが乾燥し効きが回復します。

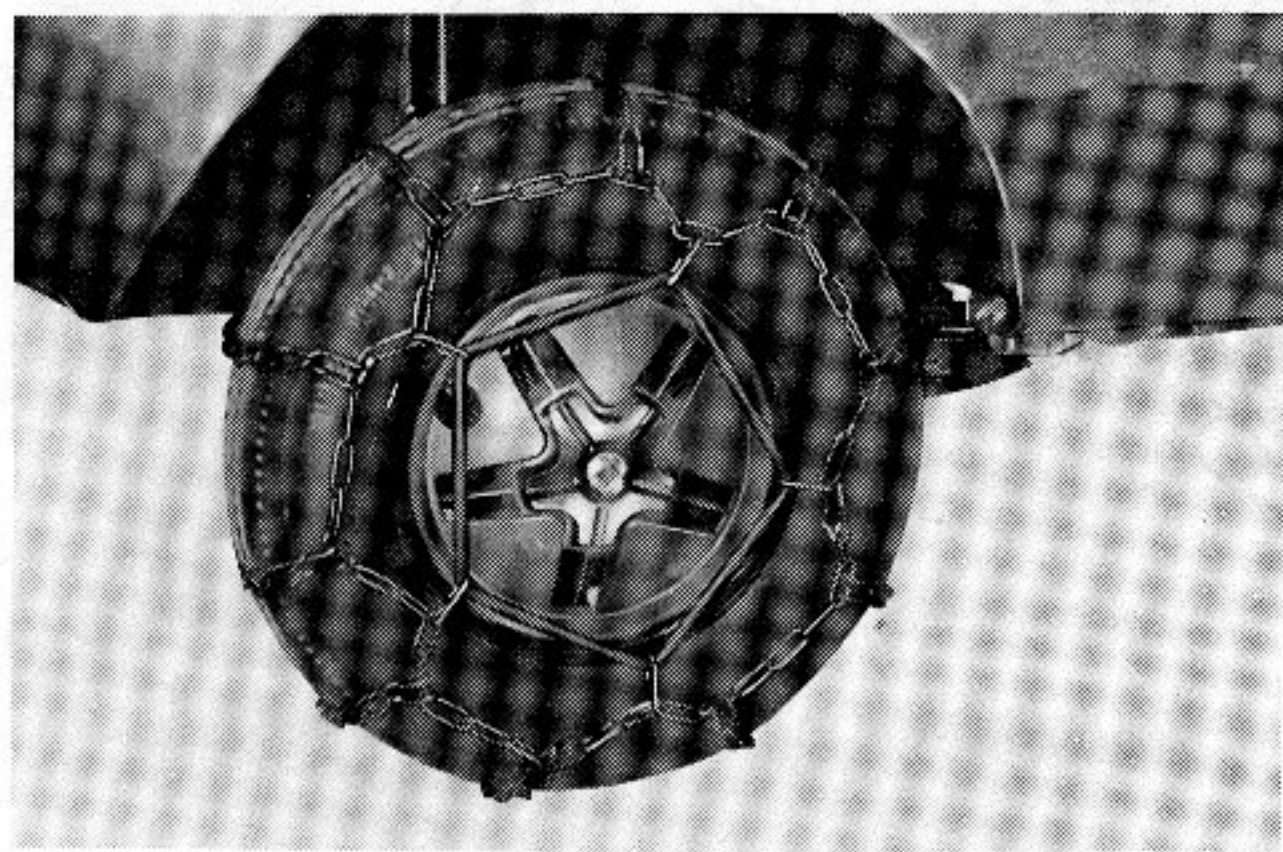
◆登り坂・下り坂

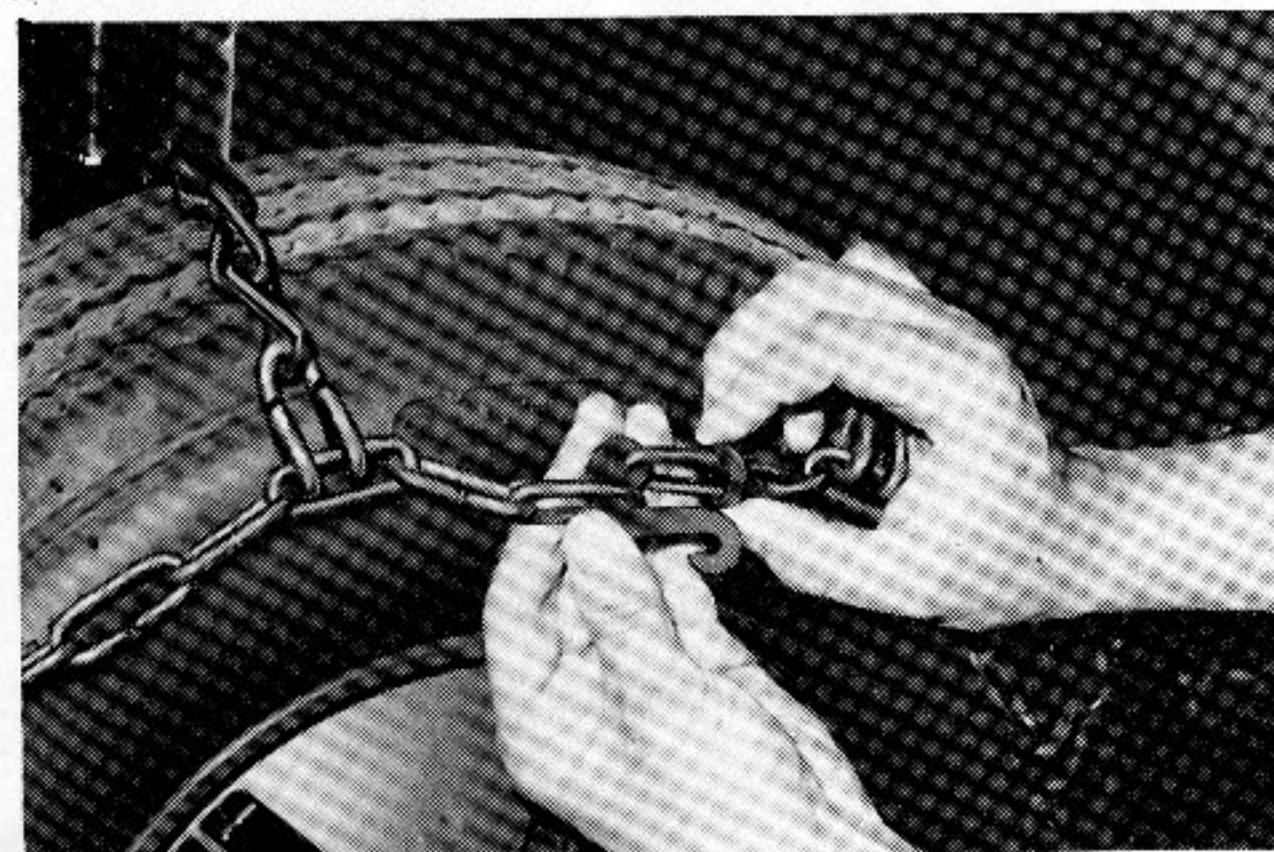
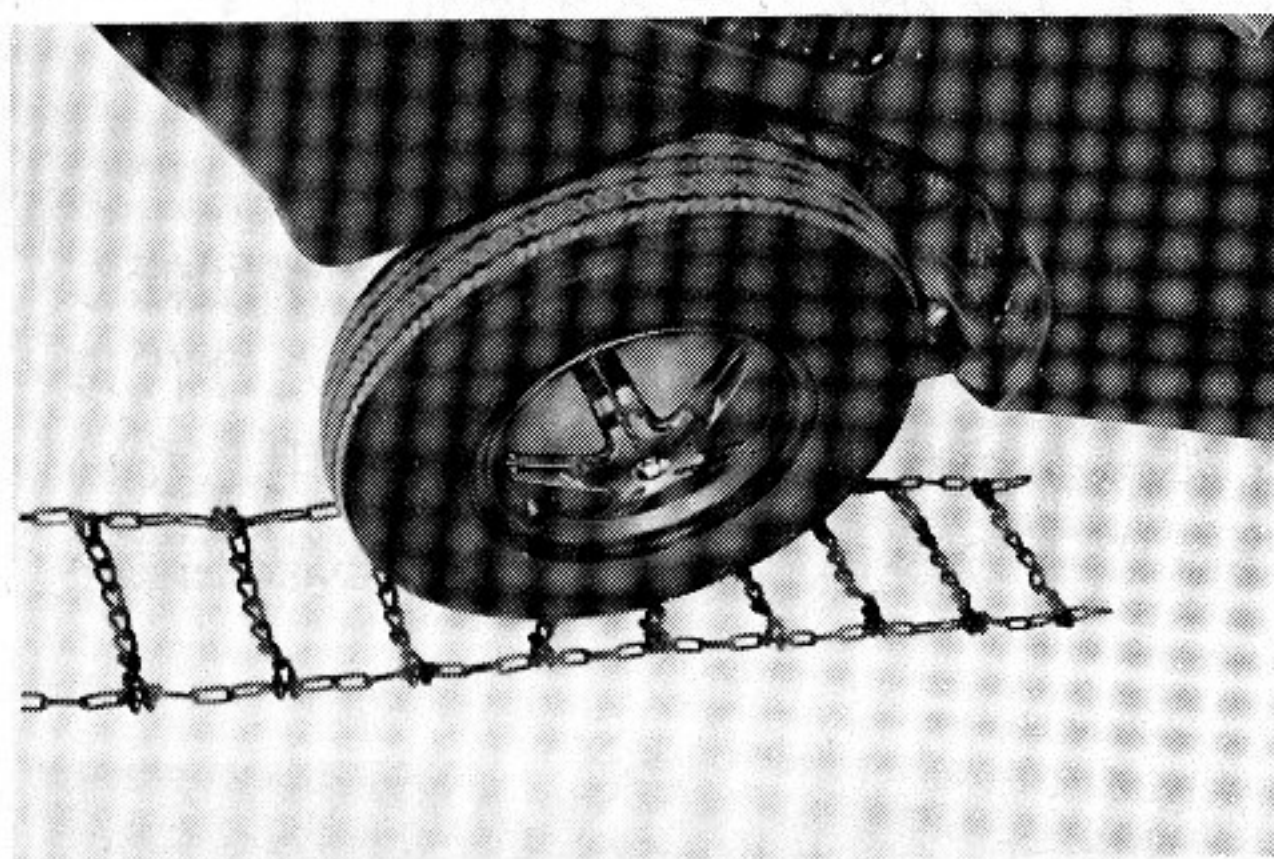
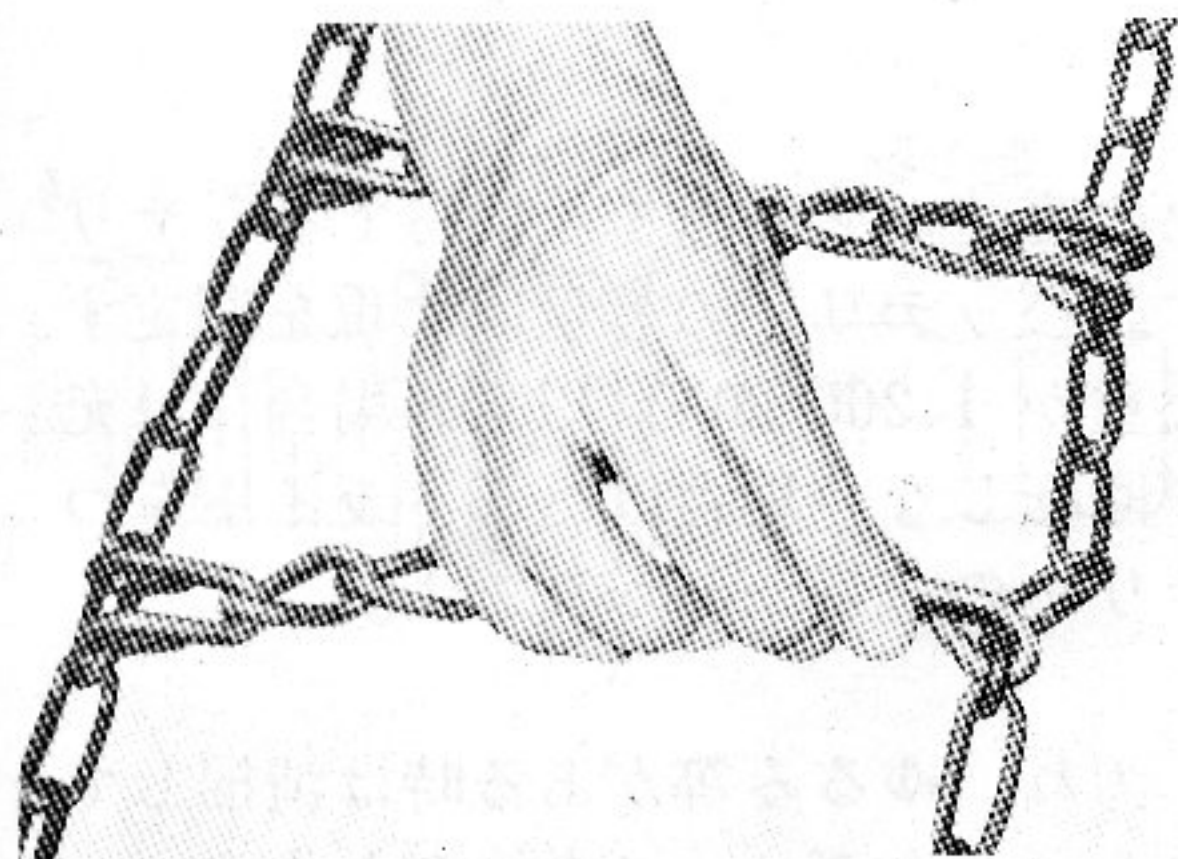
大抵の登り坂はトップで登りますが速度が50km/h以下になったらサードに変速して下さい。又下り坂の場合のギヤは登りの時使用したギヤを使うのが基本ですが、一段下のギヤ（トップで登った坂はサード）で下った方がエンジンブレーキが十分働きフットブレーキの使用頻度が少なくなり走行上より安全です。もし長い坂をフットブレーキだけで下りますとフェード現象やベーパー・ロックを起こしブレーキが効かなくなる事があります。

◆凍結路、雪道の運転

雪上、凍結路の運転にはタイヤの滑りを防止するためタイヤチェーンを巻いたり、スノータイヤ、スパイクタイヤを用い、さらにつぎの点に注意して運転してください。

1. ブレーキは一度に踏まないで何度も踏みわけてください。
2. 発進のときはふかし過ないようにし、また急加速は避けましょう。
3. 曲り角ではハンドルを大きく切らないで、小刻みに送ってください。





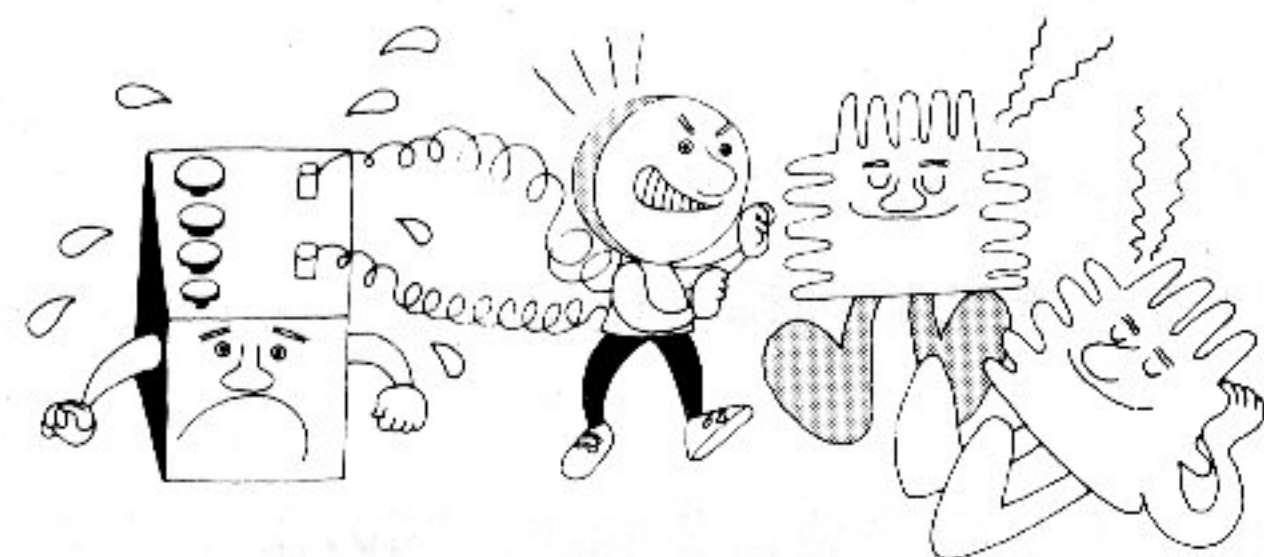
◎タイヤチェーンの巻き方

タイヤチェーンの誤った使い方はチェーンおよびタイヤの寿命を縮めるばかりでなく、大きな事故のもとになります。必ず下記事項に従って取付けてください。

- チェーンをもちあげ、チェーンのねじれがないかを確認する。
- チェーンのフックの先端が下になるように地面にのばしておく。
(チェーンを巻いたときフックの先端がタイヤ側に当たるとタイヤをいためます。)
- 車を移動させチェーンの中央にタイヤをもってきます。
なお、2輪のみにチェーンを巻きつけるときは駆動輪（後輪）をチェーンの上にもって来ます。
- チェーンをタイヤに確実に巻きつけタイヤの表裏に2個所、図のようにフックをかけます。
- ゴムバンド等でチェーンの張りを強くします。
- チェーンを取り付けて発進後しばらくしたら再点検してください。
- 走行中絶えずチェーンの摩耗、切損に注意してください。

※チェーンの長さは2つの輪ぐらいしか余らないように普段から調整しておくことが必要です。

故障と応急手当



◆スターターモーターが回転しない

1. バッテリー容量は？

スタータモーターの始動には 100 A 以上の電流が必要です。従ってバッテリーの容量が少いと始動が困難となります。バッテリーの容量は比重を測定することによって知ることが出来ます。比重が 1.200(20℃)以下の場合には充電を行ってください。スタータモーターが回転しない場合はヘッドライトをつけるか、ホーンを鳴らすと簡単にバッテリーの容量がわかります。

2. バッテリー端子の接続は？

ターミナルとコードの結合部に腐蝕、汚れ、ゆるみ等がある時は清掃してサンドペーパーで磨き確実に締付け、ワセリンかグリースを塗布します。

3. 電気配線は？

ヒューズの切れ、コードの切れ、結線不良等がないかを点検します。

※以上のどこも悪くない場合でスイッチを入れてもスタータモーターが回転しない場合はスタータモーター自体の故障ですのでお買い上げ販売店または代理店へご用命ください。なお、スタータモーターは5秒以上連続して使用しないでください。4～5回で始動しない時は以下の事について点検し応急処置をしなければなりません。

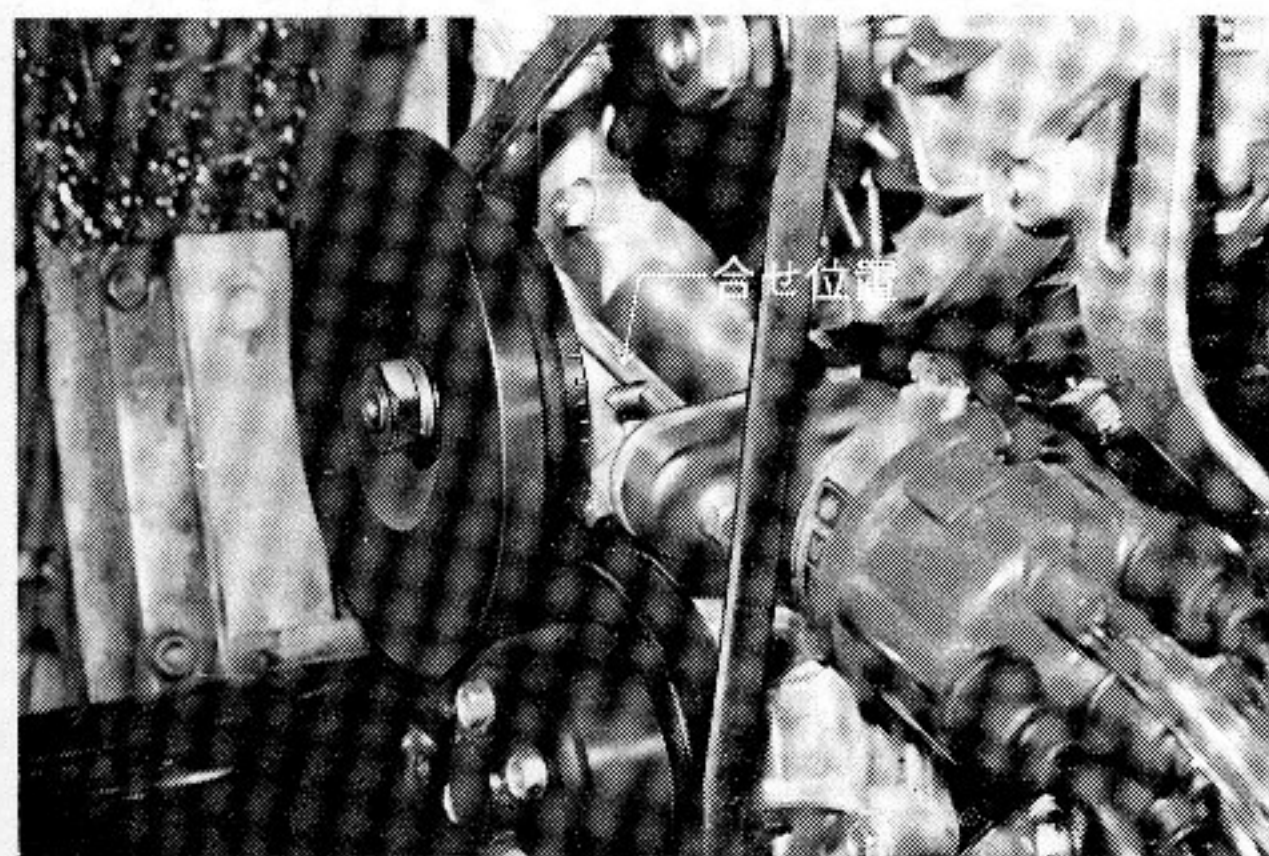
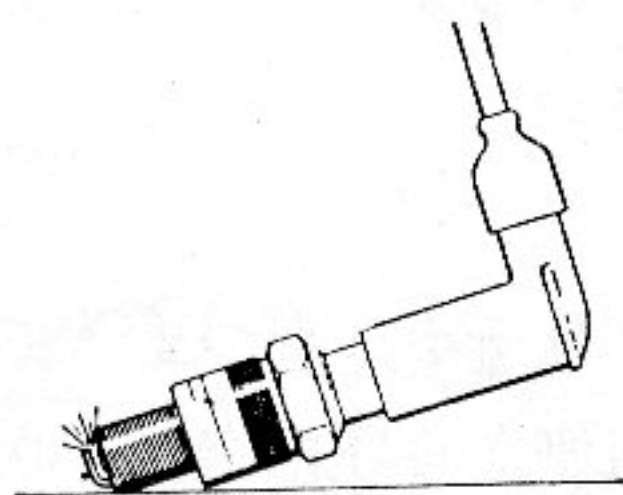
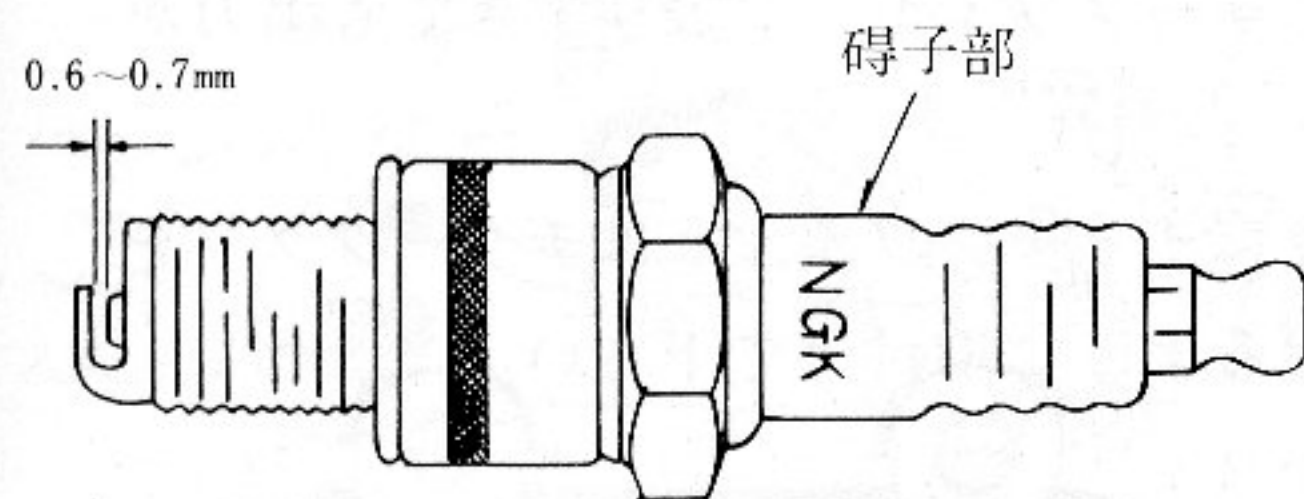
◆エンジンが始動しない

1. 燃料は？

まず燃料計をみてタンク内の燃料を確認します。

2. 燃料はキャブレーターまできていますか？

タンクに燃料があってキャブレーターまできていない場合には燃料パイプやフィルターがつまっているか燃料ポンプが故障しているものと思われますので点検してください。フィルターの底にゴミや水がたまっている場合はフィルターを取出して清掃します。またタンクキャップの空気孔がつまっていないかも点検します。燃料ポンプの故障の場合にはお買い上げ販売店または代理店へご用命ください。



3. 点火プラグは？

点火プラグが汚損していたり、規定以外のものを使用している場合には清掃、交換を行なってください。プラグの火花間隙は0.6~0.7mmにしてください。またプラグの碍子部分に細かいホコリがつきますと、このホコリが水分を吸着して電気の良導体となり、プラグ電極に行くべき電気が逃げて点火出来なくなることがありますので碍子部はいつも清潔にしておき、水がかかった時はきれいに拭いておきましょう。

4. 吸い込みすぎではありませんか？

始動の際にアクセルペダルをあおったりしますとプラグが湿って点火できなくなりますので、プラグを良く拭き、湿り気をなくします。またクランク室にも吸い込んでいますので、セルモーターを回し、中にたまったガソリンを吹き出します。これで吸い込みすぎに対する処置は充分です。

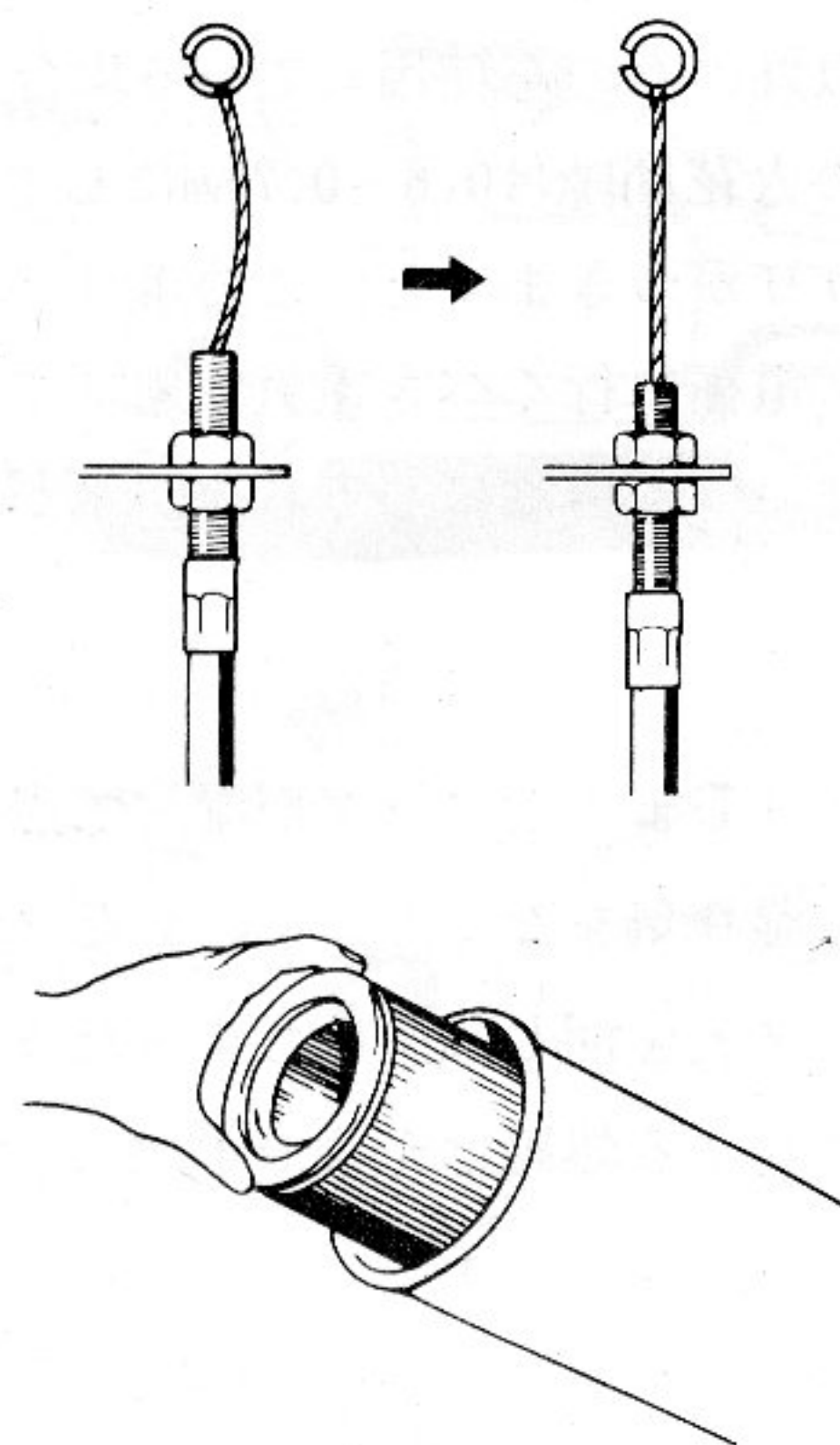
◆エンジンの出力が低下し、加速が悪い

1. 点火時期は適正ですか？

一番の点火プラグ(左端)を外し、ハイテンションコードをプラグにさし込んでからアースさせ火花が飛ぶようにします。クランクプーリをエンジンの回転方向に手で回わし刻印のところで火花が飛ぶかみます。飛ばないようなら点火時期が狂っているわけです。点火時期不良の場合はお買上げ販売店または代理店にご用命ください。

2. 点火プラグは良好ですか？

点火プラグが汚れていたり、リークしている場合にも出力の低下をきたします。



3. アクセルワイヤーがゆるんでいませんか？

アクセルワイヤーがゆるんだり、チョークワイヤーが張りすぎても出力が低下します。

アクセルワイヤーは遊びがないようにチョークワイヤーはチョークノブを戻した時にチョークレバーが完全に戻るように取付けて下さい。

4. キャブレターがつまっていますか？

キャブレターのジェット類がつまっていると出力が落ちます。キャブレターの内部が非常に汚れておりジェットがつまっているようでしたら分解掃除をお買い上げ販売店または代理店にお命じください。

5. エアークリーナーがつまっていますか？

砂ほこりの多い道等を走行した場合、エアークリーナーがつまって出力が低下する事があります。エレメントを取出して内側から圧縮空気を吹きつけて付着しているゴミを吹きとばします。

6. 排気管がつまっていますか？

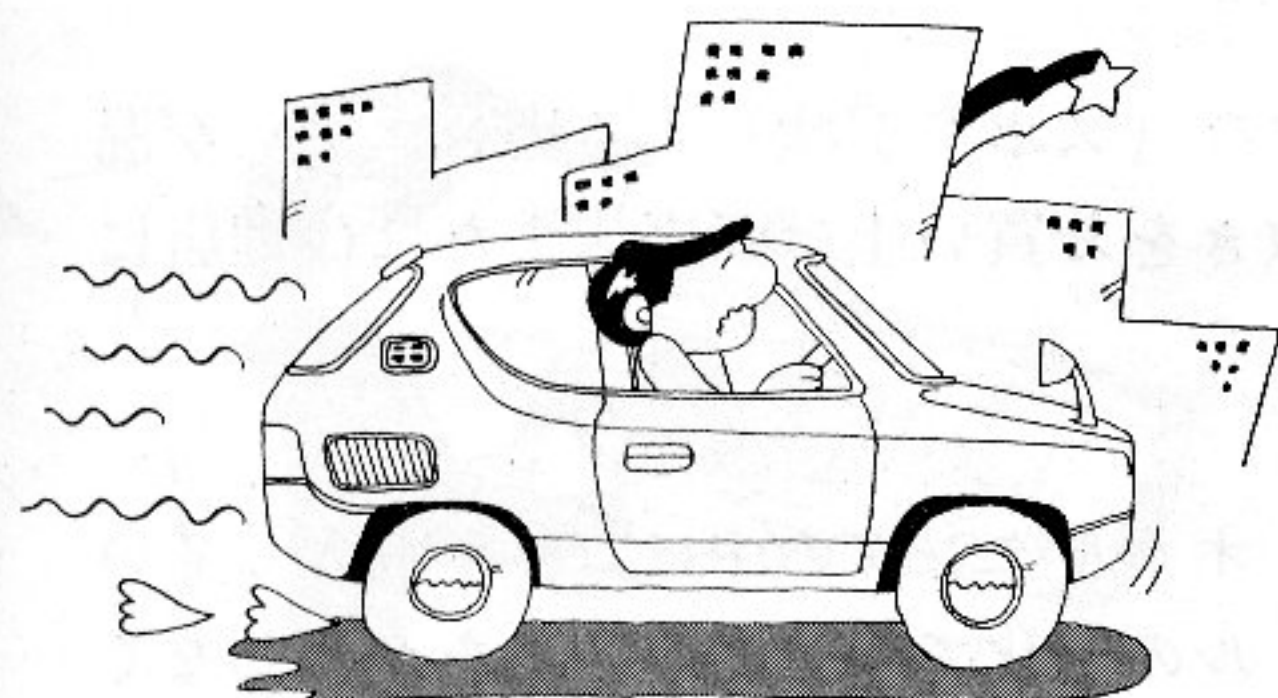
エキゾーストマニホールド、マフラーにカーボンの付着がひどい場合は出力が低下します。

7. ブレーキがきいていませんか？

シュー調整不良によってブレーキが引きづる事があります。こういう場合には直ちに点検整備をお買い上げ販売店または代理店にお命じ下さい。

8. タイヤの空気圧は正常ですか？

タイヤの空気圧が極端に低いと性能に影響をおよぼすと同時に危険です。標準空気圧は 頁を参照してください。



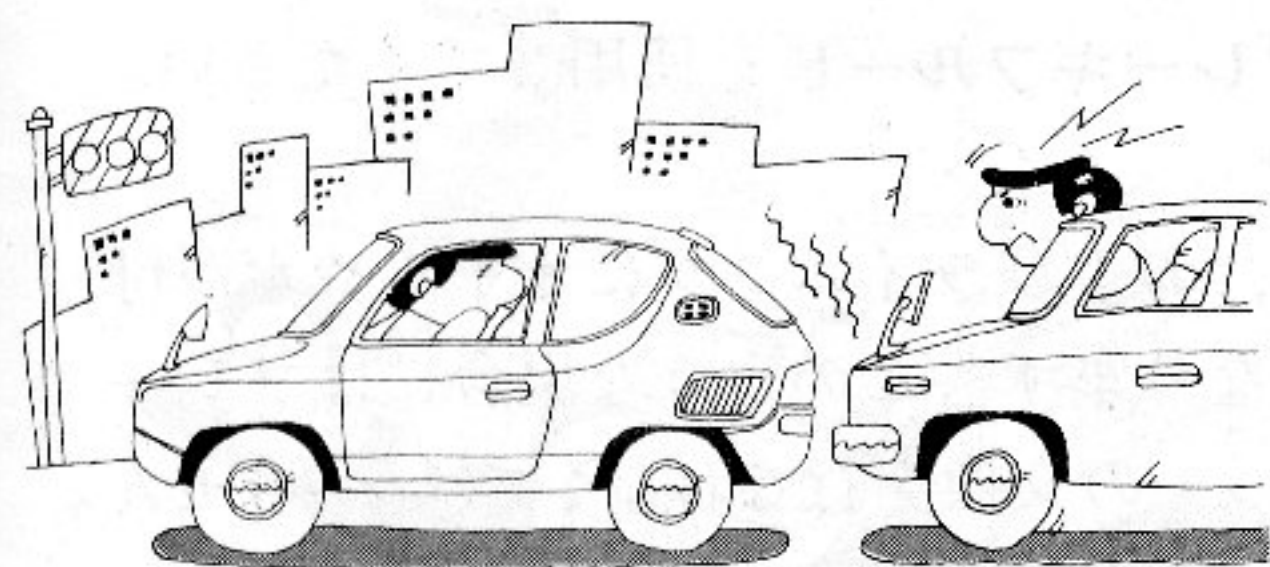
◆エンジンの回転数が上がって車速が増さない

1. クラッチワイヤーが張りすぎていませんか？

クラッチワイヤーが張りすぎていますと常にクラッチを切った状態になりクラッチがすべって車速が増さないことがあります。

2. クラッチフェーシングは？

フェーシング自身が摩耗しているとワイヤーの調整だけでは修理不可能です。お買い上げ販売店または代理店に修理をおまかせください。



◆エンストしやすい

1. キャブレターのアイドリング不良

アイドリング回転で車体に異常な振動が伝わったり、交差点で停るたびにエンストしたりしたらキャブレターのアイドリング調整不良です。

(安定してエンジンが回転する最小回転数は900~1,000rpm)

2. エアークリーナーはつまってはいませんか？

3. フューエルパイプやフィルターがゴミでつまっていませんか？

4. 点火時期は適正ですか？

5. 点火プラグは良好ですか？

6. クラッチワイヤーの遊びは？

7. 充電系統の故障、配線のはずれ、ショート、断線等電気系統の異常は？

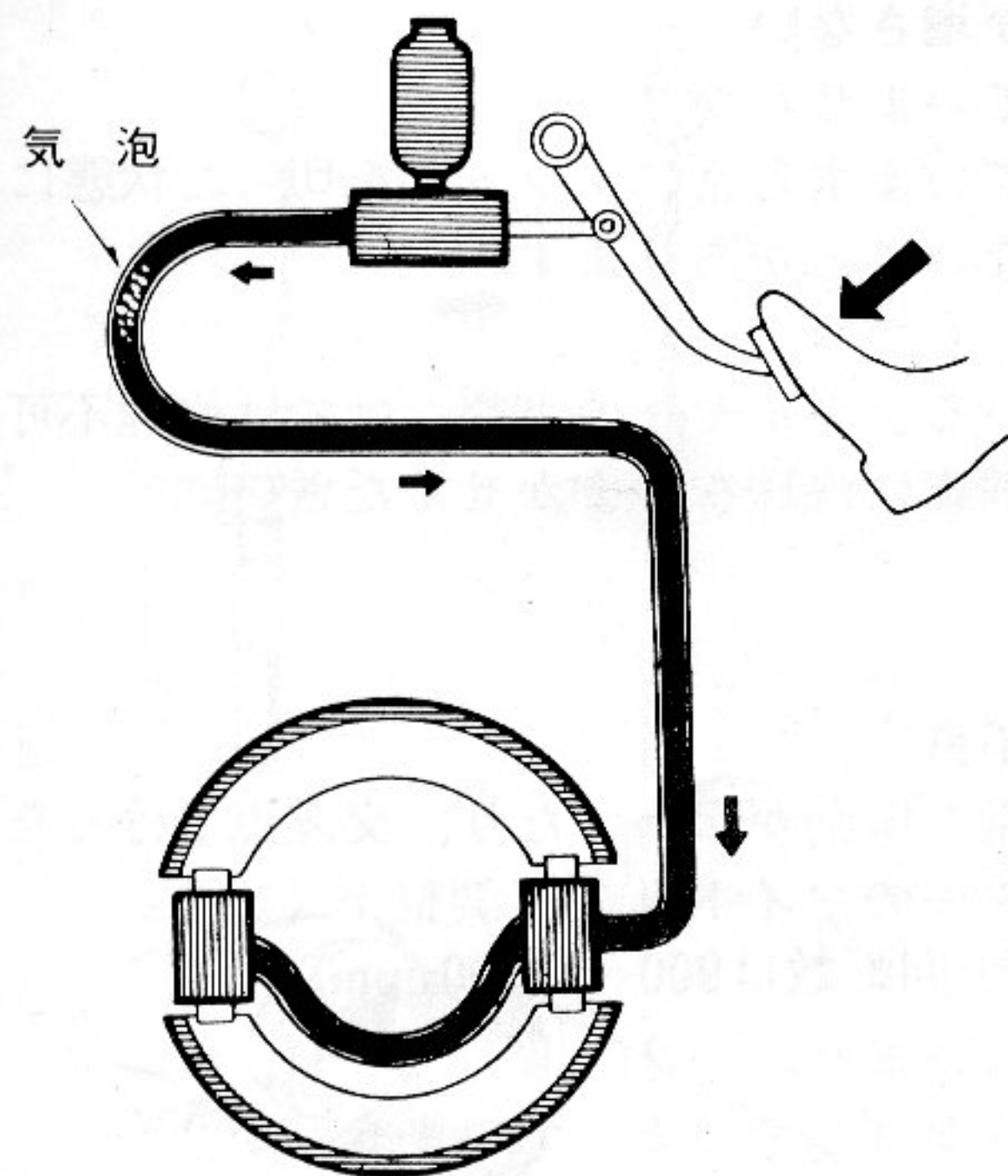
◆ブレーキが効かない

1. ブレーキオイルはありますか？

少ない時は補充し、キャップの空気孔を掃除しておきましょう。

2. オイル漏れはありますか？

オイル漏れがあると急ブレーキの場合等、ブレーキが全然効かなくなり、大変危険です。オイル漏れを発見したら直ちに修理してから使用してください。



3. ブレーキペダルの踏み具合は？

ブレーキペダルを踏んでみてフワフワ（スポンジ状）する場合エアーが混入していると思われるのでエアー抜きをお買い上げ販売店または代理店にお命じください。

4. ブレーキオイルは？

時々ブレーキの引ずりを起したり，オイルタンクの中にゴミが混入していて黒く濁っている時は，ブレーキオイルの劣化ですのでオイルを交換しなくてはなりません。少なくとも2年に1回（ディスクブレーキ車は1年に1回）はオイルの交換をお買い上げ販売店または代理店にお命じください。

※ブレーキオイルは必ず**スズキ指定ブレーキフルード**を使用してください。

5. ブレーキライニングは？

ブレーキライニングの摩耗，偏摩耗，およびライニングにオイルや水が付着した場合にもブレーキの効きが悪くなります。このような場合にはブレーキシューグライダーで修正するか，シューの交換を行わなくてはなりません。

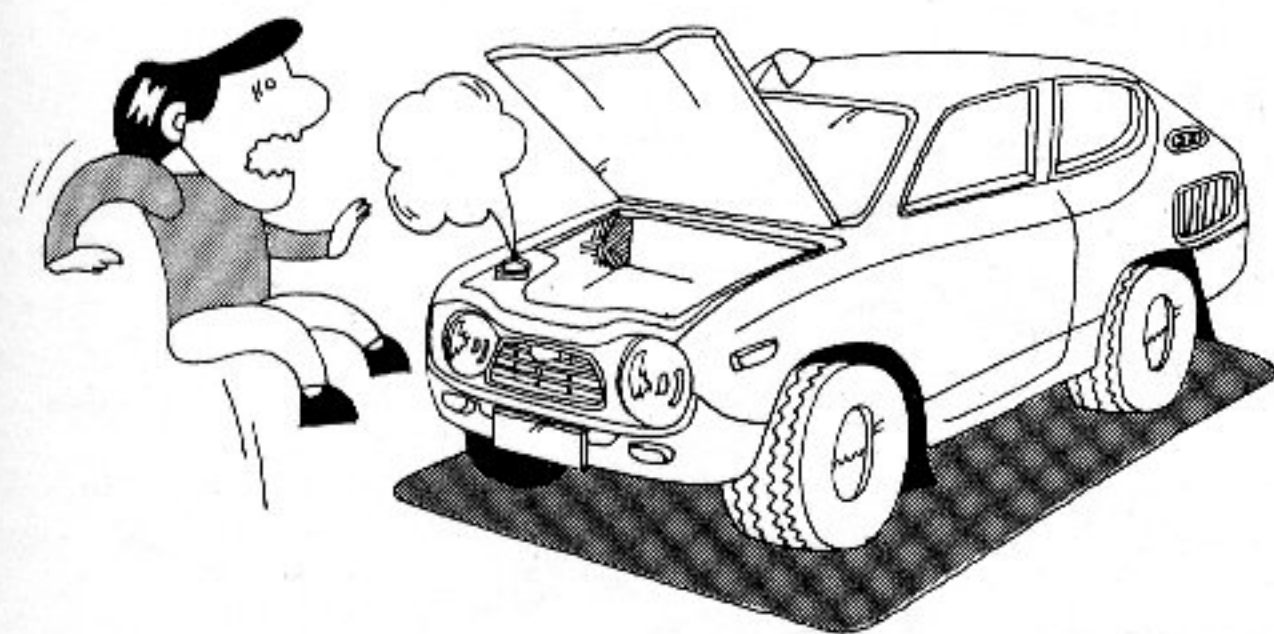
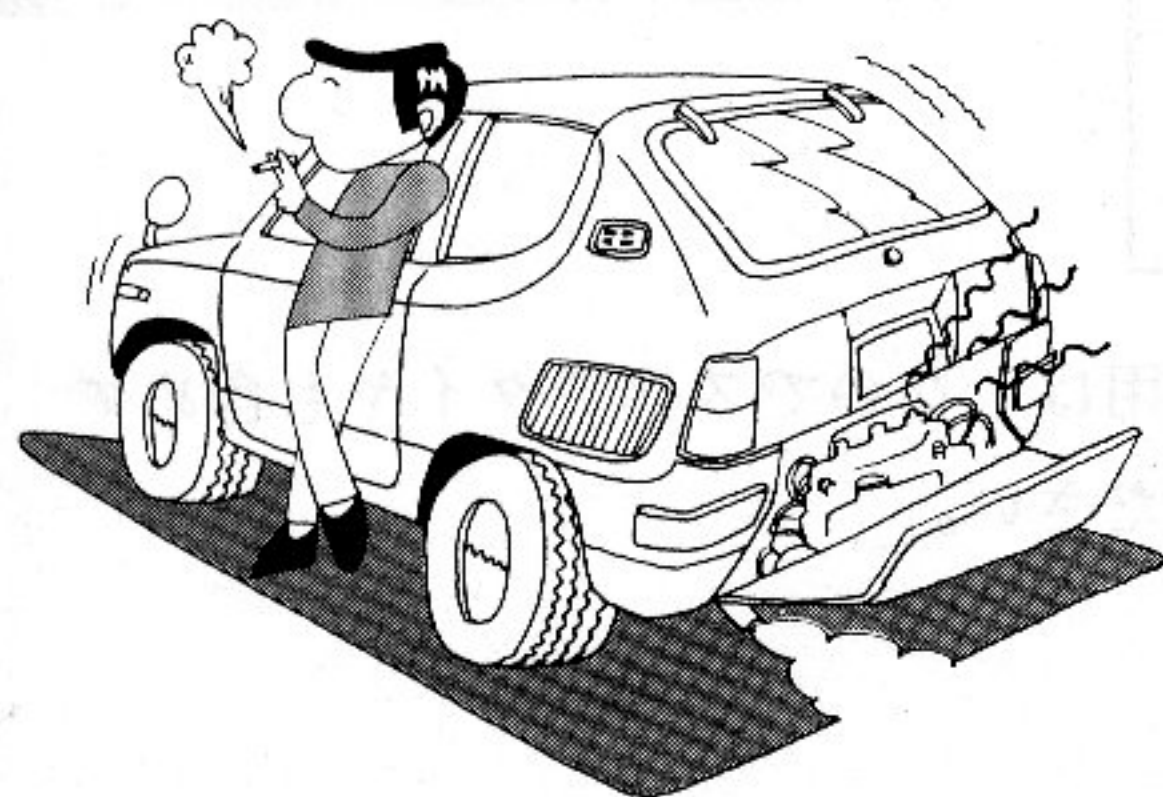
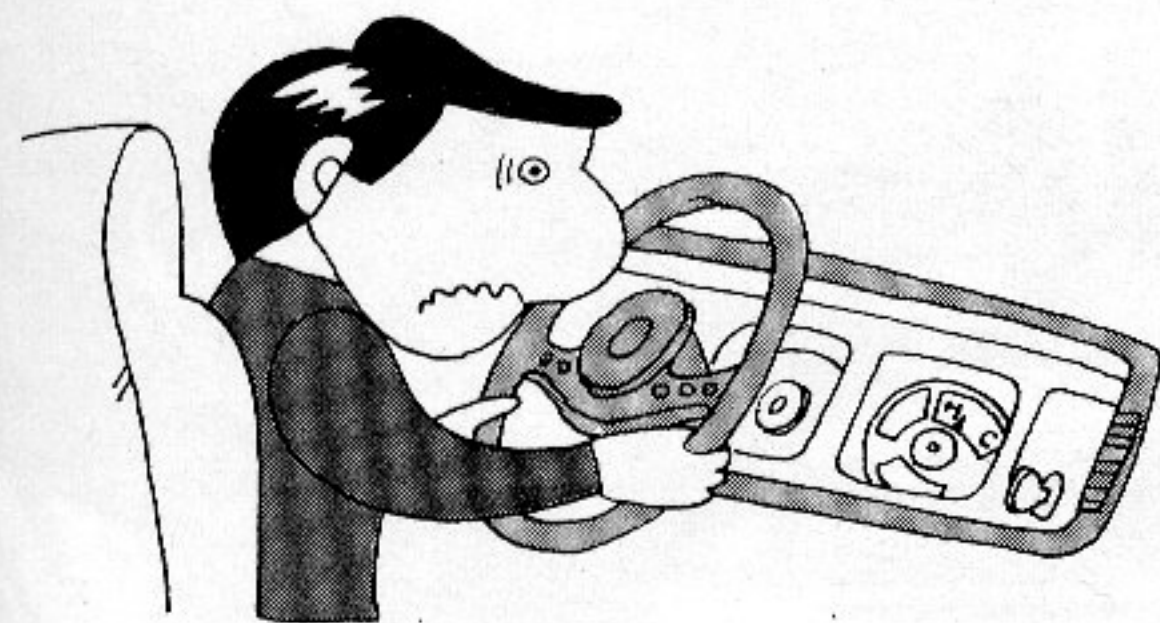
6. ベーパーロックしていませんか？

ブレーキを乱用した場合（長い坂道等で）ブレーキライニングが摩擦熱で熱くなり，そのためにブレーキオイル内の小さな気泡が膨張してオイルを寸断してしまいますのでエアーが混入したのと同じ状態となりブレーキペダルをいくら踏んでも気泡が圧力で縮まるだけで殆んどブレーキが効かない状態になることをベーパーロックと呼んでいます。ベーパーロックが起こった場合には，ブレーキドラム，ブレーキパイプの温度を下げる必要があります。このような時は運転を中止して，10分程度自然に冷却すれば機能を回復します。しかしそのまま使用した時には再度不具合になりますのでできるだけ早く，お買い上げ販売店または代理店に整備をご命じください。

—注— 二重安全ブレーキを採用しておりますのでブレーキ系統にオイル漏れを生じても前後輪のいずれかで制動力は得られますが，制動力そのものは正常な場合の $\frac{1}{2}$ 以下となります。

ブレーキ系統に不具合が生じた場合は直ちにサービス工場にて整備して下さい。

オーバーヒートした時の処置



◆オーバーヒートとは？

冷却系統に故障があったり、エンジンにあまり無理をさせると、冷却水の温度が異常にあがり、エンジンの性能がガタ落ちとなります。サーモメーターの針が適温範囲を超えてH側を長く指示しているのはオーバーヒートの状態になっていると判断してつぎの処置をとってください。

◆オーバーヒート時の処置

1. 車を止める。
2. エンジンは止めずにアイドリングを続ける。
3. リヤリッドを開けて通風を良くします。
4. ヒーターのOFF↔HEATレバーをHEATにしてヒーターファンスイッチを2段目まで引く。このときFRESH↔CIRCレバーはかならずFRESHにしておく。
5. サーモメーターの指針が適温範囲に戻ったらエンジンを止めます。
6. ラジエーターキャップに布などを当てて除々にゆるめ、オーバーフローパイプから蒸気を逃します。蒸気が抜けたらキャップを取り外します。
7. 冷却水が少ない場合は補充します。

※エンジンをアイドリングにしておいても温度が下らない場合はエンジンをストップさせてください。

—注—

1. あわててラジエーターキャップを取らないこと。熱湯や蒸気が吹き出し火傷します。
2. 急ぐからといって、冷却水を全部抜きかえてしまわないでください。急に冷やすとシリンダーブロックやシリンダーヘッドに亀裂を生じさせます。

オプション部品

ここにあげる部品はオプションとして販売店、代理店に用意してあります。



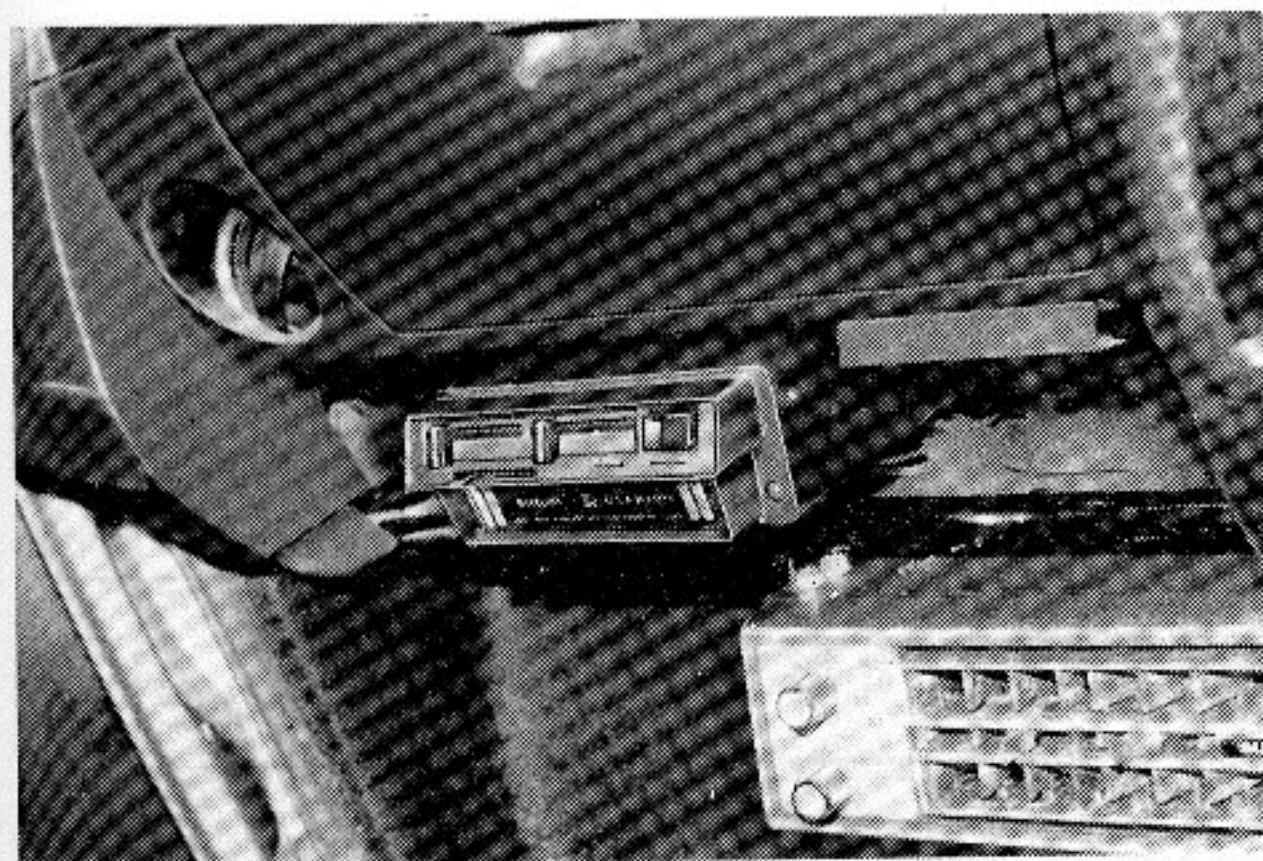
◆ ラジアルタイヤ

135SR10

ラジアルタイヤの空気圧は

	普通走行	高速走行
前 輪	1.0kg/cm ²	1.1kg/cm ²
後 輪	2.0kg/cm ²	2.3kg/cm ²

〈注〉 ラジアルタイヤと普通タイヤの混用はしないでスペアタイヤも含めて
5本共ラジアルタイヤに統一してください。



◆ カーステレオ

素晴らしいステレオサウンドをお楽しみいただくためにスズキ専用カーステレオがあります。

販売店、代理店にお申し出ください。

“このほか、ルーフキャリア、スキーキャリア、ルーフバイザー、サイドバイザー、ロングサイドバイザー、オートクロック、バックブザー、トランクマット、シートカバー等種々のアクセサリ、オプション部品がありますので販売店、代理店にお問いあわせください。”

主 要 諸 元 2 ドア (32P S)

車 輦 諸 元	車 名・型 式		スズキ・LC20		計	485kg		705kg		冷 却 方 式	水冷・電動式				
	長 さ		2.995m			制 動 距 離	50km/hのとき 12m 以内		冷 却 水 容 量		5.4 ℓ				
	幅		1.295m		型 式		水冷2ストローク3気筒			ク ラ ッ チ 形 式	乾式単板 ダイヤフラム式				
	高 さ		1.300m			エ	内 径 × 行 程		52×56mm		ブ レ ー キ	主ブレ ーキ	前 輪	ツーリーディング	
	軸 距		2.030m		総 排 気 量		0.356 ℓ		後 輪	リーディング トレーリング					
	輪 距	前 輪	1.110m			ン	圧 縮 圧 力			10.0kg/cm ² -450rpm		補 助 ブ レ ー キ		機械式後2輪制動	
		後 輪	1.080m		最 高 出 力		32PS/5500rpm		容	燃 料 タ ン ク		26 ℓ			
	最低地上高		0.190m			ジ	最 大 ト ル ク			4.2kg－m/4500rpm		エ ン ジ ン オ イ ル		4 ℓ	
	乗 車 定 員		4 名		点 火 時 期		上死点前17度		量	ミ ッ シ ョ ン オ イ ル		1.2 ℓ			
	重 量	車輦重量		総 重 量		ン	点 火 プ ラ グ			BP6HS又はW20FP		懸 架	前 輪		ウィッシュボーン式
		前 輪	200kg	290kg			バッテ リー	型 式	12N24－3		後 輪		セミトレーリング アーム式		
		後 輪	285kg	415kg		容 量		24 A H		タ イ ヤ サ イ ズ		5.20－10－4 P R			

主 要 諸 元 4 ドア (32P S)

車 輛 諸 元	車 名・型 式		スズキ・LC20		エ ン ジ ン	計		500kg	720kg	ブ レ ー キ	冷 却 方 式		水冷・電動式	
	長 さ		2.995m			制 動 距 離		50km/hのとき 12m 以内			冷 却 水 容 量		5.4ℓ	
	幅		1.295m			型 式		水冷2ストローク3気筒			ク ラ ッ チ 形 式		乾式単板 ダイヤフラム式	
	高 さ		1.300m			内 径 × 行 程		52×56mm		主ブレ ーキ	前 輪	ツーリーディング		
	軸 距		2.030m			総 排 気 量		0.356ℓ			後 輪	リーディング トレーリング		
	輪 距	前 輪	1.110m			圧 縮 圧 力		10.0kg/cm ² - 450rpm		補 助 ブ レ ー キ		機械式後2輪制動		
		後 輪	1.080m			最 高 出 力		32PS/5500rpm		容 量	燃 料 タ ン ク		26ℓ	
	最低地上高		0.190m			最 大 ト ル ク		4.2kg-m/4500rpm			エ ン ジ ン オ イ ル		4ℓ	
	乗 車 定 員		4名			点 火 時 期		上死点前17度			ミ ッ シ ョ ン オ イ ル		1.2ℓ	
	重 量		車輛重量	総重量		点 火 プ ラ グ		BP6HS又はW20FP		懸 架	前 輪		ウィッシュボーン式	
	前 輪	205kg	295kg	バッテ リー		型 式	12N24-3		後 輪		セミトレーリング アーム式			
	後 輪	295kg	425kg			容 量	24AH		タ イ ヤ サ イ ズ		5.20-10-4PR			

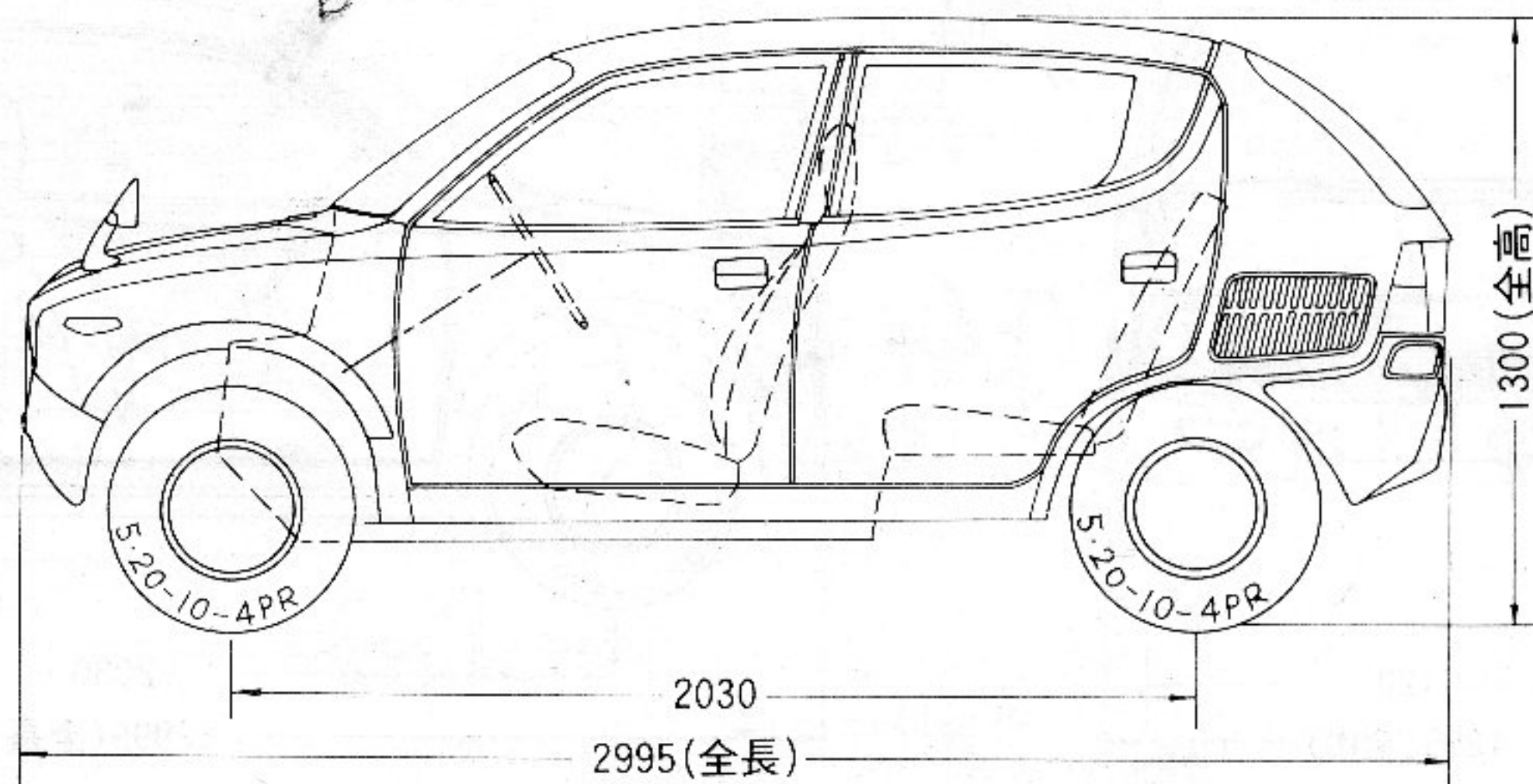
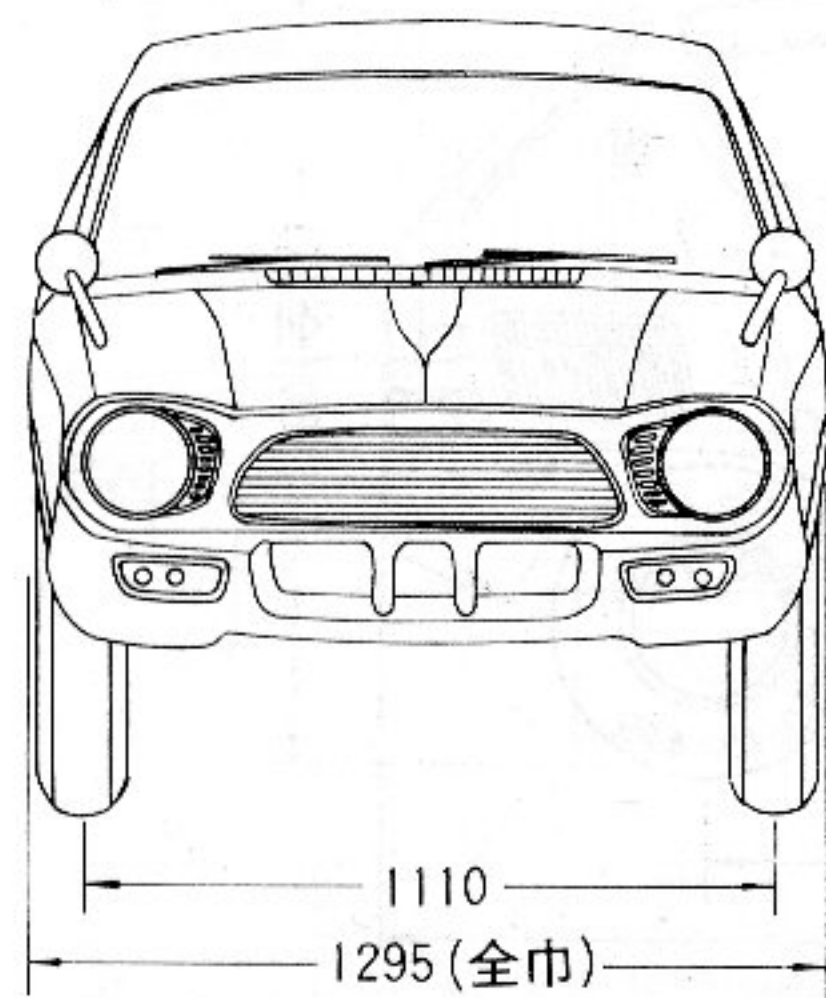
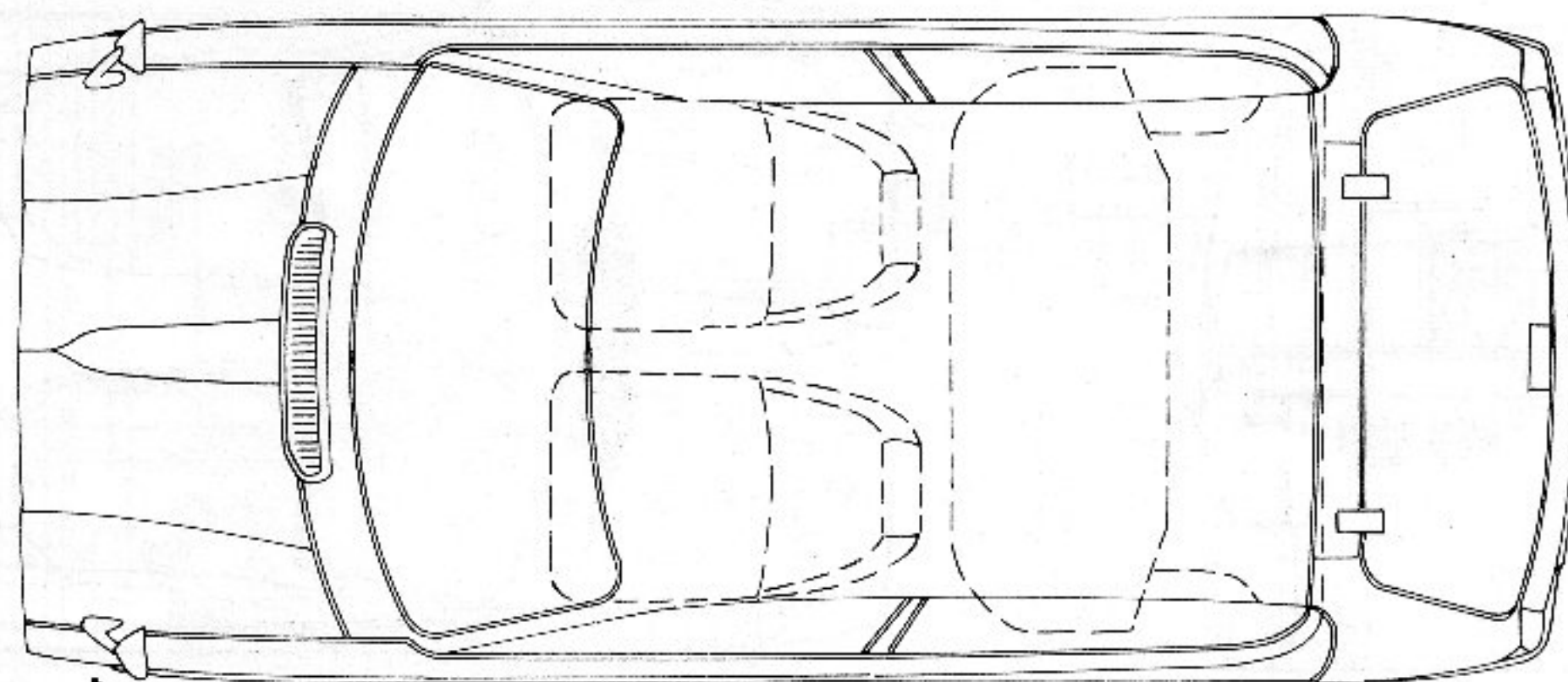
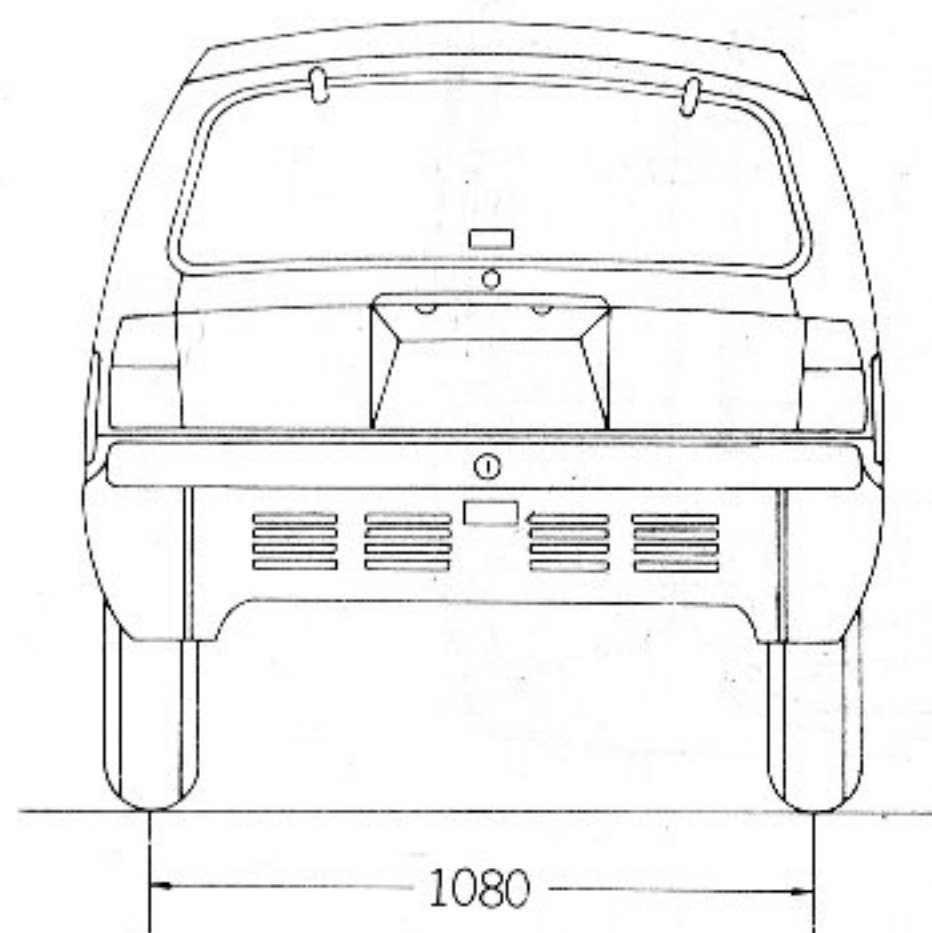
主 要 諸 元

GTtype II (35P S)

車 輛 諸 元	車 名・型 式		スズキ・LC20		エ ン ジ ン	計		500kg	720kg	ブ レ ー キ 容 量 懸 架	冷 却 方 式		水冷・電動式	
	長 さ		2.995m			制 動 距 離		50km/hのとき 12m 以内			冷 却 水 容 量		5.4ℓ	
	幅		1.295m			型 式		水冷2ストローク3気筒			ク ラ ッ チ 形 式		乾式単板 ダイヤフラム式	
	高 さ		1.280m			内 径 × 行 程		52×56mm			主ブレ ーキ	前 輪	デ イ ス ク	
	軸 距		2.030m			総 排 気 量		0.356 ℓ				後 輪	リーディング トレーリング	
	輪 距	前 輪	1.120m			圧 縮 圧 力		10.0kg/cm ² - 450rpm			補 助 ブ レ ー キ		機 械 式 後 2 輪 制 動	
		後 輪	1.095m			最 高 出 力		35PS/6000rpm			燃 料 タ ン ク エ ン ジ ン オ イ ル ミ ッ シ ョ ン オ イ ル	26 ℓ		
	最低地上高		0.165m			最 大 ト ル ク		4.2kg -m/4500rpm				4 ℓ		
	乗 車 定 員		4 名			点 火 時 期		上死点前17度				1.2 ℓ		
	重 量		車 輛 重 量	総 重 量		点 火 プ ラ グ		B7HS又はW22FS			前 輪 後 輪	ウイッシュボーン式		
	前 輪		205kg	295kg		バ ッ テ リ ー	型 式	12N24- 3				セミトレーリング アーム式		
	後 輪		295kg	425kg			容 量	24 A H				タ イ ヤ サ イ ズ 5.20-10- 4 P R		

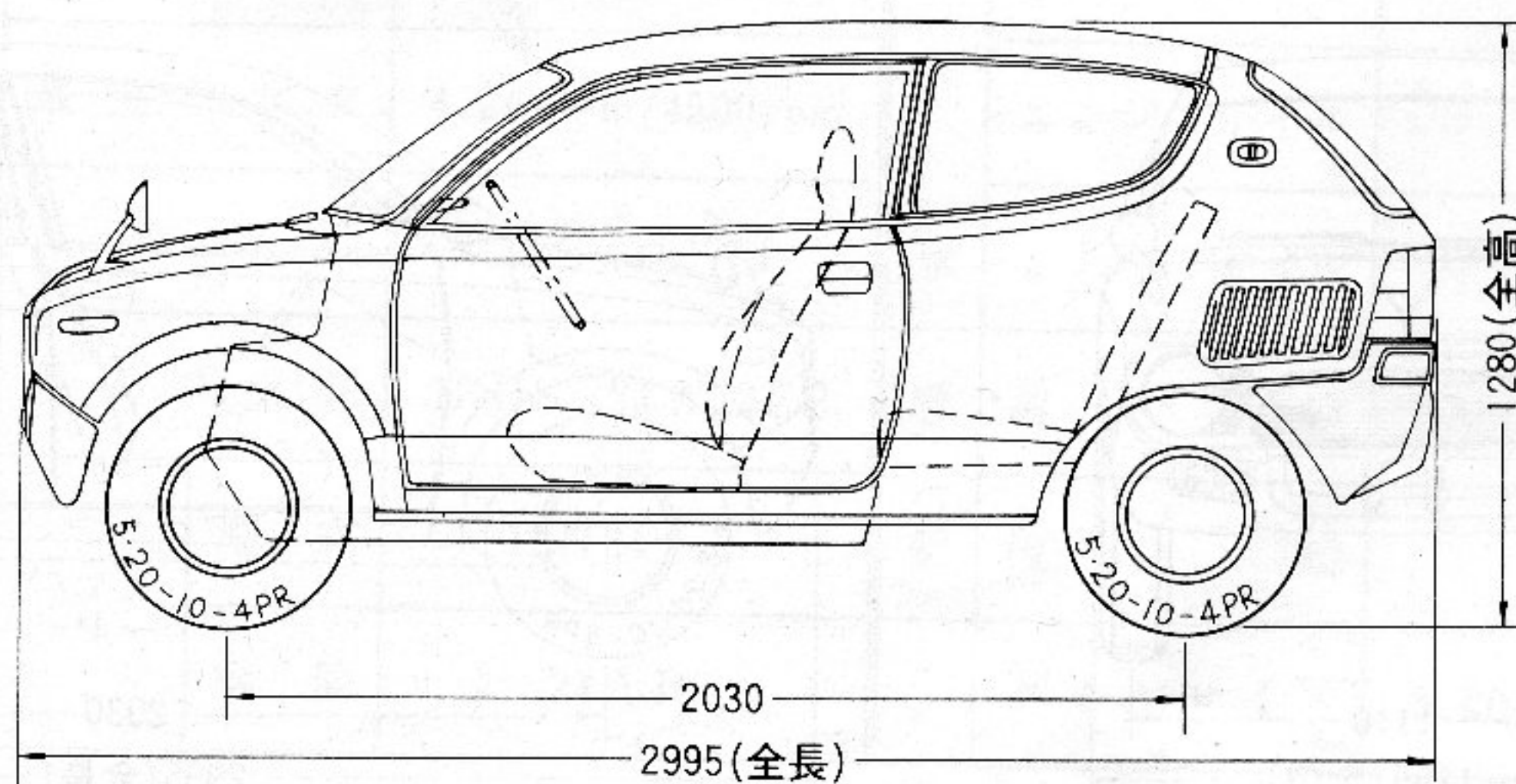
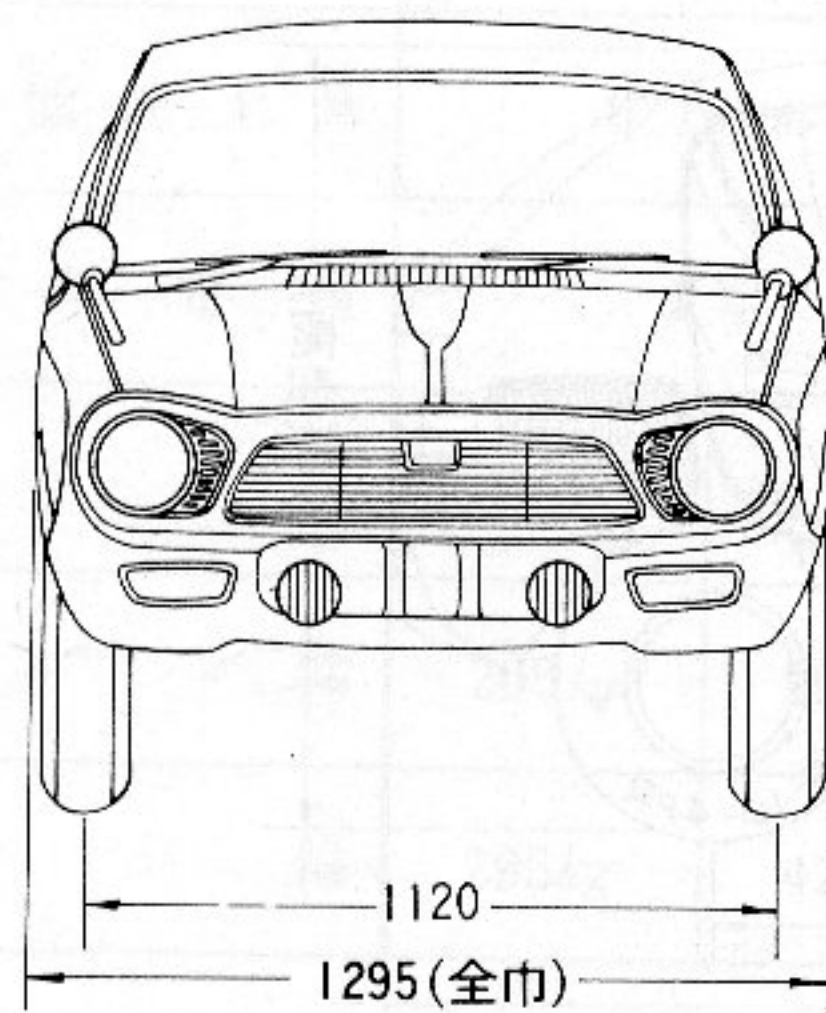
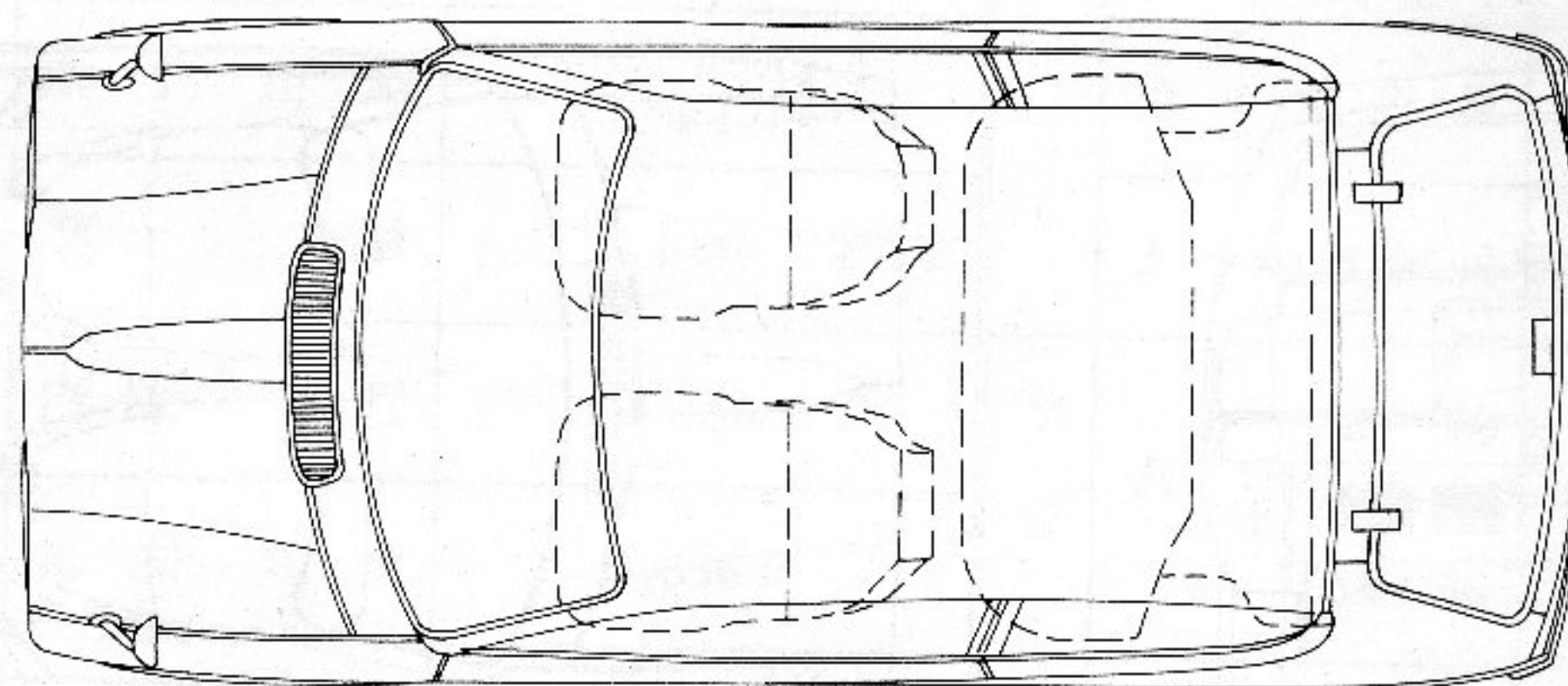
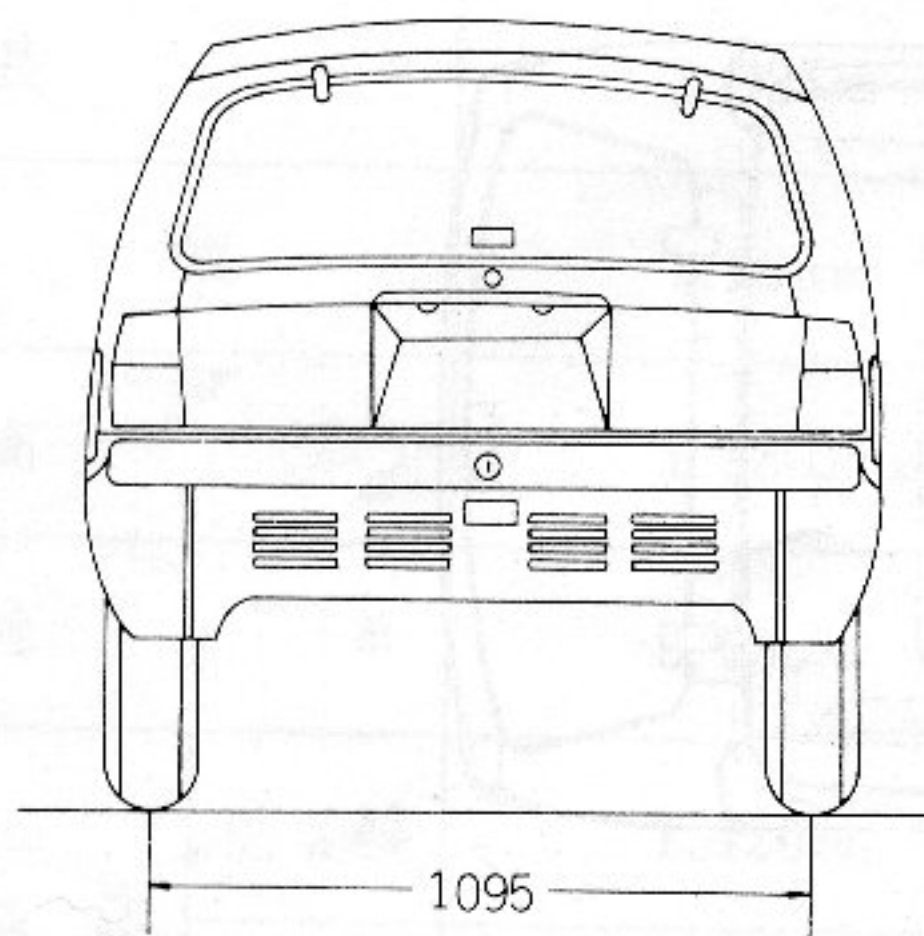
外観四面図

スズキLC20型（4ドア仕様）



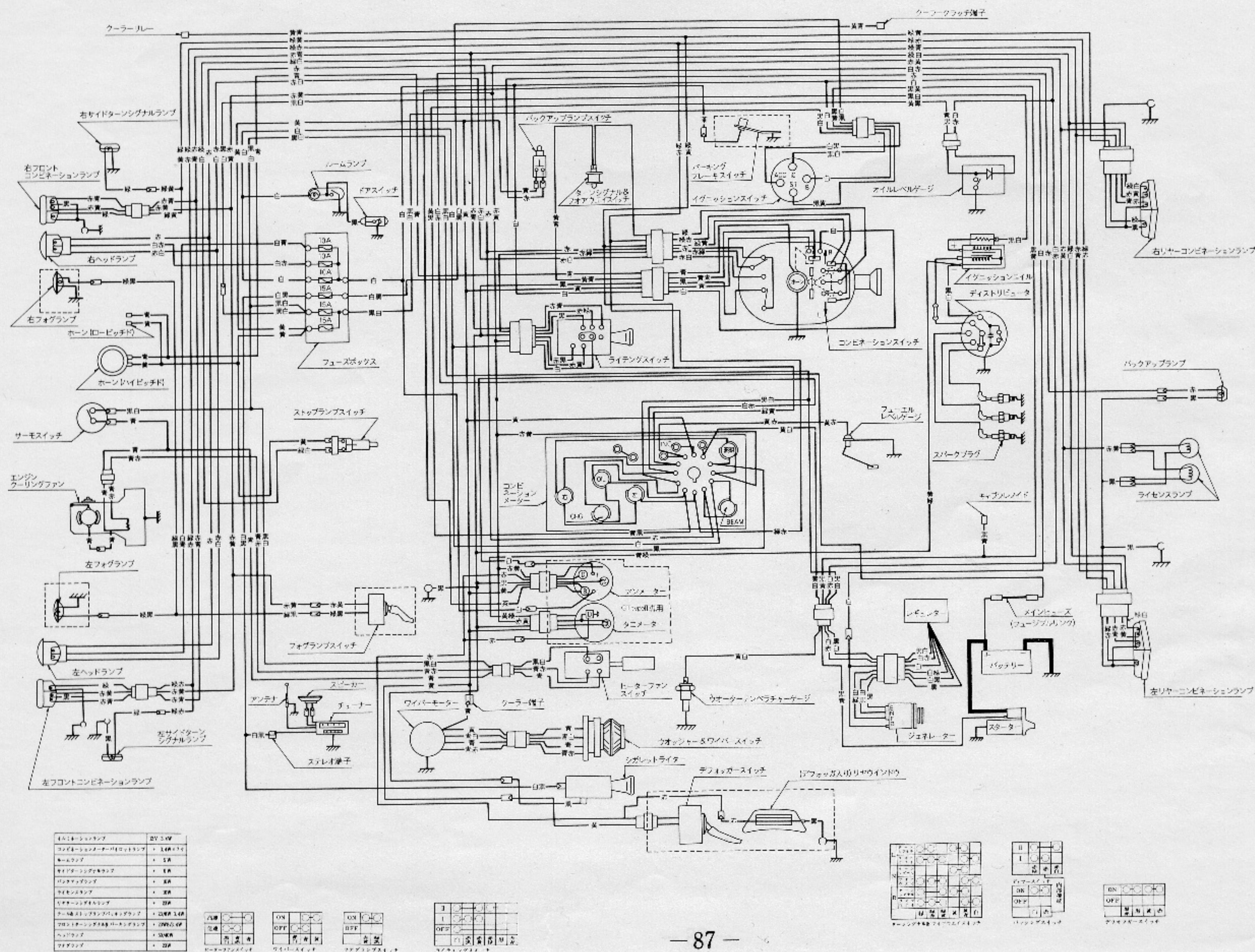
外観四面図

スズキ LC 20型 (GT type II仕様)



電氣配線図

(カスタム, GTtype II仕様)



(メ 七)

圖 附 5 第 圖

